

国立国語研究所学術情報リポジトリ

Research Report on Okinoshima Dialect : Endangered Languages and Dialects in Japan

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-11-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00002483



日本の消滅危機言語・方言の記録とドキュメンテーションの作成
島根県隠岐の島方言調査報告書

木部暢子 [編]

2018年3月

はじめに

国立国語研究所では、2016年に共同研究プロジェクト「日本の消滅危機言語・方言の記録とドキュメンテーションの作成」（人間文化研究機構・機関拠点型基幹研究プロジェクト）と「方言の記録と継承による地域文化の再構築」（人間文化研究機構・広領域連携型基幹研究プロジェクト「日本列島における地域社会変貌・災害からの地域文化の再構築」）をスタートさせ、各地の方言の収集と記録を行っています。このプロジェクトの前身は、2010年に始まった「消滅危機方言の調査・保存のための総合的研究」（2010年～2015年）です。そのときからの調査を含めると、これまで、沖縄県宮古島・久米島、鹿児島県喜界島・与論島・沖永良部島、東京都八丈島、島根県出雲・隠岐の島、宮崎県椎葉村、石川県白山市白峰、愛知県一宮市木曾川の11の地域で合同調査を行なってきました。本書は、そのうちの隠岐の島方言調査（2015年11月、2016年11月）の調査報告書です。

調査の折りには、たくさんの方にお世話になりました。お忙しいなか、会場まで足を運んでくださり、親切に方言を教えてくださいました方々に深く御礼申し上げます。みなさんのおかげで、このような報告書を作成することができました。深く感謝申し上げます。

この報告書の内容は、隠岐の島方言全体から見ると、ごく一部のわずかなものにすぎませんが、方言の研究や記録・保存の資料として、少しでも多くの方々に使っていただければ幸いです。なお、この報告書は国立国語研究所ホームページの上記プロジェクトのページでPDF版を公開しています。こちらもぜひ、ご覧ください。

2018年3月15日

人間文化研究機構 国立国語研究所 木部 暢子

「日本の危機言語・方言の記録とドキュメンテーションの作成」 隠岐の島方言調査報告書

目次

はじめに	
プロジェクトの概要	1
調査の概要	5
隠岐の島方言の音韻（木部暢子）	11
隠岐の島方言のアクセント（松倉昂平・三樹陽介）	21
隠岐の島都万方言における動詞の活用 —活用形の整理と用例の提示—（平子達也）	49
隠岐の島方言データ集	
隠岐の島方言 基礎語彙集	59
隠岐の島方言 文例集	83
隠岐の島 都万方言集	93
「隠岐の島方言のつどい」	
あいさつ（教育長 山本和博）	123
「使えるかもしれない隠岐弁講座」（吉井重伸・坂本忠司）	125
「隠岐方言の特徴—合同調査の報告を兼ねて—」（平子達也）	139
「隠岐弁の魅力」（友定賢治）	146

プロジェクトの概要

1 プロジェクトの目的

日本語と一口にいても、その姿は実に多様です。国立国語研究所では、昭和23年（1948年）の設立以来、このような多様な日本語の資料を集めて、みんなが使えるように整備してきました。特に、各地の方言に関しては、これまで多くの資料を集め、蓄積しています。

方言は、地域の生活の中心をなすものです。したがって、なぜ、方言がこれほど多様になったのかを考えることは、各地の生活や日本の歴史がどのようなものであるのかを考えることにつながっていきます。ところが、近年、各地の方言が急速に衰退し、標準語への一本化が進みつつあります。今、方言を記録し、次の世代に伝えていく努力をしなければ、長い歴史の中で培われてきた地域の生活や文化が根幹から失われることになってしまいます。

このような背景のもと、国立国語研究所では2010年に「消滅危機方言の調査・保存のための総合的研究」という共同研究プロジェクトを開始しました。このプロジェクトは2016年に「日本の消滅危機言語・方言の記録とドキュメンテーションの作成」と名前を変え、内容もリニューアルして現在に至っています。プロジェクトの目的を以下にあげておきましょう。

いま、世界中のマイナー言語（規模の小さな言語）が消滅の危機に瀕しています。現在、6,000から7,000ある世界の言語のうち、半数がこの100年のうちに確実に消滅し、最悪の場合、10分の1、20分の1にまで減ると言われています。その背景には、人口の都市集中化により周辺地域の人口が減少してしまったこと、社会的・経済的理由によりマイナー言語を使っていた人々がその言語の使用をやめてしまったこと、災害や紛争により人々が生まれた土地を離れなければならなくなったことなどの状況があります。

マイナー言語の消滅に関しては、次のような意見もあります。言語の消滅は社会変化の結果であってしかたがない。あるいはもっと積極的に、言語は統一された方が便利だ。危機言語を守る必要はない。

しかし、そもそも、なぜ、言語が多様になったのか考えてみて下さい。おそらく、各地の言語は地域の自然や人々の生活、ものの考え方などに基づいて、長い時間をかけて形成されていったのだと思われます。それらが消滅するということは、長い歴史の中で醸成された人類の智慧が失われてしまうことを意味します。生物の多様性が地球を豊かにしているのと同じように、言語の多様性は人類を豊かにしているのです。

このような状況に警鐘を鳴らしたのが、2009年のユネスコの「消滅危機言語」の発表です。2,500の消滅危機言語のリストの中には、日本で話されている8つの言語—アイヌ語、八丈語、奄美語、国頭語、沖縄語、宮古語、八重山語、与那国語—が含まれています。しかし、消滅が危惧されるのはこれだけではありません。日本各地の伝統的な方言もまた、消滅

の危機にあります。これらを記録し、その価値を訴え、継承活動を支援することがこのプロジェクトの目的です。

(国立国語研究所ホームページより)

2 これまでの調査

上の目的を達成するために、このプロジェクトでは2010年度から2017年度までの8年間に以下の地域で合同調査を行い、その結果を報告書にまとめてきました。島根県隠岐の島には2015年と2016年の2回お伺いし、方言の収録と調査を行いました。この報告書は、その内容を報告するものです。

なお、これまでの調査の報告書は、研究所のホームページで公開しています。この報告書も4月以降、研究所のホームページで公開する予定です。また、☆については方言の音声をホームページで公開しています。以下のサイトで聞くことができますので、是非いちど、聞いてみてください。

調査地点と調査日

・鹿児島県喜界島方言（奄美語）	2010年9月9日～15日	☆
・沖縄県宮古方言（宮古語）	2011年9月4日～7日	
・東京都八丈島方言（八丈語）	2012年9月5日～10日	☆
・鹿児島県与論島方言（国頭語）	2012年12月1日～3日	☆
・沖永良部島方言（国頭語）	2012年12月4日～6日	☆
・沖縄県久米島方言（沖縄語）	2013年12月1日～5日	
・島根県出雲方言	2014年8月17日～21日	
・島根県隠岐の島方言	2015年11月8日～11日	
・島根県隠岐の島方言	2016年11月3日～6日	
・石川県白山市白峰方言	2017年1月20日～23日	
・愛知県一宮市木曾川方言	2017年8月27日～30日	

報告書 <https://www.ninjal.ac.jp/research/project-3/institute/endangered-languages/>
方言の音声 <http://kikigengo.ninjal.ac.jp/>

3 共同研究者

このプロジェクトには、全国の大学の教員や大学院生が参加しています。2018年3月1日現在の共同研究員は以下のとおりです。

研究代表者：木部暢子（国立国語研究所）

共同研究員:青井 隼人(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 / 国立国語研究所), 五十嵐 陽介(一橋大学), 今村 かほる(弘前学院大学), 岩崎 勝一(カリフォルニア大学ロサンゼルス校 / 国立国語研究所客員), 上野 善道(東京大学 名誉教授), 呉 唯(東京外国語大学大学院生), 小川 晋史(熊本県立大学), 荻野 千砂子(福岡教育大学), 大野 眞男(岩手大学), 大槻 知世(東京大学大学院生), 金田 章宏(千葉大学), 狩俣 繁久(琉球大学 / 国立国語研究所客員), 金 娥璘(九州大学大学院生), 久保蘭 愛(愛知県立大学), 小林 隆(東北大学), 小西 いずみ(広島大学), 坂井 美日(日本学術振興会特別研究員), 佐々木 冠(立命館大学 / 国立国語研究所客員), 沢木 幹栄(信州大学), 重野 裕美(広島経済大学), 下地 賀代子(沖縄国際大学), 下地 理則(九州大学 / 国立国語研究所客員), 白岩 広行(立正大学), 白田 理人(日本学術振興会特別研究員), ケナン・セリック(京都大学), クリス・デイビス(琉球大学), 友定 賢治(県立広島大学 名誉教授), 當山 奈那(日本学術振興会特別研究員), 中川 奈津子(日本学術振興会特別研究員), 仲原 穰(琉球大学), 中島 由美(一橋大学 名誉教授), 中西 太郎(目白大学), 中澤 光平(与那国町教育委員会), 西岡 敏(沖縄国際大学), 新田 哲夫(金沢大学 / 国立国語研究所客員), 野間 純平(島根大学), 原田 走一郎(長崎大学), 林 由華(日本学術振興会特別研究員), 日高 水穂(関西大学), 平子 達也(駒澤大学), 平本 美恵(シンガポール国立大学), アンナ・ブガエワ(東京理科大学 / 国立国語研究所客員), トマ・ペラール(フランス国立科学研究所), 町 博光(安田女子大学), 又吉 里美(岡山大学), 松田 美香(別府大学), 松倉 昂平(東京大学大学院生), 松森 晶子(日本女子大学), 松本 泰丈(別府大学 名誉教授), 松浦 年男(北星学園大学), 三樹 陽介(日本学術振興会特別研究員), 村上 敬一(徳島大学), ハイス・ファン・デル・ルベ(浦添市立浦添小学校), ウェイン・ローレンス(オークランド大学), ダニエル・ロング(首都大学東京オープンユニバーシティ), 山本 友美(椎葉民俗芸能博物館), 鎌水 兼貴(文教大学), 横山 晶子(日本学術振興会特別研究員)
朝日 祥之(国立国語研究所), 麻生 玲子(国立国語研究所), 井上 文子(国立国語研究所), 窪菌 晴夫(国立国語研究所), 熊谷 康雄(国立国語研究所), 三井 はるみ(国立国語研究所), 新永 悠人(国立国語研究所), 佐藤 久美子(国立国語研究所), 田窪 行則(国立国語研究所), 山田 真寛(国立国語研究所)

調査の概要

1 調査地点の概要

隠岐は、約180の島からなる諸島で、総面積は350平方キロメートル、人口は約2万3千人である。人が住むのは、そのうち、西ノ島、中ノ島、知夫里島（ちぶりじま以上島前）、島後の4島である。昭和44年に、それまでの4郡1町11村から隠岐の島町（島後）、海士町、西ノ島町、知夫村（島前）の3町1村となった。

隠岐の島町は、島後1島で1町を形成している。大阪国際空港から約1時間、七類港（松江市）、境港（境港市）からフェリーで約2時間、高速船で約1時間10分の距離にある。

隠岐諸島は、世界的に見ても珍しい生態系や黒曜石による歴史や文化を持ち、日本に8つあるユネスコ世界ジオパークのうちの一つに数えられている。「大地」「生態系」「人の営み」のつながりを知ることのできる貴重な場所である。

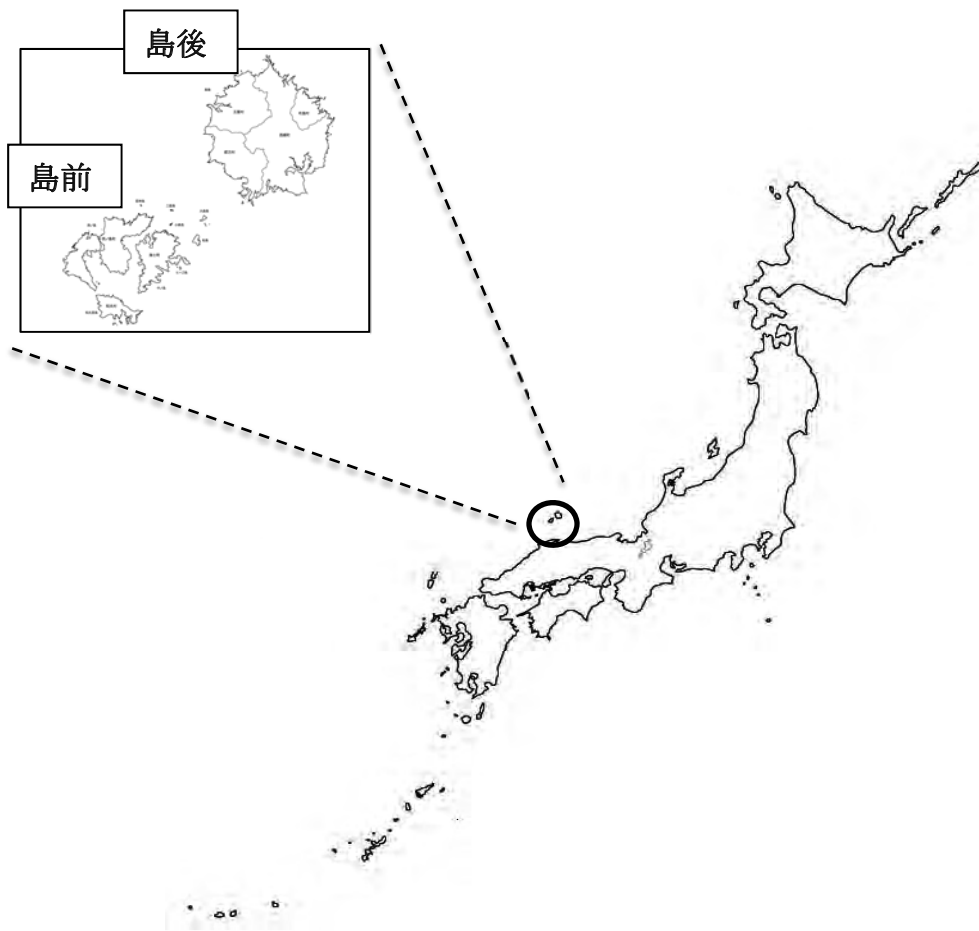


図1 隠岐の島の位置

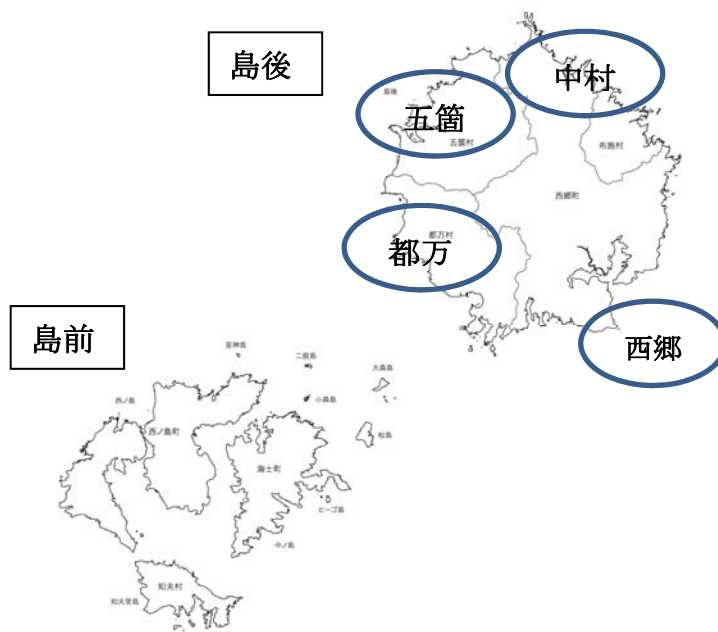


図2 調査地点

2 調査の概要

2.1 調査地点

調査は2015年11月9日～10日，2016年11月4日～5日，2016年12月11日，2017年9月24日に行なった。調査地域と調査内容，調査担当者は以下の通りである。

日時・地域	地区名	調査内容	調査担当者
2015年 11月9日 午前	五箇	基礎語彙 a	松浦，友定，木部，盛
		基礎語彙 b	新田，ペラール，大槻，三樹
		動詞 a	平子，金田，林
		動詞 b	荻野，白田，乙武
		文法	小西，松森
午後	五箇	基礎語彙 a	松浦，友定，木部，盛
		基礎語彙 b	新田，ペラール，大槻，三樹
		動詞	平子，金田，林，乙武
		文法	小西，松森，荻野，白田
11月10日 午前	西郷	基礎語彙 a	松浦，友定，木部，盛
		基礎語彙 b	新田，ペラール，三樹，林
		動詞 a	平子，金田，荻野，乙武
		文法	小西，松森，白田

午後	西郷	基礎語彙 a	松浦, 友定, 木部, 盛
		基礎語彙 b	ペラール, 三樹, 林
		動詞 b	平子, 金田, 荻野
		文法	小西, 白田, 乙武

日時・地域	地区名	調査内容	調査担当者
2016年 11月3日 午前	中村	基礎語彙 b	山田, 荻野, 山本, 石原, 佐藤, 中澤, 大槻, 占部, 上田, 菅原, 木部
		動詞活用 a	友定, 又吉, 山口, 白川, 笠見, 小西, 野間
		動詞活用 b	平子, 林, 佐々木, 森, 原田
		アクセント	上野, 新田, 松倉, 久保, 三樹
午後	中村	動詞活用 a	友定, 又吉, 山口, 白川, 笠見, 小西, 野間
		動詞活用 b	平子, 林, 佐々木, 森, 原田
		アクセント	上野, 新田, 松倉, 久保, 三樹
11月4日 午前 午後	都万	基礎語彙 a	山田, 荻野, 山本, 石原, 佐藤
		基礎語彙 b	中澤, 大槻, 占部, 上田, 菅原, 木部
		動詞活用 a	友定, 又吉, 山口, 白川, 笠見, 小西, 野間
		動詞活用 b	平子, 林, 佐々木, 森, 原田
		アクセント	上野, 新田, 松倉, 久保, 三樹

日時・地域	地区名	調査内容	調査担当者
2016年 12月11日	都万	基礎語彙	木部
		基礎語彙	中西
		動詞	平子

日時・地域	地区名	調査内容	調査担当者
2017年 9月24日	都万	文法	大島

2.2 調査者

調査参加者は以下のとおりである（所属は調査当時）。

1. 2015年11月9日～10日（17名）

木部暢子（国立国語研究所・教授・プロジェクトリーダー），乙武香里（国立国語研究所・プロジェクトPDフェロー），盛思超（麗澤大学・大学院生／国立国語研究所・非常勤研究員），アンナ・ブガエワ（国立国語研究所・特任准教授），荻野千砂子（福岡教育大学・准教授），金田章宏（千葉大学・教授），小西いずみ（広島大学・准教授），トマ・ペラール

(フランス国立科学研究所・常勤研究員)，友定賢治(県立広島大学・名誉教授) 新田哲夫(金沢大学・教授)，平子達也(実践女子大学・助教)，松浦年男(北星学園大学・准教授)，松森晶子(日本女子大学・教授)，林由華(日本学術振興会・特別研究員)，三樹陽介(日本学術振興会・特別研究員)，白田理人(日本学術振興会・特別研究員)，大槻知世(東京大学・大学院生)

2. 2016年11月4日～5日 (28名)

木部暢子(国立国語研究所・プロジェクトリーダー)，原田走一郎(国立国語研究所・特任助教)，佐藤久美子(国立国語研究所・非常勤研究員)，中澤光平(国立国語研究所・非常勤研究員)，上野善道(東京大学名誉教授)，荻野千砂子(福岡教育大学)，小西いづみ(広島大学)，友定賢治(広島県立大学名誉教授)，新田哲夫(金沢大学)，平子達也(駒澤大学)，又吉里美(岡山大学)，山田真寛(立命館大学)，野間純平(島根大学)，占部由子(九州大学博士前期課程)，大槻知世(東京大学博士後期課程)，久保博雅(徳島大学博士前期課程)，林由華(大阪大学／日本学術振興会)，松倉昂平(東京大学博士後期課程)，三樹陽介(日本学術振興会／国立国語研究所)，山口響史(名古屋大学博士後期課程)，菅原貴介(島根大学学生)，上田佳菜江(島根大学学生)，佐々木美冬(島根大学学生)，森遥風(島根大学学生)，石原日南子(島根大学学生)，笠見万葉(島根大学学生)，白川美緒(島根大学学生)，山本歩未(島根大学学生)

3. 2016年12月11日

木部暢子(国立国語研究所・プロジェクトリーダー)，中西太郎(目白大学)，平子達也(駒澤大学)

4. 2017年9月24日

大島一(国立国語研究所・プロジェクトPDフェロー)

2.3 話者

調査では、以下の方々に方言をお聞きし、発音を録音させていただきました。以下には、お名前を出すことを承諾してくださった方のみ、お名前と年齢(年齢は調査当時)をあげ、匿名を希望なされた方については、お名前をアルファベットに置き換えて、年齢のみあげている。

五箇	長田 弘幸	(72 歳)	高井 芳江	(67 歳)	中西 鐵三	(73 歳)
	長田 安正	(64 歳)	中前ユリ子	(74 歳)	永海 治	(67 歳)
	上川 晃一	(72 歳)	中田 潤一	(68 歳)	柳原 協	(77 歳)
西郷	池田 紘一	(73 歳)	松崎 一茂	(74 歳)	A	(71 歳)
	伊勢 弘	(68 歳)	松本 悦夫	(74 歳)	B	(68 歳)
	松岡 秀明	(65 歳)	村尾 秀信	(64 歳)		

中村	石川 一江	(86 歳)	C	(90 歳)	F	(84 歳)
	石田貴美子	(80 歳)	D	(92 歳)	G	(82 歳)
	大西 教雄	(85 歳)	E	(92 歳)	H	(81 歳)
都万	高梨 郁子	(78 歳)	I	(90 歳)	L	(80 歳)
	高村 順幸	(94 歳)	J	(84 歳)	M	(78 歳)
	村上 敬子		K	(81 歳)	N	(76 歳)

教えていただいた方言は、それぞれの担当者が聞き取りを行った。基礎語彙については、木部がすべての録音を聞き、確認を行っている。なお、中村については、調査時間の調整がうまくいかず、調査できた項目の数が少なかつたため、今回の報告書には取り上げていない。都万に関しては、2回の追加調査を行い、例文付きの「都万方言集」を作成した。

謝辞

お忙しい中、調査に協力して下さった方々に、この場をお借りして御礼申し上げます。ありがとうございました。

隠岐の島方言の音韻

木部 暢子*

1 はじめに

2015年、2016年に行った調査のうち、基礎語彙の調査データをもとにして、五箇、西郷、都万の音韻の特徴をまとめる。

2 母音

2.1 短母音

隠岐の島方言の短母音は /a/, /i/, /u/, /e/, /o/ の5つである。/u/ は口の丸めのない [u] で発音される。また、単独で発音される /i/ は、やや広めの [i] で発音される。五箇と西郷では、「母屋」のことを エンキョ[en:kjo] というが、これは「いんきょ（隠居）」に由来し、語頭のイが広めに発音され、エとなったと思われる。以下に例をあげておこう。

/a/ :	アタマ[atama] (頭)	アゴ[ago] (顎)	アシ[aci] (足)
/i/ :	イキ[iki] (息)	ノチ[inotei] (命)	イネ[ine] (稲)
/u/ :	ウチ[utei] (家)	ウス[usuu] (臼)	ウタ[uta] (歌)
/e/ :	エツト[etto] (たくさん)	エビ[ebi] (海老)	エリ[eri] (襟)
/o/ :	オニ[oni] (鬼)	オドリ[odori] (踊り)	オヤ[oja] (親)

共通語の /u/ に対応する音が [o] に発音されることがある。例えば、「ぬくい（暑い）」を五箇と西郷ではノキー[noki:]、「うそ（嘘）」をオソ [oso] と言う。

以上は /a/, /i/, /u/, /e/, /o/ が語頭に来る例であるが、語中に来る例に以下のようなものがある。なお、調査の範囲では、/a/, /i/, /u/ が語中に来る例はなかった。

/e/	ツエ[tsue] (杖)	カエル[kaeru] (蛙)
/o/	シオ[eio] (潮)	ドエ[doe] (どれ)

2.2 長母音

長母音は /aa/, /ii/, /uu/, /ee/, /oo/ の5つである。都万ではこれに加えて、長母音 /ææ/ が現れることがある。これは、共通語の /ai/ に対応している。

/aa/ :	バーサン[ba:san] (祖父)	ナーシェ[na:ee] (何故)	サーキ[sa:ki] (箎)
/ii/ :	ジーサン[zi:san] (祖母)	ノキー[noki:] (暖かい)	カイー[kai:] (痒い)
/uu/ :	ユーガタ[juu:gata] (夕方)	キュー[kju:] (灸)	チューハン[teu:han] (昼食)

* きべ のぶこ：国立国語研究所・教授

/ee/:	ネーサン[ne:san] (姉)	ハイエー[haje:] (速い)	アウエー[awe:] (青い)
/oo/:	キョー[kjo:] (今日)	キノー[kino:] (昨日)	コージ[ko:zi] (麴)
/ææ/	コマエー[kom æ:] (小さい)	アマエー[amæ:] (甘い)	イワエー[iwæ:] (祝い)
(都万)	キタナエー[kitanæ:] (汚い)	ハイエー[hajæ:] (速い)	

2. 3 二重母音

二重母音には, /ai/, /ui/, /oi/ がある。

/ai/	ヒタイ[çitai] (額)	タライ[tarai] (盥)	ハイ[hai] (灰)
/ui/	テヌグイ[tenugui] (手拭い)	オトツイ[ototsui] (一昨日)	フルイ[φurui] (篩)
/oi/	ニオイ[nioi] (匂い)	オトトイ[ototoi] (一昨日)	

3 子音

3. 1 両唇音

両唇音には /p/, /b/, /m/ がある。以下に用例をあげる。

3. 1, 1 /p/

パ	/pa/:	ハツパ[happa] (葉)	リップパ[rippa] (美しい)
プ	/pu/:	テンブラ[tempura] (天ぷら)	イップク[ippuku] (休息)
ポ	/po/:	チンポ[teimpo] (睾丸)	

3. 1, 2 /b/

バ	/ba/:	バーサン[ba:san] (祖母)	バツタ[batta] (ばった)	
		オバ[oba] (二女)	コトバ[kotoba] (言葉)	ニョーバ[no:ba] (女)
ビ	/bi/:	カビ[kabi] (黴)	サビー[sabi:] (寒い)	エビ[ebi] (海老)
ブ	/bu/:	ブタ[buuta] (豚)		
		コブ[kobu] (瘤)	マブシイ[mabui:] (眩しい)	アブラ[abura] (油)
ベ	/be/:	ベロ[bero] (舌)	ベンジョ[beno] (便所)	
		アンベアー[ambæ:] (塩梅)	カベ[kabe] (壁)	タベル[taberu] (食べる)
ボ	/bo/:	ツボ[tsubo] (壺)	カボチャ[kabotea] (南瓜)	ナンボ[nambo] (幾ら)

3. 1, 3 /m/

マ	/ma/:	マメ[mame] (豆)	マツ[matsu] (松)	マエ[mae] (前)
		ゴマ[goma] (胡麻)	ヤマ[jama] (山)	ハカマ[hakama] (袴)
ミ	/mi/:	ミズ[mizu] (水)	ミチ[mitai] (道)	ミギ[migi] (右)
		ウミ[umi] (海)	コヨミ[kojomi] (暦)	ハサミ[hasami] (鋏)
ム	/mu/:	ムネ[mune] (胸)	ムシ[muei] (虫)	ムシロ[mueiro] (筵)
		ケムリ[kemuri] (煙)		

メ /me/:	メ[me] (目)	メシ[meci] (ご飯)	
	ツメ[tsume] (爪)	コメ[kome] (米)	アメ[ame] (雨)
モ /mo/:	モモ[momo] (桃)	モチ[motei] (餅)	モノ[mono] (物)
	キモ[kimo] (肝)	イモ[imo] (芋)	コドモ[kodomo] (子供)

3. 2 歯茎音

歯茎音には、/t/, /d/, /s/, /z/, /c/, /n/, /r/ がある。

3. 2, 1 /t/

/t/ は母音 /a/, /e/, /o/ の前に立ち、/i/, /u/ の前には立たない。調査の範囲では、ティ[ti], トウ[tuu] は現れなかった。

タ /ta/:	タコ[tako] (蛸)	タマゴ[tamago] (卵)	タナ[tana] (棚)
	ハタケ[hatake] (畑)	アシタ[acita] (明日)	イタ[ita] (板)
テ /te/:	テ[te] (手)	テンジヨ[tenzo] (天井)	テヌグイ[tenugui] (手拭い)
	アサツテ[asatte] (明後日)	オモテ[omote] (表)	ソテツ[sotetsu] (蘇鉄)
ト /to/:	トリ[tori] (鳥)	トナリ[tonari] (隣)	トシ[toi] (年)
	ハト[hato] (鳩)	ソト[soto] (外)	フトン[puton] (布団)

3. 2, 2 /d/

/d/ は母音 /a/, /e/, /o/ の前に立ち、/i/, /u/ の前には立たない。調査の範囲では、ディ[di], ドウ[duu] は現れなかった。

ダ /da/:	ダイコン[daikon] (大根)	ダイ[dai] (誰)	
	ヒダリ[çitai] (左)	ナミダ[namida] (涙)	ヨダレ[jodare] (涎)
デ /de/:	デキモノ[dekimono] (お出来)		
	ウデ[uude] (腕)	ソデ[sode] (袖)	ムカデ[mukade] (百足)
ド /do/:	ドエ[dore] (どれ)	ドー[do:] (どう)	
	オドリ[odori] (踊り)	カド[kado] (角)	コドモ[kodomo] (子供)

3. 2, 3 /s/

/s/ は、母音 /a/, /u/, /o/ の前で [s], /i/ の前で [ç], /e/ の前では [s] と [ç] の両方が現れる。

サ /sa/:	サラ[sara] (皿)	サオ[sao] (竿)	サンニン[sannin] (三人)
	ハサミ[hasammi] (鋏)	クサリ[kusuuri] (鎖)	アサハン[asahan] (朝食)
シ /si/:	シリ[eiri] (尻)	シチニン[eitejin] (七人)	シヨツパイ[çoppai] (塩辛い)
	トシヨリ[toejori] (老人)	タマシー[tamaei:] (魂)	ノシ[noei] (お前)
ス /su/:	スジ[suzi] (筋)	スナ[suna] (砂)	スス[susu] (煤)
	クスリ[kusuuri] (薬)	ウス[usuu] (臼)	ムスメ[musume] (娘)
セ /se/:	ナーシエ[na:çe] (何故)	シエキ[çeki]~セキ[seki] (咳)	

	シンシエキ[ɕineeki] (親戚)	キシエル[kiceru]～キセル[kiseru] (煙管)
ソ /so:/	ソラ[sora] (空)	ソト[soto] (外)
	ヘソ[heso] (臍)	ソバ[soba] (側)
		スソ[susuo] (裾)
		ミソ[miso] (味噌)

3. 2, 4 /z/

/z/ は、母音 /a/, /u/, /o/ の前で [z], /i/ の前で [z̥] である。/e/ の前では [z] と [z̥] の両方が現れる。「ジ」と「ヂ」の区別、「ズ」と「ヅ」の区別（いわゆる四つ仮名の区別）はなく、「ジ」は [zi]～[d̥zi], 「ズ」は [zu]～[d̥zu] のように、どちらで発音されてもよい。「ザ」「ゼ」「ゾ」も [za], [ze], [zo] だけでなく, [d̥za], [d̥ze], [d̥zo] でも発音される。

ザ /za:/	ヒザ[ɕiza] (膝)	ゴザ[goza] (蔭)	カンザシ[kanzaci] (簪)
ジ /zi:/	ヒジ[ɕizi] (肘)	スジ[suzi] (筋)	オジ[ozi] (二男)
ズ /zu:/	ミズ[mizuw] (水)	キズ[kizuw] (傷)	ネズミ[nezumi] (鼠)
ゼ /ze:/	ゼン[zen] (膳)	カゼ[kaze] (風)	
	ジェニ[zeni] (お金)		
ゾ /zo:/	ゾーリ[zo:ri] (草履)	ゾースイ[zo:sui] (増水)	
	ミゾ[mizo] (溝)		

3. 2, 5 /c/

/c/ は、母音 /a/, /i/, /u/ の前 に来る。

ツア /ca:/	オツツァン[ottsan] (叔父)		
チ /ci:/	チ [tei] (血)	チカラ[teikara] (力)	
	ハチ[hatei] (蜂)	イノチ[inotei] (命)	ヘチマ[heteima] (糸瓜)
ツ /cu:/	ツノ[tsuno] (角)	ツチ[tsutei] (土)	ツブ[tsubuw] (粒)
	マツ[matsuw] (松)	ナツ[natsuw] (夏)	ヒトツ[ɕitotsuw] (一つ)

3. 2, 6 /n/

/n/ は、/a/, /u/, /e/, /o/ の前で [n], /i/ の前で口蓋化した [ɲ] である。

ナ /na:/	ナカ[naka] (中)	ナミ[nami] (波)	ナミダ[namida] (涙)
	ハナ[hana] (花)	ミナト[minatō] (港)	サカナ[sakana] (魚)
ニ /ni:/	ニク[ɲikuw] (肉)	ニワ[ɲiwa] (庭)	ニモツ[ɲimotsuw] (荷物)
	ナニ[ɲapi] (何)	ジェニ[zeni] (お金)	ゴニン[goɲin] (五人)
ヌ /nu:/	ヌノ[nuuno] (布)	ヌカ[nuka] (糠)	
	イヌ[inuw] (犬)	テヌグイ[tenugui] (手拭い)	
ネ /ne:/	ネコ[neko] (猫)	ネズミ[nezumi] (鼠)	ネー[ne:] (無い)
	タネ[tane] (種)	フネ[ɸune] (船)	ムネ[mune] (胸)
ノ /no:/	ノコギリ[nokogiri] (鋸)	ノミ[nomi] (鑿)	ノシ[noei] (お前)
	イノチ[inotei] (命)	ツノ[tsuno] (角)	キノー[kino:] (昨日)

3. 2. 7 /r/

/r/ は弾き音の [r] で撥音される。語頭に /r/ が来るのは、漢語の場合である。

ラ	/ra/:	ライネン[rainen] (来年)		
		ハラ[hara] (腹)	チカラ[teikara] (力)	シラミ[ɕirami] (虱)
リ	/ri/:	トリ[tori] (鳥)	ヒカリ[ɕikari] (光)	ゾーリ[zo:ri] (草履)
ル	/ru/:	シルシ[ɕiruɕi] (印)	ウルシ[uruɕi] (漆)	フルイ[ɸuruɕi] (篩)
レ	/re/:	オレ[ore] (俺)	コレ[kore] (これ)	アレ[are] (あれ)
ロ	/ro/:	ロクニン[rokuɲin] (六人)	ロージン[ro:zin] (老人)	
		イロ[iro] (色)	フクロ[ɸukuro] (袋)	ムシロ[muɕiro] (筵)

3. 3 軟口蓋音

軟口蓋音には、/k/ と /g/ がある。

3. 3. 1 /k/

カ	/ka/:	カオ[kao] (顔)	カワ[kawa] (皮)	カイ[kai] (貝)
		アカ[aka] (垢)	イカ[ika] (烏賊)	ミカン[mikan] (蜜柑)
キ	/ki/:	キー [ki:](木)	キモ[kimo] (肝)	キズ[kizu] (傷)
		クキ[kuki] (茎)	セキ[seki] (咳)	ハグキ[haguki] (歯茎)
ク	/ku/:	クビ[kubi] (首)	クチ[kutei] (口)	クモ[kumo] (蜘蛛)
		オク[oku] (奥)	ホクロ[hokuro] (黒子)	フクロ[ɸukuro] (袋)
ケ	/ke/:	ケンカ[kenka] (喧嘩)	ケガ[kega] (怪我)	ケムリ[kemuri] (煙)
		オケ[oke] (桶)	ガケ[gake] (崖)	ハタケ[hatake] (畑)
コ	/ko/:	コエ[koe] (声)	コブ[kobu] (瘤)	コトシ[kotoɕi] (今年)
		タコ[tako] (蛸)	ヨコ[joko] (横)	ウロコ[uroko] (鱗)

3. 3. 2 /g/

ガ	/ga/:	ガケ[gake] (崖)	ガイナ[gaina] (たくさん)	
		ヒガシ[ɕigaɕi] (東)	カガミ[kagami] (鏡)	ユーガタ[ju:gaat] (夕方)
ギ	/gi/:	クギ[kugi] (釘)	ヤギ[jagi] (山羊)	ウナギ[unagi] (鰻)
グ	/gu/:	テヌグイ[tenugui] (手拭い)		
ゲ	/ge/:	ゲタ[geta] (下駄)		
		カゲ[kage] (蔭)	シューゲ[ɕu:ge] (結婚)	テンプラ[tempura] (天ぷら)
ゴ	/go/:	ゴザ[goza] (蓆)	ゴミ[gomi] (埃)	
		マゴ[mago] (孫)	カゴ[kago] (籠)	タマゴ[tamago] (卵)

3. 4 声門音

声門音には、/h/ がある。/h/ は、母音 /a/, /e/, /o/ の前では [h]、母音 /i/ の前では口蓋化した [ç]、母音 /u/ の前では両唇音の [ɸ] で発音される。

ハ	/ha/:	ハナ[hana] (花)	ハナ[hana] (鼻)	ハト[hato] (鳩)
		ムコハチ[mukohatei] (婿)		
ヒ	/hi/:	ヒマ[çima] (暇)	ヒモ[çimo] (紐)	ヒトリ[çitori] (一人)
フ	/hu/:	フユ[ɸujju] (冬)	フデ[ɸude] (筆)	フタリ[ɸutari] (二人)
ヘ	/he/:	ヘラ[hera] (篋)	ヘソ[heso] (臍)	ヘチマ[heteima] (糸瓜)
ホ	/ho/:	ホネ[hone] (骨)	ホクロ[hokuro] (黒子)	ホーキ[ho:ki] (箒)

3. 5 接近音

接近音には /j/, /w/ がある。

3. 1 /j/

/j/ は硬口蓋の接近音で、母音 /a/, /u/, /e/ の前に立つ。

ヤ	/ja/:	ヤマ[jama] (山)	ヤギ[jagi] (山羊)	ヤッツ[jattsu] (八つ)
		アヤ[aja] (綾)	オヤ[oja] (親)	カヤ[kaja] (茅)
ユ	/ju/:	ユ[jju] (湯)	ユカ[jjuka] (床)	ユメ[jjume] (夢)
		ツユ[tsujju] (露)	フユ[ɸujju] (冬)	マユ[majju] (眉)
ヨ	/jo/:	ヨル[joru] (夜)	ヨダレ[jodare] (涎)	ヨモギ[jomogi] (蓬)
		コヨミ[kojomi] (暦)	トシヨリ[toejori] (年寄り)	

/j/ はまた、子音の後ろに続いて、口蓋化した子音を作る。調査語の範囲では、次のような口蓋化子音が現れた。

ビョ	/bjo/:	ビョーキ[bjo:ki] (病気)		
シャ	/sja/	シャミセン[çamisen] (三味線)		
シュ	/sju/	シューゲ[çur:ge] (結婚)		
ジャ	/zjo/	テンジョ[tenzo] (天井)	ベンジョ[benzo] (便所)	
チャ	/cja/:	チャ[tea] (茶)	オッチャン[ottean] (叔父)	
チュ	/cju/:	チューハン[teu:han] (昼食)		
チョ	/cjo/:	チョーチョ[teo: teo:] (蝶々)		
ニョ	/njo/	ニョーバ[njo:ba] (女)		
リヤ	/rjo/	リョーリ (料理)		
キュ	/kju/	キュー[kju:] (灸)	キューリ[kju:ri] (胡瓜)	キューニン[kju:nin] (九人)
キョ	/kjo/	キョネン[kjonen] (去年)	キョー[kjo:] (今日)	キョーダイ[kjo:dai] (兄弟)

3. 2 /w/

/w/ は、母音 /a/ の前に立つ。都万で カウオ[kawo] という発音が聞かれたが、臨時的なものである。

ワ	/wa/:	ワシ[waci] (私)	ワン[wan] (椀)	ワラ[wara] (藁)
		カワ[kawa] (川)	アワ[awa] (泡)	クワ[kuwa] (桑)

3. 6 モーラ音素

子音だけでモーラ（拍）を形成する音に、撥音 /N/（ん）と促音 /Q/（っ）がある。

3. 6. 1 撥音

撥音は鼻にかかる音で、後ろの子音により [m], [n], [ŋ], [N] の音で発音される。例えば、後ろに両唇音の [p], [b], [m] があるときには、撥音は両唇の鼻音 [m] で、歯茎音の [t], [d], [n] があるときには歯茎の鼻音 [n] で、軟口蓋音の [k], [g] があるときには軟口蓋の鼻音 [ŋ] で発音される。また、後ろに摩擦音の /s/ があるとき、および語末では、口蓋垂の鼻音 [N] で発音される。

ン	m	ナンボ[nammbo] (幾ら)	サンバン[samban] (三番)	トンボ[tombo] (蜻蛉)
		テンブラ[tempura] (天ぷら)		
	n	サンニン[sannin] (三人)	オンナ[onna] (女)	ミンナ[minna] (皆)
		コンタ[konta] (貴方)	ハンド[hando] (水瓶)	チンテ[teinte] (冷たい)
	ŋ	ケンカ[kenka] (喧嘩)	エンキョ[enkyo] (母屋)	
	N	ダイコン[daikon] (大根)	ミカン[mikan] (蜜柑)	
		カンザシ[kanzaei] (簪)		

3. 6. 2 促音

促音は同一の子音を重ねる音で、調査の範囲では [pp], [tt], [kk], [cc] の促音が現れた。

ッ	pp	ハッパ[happa] (葉)	シッポ[eippo] (尾)	リッパ[rippa] (立派)
	tt	バッタ[batta] (飛蝗)	アサッテ[asatte] (明後日)	エット[etto] (たくさん)
	kk	メイッコ[meikko] (姪)	オイッコ[oikko] (甥)	モッコ[mokko] (網籠)
	cc	ミッツ[mittsu] (三つ)	オッチャン[ottean] (叔父)	

4 音素目録

以上の音素の一覧をまとめておこう。

(1) 母音音素

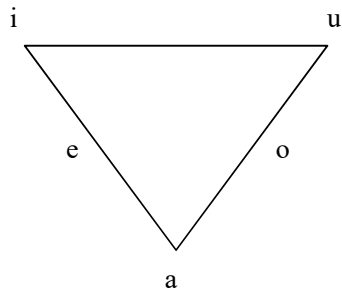


図1 母音体系

ただし、都万では長母音に /ææ/ が加わる。

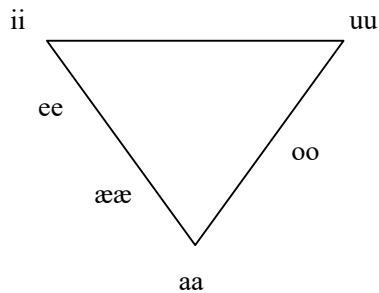


図2 長母音体系 (都万)

(2) 子音音素

調音方法		両唇	歯茎・硬口蓋	軟口蓋	声門
破裂	無声	p	t	k	
	有声	b	d	g	
鼻音		m	n		
摩擦	無声		s [s~ɕ]		h [h~ç~ϕ]
	有声		z [z~ʒ~dz~dʒ]		
はじき			r		
破擦	無声		c [tʰ~tɕ]		
	有声				
接近		w		j	

(3) モーラ音素

撥音 N (ン) [m, n, ŋ, N]

促音 Q (ッ) [pp, tt, kk, ss, cc]

5 音節

隠岐の島方言の音節の構造は、(O)N(Co)である(Oはonset(頭子音), Nはnucleus(中核母音), Coはcoda(結び)を、()は任意であることを表す)。音節の必須の要素はN(中核母音)で、これにO(頭子音), Co(結び)がついて、1つの音節を作る。

O(頭子音)	N(中核母音)	Co(結び)
p, b, m	a, i, u, e, o	N
t, d, s, z, n, r, c	aa, ii, uu, ee, (ææ 都万), oo	Q
k, g	ai, ui, oi	
h		

隠岐の島方言のアクセント

松倉 昂平*・三樹 陽介**

1. 調査報告の概要

2016年11月、隠岐の島町中村・都万の2地点で行ったアクセント調査の結果を報告する。両地点についてアクセント体系・音調型の概要を述べ、すべての調査項目のアクセントデータを掲載する。

本稿の執筆分担は次の通り：1章と中村方言の報告（2章，4.1節）は松倉が、都万方言の報告（3章，4.2節）は三樹が担当した。報告書の原稿は調査者全員に回覧し、他の調査者より修正の提案を受けた箇所について加筆・修正を行った¹。

本稿で用いる音調記号は次の通り：]…拍間の下降，!…拍間の小さな下降，[…拍間の上昇，]]…拍内下降，[[…拍内上昇。上昇や下降のある発話とない発話が両方観察された場合，() や () のように括弧に入れて表す。

分節音の表記には原則カタカナを用いるが、一部ひらがなを用いて母音が無声化していることを表す²（例：「くチビル」…1拍目「ク」が無声化）。

2. 隠岐の島町中村方言

2. 1 調査項目について

調査票は、国立国語研究所が作成したものを用いた。さらに、複合語アクセント規則を見るために複合名詞67語（及びその構成要素である2拍名詞27語と3拍名詞31語）を調査項目に追加した。

2名の話者に対して調査したほぼ全ての調査語彙についてその所属型に個人差はなく、アクセント体系全体としても個人差について特筆する点はない。4.1節に掲載するアクセントデータは両名の調査結果を合わせてまとめたものである。

2. 2 アクセント体系

今回調査し得た範囲内では、広戸惇・大原孝道（1953）、上野善道（1989）など先行研究すでに報告される通り、語の長さが増えても型の対立数が一定数（=3）以上に増えない「三型アクセント」であることが改めて確認された。(1)に1~5拍名詞に観察される3つの音調型を一

* まつくら こうへい：東京大学大学院博士後期課程

** みき ようすけ：日本学術振興会特別研究員 PD/国立国語研究所外来研究員

¹ 本稿の特に2~3章に関して上野善道氏より多くの貴重なご意見を頂いた。ここに記して感謝申し上げる。

² 主に無声化が音調に影響を及ぼす場合に無声化を明示するための表記であり、全ての無声化拍を逐一ひらがなで表記し分けてはいない。

覧する（本稿では3つの型をそれぞれA型、B型、C型と呼称する³⁾。なお1拍名詞には、先行研究で指摘される通りA型の語例が確認されておらず、型の対立数を1つ減じているとみられる。

また各型の音調は概ね上野（1989）に記述される通りであるが、音声的なバリエーションの幅がある程度広く観察された型もあり、これについては次節で触れる。

(1) 名詞のアクセント体系

	1拍語 ⁴⁾	2拍語	3拍語	4拍語	5拍語
A	—	[ハ]][コ	[カ]ガ[ミ	[カ]ミナ[リ	[モ]モバタ[ケ
B	[カー]]	[コ]メ	コ[コ]ロ	ウ[グイ]ス	ハ[ナバタ]ケ
C	[テ!ー	[フ!ネ	[ウサ!ギ	[ハリガ!ネ	[ムギバタ!ケ

A型は、語頭拍と末位拍のみが高くその間に低い拍が続く重起伏調を持つ。2拍語の場合、末位拍は高く語頭拍に拍内下降が生じる音調（[○]][○）を取る。

B型は、ちょうどA型と比べ高低を反転させたような音調を持ち、語頭拍と末位拍のみが低くその間に高い拍を挟む音調となる。2拍語の場合、語頭拍から高い[○]○型を取る。1拍語単独形は高く始まり直線的に低へ向かう下降調である。

C型は、次末拍と末位拍の間に下降が生じる点でB型と類似するが、下降幅がB型よりも小さい点、（3拍以上の場合）語頭拍から高く始まる点で区別される。ただしC型は音声的な実現幅が広く（1）の表記とは若干異なる発音もよく聴かれる（2.3.3項参照）。

2. 3 音声的なバリエーション

2. 3. 1 A型の音調

3拍以上のA型における語頭の高は必ず現れるが、2拍A型の1拍目に生じる拍内下降は、それが生じない発音（○[○）もよく聴かれる。

(2) 2拍A型の音調

[ハ]][コ。～ ハ[コ。

また、1拍目の母音が無声化する場合、2拍目が高を担う。

(3) 1拍目の母音が無声化したA型語

く[チ]ビル。 く[チ]ビル[ガ。 く[チ]ビルカ[ラ。
ふ[ト]コ[ロ。 ふ[ト]コロ[ガ。 ふ[ト]コロカ[ラ。

³⁾ 論文によって各型を指す呼称は異なるが、特に上野（1989）がA型と呼ぶ型は本稿のC型にあたり上野（1989）がC型と呼ぶ型は本稿のA型にあたる点注意されたい。上野（2012）のA~C型は本稿のA~C型と一致する。

⁴⁾ 1拍語は単独で発話すると2モーラ長に長呼される。

2. 3. 2 B型の音調

B型は最も音声的な揺れ幅が小さくほぼ(1)の通り実現する。

(1点補足するならば)2拍B型がときおり[○○]]とも実現する。

2. 3. 3 C型の音調

C型には次の2つの音声的な現象が関わる：①語頭拍が低く実現することがあり⁵，②末位拍の中音調(...○!○)は末位拍内部の上昇(...○][[○)にも聴かれることがある。

(4) 3拍C型のバリエーション

[○○!○ ~ ○[○!○ ~ [○○][[○ ~ ○[○][[○

○[○!○型はB型の音調(○[○]○)にかなり接近しており，注意を怠るとB型と聞き紛う恐れがあるが，B型との音声的な対立は基本的に保持されている(=型の中和は生じない)。

共時的には，…○!○型と…○][[○型は音声的なレベルでのバリエーションの関係にあるが，通時的には，…○][[○型の方が古く…○!○型へ変化する過程⁶にあると考えられる。なお上野(1989)はこの型を末位拍内で上昇が生じる音調(…○][[○)と記述しており，また通時的に見て古い方を基本型として捉える方が，バリエーションの派生関係を説明する上では都合が良いと思われるが，今回は調査結果(聴き取り結果)を報告することが主目的であるため実現頻度の上で圧倒的な…○!○型を基本の音調として扱う。

2. 4 N型アクセントの一般特性(上野善道2012)の検証

鹿児島方言の二型アクセントに典型的にみられるという4つの特性(「文節性」，「系列化」，「複合語のアクセントはその前部要素のアクセントを引き継ぐ」という複合アクセント法則，「活用形アクセントの一貫性」)が，同じくN型アクセントを持つ隠岐中村方言にどこまで共有されているか検証する。なお動詞活用形のアクセントが今回の調査内容に含まれなかったため「活用形アクセントの一貫性」は取り上げない。

2. 4. 1 文節性と系列化

今回調査した範囲内では，助詞及び助詞連続(ガ，オ，ニ，ノ，カラ，マデ，カラモ，マデモ)は固有のアクセントを持たず，自立語のアクセントが文節全体を単位として実現する「文節性」が確認された。またp拍の自立語にq拍の付属語が付いた音調型は，同じ系列の(p+q)拍の自立語の音調型と同じになる現象「系列化」が各型で成り立つ。

⁵ 3拍以上のB型の語頭拍は常に低い。高～低で揺れるC型とは異なる。C型の語頭低下を音声的なレベルの現象であるとするれば，B型の語頭の低は音韻的に指定されるものと捉えられる。

⁶ …○][[○型において拍間の下降がやや小さくなり，従って末位拍内部の上昇幅もまた抑えられることで…○!○型が成立する。

(5) 5拍文節の系列化

- A [ハ]コカラ[モ] = [カ]ガミカ[ラ] = [カ]ミナリ[ガ] = [モ]モバタ[ケ]
B コ[メカラ]モ = コ[コロカ]ラ = ウ[グイス]ガ = ハ[ナバタ]ケ
C [フネカラ]!モ = [ウサギカ]!ラ = [ハリガネ]!ガ = [ムギバタ]!ケ

2. 4. 2 複合名詞

2. 4. 2. 1 先行研究

九州西南部の（特に鹿児島地方の）二型アクセントにおいては、複合語のアクセント型がその前部要素の型に一致するという複合語アクセント規則が広く成り立つことが知られる。隠岐の三型アクセントについては、このような前部要素一致型の規則（単に「式保存（の法則）」とも呼ばれる）は隠岐全域において成り立たないとする研究（上野 1984, 2012）と、五箇方言においては「式保存が「原則的に」成り立つ」と結論付ける報告（松森晶子 2011）がある。

このような式保存の成否に関する結論の食い違いは、隠岐内部の方言差や分析対象となるデータの性格の違いを反映する訳ではなく、単に「式保存が成り立つ」と言える基準がどこにあるかの見解の違いに過ぎないと考えられる。実際、各研究で扱われるデータの全体的な傾向に関する記述はよく一致するようである。

(6) 松森（2011, p. 75）による記述—隠岐島五箇方言の「式保存」について—

「五箇方言では①式保存が「原則的に」成り立つ、②その式保存の例外は前部が B 型の場合に生じやすい、③全体的に複合語が「A 型への統合傾向」を示していることを報告した。」

(7) 上野（2012, p. 51）による記述—前部要素の型と複合語の型の関係について—

「隠岐全島で A→A は多く、[...]B は B→A の例が多く、C の例外も C→A の例が多い。全体として、出来上がった複合語は A となるものが最も多い。」

(6) に補足をすると：前部が B 型の場合に生じる例外とは全て「前部 B→全体 A」であり、前部が C 型の場合の例外も全て「前部 C→全体 A」である。一方前部が A 型ならばたった 1 語の例外を除いて全て「前部 A→全体 A」となる。このようなデータを踏まえて上記①③のように結論付けている。

松森（2011）は、ほぼ例外なく「前部 A→全体 A」が成り立つこと、前部が B, C 型の場合も「前部 B→全体 B または A」「前部 C→全体 C または A」といういわば「条件」付きの規則が例外なく成り立つことを指して式保存が「原則的に」成り立つとし、上野（1984, 2012）は、「前部 B→全体 B」や「前部 C→全体 C」に対する例外——すなわち松森（2011）では「条件」として規則に織り込まれた「前部 B, C→全体 A」というパターン——が多いこと等を指して式保存が成り立たないとする。

2. 4. 2. 2 調査結果

中村方言でも、調査語数は少ないながらも (6) (7) に完全に一致する傾向が確認された。調査項目に追加した 67 語の複合名詞（2拍+2拍 8語, 2拍+3拍 35語, 3拍+2拍 6語, 3拍+

3拍18語)の調査結果を、前部要素の型別に分類して表に示す⁷。

前部がA型の場合1語の例外(「水(A型)」に対して「水色」がC型)を除いて複合語もA型となり「式保存」が成り立つ。前部がB型の場合複合語はA型またはB型、前部がC型の場合複合語は主にC型となるが一部A型にも転じる。

前部がB, C型るとき複合語全体が前部の型を引き継ぐかA型に転じるかは、後部要素により決定される面が大きいようである。複合名詞を後部要素別に見てみると、後部要素はその性質別におおよそ3種(①前部の型に関わらず全体がA型になるもの, ②前部がA, B型ならば全体はA型, 前部がC型ならば全体はC型になるもの, ③前部の型をそのまま引き継ぐもの)に分類できる。

表1 前部要素の型別分類

前部要素の型別語数		複合語の型別語数		
		A	B	C
A	22	21	0	1
B	21	11	10	0
C	25	8	0	17
計	68	40	10	18

(8) ①「前部A, B, C→全体A」となる後部要素

【仕事】庭仕事A, 山仕事A, 針仕事A (庭A, 山B, 針C)

【団子】笹団子A, 肉団子A, 黍団子A (笹A, 肉B, 黍C)

【林】竹林A, 栗林A, 松林A (竹A, 栗B, 松C)

(9) ②「前部A, B→全体A, 前部C→全体C」となる後部要素

【箱】筆箱A, 紙箱A, 下駄箱C (筆A, 紙B, 下駄C)

【作り】国作りA, 米作りA, 味噌作りC (国A, 米B, 味噌C)

【袋】布袋A, 紙袋A, 箸袋C (布A, 紙B, 箸C)

(10) ③「前部A→全体A, 前部B→全体B, 前部C→全体C」となる後部要素

【虫】水虫A, 芋虫B, 松虫C (水A, 芋B, 松C)

【畑】桃畑A, 花畑B, 麦畑C (桃A, 花B, 麦C)

中村方言の複合語アクセント規則は、専ら前部要素の性質に依存する九州の二型アクセントとは異なり、「前部要素の型(A~C)と後部要素の性質(①~③)の組み合わせによって決まる」とまとめられる。

⁷ A, C両型を併用する「松飾り」(前部要素C型)については、併用型それぞれを1語として重複して数えた。そのため表1上の複合語数は68語となる。

表 2 前部要素の型と後部要素の性質の組合せから予測される複合語の型

前部要素の型	後部要素の性質		
	①	②	③
A	A	A	A
B	A	A	B
C	A	C	C

表 2 によると、前部が A 型ならば後部の性質に関わらず複合語は A 型になる。前部が B, C 型ならば複合語は一部 A 型に転じるが、後部要素②と③の性質差により、前部が B 型の場合の方が、複合語が A 型に転じる割合が高くなる（表 1 においては前部が B 型の複合語 21 語中 11 語（52%）が A 型に転じている。一方前部が C 型の場合 24 語中 8 語⁸（33%）にとどまる）。

ただし、この規則にあてはまらない例外、また①～③いずれにも該当しない性質を持つ後部要素も見られる。また、前部要素の長さ（拍数）に応じて後部要素の振舞いが変わる場合もある。さらに詳細な規則を定式化するには様々な要素を考慮に入れる必要がある。

2. 5 連文節の音調交替現象

中村方言には、複数の文節が連続したとき、文末／非文末の別、前後に隣接する文節の型、及びプロミネンスの有無・位置に応じて音調型が大きく変わる複雑な音調交替現象が存在する（上野 1989）。

今回の調査では単独文節の形を中心に聴き出したため連文節の音調交替について考察するデータは十分でないが、以下では、文末／非文末形の違いと、先行する文節の型によってその後ろに続く語の音調が変わる現象を簡単に取り上げる。

2. 5. 1 文末／非文末形の交替

A, C 型は非文末環境において (1) に示した言い切り形とは若干異なる音調を取ることがある。

A 型には、末位拍直前の上昇が末位拍内部に後退した発話、あるいは末位拍の高が失われた発話も聴かれる。

(11) 3 拍 A 型の非文末形

[カ]キ[ガ]ア[ル]。～ [カ]キ[[ガ]ア!ル]。～ [カ]キガ[ア]ル。(cf. [カ]キ[ガ]。「柿が」)

C 型の末位拍内部の上昇は文末形にのみ聴かれる音調であり、非文末環境では B 型との下降幅の対立も明瞭には現れない。

(12) 2~4 拍 C 型の非文末形

[テ]ガア[ル]。(cf. [テ!ガ。])
[カサ]ガア[ル]。(cf. [カサ!ガ。])

⁸ 8 語中 1 語は C 型を併用する「松飾り」。24 語は C 型前部要素を持つ複合語の異なり語数。

[ウサギ]ガオ[ル。 (cf. [ウサギ!ガ。)

2. 5. 2 先行文節の型による交替

本節では、前に接する名詞節の型に応じて後続する 2, 3 拍動詞がその音調を大きく交替させる例を示す。

(13) 2拍A型語 ([オ][ル) の交替

- A+A [オ]ンナ[ガオ]ル。～ [オ]ンナ[ガオ][ル。
B+A イ[トコ]ガオ]ル。
C+A ウ[サギ]ガオ]ル。

(14) 2拍C型語 ([ア][ル) の交替

- A+C [カ]キ[ガア]ル。～ [カ]キ[[ガア!ル。
B+C イ[モ]ガア]ル。
C+C [カサ]ガア]ル。～ [カサ]ガ[ア][ル。

(15) 3拍A型語 ([タ]べ[ル) の交替

- A+A [カ]キカ[ラタ]べ()ル。
B+A イ[モカ]ラタ]べ()ル。
C+A [ムギカ]ラタべ[ル。

(16) 3拍B型語 (ミ[エ]ル) の交替

- A+B [ハ]コガミ[エ]ル。
B+B ア[シ]ガミ[エ]ル。
C+B [ウミ]ガミエ[ル。～ [ウミ]ガミ[エ]ル。

先行文節が A, B 型である場合、後続する 2 拍動詞は…○]○型を取り、3 拍動詞は基本的に単独形の音調を維持するようである。先行文節が C 型の場合、後続する動詞は…○[○/…○
○[○型に交替する。

動詞がこれらの交替形を取らず、単独形と同じ音調で実現する発話も観察されるが(例:(14)
[カサ]ガ[ア][ル), これは動詞にプロミネンスが置かれた形であると考えられる⁹。

特に注目されるのは、(13) イ[トコ]ガオ]ル/ウ[サギ]ガオ]ルのように、先行する名詞節の
B, C 型の区別が主に後続する動詞側の音調に現れる点である。(16) ア[シ]ガミ[エ]ル/[ウミ]
ガミエ[ルのように名詞側の音調(語頭拍の高低など)もわずかに異なることはあるが、最も分
かりやすく両型の違いが現れる部分は後続する動詞内部にある(…ミ[エ]ル/…ミエ[ル)こと
は確かである。

⁹ 今回、プロミネンスの有無・位置については一切コントロールを加えなかった。同じ文の発話でも、それらの条件が(話者の中で)変われば、表面上の音調も大きく変わりうる。

3. 隠岐の島町都万方言

3. 1 調査項目について

調査票は、国立国語研究所が作成したものをを用いた。中村方言において行なった複合語アクセント規則を調査するための追加項目については都万方言では未調査である。また、そのため、5拍以上の語についても未調査である。

2名の話者に対して調査したほぼ全ての調査語彙についてその所属型に個人差はなく、アクセント体系全体としては個人差について特筆する点はない。ただし、実際に観察される音声にはバリエーションがみられる。4. 2に掲載するアクセントデータは2名の調査結果を合わせてまとめたものであるが、原則、ゆれの少ない1名の話者のデータをベースとした。

3. 2 アクセント体系

今回の調査範囲内では、都万方言においても三型アクセントであることが改めて確認された。(17)に1~4拍語に観察される3つの音調型を一覧する。音声的バリエーションがあるものについては、最も優勢なものを表(17)に示した。

なお、1拍語では先行研究で指摘される通りA型の語例が確認されておらず、また、B・C型は単独形で対立が中和する(助詞を続ければ区別が現れる)。全体的に音声的バリエーションが広く認められ、また、個人差についてもある程度広く確認された。これらについては3. 3で述べる。

(17) 名詞のアクセント体系

	1拍語 ¹⁰	2拍語	3拍語	4拍語
A	—	ハ[コ	[カ]ガ[ミ	[カ]ミ[ナ]リ
B	[カー]]	[コ]メ	コ[コ]ロ	ウ[グイ]ス
C	[テー]]	[フネ]]	[ウ]サギ	[ハリ]ガネ

A型は、4拍語および、それに助詞のついた形¹¹から、アクセント体系としてのパターンは語頭拍と後ろから2拍目が高く、その間に低い拍が続く重起伏調であると考えられる。ただし、2拍語の場合、語頭拍は低く語末拍が高いが、この語頭の低は義務的なものではなく、[ハ][コのように、語頭拍が高く、拍内に下降を生じた後、語末拍の前で上昇する場合がある。アクセント体系としての整合性からは[○]][○型の方が都合が良いと考えられるが、本報告では、調査結果の報告という目的に鑑み、実現頻度の高い○[○型を基本の音調として示した。3拍語の場合、後ろから2拍目の高は1拍後ろにずれ、語末拍が高くなる。

B型は、語頭拍と語末拍のみ低く、語中拍が高くなる。2拍語の場合、語頭拍が高く、語末拍が低い。また、1拍語の場合、長呼化され2モーラで発音されるが、1拍目が高く、2拍目で拍内下降が生じる。

C型は、4拍語および、それに助詞のついた形から、語頭拍と2拍目が高く、その後下降が

¹⁰ 1拍語は単独発話の場合は長呼化され、2モーラで発音される。

¹¹ [カ]ミナリ[マ]デのように、後ろから数えて2拍目が高く発音されている。

生じ、低く続くのが基本的な音調型であると考えられる。ただし、短い単位の場合はその実現に音調的なバリエーションがみられる。

2 拍語の場合、語頭拍と語末拍が高いが、語末拍に拍内下降を伴う。1 拍語の場合は長呼化されて2 モーラで発音されるが、2 拍目同様、語末拍で拍内下降する。3 拍語の場合は語頭拍が高く、直後に下降が生じる。3 拍語には音調的なバリエーションが広くみられたが（3. 3. 3参照）、実現頻度の高い[○]○○型を基本の音調として示した。

3. 3 音声的なバリエーション

全体的に音声的なバリエーションが広く認められる。表(18)は(17)に示した体系表に、音声的なバリエーションを反映させたものである。(17)の体系表では実際の発話で優勢であるものを示したが、むしろ(18)で下線で示したもののように、音声的なバリエーションとしては劣勢であるものの方が整合性が高い場合がある。

(18) 音声的なバリエーション

	1 拍語	2 拍語	3 拍語	4 拍語
A	—	ハ[コ ~ <u>[ハ]</u>][コ	[カ]ガ[ミ	[カ]ミ[ナ]リ ~ [カ]ミ[ナ]リ
B	[カー]] ~ <u>[テ]</u> —	[コ]メ	コ[コ]ロ	ウ[グイ]ス
C	[テー]] ~ [テ]—	[フネ]] ~ [フ]ネ	[ウ]サギ ~ <u>[ウ]サ[ギ]</u>	[ハリ]ガネ ~ ハ[リ]ガネ

3. 3. 1 A型の音調

2 拍語では原則語頭は低く始まるが、語頭拍が高く始まって拍内下降し、語末拍の直前で上昇する発音が観察される。1 拍目が無声化する場合、高を2 拍目にずらすことがあるが、無声化する環境にあっても無声化が起こらず、高をずらさない場合があり、同一個人内で併用されている。

1 拍目が無声化する場合 は[サ]ミ¹²。 は[サ]ミ[ガ]。

1 拍目が無声化しない場合 [ハ]サミ[カ]ラ。

3. 3. 2 B型の音調

B型は最も音声的な揺れ幅が小さく、ほぼ(17)の体系表通り実現する。

3. 3. 3 C型の音調

C型では音声的なバリエーションが広く観察される。1 拍語は2 モーラで長呼されるが、原則2 拍目に拍内下降を伴う。しかし、2 拍目の拍内下降を伴わず、1 拍目の後で下降する場合がある。また、2 拍語でも、語末拍に拍内下降がみられるが、拍内下降を伴わず、1 拍目の後で下降する

¹² ひらがなで無声化拍を表す。

場合がある。

語末拍での拍内下降は3拍語でもみられるが、3拍語の場合は語頭拍が高く、直後に下降が生じ、語末拍の直前で上昇してから拍内下降する。2拍目の後で上昇が生じ重起伏調になる点でA型と類似するが、C型が拍内下降を伴う点で異なり、対立は保たれている。

(19) 3拍C型のバリエーション

[○]○○ ～ [○]○[○]

[○]○[○]型はA型に接近してはいるが、違いは明瞭に聞き取れ、語単独言い切りの場合以外ではほとんど現れず、対立は保たれている。

3. 3. 4. 個人差

話者により、個人差がみられる。本稿ではゆれの少ない話者（以下、話者A）のデータを基本として扱ったが、もう一方の話者（以下、話者B）では音声バリエーションが広くみられた。

話者Bの場合、1拍語ではB・C型ともに、2拍目の拍内下降がなく、語頭拍の直後に下降を伴って発音される場合があった。このバリエーションは話者Aには観察されなかった。

また、A型の場合、3拍以上の語単独発話の場合における語頭の高は義務的に表れるが、話者Bの場合、3拍名詞に助詞ガ・ニが接続した形では、セ[ナ]カ[ガ]のように、高の拍を一拍ずつ遅らせて発音する傾向にある。ただし、A型4拍語言い切りの際にはこのようなバリエーションは現れない。

また、話者Bでは、語によって系列化が機能していない点で話者Aとは異なる。系列化については3. 4で述べるが、2拍名詞に助詞ガ・ニが付いた場合、[カ]ゼ[ガ]（A型）、[オ]ト[ガ]（B型）、[カ]サ[ガ]（C型）、のように、型の別を問わず同じ音調型で発音され、対立が失われている。

3. 4 N型アクセントの一般特性（上野善道 2012）の検証

上野善道（2012）で示されているN型アクセントの4つの特性（「文節性」、「系列化」、「複合語のアクセントはその前部要素のアクセントを引き継ぐ」という複合アクセント規則、「活用形アクセントの一貫性」）について、隠岐都万方言においてどこまで共有されているかを検証する。なお複合語と動詞活用形のアクセントについては今回の調査内容に含まれなかったため、「複合語アクセント規則」と「活用形アクセントの一貫性」については取り上げない。

今回調査した範囲内では、都万方言においても助詞及び助詞連続（ガ、オ、ニ、ノ、カラ、マデ、カラモ、マデモ）は固有のアクセントを持たず、自立語のアクセントが文節全体を単位として実現する「文節性」が確認された。またp拍の自立語にq拍の付属語が付いた音調型は、同じ系列の(p+q)拍の自立語の音調型と同じになる現象「系列化」が原則各型で成り立つが、音声的バリエーションが広くみられるC型3拍語においてのみ、該当しないものがみられた。

(20) 5拍文節の系列化

A [ハ]コカ[ラ]モ = [ミ]ナト[カ]ラ = [カ]ミナ[リ]ガ

B コ[メカラ]モ = コ[コロカ]ラ = ウ[グイス]ガ

C [カサ]カラモ = [ハリ]ガネガ

(但しC型3拍語については, [カサ]カラモ = [ハリ]ガネガ ≠ [ウサギ]カラ。)

また, 話者Bの場合、一部の語で系列化が成り立たず、型の対立が保たれなくなる傾向がみられた。

A [カ]ゼ[ガ] カ[ゼマ]デ カ[ゼマ]デモ

B [オ]ト[ガ] オ[トマ]デ オ[トマ]デモ

C [カ]サ[ガ] カ[サマ]デ カ[サ]マデモ

参照文献

上野善道 (1984) 「類の統合と式保存——隠岐の複合名詞アクセント」『国語研究』47, 1-53.

上野善道 (1989) 「隠岐島中村方言のアクセント交替」『国語研究』52, 1-24.

上野善道 (2012) 「N型アクセントとは何か」『音声研究』16 (1), 44-62.

広戸惇・大原孝道 (1953) 『山陰地方のアクセント』報光社.

松森晶子 (2011) 「隠岐島五箇方言の「式保存」とその例外について」『音声研究』15 (3), 74-75.

4. 隠岐方言のアクセントデータ

4. 1 隠岐の島町中村方言のアクセント資料

(1) 2 拍名詞

風	箱	音	胸	歌	芋	米	笠	舟	雨	井戸
1A	1A	2B	2B	2A	3B	3B	4C	4C	5C	5B
カ[ゼ]	ハ[ユ] ~ ハ[[コ]	オ[ト]	ム[ネ]	ウ[タ] ~ ウ[[タ]	イ[モ]	コ[メ]	カ[サ]	フ[ネ]	ア[メ] ~ ア[[メ]	イ[ド]
カ[ゼ]	ハ[コ]	オ[ト]	ム[ネ]	ウ[タ]	イ[モ]	コ[メ]	カ[サ]	フ[ネ]	ア[メ]	イ[ド]
カ[ゼ]	ハ[コ]	オ[ト]	ム[ネ]	ウ[タ]	イ[モ]	コ[メ]	カ[サ]	フ[ネ]	ア[メ]	イ[ド]
カ[ゼ]	ハ[コ]	オ[ト]	ム[ネ]	ウ[タ]	イ[モ]	コ[メ]	カ[サ]	フ[ネ]	ア[メ]	イ[ド]
カ[ゼ]	ハ[コ]	オ[ト]	ム[ネ]	ウ[タ]	イ[モ]	コ[メ]	カ[サ]	フ[ネ]	ア[メ]	イ[ド]
カ[ゼ]	ハ[コ]	オ[ト]	ム[ネ]	ウ[タ]	イ[モ]	コ[メ]	カ[サ]	フ[ネ]	ア[メ]	イ[ド]
カ[ゼ]	ハ[コ]	オ[ト]	ム[ネ]	ウ[タ]	イ[モ]	コ[メ]	カ[サ]	フ[ネ]	ア[メ]	イ[ド]
カ[ゼ]	ハ[コ]	オ[ト]	ム[ネ]	ウ[タ]	イ[モ]	コ[メ]	カ[サ]	フ[ネ]	ア[メ]	イ[ド]
カ[ゼ]	ハ[コ]	オ[ト]	ム[ネ]	ウ[タ]	イ[モ]	コ[メ]	カ[サ]	フ[ネ]	ア[メ]	イ[ド]

十ノ...	十ノ...	十ノ...
カ[ゼ]ノオ[ト] ~ カ[ゼ]ノオ[ト]	音 B [オ]ト	音 B [オ]ト
ハ[コ]ノオ[ト] ~ ハ[コ]ノオ[ト]	中 C [オ]ト	骨 B [ホ]ネ
オ[ト]ノオ[ト]	大きき C [オキ]	上 B [ウ]エ
ム[ネ]ノオ[ト]	前 C [[オ]	中 C [ナ]カ
ウ[タ]ノオ[ト]	本 B [ホ]	前 C [[マ]
イ[モ]ノオ[ト]	弦 B [[ツ]	

(2) 3拍名詞

	類・型	単独形	+ガ	+カラ	+カラモ ¹
煙	1B	ケ[ム]リ。	ケ[ムリ]ガ。	ケ[ムリ]カラ。	ケ[ムリ]カラ[モ]。
踊り	1A	[オ]ドリ。	[オ]ドリ[ガ]。	[オ]ドリカラ。	[オ]ドリカラ[モ]。
港	1A	[ミ]ナト。	[ミ]ナト[ガ]。	[ミ]ナトカラ。	[ミ]ナトカラ[モ]。
女	2A	[オ]ンナ。	[オ]ンナ[ガ]。	[オ]ンナカラ。	[オ]ンナカラ[モ]。
小豆	2A	[ア]ズキ。	[ア]ズキ[ガ]。	[ア]ズキカラ。	[ア]ズキカラ[モ]。
鋏	4A	[ハ]サミ。	[ハ]サミ[ガ]。	[ハ]サミカラ。	[ハ]サミカラ[モ]。
鏡	4A	[カ]ガミ。	[カ]ガミ[ガ]。	[カ]ガミカラ。	[カ]ガミカラ[モ]。
男	4A	[オ]トコ。	[オ]トコ[ガ]。	[オ]トコカラ。	[オ]トコカラ[モ]。
朝日	5B	ア[サ]ヒ。	ア[サヒ]ガ。	ア[サヒ]カラ。	ア[サヒ]カラ[モ]。
命	5B	イ[ノ]チ。	イ[ノチ]ガ。	イ[ノチ]カラ。	イ[ノチ]カラ[モ]。
心	5B	コ[ロ]ロ。	コ[コロ]ガ。	コ[コロ]カラ。	コ[コロ]カラ[モ]。
兎	6C	[ウ]サギ。	[ウサギ]ガ。	[ウサギ]カラ!	[ウサギ]カラ[モ]!
狐	6C	キ[ツ]ネ ² 。	キ[ツネ]ガ。	キ[ツネ]カラ!	キ[ツネ]カラ[モ]!
背中	6A	[セ]ナカ。	[セ]ナカ[ガ]。	[セ]ナカカラ!	[セ]ナカカラ[モ]!
兜	7A	[カ]ブト。	[カ]ブト[ガ]。	[カ]ブトカラ!	[カ]ブトカラ[モ]!
母	7C	[イ]チゴ。	[イチゴ]ガ。	[イチゴ]カラ!	[イチゴ]カラ[モ]!
薬	7C	ク[ス]リ。	ク[スリ]ガ。	ク[スリ]カラ!	ク[スリ]カラ[モ]!

¹ 女性話者には、「3拍B、C型語+カラモ」において...カ]ラモ。と下降が1拍早まった発音も聴かれた。

² 母音が無声化した語頭拍は聴覚印象上「低」である。キ[ツ]ネ、ク[ス]リ¹の他、後出のヒ[カ]ラ（火から）やツ[カ]マエ!タも同様。

型	単独形	十二	十マデ	十マデモ
兎	[ウサ!ギ。]	[ウサギ!ニ。]	[ウサギマ!デ。]	[ウサギマデ!モ。]
狐	き[ツ!ネ。]	き[ツネ!ニ。]	き[ツネマ!デ。]	き[ツネマデ!モ。]
莓	[イチ!ゴ。]	[イチゴ!ニ。]	[イチゴマ!デ。]	[イチゴマデ!モ。]
葉	く[ス!リ。]	く[スリ!ニ。]	く[スリマ!デ。]	く[スリマデ!モ。]

(3) 4拍名詞

型	単独形	十ガ	十カラ	十カラモ ³
餅米	[モ]チゴ!メ。	[モ]チゴメ[ガ。]	[モ]チゴメカ[ラ。]	[モ]チゴメカラ[モ。]
友達	[ト]モダ[チ。]	[ト]モダチ[ガ。]	[ト]モダチカ[ラ。]	[ト]モダチカラ[モ。]
懐	ふ[ト]コ!ロ ⁴ 。	ふ[ト]コロ[ガ。]	ふ[ト]コロカ[ラ。]	ふ[ト]コロカラ[モ。]
唇	く[チ]ビ!ル。	く[チ]ビル[ガ。]	く[チ]ビルカ[ラ。]	く[チ]ビルカラ[モ。]
川上	[カ]ワカ[ミ。]	[カ]ワカミ[ガ。]	[カ]ワカミカ[ラ。]	[カ]ワカミカラ[モ。]
色紙	[イ]ロガ[ミ。]	[イ]ロガミ[ガ。]	[イ]ロガミカ[ラ。]	[イ]ロガミカラ[モ。]
雷	[カ]ミナ[リ。]	[カ]ミナリ[ガ。]	[カ]ミナリカ[ラ。]	[カ]ミナリカラ[モ。]
米櫃	[コ]メビ!ツ。	[コ]メビツ[ガ。]	[コ]メビツカ[ラ。]	[コ]メビツカラ[モ。]
簪	[カン]ザ!シ。	[カン]ザシ[ガ。]	[カン]ザシカ[ラ。]	[カン]ザシカラ[モ。]
針金	[ハリ]ガ!ネ。	[ハリ]ガネ[ガ。]	[ハリ]ガネカ[ラ。]	[ハリ]ガネカラ[モ。]
麦藁	[ムギワ!ラ。]	[ムギワラ!ガ。]	[ムギワラカ!ラ。]	[ムギワラカラ!モ。]
味噌汁	[ミ]ソシ!ル。	[ミ]ソシル[ガ。]	[ミ]ソシルカ[ラ。]	[ミ]ソシルカラ[モ。]
雨降り	[ア]メフ!リ。	[ア]メフリ[ガ。]	[ア]メフリカ[ラ。]	[ア]メフリカラ[モ。]
前掛け	[マエカ!ケ。]	[マエカケ!ガ。]	[マエカケカ!ラ。]	[マエカケカラ!モ。]

³ 女性話者には「4拍B,C型語十カラモ」において...カ[ラ]モ。と下降が1拍早まった発音も聴かれた。

⁴ 1拍目の母音が無声化すると語頭の音が2拍目を実現する。後出のひ[カ][リ] (光), き[コ]エ[ル] (聞こえる), す[テ][タ] (捨てた), ひ[ト]ヅカ[イ] (人遣い), ち[カ]ラウド[ン] (カうどん) も同様。

鶯	B	ウ[グイス]ス。	ウ[グイス]ガ。	ウ[グイス]カラ。	ウ[グイス]カラ!モ。
撫子	B	ナ[デシ]コ。	ナ[デシ]コガ。	ナ[デシ]コカラ。	ナ[デシ]コカラ!モ。
風呂敷	C	[フロシ]キ。	[フロシ]キガ。	[フロシ]キカラ。	[フロシ]キカラ!モ。

型	単独形	十二	十二	十二	十二
簪	C	[カンザ]シ。	[カンザ]シ!ニ。	[カンザ]シマ!デ。	[カンザ]シマ!デ!モ。
針金	C	[ハリガ]ネ。	[ハリガ]ネ!ニ。	[ハリガ]ネマ!デ。	[ハリガ]ネマ!デ!モ。
麦藁	C	[ムギワ]ラ。	[ムギワ]ラ!ニ。	[ムギワ]ラマ!デ。	[ムギワ]ラマ!デ!モ。
前掛け	C	[マエカ]ケ。	[マエカ]ケ!ニ	[マエカ]ケマ!デ。	[マエカ]ケマ!デ!モ。
鶯	B	ウ[グイ]ス。	ウ[グイ]ス!ニ。	ウ[グイ]スマ!デ。	ウ[グイ]スマ!デ!モ。
撫子	B	ナ[デシ]コ。	ナ[デシ]コ!ニ。	ナ[デシ]コマ!デ。	ナ[デシ]コマ!デ!モ。
風呂敷	C	[フロシ]キ。	[フロシ]キ!ニ。	[フロシ]キマ!デ。	[フロシ]キマ!デ!モ。

(4) 1拍名詞

類・型	単独形	十ガ	十二	十二	十二	十二
蚊	1B	[カー]ー]。	[カ]ガ	[カ]ニ。	[カ]カラ。	[カー]カラ!モ。
戸	1B	[トー]ー]。	～カ[ー]ガ。	～[カー]ニ。	～[カー]カラ。	～[カー]カラ!モ。
血	1B	[チー]ー]。	[ト]ガ。	[ト]ニ。	ト[カ]ラ。	ト[カ]ラ!モ。
葉	2B	[ハー]ー]。	[チ]ガ。	[チ]ニ。	チ[カ]ラ。	チ[カ]ラ!モ。
日	2B	[ヒー]ー]。	[ハ]ガ。	[ハ]ニ。	ハ[カ]ラ。	ハ[カ]ラ!モ。
手	3C	[テー]ー]。	[ヒ]ガ。	[ヒ]ニ。	ひ[カ]ラ。	ひ[カ]ラ!モ。
目	3C	[メー]ー]。	[テ]ガ。	[テ]ニ。	テ[カ]ラ。	テ[カ]ラ!モ。
火	3C	[ヒー]ー]。	[メ]ガ。	[メ]ニ。	メ[カ]ラ。	メ[カ]ラ!モ。
			[ヒ]ガ。	[ヒ]ニ。	ひ[カ]ラ!	ひ[カ]ラ!モ。

十ノ...		後続語の型・音調	
[カ]ノ[ナ]キゴ[エ]。 ～[カー]ノ[ナ]キゴ(0)エ。	鳴き声 A	[ナ]キゴ[エ]。	
[ト]ノ[スベ]リ ～ [ト]ノ[スベ]リ。	滑り C	[スベ]リ。	
[チ]ノ[イ]ロ ～ [チ]ノ[イ]ロ。	色 B	[イ]ロ。	
[ハ]ノ[イ]ロ。			
[ヒ]ノ[ひ]カ]リ。	光 A	ひ[カ]リ。	
[テ]ノ[ナ]カ ～ [テ]ノ[ナ]カ。	中 C	[ナ]カ。	
[メ]ノ[ウ]エ ～ [メ]ノ[ウ]エ。	上 B	[ウ]エ。	
ヒ[ノ]タ]マ ⁵ 。	玉 B	[タ]マ。	

(5) 複合語 (国語研作成の調査票項目・男性話者調査分)	
前部要素 類・型	
春 5C	[ハ]ルヤス[ミ] [ハ]ルマツ[リ] [ハ]ルサ!メ (春休み A 春祭り A 春雨 C)
夏 2B	[ナ]ツヤス[ミ] [ナ]ツマツ[リ] [ナ]ツク[サ] (夏休み A 夏祭り A 夏草 A)
金 1A	[カ]ネヅカ[イ] [カ]ネモウ[ケ] [カ]ネモ[チ] (金遣い A 金儲け A 金持ち A)
川 2B	[カ]ワクダ[リ] [カ]ワヅ[コ] [カ]ワザカ[ナ] (川下り A 川底 A 川魚 A)
塩 3B	[シ]オア[ジ] [シ]オカゲ[ン] [シ]オ[ケ] (塩味 A 塩加減 A 塩気 A)
種 4C	[タ]ネマ!キ [タ]ネツ!ケ [タ]ネウ!マ (種時き C 種付け C 種馬 C)
雨 5C	[ア]メフ[リ] [ア]メアガ!リ [ア]マモ!リ (雨降り A 雨上がり C 雨漏り B)

⁵ 「ヒノタマ」全体で1語化 (B型)。

(6) 2拍名詞 (非文末環境)

類・型	単独形	＋ガ／オ／カラ (非文末形)	後続語の型
箱 1A	[ハ][コ]。	[ハ]コ[[ガ]ア!ル ～ [ハ]コガ[ア]ル。 [ハ]コ[オ]ツ[ク]ツ[タ] ～ [ハ]コオつ[ク]ツ[タ]。 [ハ]コカ[ラ]ダし!タ。	[ア][ル]C (在る) つ[ク]ツ[タ]B (作った) [ダ]し[タ]C (出した)
柿 1A	[カ][キ]。	[カ]キ[[ガ]ア!ル ～ [カ]キ[ガ]ア!ル ～ [カ]キガ[ア]ル。 [カ]キ[オ]タ[ベ]タ ～ [カ]キオ[タ]ベ[タ]。 [カ]キカ[ラ]タ[ベ]タ ～ [カ]キカ[ラ]タ[ベ]タ。	[タ]ベ[タ]A (食べた)
音 2B	[オ]ト。	オ[ト]ガきコ[エ]①ル ～ オ[トガ]きコ[エ]ル。 オ[ト]オ[タ]テタ。 オ[ト]カ[ラ]オ[ボ]エ[ル]。 カ[ミ]ガナ[イ]。 カ[ミ]オヤ[ブ]ツ[タ]。 カ[ミ]カ[ラ]サテ[タ]。 イ[モ]ガア[ル]。 イ[モ]オつ[ク]ツ[タ]。 イ[モ]カ[ラ]タ[ベ]①ル。 ア[シ]ガイ①[タ]イ。 ア[シ]オモ[ン]ダ。 ア[シ]カ[ラ]モ[ン]ダ。 [カ]サ[ガ]ア[ル] ～ [カ]サ[ガ]ア[[ル]。 [カ]サ[オ]カ[ブ]ツ[タ]。 カ[サ]カ[ラ]つ[ク]ツ[タ] ～ カ[サ]カ[ラ]つ[ク]ツ[タ]。 [ウ]ミ[ガ]ミ[エ]ル ～ [ウ]ミ[ガ]ミ[エ]ル。	き[コ]エ[ル]A (聞こえる) タ[テ]!タC (立てた) [オ]ボエ[ル]A (覚える) [ナ]!イC (無い) ヤ[ブ]ツ[タ]B (破った) サ[テ]!![タ]A (捨てた)
紙 2B	[カ]ミ。		
芋 3B	[イ]モ。 ～[イ]モ]]。		
足 3B	[ア]シ。		
筵 4C	[カ]!サ。		
海 4C	[ウ]!ミ。		

		[ウミ]オミ[タ] ~ [ウミ]オ[ミ]!タ。	[ミ]!タ C (見た)
		[ウミ]カ[ラ]フアイテ[ク]ル。	[フ]イテク!ル C (吹いて来る)
雨	5C	[ア]メ]ガフ[ル] ~ [ア]メ!ガフ[ル] ~ [ア]メ]ガ[フ]!!ル。	[フ]!!ル C (降る)
		[ア]メ]オ[フ]ラセ[ル]。	[フ]ラセ[ル] A (降らせる)
		[ア]メ]カ[ラ] [マ]モ[ル]。	[マ]モ[ル] A (守る)
蛇	5A	[へ]ビ]ガオ[ル] ~ [へ]ビ]ガオ!![ル] ~ [へ]ビ]ガ[オ]ル。	[オ]!![ル] (居る)
		[へ]ビ]オ]つ[カ]マエ!タ ~ [へ]ビ]オ]つ[カ]マエ!タ。	つ[カ]マエ!タ (捕まえた)
		[へ]ビ]カ[ラ]ニ[ゲ]ル。	ニ[ゲ]ル B (逃げる)

(追加調査分)

類・型	単独形	+ガ/カラ (非文末形)	後続語の型
柿	1A	[カ]キ]キ。	[タ]べ[ル] A (食べる)
芋	3B	[イ]モ。	
麦	4C	[ム]ギ]。	
孫	3B	[マ]ゴ。	

(7) 3拍名詞（非文末環境）

	類・型	+ガ（非文末形）	後続語の型
煙	1A	ケ[ムリ]ガデ]タ。	[デ][タ C（出た）
女	2A	[オ]ンナ[ガオ][ル ～ [オ]ンナガ[オ][ル。	[オ][ル A（居る）
男	4A	[オ]トコ[ガオ][ル ～ [オ]トコガ[オ][ル。	
心	5B	コ[コロ]ガヤ]サシイ。	[ヤ]サシ[イ A（優しい）
兎	6C	[ウサギ]ガオ[ル ～ ウ[サギ]ガオ[ル。	
兜	7A	[カ]ブト[ガア]ル。	[ア][ル C（在る）

（追加調査分）

	類・型	+ガ/オ（非文末形）	後続語の型
女	2A	[オ]ンナオ[ミ]ル。 [オ]ンナガ[ナイ]タ ～ [オ]ンナ[ガナ]イタ。 [オ]ンナガ[ナ][ク。	ナ[イ]タ B（泣いた） [ナ][ク A（泣く）
従兄弟	5B	イ[トコ]ガオ[ル ～ イ[トコ]ガオ[ル。 イ[トコ]オミ]ル。 イ[トコ]ガナ]イタ。 イ[トコ]ガナ]ク。	
兎	6C	ウ[サギ]オミ]ル。 ウ[サギ]ガナイ]タ ～ ウ[サギ]ガナ[イ]タ。 ウ[サギ]ガナ[ク ～ ウ[サギ]ガ[ナ][ク。 [ウサギ]ガ[デ]!タ。	[デ][タ C（出た）

(8) 1拍名詞（非文末環境）

（調査担当者による追加項目・女性話者調査分）

	類・型	+ガ（非文末形）	後続語の型
血	1B	[チ]ガア]ル。 [チ]ガデ]ル。	[ア][ル C（在る）
葉	2B	[ハ]ガア]ル。	
日	2B	[ヒ]ガデ]ル。	
手	3C	[テ]ガア]ル。 [テ]オつけ]ル。	っ[ケ]ル B（付ける）
気	-B	[キ]オつけ]ル。	

(9) 複合語 (調査担当者により追加された調査項目・女性話者調査分)

	型	単独形	助詞添加形, 非文末形	前部の型	後部の型
首飾り	A	[ク]ビカザ[リ]		A	A
髪飾り	A	[カ]ミカザ[リ]		B	A
松飾り	A	[マ]ツカザ[リ]		C	A
	C	~[マツカザ!リ]			
金遣い	A	[カ]ネヅカ[イ]		A	A
人遣い	A	ひ[ト]ヅカ[イ]		B	A
息遣い	A	[イ]キヅカ[イ]		C	A
庭仕事	A	[ニ]ワシゴ[ト]		A	A
山仕事	A	[ヤ]マシゴ[ト]		B	A
針仕事	A	[ハ]リシゴ[ト]		C	A
夏祭り	A	[ナ]ツマツ[リ]		B	A
秋祭り	A	[ア]キマツ[リ]		C	A
桜祭り	A	[サ]クラマツ[リ]		A	A
紅葉祭り	B	モ[ミジマツ]リ		B	A
椿祭り	B	ツ[バキマツ]リ		B	A
裸祭り	C	[ハダカマツ!リ]		C	A
菖蒲祭り	C	[アヤメマツ!リ]		C	A
笹団子	A	[サ]サダン[ゴ]		A	C
肉団子	A	[ニ]クダン[ゴ]		B	C
黍団子	A	[キ]ビダン[ゴ]		C	C
夏休み	A	[ナ]ツヤス[ミ]		B	A
冬休み	A	[フ]ユヤス[ミ]		B	A
春休み	A	[ハ]ルヤス[ミ]		C	A
国作り	A	[ク]ニヅク[リ]		A	A
米作り	A	[コ]メヅク[リ]		B	A
味噌作り	C	ミ[ソヅク!リ]		C	A
水色	C	[ミズイ!ロ]		A	B

小豆色	A	[ア]ズキイ[ロ	A	B
虹色	B	ニ[ジイ]ロ	B	B
紅葉色	B	モ[ミジイ]ロ	B	B
鼠色	A	[ネ]ズミイ[ロ	C	B
竹林	A	[タ]ケバヤ[シ	A	A
栗林	A	[ク]リバヤ[シ	B	A
松林	A	[マ]ツバヤ[シ	C	A
風邪薬	A	[カ]ゼグス[リ	A	C
水薬	A	[ミ]ズグス[リ	A	C
粉薬	C	[コナグス!リ	C	C
筆箱	A	[フ]デバ[コ	A	A
硯箱	A	[ス]ズリバ[コ	A	A
紙箱	A	[カ]ミバ[コ	B	A
薬箱	C	ク[スリバ!コ	C	A
下駄箱	C	[ゲタバ!コ	C	A
蜜柑箱	C	ミ[カンバ!コ	C	A
風車	A	[カ]ザグル[マ	A	A
水車	A	[ミ]ズグル[マ	A	A
糸車	C	[イトグル!マ	C	A
水虫	A	[ミ]ズム[シ	A	A
芋虫	B	イ[モム]シ	B	A
松虫	C	[マツム!シ	C	A
布袋	A	[ヌ]ノブク[ロ	A	A
紙袋	A	[カ]ミブク[ロ	B	A
箸袋	C	[ハシブク!ロ	C	A
あられ袋	A	[ア]ラレブク[ロ	A	A
草履袋	B	[ゾーリブク]ロ	B	A
匂い袋	A	[ニ]オイブク[ロ	A	A
桃畑	A	[モ]モバタ[ケ	A	C

花畑	B	ハ[ナバタ]ケ	ハ[ナバタケ]ガ。 ハ[ナバタケ]ガアル。	B	C
麦畑	C	[ムギバタ]ケ ～ム[ギバタ]ケ	ム[ギバタケ]ガ。 ム[ギバタケ]ガアル。	C	C
小麦畑	A	[コムギバタ]ケ	[コムギバタケガ][アル]。	A	C
山葵畑	B	ワ[サビバタ]ケ ～ワ[サビバ]タケ	ワ[サビバタケ]ガアル。	B	C
トマト畑 ⁶	C?	ト[マトバタ]ケ ～ト[マトバ]タケ	ト[マトバタケ]ガアル。	B	C
西瓜畑	C	[スイカバ]タケ	[スイカバタケ]ガアル。	C	C
苺畑	C	イ[チゴバ]タケ	イ[チゴバタケ]ガアル。	C	C
カうどん	A	ち[カ]ラウド[ン]	ち[カ]ラウドンガ[アル]。	A	-
狐うどん	C	き[ツネウ]ドン	き[ツネウドン]ガアル。	C	-
わかめうどん	B	ワ[カメウド]ン	ワ[カメウドン]ガアル。	B	-
狸うどん	C	[タヌキウ]ドン	タ[ヌキウドン]ガアル。	C	-
カレーうどん	C	カ[レーウ]ドン	カ[レーウドン]ガアル。	C	-

～バタケと～ウドンを後部要素に持つ B, C 型複合語には～バ]タケ。～ウ]ドン。と次末拍の前に下降が生じる音調が聴かれた。「4 拍 B, C 型語+カラモ」に聴かれた...カ]ラモ。と同様, 前次末拍の直前に形態素境界・語境界があるときに B, C 型が取りうるバリエーションと考えておく。

⁶ 「トマト」が B 型であることから「トマト畑」も B 型であることが推測されるが、「トマト畑が...」に続く動詞「アル」が...アル。の形を取ったことは「トマト畑」が C 型であることを示唆する。調査時の確認が不十分であったためこの語の所属型には疑問が残る。

4. 2 隠岐の島町都万方言のアクセント資料

(1) 2拍名詞

類・型	単独形	+ガ	+ニ	+カラ	+マデ	+カラモ	+マデモ
風	カ[ゼ]。	[カ]ゼ[ガ]。	[カ]ゼ[ニ]。	[カ]ゼ[カ]ラ。	[カ]ゼ[マ]デ。	[カ]ゼカ[ラ]モ。	[カ]ゼマ[デ]モ。
箱	ハ[コ] ~ ハ[[コ]。	[ハ]コ[ガ]。	[ハ]コ[ニ]。	[ハ]コ[カ]ラ。	[ハ]コ[マ]デ。	[ハ]コカ[ラ]モ。	[ハ]コマ[デ]モ。
音	[オ]ト。	オ[ト]ガ。	オ[ト]ニ。	オ[ト]カラ。	オ[ト]マデ。	オ[ト]カラモ。	オ[ト]マデモ。
胸	[ム]ネ。	ム[ネ]ガ。	ム[ネ]ニ。	ム[ネ]カラ。	ム[ネ]マデ。	ム[ネ]カラモ。	ム[ネ]マデモ。
歌	ウ[タ] ~ ウ[[タ]。	[ウ]タ[ガ]。	[ウ]タ[ニ]。	[ウ]タ[カ]ラ。	[ウ]タ[マ]デ。	[ウ]タカ[ラ]モ。	[ウ]タマ[デ]モ。
芋	[イ]モ。	イ[モ]ガ。	イ[モ]ニ。	イ[モ]カラ。	イ[モ]マデ。	イ[モ]カラモ。	イ[モ]マデモ。
米	[コ]メ。	コ[メ]ガ。	コ[メ]ニ。	コ[メ]カラ。	コ[メ]マデ。	コ[メ]カラモ。	コ[メ]マデモ。
笠	[カ]サ ~ [カ]サ[[。	[カ]サ[ガ]。	[カ]サ[ニ]。	[カ]サ[カ]ラ。	[カ]サ[マ]デ。	[カ]サ[カ]ラモ。	[カ]サ[マ]デモ。
舟	[フ]ネ ~ [フ]ネ[[。	[フ]ネ[ガ]。	[フ]ネ[ニ]。	ふ[ネ]カラ。	ふ[ネ]マデ。	[フ]ネ[カ]ラモ。	[フ]ネ[マ]デモ。
雨	[ア]メ ~ [ア]メ[[。	[ア]メ[ガ]。	[ア]メ[ニ]。	[ア]メ[カ]ラ。	[ア]メ[マ]デ。	[ア]メ[カ]ラモ。	[ア]メ[マ]デモ。
井戸	[イ]ド。	イ[ド]ガ。	イ[ド]ニ。	イ[ド]カラ。	イ[ド]マデ。	イ[ド]カラモ。	イ[ド]マデモ。

十ノ... (AMの話し者のみ)

カ[ゼ]ノオ]ト。
ハコ[ノ]ナ[カ]。
オ[ト]ノ[オ]ーキサ。
ウ[タ]ノ[ホ]ン。
カ[サ]ノ[ホ]ネ。
[フ]ネノ[ウ]エ。
ア[メ]ノ[ナ]カ ~ [ア]メノ[ナ]カ。

(2) 3拍名詞

類・型	単独形	+ガ	+カラ	+カラモ ⁷
煙	ケ[ム]リ。	ケ[ムリ]ガ。	ケ[ムリ]カラ。	ケ[ムリ]カラモ。
踊り	[オ]ドリ。	[オ]ドリガ。	[オ]ドリカラ。	[オ]ドリカラモ。
港	[ミ]ナト。	[ミ]ナトガ。	[ミ]ナトカラ。	[ミ]ナトカラモ。
女	[オ]ンナ。	[オン]ナガ。	[オン]ナカラ。	[オン]ナカラモ。
小豆	[ア]ズキ。	[ア]ズキガ。	[ア]ズキカラ。	[ア]ズキカラモ。
鋏	[ハ]サミ。	[ハ]サミガ。	[ハ]サミカラ。	[ハ]サミカラモ。
鏡	[カ]ガミ。	[カ]ガミガ。	[カ]ガミカラ。	[カ]ガミカラモ。
男	[オ]トコ。	[オ]トコガ。	[オ]トコカラ。	[オ]トコカラモ。
朝日	ア[サ]ヒ。	ア[サヒ]ガ。	ア[サヒ]カラ。	ア[サヒ]カラモ。
命	イ[ノ]チ。	イ[ノチ]ガ。	イ[ノチ]カラ。	イ[ノチ]カラモ。
心	コ[ロ]ロ。	コ[コロ]ガ。	コ[コロ]カラ。	コ[コロ]カラモ。
兎	[ウ]サギ ~ ウ]サ[ギ]]。	[ウ]サギガ。	ウ[サギ]カラ。	ウ[サギ]カラモ。
狐	[キ]ツネ ⁸ ~ キ]ツ[ネ]]。	き[ツネ]ガ。	き[ツネ]カラ。	き[ツネ]カラモ。
背中	[セ]ナカ。	[セ]ナカガ。	[セ]ナカカラ。	[セ]ナカカラモ。
兜	[カ]ブト。	[カ]ブトガ。	[カ]ブトカラ。	[カ]ブトカラモ。
苺	[イ]チゴ ~ イ]チ[ゴ]]。	[イ]チゴガ。	イ[チゴ]カラ。	イ[チゴ]カラモ。
菓	[ク]スリ ²⁰ ~ ク]ス[リ]]。	く[スリ]ガ。	く[スリ]カラ。	く[スリ]カラモ。

⁷ AM 話者では、「3拍B型+カラモ」において...カラモ。と下降が1拍早まって発音される。

⁸ 1拍目が無声化し、き[ツ]ネ、く[ス]リのように高を1拍後ろにずらす場合がある。

型	単独形	十二	十マデ	十マデモ
煙	ケ[ム]リ。	ケ[ムリ]ニ。	ケ[ムリマ]デ。	ケ[ムリマデ]モ。
踊り	[オ]ドリ。	[オ]ドリニ。	[オ]ドリマ[デ]。	[オ]ドリマ[デ]モ。
港	[ミ]ナト。	[ミ]ナトニ。	[ミ]ナトマ[デ]。	[ミ]ナトマ[デ]モ。
女	[オ]ンナ。	[オ]ンナニ。	[オ]ンナマ[デ]。	[オ]ンナマ[デ]モ。
小豆	[ア]ズキ。	[ア]ズキニ。	[ア]ズキマ[デ]。	[ア]ズキマ[デ]モ。
鋏	[ハ]サミ。	[ハ]サミニ。	[ハ]サミマ[デ]。	[ハ]サミマ[デ]モ。
鏡	[カ]ガミ。	[カ]ガミニ。	[カ]ガミマ[デ]。	[カ]ガミマ[デ]モ。
男	[オ]トコ。	[オ]トコニ。	[オ]トコマ[デ]。	[オ]トコマ[デ]モ。
朝日	ア[サ]ヒ。	ア[サヒ]ニ。	ア[サヒマ]デ。	ア[サヒマデ]モ。
命	イ[ノ]チ。	イ[ノチ]ニ。	イ[ノチマ]デ。	イ[ノチマデ]モ。
心	コ[コ]ロ。	コ[コロ]ニ。	コ[コロマ]デ。	コ[コロマデ]モ。
兎	[ウ]サギ ~ ウ]サ[ギ]]。	[ウ]サギニ。	ウ]サ[ギ]マデ。	ウ]サ[ギ]マデモ。
狐	[キ]ツネ ~ キ]ツ[ネ]]。	き]ツ[ネ]ニ。	き]ツ[ネ]マデ。	き]ツ[ネ]マデモ。
背中	[セ]ナカ。	[セ]ナ[カ]ニ。	[セ]ナカマ[デ]。	[セ]ナカマデ]モ。
兜	[カ]ブト。	[カ]ブトニ。	[カ]ブトマ[デ]。	[カ]ブトマデ]モ。
母	[イ]チゴ ~ イ]チ[ゴ]]。	[イ]チゴニ。	イ]チ[ゴ]マデ。	イ]チ[ゴ]マデモ。
菓	[ク]スリ ~ ク]ス[リ]]。	く]ス[リ]ニ。	く]ス[リ]マデ。	く]ス[リ]マデモ。

(3) 4拍名詞

型	単独形	+ガ	+カラ	+カラモ
餅米 C	[モチ]ゴメ。	モ[チ]ゴメガ。	モ[チ]ゴメ[カ]ラ。	モ[チ]ゴメカ[ラ]モ。
友達 A	[ト]モ[ダ]チ。	[ト]モダ[チ]ガ。	[ト]モダチ[カ]ラ。	[ト]モダチカ[ラ]モ。
懐 A	[フ]ト[コ]ロ。	[フ]トコ[ロ]ガ。	[フ]トコロ[カ]ラ。	[フ]トコロカ[ラ]モ。
唇 A	[ク]チ[ビ]ル。	[ク]チビ[ル]ガ。	[ク]チビル[カ]ラ。	[ク]チビルカ[ラ]モ。
川上 A	[カ]ワ[カ]ミ。	[カ]ワカ[ミ]ガ。	[カ]ワカミ[カ]ラ。	[カ]ワカミカ[ラ]モ。
色紙 A	[イ]ロ[ガ]ミ。	[イ]ロガ[ミ]ガ。	[イ]ロガミ[カ]ラ。	[イ]ロガミカ[ラ]モ。
雷 A	[カ]ミ[ナ]リ。	[カ]ミナ[リ]ガ。	[カ]ミナリ[カ]ラ。	[カ]ミナリカ[ラ]モ。
米櫃 A	[コ]メ[ビ]ツ。	[コ]メビ[ツ]ガ。	[コ]メビツ[カ]ラ。	[コ]メビツカ[ラ]モ。
簪 C	[カン]ザシ。	[カン]ザシガ。	[カン]ザシカラ。	[カン]ザシカラモ。
針金 C	[ハリ]ガネ。	[ハリ]ガネガ。	[ハリ]ガネカラ。	[ハリ]ガネカラモ。
麦藁 C	[ムギ]ワラ。	[ムギ]ワラガ。	[ムギ]ワラカラ。	[ムギ]ワラカラモ。
味噌汁 A	[ミ]ソ[シ]ル。	[ミ]ソシ[ル]ガ。	[ミ]ソシル[カ]ラ。	[ミ]ソシルカ[ラ]モ。
雨降り A	[ア]メ[フ]リ。	[ア]メフ[リ]ガ。	[ア]メフリ[カ]ラ。	[ア]メフリカ[ラ]モ。
前掛け C	[マエ]カケ。	[マエ]カケガ。	[マエ]カケカラ。	[マエ]カケカラモ。
鶯 B	ウ[グイ]ス。	ウ[グイ]スガ。	ウ[グイ]スカラ。	ウ[グイ]スカラモ。
撫子 B	ナ[デ]シコ。	ナ[デシ]コガ。	ナ[デシ]コカラ。	ナ[デシ]コカラモ。
風呂敷 C	ふ[ロシ]キ。	ふ[ロシ]キガ。	ふ[ロシ]キカラ。	ふ[ロシ]キカラモ。

型	十二	十マデ	十マデモ
餅米	モ[チ]ゴメニ。	モ[チ]ゴメ[マ]デ。	モ[チ]ゴメマ[デ]モ。
友達	[ト]モダ[チ]ニ。	[ト]モダチ[マ]デ。	[ト]モダチマ[デ]モ。
懐	[フ]トコロニ。	[フ]トコロ[マ]デ。	[フ]トコロマ[デ]モ。
唇	[ク]チビ[ル]ニ。	[ク]チビル[マ]デ。	[ク]チビルマ[デ]モ。
川上	[カ]ワカ[ミ]ニ。	[カ]ワカミ[マ]デ。	[カ]ワカミマ[デ]モ。
色紙	[イ]ロガ[ミ]ニ。	[イ]ロガミ[マ]デ。	[イ]ロガミマ[デ]モ。
雷	[カ]ミナ[リ]ニ。	[カ]ミナリ[マ]デ。	[カ]ミナリマ[デ]モ。
米櫃	[コ]メビ[ツ]ニ。	[コ]メビツ[マ]デ。	[コ]メビツマ[デ]モ。
簪	[カン]ザシニ。	[カン]ザシマデ。	[カン]ザシマデモ。
針金	[ハリ]ガネニ。	[ハリ]ガネマデ。	[ハリ]ガネマデモ。
麦藁	[ムギ]ワラニ。	[ムギ]ワラマデ。	[ムギ]ワラマデモ。
味噌汁	[ミ]ソシ[ル]ニ。	[ミ]ソシル[マ]デ。	[ミ]ソシルマ[デ]モ。
雨降り	[ア]メフ[リ]ニ。	[ア]メフリ[マ]デ。	[ア]メフリマ[デ]モ。
前掛け	[マエ]カケニ。	[マエ]カケマデ。	[マエ]カケマデモ。
鶯	ウ[グイス]ニ。	ウ[グイスマ]デ。	ウ[グイスマデ]モ。
撫子	ナ[デシコ]ニ。	ナ[デシコマ]デ。	ナ[デシコマデ]モ。
風呂敷	ふ[ロシ]キニ。	ふ[ロシ]キマデ。	ふ[ロシ]キマデモ。

(4) 1 拍名詞

類・型	単独形	+ガ	+ニ	+カラ	+カラモ	+マデモ
蚊	[カー]]。	[カ]ガ	[カ]ニ。	[カ]カラ。	カ[カラ]モ。	カ[マデ]モ。
戸	[トー]]。	[ト]ガ。	[ト]ニ。	ト[カ]ラ。	ト[カラ]モ。	ト[マデ]モ。
血	[チー]]。	[チ]ガ。	[チ]ニ。	チ[カ]ラ。	チ[カラ]モ。	チ[マデ]モ。
葉	[ハー]]。	[ハ]ガ。	[ハ]ニ。	ハ[カ]ラ。	ハ[カラ]モ。	ハ[マデ]モ。
日	[ヒー]]。	[ヒ]ガ。	[ヒ]ニ。	[ヒ]カラ。	ヒ[カラ]モ。	ヒ[マデ]モ。
手	[テー]]。	[テ]ガ]]。	[テ]ニ]]。	[テ]カラ。	[テカ]ラモ。	[テマ]デモ。
目	[メー]]。	[メ]ガ]]。	[メ]ニ]]。	[メ]カラ。	[メカ]ラモ。	[メ]マデモ。
火	[ヒー]]。	[ヒ]ガ]]。	[ヒ]ニ]]。	[ヒ]カラ。	[ヒカ]ラモ。	[ヒマ]デモ。

(5) 2 拍名詞最小対

類・型	単独形	+ガ	+ニ	+カラ	+マデ
飴	ア[メ]。	[ア]メ[ガ]	[ア]メ[ニ]。	[ア]メ[カ]ラ。	[ア]メ[マ]デ。
雨	[アメ]]。	[ア]メガ。	[ア]メニ。	[ア]メカラ。	[ア]メマデ。
釜	カ[マ]。	[カ]マ[ガ]。	[カ]マ[ニ]。	[カ]マ[カ]ラ。	[カ]マ[マ]デ。
鎌	[カマ]]。	[カ]マガ。	[カ]マニ。	[カ]マカラ。	[カ]ママデ。
端	ハ[シ]。	[ハ]し[ガ]。	[ハ]し[ニ]。	[ハ]し[カ]ラ。	[ハ]し[マ]デ。
橋	[ハシ]。	ハ[シ]ガ。	ハ[シ]ニ。	ハ[シ]カラ。	ハ[シ]マデ。
箸	[ハシ]]。	[ハ]しガ。	[ハ]しニ。	[ハ]しカラ。	[ハ]しマデ。
紙	[カ]ミ。	カ[ミ]ガ。	カ[ミ]ニ。	カ[ミ]カラ。	カ[ミ]マデ。
髪	[カ]ミ。	カ[ミ]ガ	カ[ミ]ニ。	カ[ミ]カラ。	カ[ミ]マデ。
霧	キ[リ]。	[キ]リ[ガ]。	[キ]リ[ニ]。	[キ]リ[カ]ラ。	[キ]リ[マ]デ。
錐	[キリ]]。	[キ]リガ。	[キ]リニ。	き[リ]カラ。	[キ]リマデ。

隠岐の島都万方言における動詞の活用 —活用形の整理と用例の提示—

平子 達也*

1 はじめに

本稿は、隠岐の島都万集落（旧隠岐郡都万村）の方言（以下「都万方言」とする）における動詞の活用について、今後の詳細な分析に向けて、これまでに得られたデータを整理するとともに、各活用形の用例を提示するものである。用例は、2016年11月に行われた国立国語研究所の合同調査（以下「本調査」とする）とその後の筆者自身の調査で得られたものである。

本稿では、用例を示す際、カタカナ表記を用いる。「セ」「ゼ」で表記するものは、しばしばその子音が口蓋化し [se] [ze] で現れる。ただし、口蓋化の度合いには揺れがあり、[se] [ze] で現れることもある。「ケァー」「メァー」などと表記するものは、概略 [kɛ: ~ kæ:] [mɛ: ~ mæ:] という音声を表わす。この[ɛ ~ æ]の母音は長母音でしか現れず、[e]と対立する。なお、理解の便の為に（1）のような音素表記も一部用いる。この音素表記は、筆者による暫定的なものである。

（1）音素表記

母音 i[i ~ i̯], u[u], e, o[o], a, ɛ[ɛ ~ æ]

子音 p, b; t, d; c[ts ~ tɕ], z[dz ~ dʒ]; s[s ~ ɕ]; k, g; h[h ~ ç ~ φ]; m, n; r, w, j; N（撥音）; Q（促音）

2 本稿における用語法

本稿では、種々の用語法などについて小西（2017）に従う。小西（2017）の方針は、「高度に専門的な言語学・日本語学の知識を要せずとも理解・使用できるような記述法を目指す」というものである（小西 2017: 1）。この方針は、調査協力者など一般の方々をも対象にするという本報告書の性質に鑑みたとき、本稿を執筆する際にも取るべき方針であると考えている。

2. 1 活用と活用形

活用と活用形とを、以下のように定義する（小西 2017: 1）。

活用 述語が統語的機能や文法的意味に応じて形を変えること。語彙的意味を担う単語それ自体が語形変化をする場合のほか、単語に他の語（付属語や補助用言）が接続する場合を含む。

活用形 一つの語彙的意味と、一つ以上の文法的意味を表わし、自立する形

* 駒澤大学文学部 講師

2. 2 自立語・付属語と語幹・接辞

自立語と付属語を以下のように規定する（同）。

自立語 単独で自立しうる最小の形式。名詞・動詞・形容詞などの品詞が含まれる。共通語では名詞「ヤマ（山）」、「ガクセー（学生）」、動詞「カク（書く）」「ミル（見る）」、形容詞「アカイ（赤い）」「ナイ（無い）」など。

付属語 単独では自立して用いにくいだが、自立形式に付いて、文中での統語的機能・文法的意味を示す語。語形変化のない「助詞」と語形変化のある「助動詞」に分けられる。共通語では、「ヤマ（山）ガ」の「ガ」、「ヤマダ。」の「ダ」、「カク（書）ダロー。」の「ダロー」など。

なお、「付属語」は、学校文法におけるそれよりも狭義のもので、複数の品詞やテンス（時制）にわたる自立形式に付くことを必要条件とする。例えば動詞「書く」の否定形「カカナイ」の「ナイ」は、「カカ」が非自立形式である故に「付属語」とは認められない。この「ナイ」のように、語を構成する文法的な形態素を**接辞**と呼ぶ（小西 2017: 2）。また、音素を単位として抽出できる、活用形の不変化部分を**語幹**と呼ぶこととする（小西 2017: 6）。例えば、共通語の「書く」は{kak}、「見る」は{mi}、「来る」は{k}、「する」は{s}を語幹とする。

3 調査票について

本調査及び筆者自身の調査で用いた調査票（以下、本調査票）は、本土方言の用言（動詞・形容詞・形容名詞＝学校文法で言う「形容動詞」）の活用（特に動詞の活用）を、ある程度体系的に把握するために、必要最低限と思われるものを調べることを目的として、筆者が作成したものである¹。活用の型、および、主要な活用形とそこに現れる形態音韻論的現象の把握・記述に重点を置くものであり、意味と形式の関わり、それぞれの活用形の用法などについての調査を目的としたものではない。

調査項目は、以下のカテゴリー1～4に分けられる。現段階ではカテゴリー1とカテゴリー2の一部までしか調査を終えられていない。

カテゴリー1

古典語の各動詞活用型1語以上について、基本的な活用形をそろえること、つまり「形式の洗い出し」を優先する。なお、調査項目に含めた活用形の種類は、以下に示した小西（2017: 2-4）にあるものの中から「尊敬」など一部を省いたものである。

終止するタイプ [終止類] それ自体で述語として文を終止する形。

（断定非過去・断定過去・命令・禁止・意志・推量）

接続するタイプ [接続類] 連体・連用修飾の節・句をつくる形。

¹ 調査票を作成するにあたり、友定賢治先生、小西いずみ先生に多大なるご助言をいただいた。記して感謝申し上げます。

(連体非過去・連体過去・中止・仮定)

派生語をつくるタイプ [派生類] もとの語・述語句に文法的意味を付し、活用する述語句、または、他の品詞に属する語を新たに派生する形。

(否定・とりたて否定・丁寧・使役・受身・可能・尊敬・継続・希望・のだ)

カテゴリー2

基本的な子音語幹動詞について、タ形／テ形に見られる音便形式などを中心とした形態音韻交替現象を見る。カテゴリー2は汎方言的にある程度使える調査項目だと考えているが、方言によっては一部修正・追加が必要かと思われる。

カテゴリー3

当該方言において標準語とは異なる活用をするものなどを中心として項目を決定した。方言毎に変更を加える必要がある。

カテゴリー4

各方言で特徴的な形が出るとも思われないが、活用体系を把握するうえで、調査しておけば、記述としては役立つであろう項目。例えば、丁寧形と動詞否定形（母音語幹動詞）など。

3 動詞活用形の整理

ここまでの調査で得られたデータを整理し、表の形で示す。括弧で示したのは、予測されるが現段階で筆者が、少なくともそのままの形では確認をしていない形式である。

表1 動詞活用形

		書く	死ぬ	開ける／起きる	来る	する
終 止 類	断定非過去	カク	シノル	アケル／オキル	クル	スル
	断定過去	クァータ [ke:ta]	シンダ	アケタ／オキタ	キタ	シタ
	命令	カケ	シネ	アケー／オキー	コイ	セー
	禁止	カクナ	シノルナ	アケルナ／オキルナ	クルナ	スルナ
	意志	カカー	シナー	アキョー／オキョー	コー	ショー
	推量	カカー カクチャラー	シナー シノルチャラー	アキョー／オキョー アケルチャラー ／オキルチャラー	(コー) クルチャラー	ショー スルチャラー
接 続 類	連体非過去	カク	シノー	アケル／オキル	クー	スル
	中止	クァーテ [ke:te]	シンデ	アケテ／オキテ	キテ	シテ
	仮定	カキヤ	シニヤ	アケリヤ／オキリヤ	クリヤ	スリヤ
派 生 類	否定	カカノ	シナノ	アケノ／オキノ	コノ	(セノ)
		カカン	シナン	アケン／オキン	コン	セン
	とりたて否定	カカセノ	シニヤセノ	(アケリヤセン)	(クリヤセノ)	(スリヤノ)

	カカセン	シニャセン	/オキリャセン	クリャセン	スリャセン
使役	カカスル	シナセル	(アケサスル)	キサセル	サスル
受身	(カカレル)	シナレル	/オキサスル (アケラレル)	クラエル	(スラレル)
可能	カケル	シナレル	/オキラレル アケラエル	クラエル	—
継続	ケァーチョル	シンヂョル	/オキラエル アケチョル	キチョル	シチョル
	[kɛ:teoru]		/オキチョル		

規則的な活用をするものとして、子音語幹動詞と母音語幹動詞とがある。子音語幹動詞は「書く」「居る」など学校文法で言う五段活用動詞に相当し、語幹が子音で終わる。母音語幹動詞は「見る」「起きる」「開ける」など（口語文法の）上一段・下一段活用動詞に相当するもので、語幹が母音で終わる。その母音は、i（上一段）またはe（下一段）である。

子音語幹動詞の語幹末子音には、k（カ行）、g（ガ行）、s（サ行）、t（タ行）、b（バ行）、m（マ行）、r（ラ行）、w（ワ行）がある。語例は、表2を参照。

子音語幹動詞のうち、語幹末がn（ナ行）の「シノル（シヌルとも）」（死ぬ）はやや特殊である。「書く」などを子音語幹動詞一般型とするのに対し、「シノル」を同特殊型とする。「シノル」は、否定形シナン、仮定形シニャなど、一般型と同じ活用形となる部分も多いが、その中であって断定非過去形・連体非過去形シノルや禁止のシノルナは例外的な形である。これは、古典語のナ行変格活用の特徴を引き継ぐ形式であると考えられる。未調査だが、「イノル」（去）も子音語幹特殊型として存在する可能性はある。

また、不規則な活用をする動詞として、「クル」（来る）と「スル」（為る）がある。

表2 子音語幹動詞の音便形

語幹末子音	語例	活用形例(過去形)	作り方
k	書 kaku	ケァータ	kをiにする。さらに母音が融合する。但し「行く」ikuは例外（本文参照）。
g	漕 kogu	ケータ	gをiにする。さらに母音が融合する。-タが-ダになる。
s	出 dasu	デアータ	sをiにする。さらに母音が融合する。
t/c	立 tacu	タッタ	t/cをQ（促音）にする。
n	死 sinoru	シンダ	nをN（撥音）にする。-タが-ダになる。
b	飛 tobu	トンダ	bをN（撥音）にする。-タが-ダになる。
m	飲 nomu	ノンダ	mをN（撥音）にする。-タが-ダになる。
r	切 kiru	キッタ	rをQ（促音）にする。
w/∅	買 ka(w)u	カッタ	wをQ（促音）にする。

4 各活用形の用例

以下、各活用形の用例の一部を提示し、必要がある部分には若干の説明を加える。当該の形式の部分には下線を付す。また、上記の表中に組み入れなかった諸形式についても簡単に触れる。

4. 1 断定非過去

- (2) ワタシモ カクワ 「私も書くよ」
(3) ノキーデ マド アケルワ 「暑いから窓を開けるよ」
(4) バイキンワ ネットデ {シノル/シヌル} 「ばい菌は熱で死ぬ」

しばしば「ダ」「ワ(ナ)」のような付属語が後続する。「ル」で終わる断定非過去形に付属語が後続する際には、[kiruda ~ kirda ~ kilda] のように実現し、[kidda]/kiQda/のように実現しない。[kidda]/kiQda/のような促音形は、話者によっては許容されないこともある。

4. 2 断定過去

- (5) キョネンモ ケアータ 「去年も(年賀状を)書いた」
(6) ムカシワ ヨー フネ ケーダ 「昔はよく船を漕いだ」
(7) ゴキブリ タテアータラ チキ シンダ 「ごきぶりを叩いたら、すぐに死んだ」
(8) アッチャ マー アケタワ 「あっち(の窓)はもう開けたよ」
(9) キノーモ イキタ 「昨日も(神社に)行った」

子音語幹動詞は、この形式の時、音便形をとる(表2)。注意したいのは、標準語では同じカ行イ音便となる「書く」「漕ぐ」でも、前者は「ケアータ」[ke:ta ~ kæ:ta]、後者は「ケーダ」[ke:da]と、その音便形における母音が異なることである。これは、前者が ai という母音連続に由来するのに対し、後者は oi という母音連続に由来することによるものと考えられる。

また、「行く」は「書く」と同じ k 語幹動詞ではあるが、音便形をとらず「イキタ」となる。このような「行く」の特殊な活用は、出雲方言とも通ずるところである。

4. 3 命令

- (10) マズ センセニ ケアーテ ソイカラ トモダチニ カケ
「まず先生に(手紙を)書いて、それから友達に書け」
(11) ワシガ モドッテ クルマデ ココニ {オйна/オイ}
「私が帰ってくるまで、ここにいる」
(12) ソノ マド アケーナ 「その窓を開ける」
(13) シゴト セーヨ 「仕事をしろよ」

「ナ」「ヨ」などの終助詞が続くことがある。r 語幹動詞「オル」(居る)の命令形は「オレ」ではなく「オイ」であるのは注意をひく(11)。標準語の指示詞「それ」に対応する形式が、この方言で「ソイ」であることと並行的な現象とも考えられる。ただし、「乗れ」が「ノイ」になるかどうかなどは未確認。あるいは「オル」の命令形に限られた現象かもしれない。

4. 4 禁止

- (14) ソゲナ トケ カクナ 「そんなところに書くな」
(15) マダ シノルナヨ 「まだ死ぬな」
(16) アケルナヨー 「(その窓は)開けるなよ」

(17) シゴト スルナ 「仕事をするな」

表面的には断定非過去形に「ナ」がついた形である。(15)「シノル」や(17)「スル」のように断定非過去形が「ル」で終わる動詞の場合、その命令形は、「シノンナ」「スンナ」のような「ル」が撥音と交替した形になることはなく、[suruna ~ surna ~ sulna]という発音で実現する。4. 1で指摘した、断定非過去形に付属語が続いた場合の現象とも関連することであろう。

4. 5 意志（・勧誘）

- (18) ワシモ カカーカナ 「私も書こうかな」
 (19) イッショニ カカーヤ 「一緒に書こうよ」
 (20) アキョーカイ 「(こっちの窓は私が) 開けようか」
 (21) アキョーヤ 「(一緒に) 開けよう」
 (22) ソロソロ シゴト ショー (カナ) 「そろそろ仕事をしよう (かな)」
 (23) イッショニ シゴト ショーヤノー 「一緒に仕事をしようよ」
 (24) マタ コーヤ 「また (一緒に) 来ようよ」

意志を表す場合には、意志形がそのまま用いられるか、「カナ」「カイ」などの終助詞が続く。意志形と同形ではあるが、「ヤ(ノー)」という終助詞が続くと勧誘の意味となる。

4. 6 推量

- (24) ラントノ バーサンワ コトシモ ネンガヂョー {カカーワナ/カクヂャラーナー}
 「うちのおばあさんは、今年も年賀状を書くだろう」
 (25) キタノ マドワ ハナコガ {アキョーワナ/アケルヂャラー}
 「北の窓は花子が開けるだろう」
 (26) マー ソロソロ クルヂャラーノ 「もうそろそろ来るだろう」

意志形と同じ形に「ワナ」という終助詞が続くと推量の意味になる。意志形と同形のものが単独でも推量の意味となるかは未確認。また、断定非過去の形に「ヂャラー」が続いても推量の意味になる。このとき、断定非過去形が「ル」で終わる動詞は [akerudzara: ~ akerdzara:]となり、「アケッヂャラー」のように「ル」が促音と交替した形にはならない。4. 1や4. 4も参照。

4. 7 連体非過去

- (27) シノル トキワ イッショニ シナーヤノ 「死ぬときは一緒に死のう」
 (28) ココノ カギ アケル ヤツガ ミエンダガノ 「ここの鍵をあけるものがない」
 (29) シゴト スル トキニヤ テレビ ケシャ エーダガノ
 「仕事をするときはテレビを消せばよい」

4. 8 中止

- (30) マズ センセニ ケアーテ ソイカラ トモダチニ カケ
 「まず先生に(手紙を)書いて、それから友達に書け」(= 10)

- (31) マド アケテ イレカエヨーヤ 「窓を開けて（空気を）入れ換えよう」
(32) コッチ キテ イッショニ クワヤノ 「こっちに来て、一緒に食べよう」

子音語幹動詞において、音便形が生じること、断定過去の場合と同じである。

4.9 仮定

- (33) コイツニ カキヤ イーワ 「これに書けば良いよ」
(34) ココ アケリヤ スズシカラージュ 「ここを開ければ涼しいだろう」
(35) コッチエ クリヤ イーモノガ ミラレルケ
「こっちへ来ればいいものが見られるよ」

「書いたら」に相当する「ケアータラ」などの形式が用いられる場合もある。

4.10 否定

- (36) キョーワ {カカノゾ/カカンゾ} 「今日は書かないぞ」
(37) コノ マド アンマリ アケノワ 「この窓はあまり開けない」
(38) マダ {コノダガノ/コンダガノ} 「まだ来ないね」

「カカン」など「ン」形も頻繁に使われるが、「カカノ」など「ノ」形が伝統的な形式だという意識が話者にもあるようである。なお、否定に関わる他の表現には、以下のようなものがあった。

- (39) カカザッターワ 「(去年は年賀状を) 書かなかった」(否定過去)
(40) アイツ マタ {カキメアーナー/カカンヂャラー}
「あいつはまた書かないだろう」(否定推量)
(41) シマ カカニヤ カクトキ アリヤセノワ
「今書かないと、書く時はないよ」(否定条件)
(42) アノ ヒトニ カカーデモ… 「あの人には書かなくても・・・」(否定逆接)
(43) ラントノ コワ ナカナカ ハヤ オキーデ コマッコルガノ
「うちの子はなかなか早く起きなくて困る」(否定中止)
(44) シゴト {シメアー/シメアーヂャラー}
「(なかなか言うこと聞かないから) 仕事をしないだろう」(否定推量)
(45) {コンヂャラー/コノヂャラー/キメアーワノ}
「(今日はおそらく) 来ないだろう」(否定推量)

4.11 とりたて否定

- (46) アイツワ ナンボ イッタテテ テガミ カカセノ
「あいつはどれだけ言っても手紙を書かない」
(47) ナカナカ オキラセノ 「(大声を出しても) なかなか起きはしない」
(48) フトツツダエ クリヤセン 「(お客さんが) 全然来はしない」

上の否定形とは別に、「カカセノ／カカセン」など形の上では「とりたて否定」にあたる形式がある。特に事柄の成立について強く否定する際に頻繁に見られるが、一般の否定形と交替可能な場合もある。

また、必ずしもこれらの形と交替可能なわけではないが、形の面では意志形に「ツケ」という形式がついた形が強い否定の意味で使われることがある。この形は、誰かに「～せよ」と命令されたのに対して、「～するものか！」と反論するような場面で使うことが多いようである。

- (49) イマカラ ニョーツケ 「今から(なんて)寝るものか！」
 (50) ゼニヤ ナンヤ {アラーツケナ／アラセノワ}
 「(そんなところを探しても) お金なんてありはしない！」

4. 1.2 使役

- (51) ドガゾシテ アイツニ カカスルケ 「どうにかしてあいつに(手紙を)書かせる」
 (52) イヌオ {シナセル／シナス} 「犬を死なせる」
 (53) スキナ トキニ オキサスル 「(子どもじゃないんだから)好きな時に起きさせる」
 (54) スキナヤーニ キサセルノワ スカンダガノ 「好きなように来させるのは嫌だよ」
 (55) (宿題を) サスルノモ ホント コタエルヂヤ
 「(子どもに宿題を) させるのも本当に苦勞する」

子音語幹動詞には-*asuru*、母音語幹動詞には-*sasuru* という接辞が接続すると分析できそうだが、「ネサセル(寝させる)」という形も現れた。また、(52)の「シナス」も問題である。この「シナス」は古典語の助動詞「ス」「サス」が下二段活用であったことの名残である可能性もあるが、十分な調査はできていない。また、「来る」の使役形「キサセル」は、後述の受身形とともに注意をひく形式である。

4. 1.3 受身

- (56) コゲナ コメアー ギデ カカレテモ コマルワ
 「こんな小さな字で書かれても困る」
 (57) カギ シメタニ ドロボーニ アケラエタ 「鍵を閉めたのに泥棒に開けられた」
 (58) カッテニ クラレテモ コマルワ 「勝手に来られても困る」
 (59) サキニ スラエタケ・・・ 「先に(仕事を)されたので(私のすることがない)」

接辞部分の-*r*が脱落した「アケラエタ」のような形もあれば、脱落していない「カカレテ」のような形もある。今のところ、両者は音声的な揺れと見ている。やはり、ここでも目立つのは「来る」の受身形「クラレテ」である。標準語では、「来る」の使役形と受身形とで、語幹 *k-* に続く母音は同じである (*k-o-saseru* と *k-o-rareru*)。その一方で、都万方言では使役形「キサセル」に対して受身形「クラレ(ル)」と、語幹 *k-* に続く母音が異なるというのは、興味深い。島前も含めた隠岐の他方言との比較などが必要であろう。

4. 14 可能

- (60) アノコワ カケルワノ 「あの子は(難しい字を)書ける」
(61) コノ マドワ ワケナシニ アケラエルワ 「この窓は簡単に開けられる」
(62) アシタモ ゼカンガ アルケ クラエルワナ 「明日も時間があるから来られる」

受身の場合と同じ形式が使われ、やはり、接辞部分の-rが脱落した形も脱落していない形もある。子音語幹動詞の場合、可能動詞形と思しき「カケル」が使われるが、「カカレル」という形式も確認された。

なお、今のところ、潜在可能と能力可能の区別などは確認されていない。

4. 15 継続

- (63) イマ バーサンニ テガミ ケァーチョルトコダケ 「今おばーさんに手紙を書いているところだ」
(64) マド アケチョルトコダ 「窓を開けているところだ」
(65) マー キチョルチョワ 「もう来ているだろう」

結果継続・動作継続の区別などは確認されていない。子音語幹動詞は音便形をとる。

5 おわりに

分析も調査もなお不十分である。また、筆者の個人的な理由により、本稿を執筆するにあたって十分にデータを精査する時間がとられなかったことは慚愧に堪えない。詳細かつ網羅的な調査を行った末に、形容詞や形容名詞なども含めた、本方言の形態(音韻)論に関する本格的な記述を提示したいと考えている。本稿を礎とし、今後のさらなる調査・研究を期するものである。

参考文献

- 小西いずみ(2017)「この報告書における記述の枠組み」『全国方言文法辞典資料集(3)活用体系(2)』pp. 1-12

隠岐の島方言データ集

隠岐の島方言 基礎語彙集

分類	語	五箇	西郷	都万
人体	頭(あたま)	アタ[マ ([アタ[マ]が)	ア[タ]マ	[ア]タ[マ
人体	髪の毛(かみのけ)	カ[ミ]ゲ (カ[ミ]が長い)	カ[ミ]ノケ	[カ]ミゲ
人体	旋毛(つむじ)	ギ]リギリ	ツ[ム]ジ / ギリギリ (「ギリギリ[が])	NR
人体	雲脂(ふけ)	フ]ケー (「フ[ケ]が出る」まれに「フ」が無声化)	フ]ケ	[フ]ケ
人体	白髪(しらが)	シ]ラ	シラガ	[シ]ラ[ガ
人体	目(め)	メ (メ]に)	メ	[メ]ー
人体	眉(まゆ)	マ[ユ]ゲ	マ]ユ	[マ]ユ
人体	額(ひたい)	ヒ[タイ	ヒ[タ]イ	フ[テ]ー
人体	鼻(はな)	ハ[ナ (「ハナ[が痛い」(徐々に上がる))	ハ[ナ	ハ[ナ
人体	鼻血(はなぢ)	ハナ[チ (破擦と摩擦でゆれ)	ハ[ナ]ジ	[ハ]ナ[ジ
人体	耳(みみ)	ミ]ミ	ミ]ミ	[ミ]ー
人体	口(くち)	ク.[チ (クが無声化)	ク[チ	ク[チ
人体	唇(くちびる)	クチ[ビル	ク[チビル	ク[チ]ビル
人体	舌(した)	ベ]ロ / シ]タ	シ]タ	[シ]タ/[ベ]ロ
人体	歯(は)	ハ (ハ]がハシル (歯が痛い)。「ハ]ー」も)	ハ	[ハ]ー
人体	歯茎(はぐき)	ハ]グキ	ハ[グ]キ	[ハ]グキ
人体	口蓋(あご)	ア]ゴ (ア[ゴ]が)	ア]ゴ	[ア]ゴ
人体	髭(ひげ)	ヒゲ (ヒゲ]も)	ヒ[ゲ	フ[ゲ
人体	毛(け)	ケ (ケ]がナガになったなあ(長くなったなあ)。「ケ]ー」も)	ケ	ケ

[は音調の上がり目,] は音調の下がり目, . は母音が無声化していること, [古]は古い語形, [新]は新しい語形, NRは「語形なし」を表す。

分類	語	五箇	西郷	都万
人体	面(かお)	カ[オ]	カ[オ]	カ[ウォ]
人体	首(くび)	ク[ビ]	ク[ビ]	ク[ビ]
人体	肩(かた)	カ]タ	カ]タ	[カ]タ
人体	胸(むね)	ム[ネ (ム[ネ]が。 「ム[ネ]-」も)	ム]ネ	[ム]ネ
人体	肋骨(あばらぼ ね)	ア]バラ / ア]バラボ ネ	ア[バラボネ	ア[バ]ラボネ
人体	乳(ち・ちち)	ム[ネ]	チ[チ]	[メ]メ
人体	腹(はら)	ハ[ラ~ハ]ラ	ハ]ラ	[ハ]ラ
人体	背中(せなか)	セナ[カ]	セ[ナ]カ	[シエ]ナ[カ/[シエ]ナ
人体	脇の下(わきのし た)	ワキ[ノ]シタ	ワ[キノ]シタ	[ワ]キノシ]タ
人体	肝(きも)	キ]モ	キ]モ	[キ]モ
人体	臍(へそ)	ヘ[ソ]	ヘ[ソ]	ヘ[ソ]
人体	腰(こし)	コ[シ]	コ[シ]	[コ]シ
人体	尻(しり)	シ]リ	シ]リ	[シ]リ
人体	肛門(こうもん)	[コー]モ[ン]	コ[ー]モン	[コー]モン
人体	手(て)	テ]-	テ	テ
人体	腕(うで・どこを さすか)	ウ]デ	ウ]デ	[ウ]デ
人体	肘(ひじ)	ヒ]ジ	ヒ]ジ	[ヒ]ジ
人体	力(ちから)	チカ[ラ]	チ[カ]ラ	[チ]カ[ラ]
人体	拳(こぶし)	コ]ブ[シ]	コ[ブ]シ	コ[ブ]シ
人体	筋(すじ)	ス]ジ	ス]ジ	[ス]ジ
人体	指(ゆび)	ユ]ビ	ユ]ビ	[エ]ビ
人体	爪(つめ)	ツ]メ	ツ]メ	[ツ]メ
人体	足(あし・どこを さすか)	ア]シ	ア]シ	[ア]シ
人体	腿(もも)	モ]モタ	モ[モ]	[モ]モ
人体	股(また)	マ]タ (マ]タ[グ]ラ)	マ]タ	[マ]タ
人体	膝(ひざ)	ヒ[ザ (ヒ]ザ[も)	ヒ[ザ]	ヒ[ザ]
人体	踝(くるぶし)	クル]ブシ	クル[ル]ブシ	クル[ル]ブ[シ]
人体	脛(すね)	ス[ネ / スネ[カ]	ス]ネ	[ス]ネ
人体	脹ら脛(ふくらは ぎ)	フク[ラ]ハギ	フク[ラ]ハギ	[コ]ブラ

分類	語	五箇	西郷	都万
人体	踵(かかと)	カカ[ト	カ[カ]ト	[シ]ルクノカ[ガ]ト
人体	体(からだ)	カ]ラ[ダ	カ[ラ]ダ	ゴ[テ]ー
人体	背丈(せたけ)	セ]イ / セタケ	セ[タ]ケ	[シエ]タ[ケ
人体	骨(ほね)	ホ]ネ	ホ]ネ	[ホ]ネ
人体	皮(かわ)	カ]ワ	カ]ワ	[カ]ワ
人体	黒子(ほくろ)	ホ[ク]ロ	ホ[ク]ロ	ホ[ク]ロ
人体	涙(なみだ)	ナ[ミ]ダ	ナ[ミ]ダ	[ナ]ミ[ダ
人体	声(こえ)	コ[エ	コ[エ	[コ]エ
人体	息(いき)	イ]キ	イ[キ	[エ]キ
人体	咳(せき)	セ]キ	セ[キ	[シエ]キ
人体	唾(つば)	ツ]バ	ツ]バ	[ツ]バ
人体	欠伸(あくび)	ア]クビ	ア[クビ	[ア]ク[ビ
人体	涎(よだれ)	ヨ]ダ[レ	ヨ[ダ]レ	[ヨ]ダ[レ
人体	屁(へ)	へ~へ]ー	へ	[ト]チ[ベ (音がする屁) / [ポ]ン (音がする屁) / ス[カ]ベ (音がしない屁)
人体	糞(くそ)	ク]ソ	ク]ソ	[ウン][コノク]ソ
人体	尿(によう)	シヨ]ベ	ニヨ]ー	シツ[コ
人体	お出来(おでき)	デ]キモ[ノ (デ]キモ[ノ]が)	オ[デ]キ / デ[キモン	[デ]モ[ノ
人体	たん瘤(たんこぶ)	コ]ブ	タン[コ]ブ	[タ]ンコブ
人体	汗(あせ)	ア]セ	ア[セ	[ア]シエ
人体	垢(あか)	ア]カ	ア]カ	[ア]カ
人体	怪我(けが)	ケ]ガ	ケ]ガ	[ケ]ガ
人体	病氣(びょうき)	ビョ]ーキ	ビョ[ーキ	[ア]ンベアーガ [ワ]リ
人体	血(ち)	チ (チ[が]出た)	チ	チ
人体	傷(きず)	キ]ズ	キ]ズ	キ]ズ
人体	薬(くすり)	クス[リ	ク[ス]リ	ク[ス]リ
人体	灸(きゅう)	キユ]ー	キユ]ー	[ヤ]ト
人体	命(いのち)	イ[ノ]チ	イ]ノチ	イ[ノ]チ
人体	面(つら)	カ[オ	ツ[ラ	[カ]バチ
人体	膿(のう)	ウ]ニ	ノ]ー / ウ]ミ	[ウ]ミ

[は音調の上がり目,] は音調の下がり目, . は母音が無声化していること, [古]は古い語形, [新]は新しい語形, NRは「語形なし」を表す。

分類	語	五箇	西郷	都万
人体	鞆丸(こうがん)	チン]ポ	コ[-ガン	NR
植物	木(き)	キー (キ]オ切った)	キ]- (長音は随意的)	キ
植物	葉(は)	ハ / ハッ]パ	ハ]- (長音は随意的)	ハ/[ハッ]パ
植物	枝(えだ)	エ[ダ	エ[ダ	NR
植物	梢(こずえ)	NR	コ[ズエ	
植物	実(み)	ミ	ミ	ミ
植物	根(ね)	ネ	ネ	ネ
植物	草(くさ)	ク]サ	ク]サ	[ク]サ
植物	花(はな)	ハ]ナ	ハ]ナ	[ハ]ナ
植物	種(たね)	タ]ネ~タネ	タ]ネ	[タ]ネ
植物	苗(なえ)	ナ]イ~ナイ	ナ[エ	[ナ]エ
植物	稲(いね)	イ]ネ	イ]ネ	[イ]ネ
植物	穂(ほ)	ホ	ホ	ホ
植物	米(こめ)	コ]メ	コ]メ	[コ]メ
植物	粃(もみ)	モ[ミ	モ[ミ	[モ]ミ
植物	麦(むぎ)	ム]ギ	ム]ギ	[ム]ギ
植物	藁(わら)	ワ]ラ (ワ]ラ[も)	ワ]ラ	[ワ]ラ
道具	麦わら(むぎわ ら)	ム]ギワラ (ム]ギワラ [も)	ム]ギワラ	ム]ギ]ワラ
植物	茅(かや)	カ]ヤ	カ]ヤ	[カ]ヤ
植物	粟(あわ)	ア]ワ (ア]ワ(泡))	ア]ワ	[ア]ワ
植物	稗(ひえ)	ヘ[イ	ヒ[エ	[ヒ]エ
植物	芋(いも)	イ]モ	イ]モ	[イ]モ
植物	甘藷(さつまい も)	サツ]マイモ	サ]ツマイモ	サ]ツ]マイモ
植物	豆(まめ)	マ]メ	マ]メ	[マ]メ
植物	胡瓜(きゅうり)	キュ]ウリ	キュ]-リ	[キュ]-リ
植物	蓬(よもぎ)	ヨ]モ[ギ	ヨ[モギ	ヨ[モ]ギ
植物	菜(な)	ナ	ナ	[ナ]パ
植物	大根(だいこん)	ダ]イ]コン	ダイ[コン	[ダイ]コン
植物	冬瓜(とうがん)	NR	ト[-ガン	[ト-ガン
植物	南瓜(かぼちゃ)	カ]ボチャ	カ[ボチャ	[カ]ボチャ
植物	瓜(うり)	ウ]リ	ウ]リ	[ウ]リ
植物	萹(にら)	ニ]ラ	ニ]ラ	ニ]ラ

分類	語	五箇	西郷	都万
植物	茸(きのこ)	キノ[コ]	キ[ノ]コ	[シ]ータケ、[マツタケ、シ[メ]ジダケとか個別名を言う強いて言えばキ[ノ]コ
植物	木耳(きくらげ)	キ[ク]ラゲ	キ[ク]ラゲ	キ[ク]ラゲ
植物	唐辛子(とうがらし)	トウ[ガ]ラシ	ト[ウガ]ラシ	[ト]ーガラシ
植物	苦瓜(にがうり)	NR	ニ[ガウ]リ	ニ[ガ]ウリ
植物	胡麻(ごま)	ゴ]マ (最後を少し延ばす)	ゴ[マ]	ゴ[マ]
植物	苺(いちご)	イ]チゴ	イ[チゴ]	イ[チ]ゴ
植物	蘇鉄(そてつ)	ソ]テツ	ソ[テツ]	ソ[テ]ツ
植物	松(まつ)	マ]ツ	マ[ツ]	[マ]ツ
植物	竹(たけ)	タ]ケ	タ[ケ]	タ[ケ]
植物	梅(うめ)	ウ]メ	ウ[メ]	ウ[メ]
植物	桃(もも)	モ]モ	モ[モ]	モ[モ]
植物	桑(くわ)	ク]ワ	ク[ワ]	ク[ワ]
植物	薄(すすき)	ス]ス[キ	ス[スキ]	ス[ス]キ
植物	蜜柑(みかん)	ミ]カン	ミ[カン]	ミ[カ]ン
植物	茎(くき)	ク]キ	ク[キ]	[ク]キ
植物	アオサ(あおさ)	アオ]サ	ア[オ]サ	[ア]オ[サ]
植物	海蘊(もずく)	モ]ズ[ク	モ[ズ]ク	[モ]ズ[ク
植物	藻(も)	モ]バ	モ	モ
植物	糸瓜(へちま)	ヘ]チ[マ	ヘ[チ]マ	[ヘ]チ[マ
植物	棘(とげ)	ツ]バ[リ	ト]ゲ	[ス]バ[リ
動物	烏賊(いか)	イ]カ	イ[カ]	イ[カ]
動物	蛸(たこ)	タ]コ	タ[コ]	[タ]コ
動物	海老(えび)	エ]ビ	エ[ビ]	エ[ビ]
動物	雲丹(うに)	ウ]ニ[ー	ウ]ニ	[ウ]ニ
動物	貝(かい)	カ]イ	カ[イ]	[カ]イ/[ゴ]ンペ
動物	蜷 (にな, まきがい)	ニ]ー[ナ	ニ]ーナ	[ニ]ーナ (巻き貝) / [ニ]シ (小さい巻き貝)
動物	亀(かめ)	カ]メ	カ[メ]	[カ]メ
動物	蟹(かに)	カ]ニ	カ[ニ]	カ[ニ]
動物	魚(さかな)	サ]カ[ナ]ー	サ[カ]ナ	[サ]カ[ナ

[は音調の上がり目,] は音調の下がり目, . は母音が無声化していること, [古] は古い語形, [新] は新しい語形, NR は「語形なし」を表す。

分類	語	五箇	西郷	都万
動物	鱈(うろこ)	ウ[ロ]コ	ウ[ロ]コ	[ウ]ロ[コ
動物	鰻(うなぎ)	ウ]ナ[ギ	ウ[ナ]ギ	ウ[ナ]ギ
動物	鯨(くじら)	ク]ジ[ラ	ク[ジ]ラ	ク[ジ]ラ
動物	鯉(かつお)	カツ[オ	カ[ツ]オ	[カ]ツ[オ
動物	飛魚(とびうお)	ア[ゴ (顎も同じ発音)	ト[ビウ]オ / ア[ゴ	[ト]ビ[ウ]オ
動物	鱧(ふか)	サ[メ	デ]ンチ	フ[カ
動物	鮫(さめ)	サ[メ	サ]メ	[サ]メ
動物	海豚(いるか)	イ]ルカ	イ[ル]カ	[イ]ル[カ
動物	海鼠(なまこ)	ナ]マ[コ	ナ[マ]コ	[ナ]マ[コ
動物	海星(ひとで)	ヒ.ト[デ (ヒが無声化)	ヒ[ト]デ	[ヒ]ト[デ
動物	ヤドカリ(やどか り)	ヤ]ドカリ[ー	ヤ[ドカリ	ヤ[ド]カリ
動物	牛(うし)	ウ[シ	ウ]シ	ウ[シ
動物	馬(うま)	ウ]マ	ウ]マ	[ウ]マ
動物	鬣(たてがみ)	NR	NR	NR
動物	山羊(やぎ)	ヤ]ギ	ヤ]ギ	[ヤ]ギ
動物	豚(ぶた)	ブター	ブ]タ	[ブ]タ
動物	角(つの)	ツ]ノ	ツ]ノ	[ツ]ノ
動物	犬(いぬ)	イ]ヌ	イ]ヌ	[イ]ヌ
動物	猫(ねこ)	ネ]コ	ネ]コ	
動物	兎(うさぎ)	ウ]サギ	ウ]サギ	
動物	鼠(ねずみ)	ネ]ズ[ミ	ネ]ズミ	
動物	尾(お)	シッ]ポ	オ	
動物	動物(総称)	ドーブ]ツ	ドーブ]ツ	
虫	虫(むし)	ム]シ	ム]シ	ム]シ
虫	蟻(あり)	ア]リンコ	ア]リ	ア]リ
虫	蚊(か)	カ	カ]ー	カ
虫	蜘蛛(くも)	ク]モ	ク]モ	[ク]モ
虫	蜘蛛の巣(くもの す)	ク]モノス	ク]モノス	ク]モ]ノス
虫	蝶々(ちょうち よ)	チョ]ーチョ	チョ]ーチョ	[チョ]ー]チョ
虫	蝸牛(かたつむ り)	カタ]ツム]リ (「カタ]ツム]リ」も)	カ]タ]ツ]ム]リ (カからツ にかけて直線的に上 昇?)	[デン]デン]ム]シ

分類	語	五箇	西郷	都万
虫	蛙(かえる)	カ]エル	カ[エル	カ[エル
虫	蜂(はち)	ハ[チ	ハ[チ	ハ[チ~[ハ]チ
虫	蠅(はえ)	ハ[エ	ハ[エ	ハ[エ~[古] ハエ[ー
虫	蛆(うじ)	ウ[ジ]ムシ	ウ]ジ	[ウ]ヂ
虫	蚤(のみ)	ノ]ミ	ノ]ミ	[ノ]ミ
虫	蚯蚓(みみず)	ミ]ミズ (「ミ」の[i]は狭め)	ミミズ	[ミ]ミズ
虫	虱(しらみ)	シ]ラ[ミ	シラ[ミ	シ[ラ]ミ
虫	百足(むかで)	ム]カ[デ	ムカゼ	ム[カ]デ
虫	蚕(かいこ)	カ]イコ	カ]イコ	オ[カ]イコサン/[カ]イコ
虫	蠨螂(かまきり)	カ]マキ[リ	カ[マ]キリ	カ[マ]キリ
虫	蜻蛉(とんぼ)	ト]ン[ボ	トンボ	[ト]ンボ
虫	飛蝗(ばった)	バ]ッタ	バッタ	[バ]ッタ
虫	蟬(せみ)	セ]ミ	セ[ミ	セ[ミ
鳥	鳥(とり)	ト]リ	ト]リ	ト]リ
鳥	鶏(にわとり)	ニ]ワト[リ	ニワトリ	ニ[ワ]トリ
鳥	鶏冠(とさか)	ト]サ[カ	ト]サカ	[ト]サ[カ
鳥	雀(すずめ)	ス]ズ[メ	スズメ	[ス]ズメ
鳥	鳩(はと)	ハ]ト	ハ]ト	[ハ]ト
鳥	烏(からす)	カ]ラ[ス	カ[ラス	カ[ラ]ス
鳥	鶉(うずら)	ウ]ズ[ラ	ウズラ	ウ[ズ]ラ
鳥	鷹(たか)	タ]カ	タ]カ	タ]カ
鳥	卵(たまご)	タ]マ]ゴ	タ]マゴ	タ[マ]ゴ
鳥	巢(す)	ス	ス	ス
鳥	羽(はね)	ハ]ネ	ハネ	ハ[ネ
天地	空(そら)	ソ]ラ	ソラ	[ソ]ラ
天地	日(ひ)	ヒ (ヒガ出た(助詞ガに鼻濁音))	ヒ	ヒ
天地	太陽(たいよう)	タ]イ[ヨ]ウ	タ]イヨ (全体に渡って下降)	[タ]イヨ
天地	光(ひかり)	ヒ]カ[リ	ヒ[カ]リ	[ヒ]カ[リ
天地	蔭(かげ)	カ]ゲ	カゲ	[カ]ゲ
天地	眩しい(まぶしい)	マ]ブ[シ]イ	マブ[シ]ー	[マブシ

[は音調の上がり目,] は音調の下がり目, . は母音が無声化していること, [古]は古い語形, [新]は新しい語形, NRは「語形なし」を表す。

分類	語	五箇	西郷	都万
天地	火(ひ)	ヒ	ヒ	[ヒー]
天地	水(みず)	ミズ	ミズ	ミ[ズ]
天地	山(やま)	ヤマ	ヤマ	[ヤマ]
天地	川(かわ)	カワ	カワ	[カワ]
天地	橋(はし)	ハシ	ハシ	[ハシ]
天地	丘(おか)	オカ	オカ	オカ
天地	陸地(りくち)	リク[チ	リ[ク]チ. (「チ」無声化)	リ[ク]チ
天地	土・地面(つち・じめん)	ツチ	ツ.[チ / ジ]メン (「ツ」無声化)	ツチ
天地	星(ほし)	ホシ	ホシ	ホシ
天地	月(つき)	ツキ	ツ.[キ (「ツ」無声化)	[ツ]キ
天地	雲(くも)	クモ	クモ	[ク]モ
天地	霧(きり)	キリ	キリ	キリ
天地	露(つゆ)	ツユ	ツユ	[ツ]ユ
天地	雨(あめ)	アメ	ア[メ]~ア[メ]	[ア]メ
天地	風(かぜ)	カゼ	カゼ	カゼ
天地	竜巻(たつまき)	タツマ[キ	タツ[マ]キ	[タ]ツ[マ]キ
天地	稲光(いなびかり)	イナ[ピカ]リ	イナ[ビ]カリ	イ[ナ]ビ[カ]リ
天地	地震(じしん)	ジ[シン]	ジ[シン]	チ[シン]
天地	虹(にじ)	ニジ	ニジ	[ニ]ジ
天地	明かり(あかり)	アカリ	アカリ	[ア]カ[リ]
天地	雷(かみなり)	カミ[ナ]リ	カミナリ	[カ]ミ[ナ]リ
天地	潮(しお)	シオ	シオ	[シ]オ
天地	煙(けむり)	ケムリ	ケ[ム]リ	[ケ]ム[リ]
天地	浅瀬(あさせ)	アサセ	アサセ	ア[サ]セ
天地	遠浅(とおあさ)	トーア[サ]	トオア[サ]	[トー]ア[サ]
天地	洞窟(どうくつ)	ドークツ	ドークツー (ドが緊張気味)	[ドー]ク[ツ]
天地	海(うみ)	ウミ (ウミが (海が) / ウ[ミ]に (膿に))	ウミ	[ウ]ミ
天地	水溜り(みずたまり)	ミズ[タマ]リ	ミズタマリ (ミからタにかけて上昇)	[ミ]ズタ[マ]リ

分類	語	五箇	西郷	都万
天地	港(みなと)	ミ]ナ[ト	ミ[ナ]ト	[ミ]ナ[ト
天地	波(なみ)	ナ]ミ	ナ]ミ	[ナ]ミ
天地	泡(あわ)	ア]ワ	ア]ワ	[ア]ワ
天地	島(しま)	シ]マ	シ]マ	[シ]マ
天地	浜(はま)	ハ]マ	ハ]マ	[ハ]マ
天地	砂(すな)	ス]ナ	ス]ナ	[ス]ナ
天地	石(いし)	イ]シ	イ]シ	[イ]シ
天地	溝(みぞ)	ミ]ゾ	ミ]ゾ	[ミ]ゾ
天地	田(た)	[タ	タ	[タ]ー
天地	畦道(あぜ)	ア]ゼミ[チ	アゼ[ミ]チ	[ア]ゼ
天地	畑(はたけ)	ハ]タ[ケ	ハ]タケ	ハ[タ]ケ/[シャ]ンヤマ (大根などの野菜を作る畑) / [ヤマ] (豆など いろいろなものを作る 畑)
天地	野(の)	ノ	ノ	ノ
天地	草原(くさはら)	ク]サ[ハ]ラ	クサハ]ラ	ク[サ]ハラ
天地	道(みち)	ミ]チ	ミ]チ	[ミ]チ
天地	崖(がけ)	ガ]ケ	ガ]ケ	[ガ]ケ
天地	坂(さか)	サ]カ	サ]カ	[サ]カ
天地	頂上(ちょうじょう)	チョ]ー]ジョー	チョー]ジョー / テンコ ツ	[チョ]ー-[ジョ]ー
天地	東(ひがし)	ヒ]ガ[シ	ヒガ]シ	[ヒ]カ° [シ
天地	東風(ひがしかぜ)	ヒ]ガシ[カ]ぜ	ヒガシカぜ	ヒ[カ° シ]カ[ぜ/[ヤ] メア[-]ダ (昼頃に海岸 から吹いてくる風が入 る。)
天地	北(きた)	キ]タ	キ]タ	[キ]タ
天地	北風(きたかぜ)	キ]タ[カ]ぜ (「ぜ」 は ze (ジエ))	キ.タカ]ぜ (「キ」が無 声化)	キ[タ]カ[ぜ
天地	西(にし)	ニ]シ	ニ]シ	[ニ]シ
天地	西風(にしかぜ)	ニ]シ[カ]ぜ	ニシ.カ]ぜ (「シ」が無 声化)	[ニ]シカ[ぜ/[コ]チ
天地	南(みなみ)	ミ]ナ[ミ	ミ[ナ]ミ	[ミ]ナ[ミ

[は音調の上がり目,] は音調の下がり目, . は母音が無声化していること, [古] は古い語形, [新] は新しい語形, NR は「語形なし」を表す。

分類	語	五箇	西郷	都万
天地	南風(みなみかぜ)	ミ]ナミ[カ]ぜ	ミナミ]カゼ	ミ[ナミ]カゼ
天地	嶺(みね)	ミ[ネ	ミ]ネ	ミ[ネ
天地	村(むら)	ム]ラ	ム]ラ	[ム]ラ
空間	右(みぎ)	ミ[ギ	ミ]ギ	ミ[ギ
空間	左(ひだり)	ヒ]ダ[リ	ヒ.ダリ (「ヒ」が無声化)	ヒ[ダ]リ
空間	前(まえ)	マ]イエ (「イエ」は je (かなり狭い?))	マ]エ	[マ]エ
空間	後ろ(うしろ)	ウ]シ[ロ	ウシ.ロ (「シ」が無声化)	[ウ]シ[ロ
空間	跡(あと)	ア]ト	アト	[ア]ト
空間	横(よこ)	ヨ[コ	ヨ]ゴ	ヨ[コ
空間	上(うえ)	ウ]エ	ウ]エ	ウ[エ
空間	下(した)	シ]タ	シ]タ	[シ]タ
空間	中(なか)	ナ]カ	ナ[カ	[ナ]カ
空間	底(そこ)	ソ]コ	ソ]コ	[ソ]コ
空間	内(うち)	ウ]チ	ウ]チ	[ウ]チ
空間	外(そと)	ソ]ト	ソ]ト	[ソ]ト
空間	奥(おく)	オ]ク	オ]ク	[オ]ク
空間	角(かど)	カ]ド	カド	[カ]ド
空間	傍(そば)	ソ]バ	ソバ	[ソ]バ
空間	隣(となり)	ト]ナ[リ	トナ]リ	[ト]ナ[リ
時間	今日(きょう)	キョ]ー	キョ]ー	[キョ]ー
時間	昨日(きのう)	キ[ノ]ー	キ]ノー	[キ]ノー
時間	一昨日(おととい)	オ]ト[ト]イ	オツ[ト]イ	[オ]ト[ツ]イ
時間	明日(あした)	ア]シ[タ	アシ.タ (シが無声化)	[ア]シ[タ
時間	明後日(あさつて)	ア[サ]ツテ	ア[サ]ツテ	ア[サ]ツテ
時間	明明後日(しあさつて)	シア]サツテ	シ]アサツテ	シ[アサ]ツテ
時間	今年(ことし)	コ]ト[シ	コト]シ. (シが無声化)	[コ]ト[シ
時間	去年(きょねん)	キョ[ネ]ン	キョ]ネン	キョ[ネ]ン

分類	語	五箇	西郷	都万
時間	一昨年(おとし)	オト[ト]シ	オト[ト]シ	[オト[ド]シ
時間	来年(らいねん)	ライネン	ライネン	[ライ[ネン]
時間	再来年(さらいねん)	サライ[ネン]	サライ[ネン]	[サライ[ネン]
時間	今(いま)	イ]マ	イ]マ	[イ]マ
時間	昔(むかし)	ム]カ[シ	ム[カ]シ. (シが無声化)	[ム]カ[シ
時間	春(はる)	ハ]ル	ハ]ル	[ハ]ル
時間	夏(なつ)	ナ]ツ	ナ]ツ. (ツが無声化)	[ナ]ツ
時間	秋(あき)	ア]キ	ア]キ~アキ	[ア]キ
時間	冬(ふゆ)	フ]ユ	フ]ユ	[フ]ユ
時間	朝(あさ)	ア]サ	ア[サ	[ア]サ
時間	昼(ひる)	ヒ]ル	ヒ]ル	[ヒ]ル
時間	夕方(ゆうがた)	ユ-]ガ[タ	ユ-ガタ	[ユ-]ガタ
時間	夜(よる)	ヨ]ル	ヨ]ル	[ヨ]ル/ヨ
時間	夜中(よなか)	ヨ]ナ[カ	ヨ[ナ]カ. (カが無声化)	[ユ]ナ[カ
時間	暁(あかつき)	アカ]ツキ	アカツキ	[アカ]ツキ/[アケガタ
時間	暇(ひま)	ヒ]マ	ヒ]マ	ヒ]マ
時間	時(とき)	ト]キ	ト]キ	[ト]キ
時間	年(とし)	ト]シ	ト]シ	[ト]シ
時間	暦(こよみ)	コ]ヨ[ミ	コヨ]ミ	[コ]ヨ[ミ
衣	着物(きもの)	キ]モ[ノ	キ[モ]ノ	[キ]モ[ノ
衣	襟(えり)	エ]リ	エ]リ	[エ]リ
衣	袖(そで)	ソ]デ	ソ]デ	ソ]デ
衣	裾(すそ)	ス]ソ	ス]ソ	ス]ソ
衣	帯(おび)	オ]ビ[- (ビーは拍内 上昇?)	オビ	[オ]ビ
衣	紐(ひも)	ヒ]モ	ヒ]モ	ヒ]モ
衣	足袋(たび)	タ]ビ[- (ビーは拍内 上昇?)	タ]ビ	[タ]ビ
衣	袴(はかま)	ハ]カ[マ	ハ[カ]マ	[ハ]カ[マ
衣	下駄(げた)	ゲ]タ[- (ターは拍内 上昇?)	ゲ]タ	[ゲ]タ

[は音調の上がり目,] は音調の下がり目, . は母音が無声化していること, [古]は古い語形, [新]は新しい語形, NRは「語形なし」を表す。

分類	語	五箇	西郷	都万
衣	草履(ぞうり)	ゾ[-]リ	ゾウリ	[ゾー]リ/[セツ]タ(雪駄)/[カ]ミオゾーリ(鼻緒に紙を巻いた草履)/[ワ]ラゾーリ(藁草履)
衣	緒(お)	オ[-]	オー	オ
衣	布(ぬの)	ヌ[ノ]	ヌ]ノ	ヌ[ノ]
衣	表(おもて)	オ]モ[テ	オモ]テ	[オ]モ[テ
衣	裏(うら)	ウ]ラ	ウ]ラ	[ウ]ラ
衣	綾,模様(あや)	ア]ヤ	ア]ヤ	[ア]ヤ(使わない)/[カ]ラ(柄)
衣	手拭い(てぬぐい)	テ]ヌグ[イ	テヌグ]イ	テ[ヌ]グイ
衣	蓑(みの)	ミ[ノ]	ミ]ノ	[ミ]ノ
食	湯(ゆ)	ユ	ユ	ユ
食	茶(ちゃ)	チャ	チャ	チャ
食	飯(めし)	ゴハン	[ゴハ]ン	メ[シ]
食	粥(かゆ)	チャガイ	チャガ]イ	[カ]ユ~[カ]イ
食	餅(もち)	モチ	モ[チ]	モ[チ]
食	雑炊(ぞうすい)	ゾースイ	ゾース]イ	[ゾー]-[スイ]/[ゾー]-[ス
食	味噌(みそ)	ミソ	ミ]ソ	[ミ]ソ
食	汁(しる)	シル	シ]ル	[シ]ル
食	塩(しお)	シオ	[シヨ]ー	[シ]オ
食	塩辛い(しおからい)	ショッパイ	ショッ[パ]イ	シ[オカラ]イ/カ[ラ]イ
食	砂糖(さとう)	サトー	サト[-]	[サ]トー
食	甘い(あまい)	アマイ	ア[マ]イ	ア[マエー
食	砂糖黍(さとうきび)	サトーキビ	サトーキ[ビ]	NR
食	粕(かす)	サケカス	サケカ[ス]	[サ]ケ[ノ カ]ス
食	酒(さけ)	サケカス	サケ[カ]ス	サ[ケ]
食	黴(かび)	カビ	カ[ビ]	[カ]ビ
食	麴(こうじ)	コージ	コー[ジ]	[コ]ージ
食	粒(つぶ)	ツブ	ツ]ブ	[ツ]ブ
食	糠(ぬか)	ヌカ	[ヌ]カ	[ヌ]カ

分類	語	五箇	西郷	都万
食	粉(こ・こな)	コナ	コ[ナ	[コ]ナ/[コ]メノ コ (米の粉)
食	大蒜(にんにく)	ニンニク	ニン[ニ]ク	[ニ]ンニク
食	芽(め)	メ	メ	メ
食	肉(にく)	ニク	[ニ]ク	[ニ]ク
食	果物(くだもの)	クダモン	クダ[モ]ン	[ク]ダ[モ]ノ
食	油(あぶら)	アブラ	アブ[ラ	[ア]ブラ
食	天ぷら(てんぷら)	アゲモン	アゲモ[ン	テンプラ
食	灰(はい)	ハイ	ハ[イ	ハ[イ
食	匂い(におい)	ニオイ	ニョー[イ	[ニ]オ[イ
食	味(あじ)	アジ	ア[ジ	ア[ジ
食	料理(りょうり)	リョーリ	[リョー]リ	[リョ]ーリ
食	ご飯(ごはん)	メシ	[メ]シ	[ゴ]ハン~[マ]マ
食	食事(しょくじ)	ショクジ	ショク[ジ	[マ]マ
食	朝食(あさめし)	アサハン	アサ[ハン	ア[サ]メシ
食	昼食(ひるめし)	チューハン	チュー[ハン	[ヒ]ル/[チュ]ーファン
食	夕食(ゆうめし)	ユーハン	ユー[ハン	[ユ]ーハン
食	膳(ぜん)	オゼン	[オゼ]ン	[ゼ]ン
食	食べる(たべる)	クー	クー	[タ]ベ[ル]/[ク]ー
食	食べ物(たべもの)	クーモノ	クー[モ]ノ	[タ]ベモノ/[ク]イモ [ノ
住	家(いえ)	ウチ	[ウ]チ	[イ]エ
住	母屋(おもや)	エンキョ	[エン]キョ	[オ]モヤ
住	台所(だいどころ)	スイジバ	ダイ[ド]コ	[ダイド]ゴロ
住	天井(てんじょう)	テンジョ	テン[ジョ	[テ]ンジョ[ー
住	床(ゆか)	ユカ	ユ[カ	[イ]タ[マ
住	棚(たな)	タナ	タ[ナ	タ[ナ/ア[ゲ]ダナ
住	竈(かまど)	カマ	カ[マ	カ[マ~[カ]マ[ド~[ク] ド
住	囲炉裏(いろり)	イロリ	イロ[リ	[イ]ロリ
住	戸(と)	ト	ト	[ト]ー
住	板(いた)	イタ	イ[タ	[イ]タ

[は音調の上がり目,] は音調の下がり目, . は母音が無声化していること, [古]は古い語形, [新]は新しい語形, NRは「語形なし」を表す。

分類	語	五箇	西郷	都万
住	節(ふし)	フシ	フ[シ]	フ[シ]
住	穴(あな)	アナ	[ア]ナ	[ア]ナ
住	柱(はしら)	ハシラ	ハシ[ラ]	[ハ]シ[ラ]
住	釘(くぎ)	クギ	ク[ギ]	[ク]ギ
住	瓦(かわら)	カワラ	[カワ]ラ	[カー]ラ
住	便所(べんじょ)	ベンジョ	ベ[ン]ジョ	[古][シ]ンチ (くみ取り式の便所) / [新][ト]イレ
住	垣(かき)	カキ	[カ]キ	[カベ]
住	庭(にわ)	ニワ	ニ[ワ]	[カ]ド
住	井戸(いど)	イド	[イ]ド	[ユ]ド
住	墓(はか)	ハカショ	[ハカ]ショ	[ハ]カ
住	煤(すす)	スス	ス[ス]	[ス]ス
住	埃(ほこり)	ゴミ	ゴ[ミ]	[ゴ]ミ
住	門(もん)	NR	[モ]ン	[ト]グ[チ]
道具	縄(なわ)	ナワ	[ナ]ワ	[ナ]ワ
道具	綱(つな)	ツナ	[ツ]ナ	[ツ]ナ
道具	鎖(くさり)	クサリ	ク[サ]リ	[ク]サ[リ]
道具	袋(ふくろ)	フクロ	フ[ク]ロ	フ[ク]ロ
道具	荷(に)	ニモツ	[ニモ]ツ	ニ[モ]ツ
道具	皿(さら)	サラ	サ[ラ]	サ[ラ]
道具	椀(わん)	ワン	[ワ]ン	[ワ]ン
道具	茶碗(ちゃわん)	チャワン	チャワ[ン]	[チャ]ワン
道具	壺(つぼ)	ツボ	ツ[ボ]	[ツ]ボ
道具	鉢(はち)	ハチ	[ハ]チ	[ハ]チ
道具	瓶(かめ)	カメ	[カ]メ	[ハ]ン[ド]
道具	水瓶(みずがめ)	ミズガメ	ミズ[ガ]メ	[ハ]ン[ド]
道具	桶(おけ)	オケ	オ[ケ]	[オ]ケ
道具	水桶(みずおけ)	ミズオケ	ミズ[オ]ケ	[オ]ケ
道具	盥(たらい)	タライ	タラ[イ]	[タ]ライ
道具	柄杓(ひしゃく)	ヒシャク	ヒシャ[ク]	[シャ]ー[ク]
道具	柄(え)	エ	エ	エ
道具	釜(かま)	カマ / ハガマ	カ[マ] / ハガマ	[カ]マ / [ハ]ガ[マ] (羽が付いた釜, ご飯を炊く)

分類	語	五箇	西郷	都万
道具	煤(すす・鍋などに付く汚れ)	スス	ス[ス	へ[ワ
道具	杓文字(しゃもじ)	シャモジ	[シャモ]ジ	[シャ]モジ
道具	急須・鉄瓶(きゅうす)	キユース	キュー[ス	[キュー]ス
道具	箸(はし)	ハシ	ハ[シ	[ハ]シ
道具	包丁(ほうちょう)	ホーチョ	ホウ[チョ	[ホー]チャー
道具	刀(かたな)	カタナ	カ[タ]ナ	カ[タ]ナ
道具	小刀(こがたな)	コガタナ	コガタ[ナ	コ[ガ]タナ
道具	まな板(いた)	マナイタ	マナ[イ]タ	マ[ナ]イ[タ] / [古][キ]リ[バ
道具	臼(うす)	ウス	ウ[ス	[モ]チツキ[ウス] / [イ]シ[ウス
道具	杵(きね)	キネ	キ[ネ	[キ]ネ
道具	斧(おの)	マサカリ	マサカ[リ	マ[サ]カリ
道具	鋸(のこ)	ノコギリ	ノコギ[リ	[ノ]コ
道具	鑿(のみ)	ノミ	ノ[ミ	[ノ]ミ
道具	錐(きり)	キリ	キ[リ	[キ]リ
道具	箱(はこ)	ハコ	ハ[コ	[ハ]コ ~ ハ[コ
道具	筆(ふで)	フデ	フ[デ	フ[デ
道具	紙(かみ)	カミ	[カ]ミ	[カ]ミ
道具	鋏(はさみ)	ハサミ	ハサ[ミ	[ハ]サ[ミ
道具	印(しるし)	シルシ	シ[ル]シ	[シル]シ
道具	漆(うるし)	ウルシ	ウル[シ	ウル[ル]シ
道具	鏡(かがみ)	カガミ	カ[ガ]ミ	[カ]ガ[ミ
道具	櫛(くし)	クシ	ク[シ	[ク]シ
道具	布団(ふとん)	フトン	フト[ン	フト[ン
道具	枕(まくら)	マクラ	マク[ラ	マ[ク]ラ
道具	箒(ほうき)	ホーキ	ホー[キ	[ホー]キ
道具	竿(さお)	サオ	[サ]オ	[サ]オ
道具	杖(つえ)	ツエ	ツ[エ	[ツ]エ ~ ツ[エ
道具	笠・傘(かさ)	(笠は NR) / カサ	カ[サ	[カ]サ
道具	針(はり)	ハリ	ハ[リ	[ハ]リ

[は音調の上がり目,] は音調の下がり目, . は母音が無声化していること, [古]は古い語形, [新]は新しい語形, NRは「語形なし」を表す。

分類	語	五箇	西郷	都万
道具	糸(いと)	イト	イ[ト]	[イ]ト
道具	煙管(きせる)	キセル	キセ[ル]	キ[シエル]
道具	金(かね)(金属・ お金)	カネ / ジェニ	カ[ネ/ジェニ]	[チエ]ン
道具	三味線(しゃみせん)	シャミセン	シャミ[セ]ン	[シャ]ミ[シエン]
道具	船(ふね)	フネ	フ[ネ]	[フ]ネ
道具	帆(ほ)	ホ	ホ	[ホ]ー
道具	櫂(かい)	カイ	カ[イ]	[カ]イ/ロ
道具	網(あみ)(魚を獲 るあみ)	アミ	[ア]ミ	[ア]ミ
道具	槍(やり)	ヤリ	ヤ[リ]	[ヤ]リ/ヤ[ス (魚を採 るやり。先が分かれて いて返しがついてい る)]
道具	いさり(夜の漁)	NR	NR	ヨ[サ]デ
道具	松明(いさりに使 用)	タイマツ	タイ[マ]ツ	[テア]ー[ソ](イ)
道具	鍬(くわ)	クワ	ク[ワ]	[ク]ワ
道具	鋤(すき, 牛にひ かすもの)	スキ	ス[キ]	ス[キ]
道具	鋤(すき)	NR	ス[キ]	
道具	鎌(かま)	カマ	カ[マ]	[カ]マ
道具	座(ござ)	ゴザ	[ゴ]ザ	[ゴ]ザ
道具	籠(へら)	ヘラ	へ[ラ]	NR
道具	笊(ざる)	サーキ	サ[ー]キ	[ソ]ーキ (水切りをする もの) / [ザ]ル
道具	籠(かご)	カゴ	カ[ゴ]	カ[ゴ/オイカゴ (背中 に負う籠)]
道具	網籠(もっこ, 運 搬用)	NR	[モツ]コ	[モツ]コ (竹や網で編ん だ運搬用の網) / ネ[コ グ]ルマ (車輪が1つ付 いた車)
道具	篩(ふるい)	フルイ	フル[イ]	[ト]ー[シ]

分類	語	五箇	西郷	都万
道具	俵(たわら)	タワラ	タワ[ラ]	[タ]ワ[ラ/カ[マ]ス (ごぎを半分に折って 縫ったもの)
道具	筵(むしろ)	ムシロ	ム[シ]ロ	[ム]シ[ロ]
道具	薪(たきぎ)	タキギ	タ[キ]ギ	タ[キ]ギ
道具	簪(かんざし)	カンザシ	カン[ザ]シ	[カン]チャシ
人間	人(ひと)	ヒト	ヒ[ト]	フ[ト]
人間	親(おや)	オヤ	オ[ヤ]	[オ]ヤ
人間	子(こ)	コ	コ	コ
人間	子供(こども)	コドモ	コ[ド]モ	[コ]ド[モ]
人間	長男(ちょうな ん)	アニキ	[アニ]キ	[ア]ンヤサン
人間	二男(じなん)	オジ	[オ]ジ	[ニバンオ]ジ/[オツツ ァン
人間	三男(さんなん)	オジ	[オ]ジ	[サンバンオ]ジ/[オツツ ァン
人間	四男(よんなん)	オジ	[オ]ジ	[ヨンバンオ]ジ
人間	五男(ごなん)	オジ	[オ]ジ	[ゴバンオ]ジ
人間	長女(ちょうじ ょ)	ネーサン	[ネー]サン	[ネーサン/[ネーヤ]
人間	二女(じじょ)	オバ	[オ]バ	[オ]バ/ニ[バンオ]バ
人間	三女(さんじょ)	オバ	[オ]バ	[サンバンオ]バ
人間	四女(よんじょ)	オバ	[オ]バ	[ヨンバンオ]バ
人間	五女(ごじょ)	オバ	[オ]バ	NR
人間	末っ子(すえっ こ)	スエッコ/シリオバ (女性の場合)/シリ オジ(男性の場合)	ス[エツ]コ	オ[ト]ンボ
人間	親子(おやこ)	オヤコ	[オヤ]コ	オ[ヤ]コ
人間	孫(まご)	マゴ	[マ]ゴ	[マ]ゴ
人間	父(おとうさん)	オヤジ/オトーサン	[オヤ]ジ/[オト]ーサン	[トツツァン(古)/オ ツ[ト]ー(小さい時に使 う)/[トー]チャン(保 育所に行くようになる 頃)/オ[トー]サン(標 準語)/[ト]ト(他人に

[は音調の上がり目,] は音調の下がり目, . は母音が無声化していること, [古]は古い語形,
[新]は新しい語形, NRは「語形なし」を表す。

分類	語	五箇	西郷	都万
				対して使う卑下した言い方)
人間	母(おかあさん)	オフクロ/オカーサン	[オフ]クロ/[オカ]ーサン	オツ[カ]ー/[カー]チャン(保育所に行くようになる頃) / オ[カー]サン(標準語) / [カ]カ(他人に対して使う卑下した言い方)
人間	兄(おにいさん)	アンチャン/アニキ	[アン]チャン/[アニ]キ	[アン]ヤ/[アン]ヤサン / [アン]チャン / 呼ぶときは名前を付けて〇〇アンチャンと呼ぶ
人間	姉(おねえさん)	ネーサン	[ネー]サン	[ネー]チャン / 呼ぶときは名前を付けて〇〇ネーチャンと呼ぶ
人間	弟(おとうと)	名前という	名前という	[オ]ジ / 呼ぶときは名前で呼ぶ
人間	妹(いもうと)	名前という	名前という	[オ]バ / 呼ぶときは名前で呼ぶ
人間	兄弟(きょうだい)	キョーダイ	[キョー]ダイ	[キョー]ダイ
人間	祖父(おじいさん)	ジーサン	[ジー]サン	[ジ]ー/[ジ]ーサン / [ジ]ージ(孫が呼ぶとき)
人間	祖母(おばあさん)	バーサン	[バー]サン	[バ]バ/[バー]サン / [バ]ーバ(孫が呼ぶとき)
人間	夫(おっと)	オトーサン	オトー[サン]	[ダ]ン[ナ / 呼ぶときは[ト]ー]チャン(若いとき)、[ジ]ーサン(年をとったとき)

分類	語	五箇	西郷	都万
人間	妻(つま)	オカーサン	[オカ]ーサン	[バ]バ/呼ぶときは名前を呼ぶまた、[カー]チャン(若いとき)、[バー]サン(年をとったとき)
人間	夫婦(ふうふ)	フーフ/ミョート	[フー]フ/ミョート	[フ]ーフ
人間	叔父(おじ)	オッチャン	オツ[チャン]	オ[ジ]サン/[オツ]ツァン
人間	叔母(おば)	オバサン	オバ[サン]	オ[バ]サン
人間	甥(おい)	オイッコ	オ[イッ]コ	名前で呼ぶ
人間	姪(めい)	メイッコ	メイ[コ]	名前で呼ぶ
人間	従兄弟(いとこ)	イトコ	[イト]コ	イ[ト]コ
人間	婿(むこ)	ムコ/ムコハチ	ム[コ/ムコハ]チ	[ム]コ
人間	家族(かぞく)	ウチノモノ/ウチノヒト	[ウチ]ノモノ/[ウチ]ノヒト	NR
人間	親戚(しんせき)	シンシエキ/ヤウチ	[シン]シエキ/ヤウチ	[ヤ]ウチ
人間	男(おとこ)	オトコ	オ[ト]コ	[オ]ト[コ]/[オトコ]ラ(複数)/[オトコ]シ(複数・丁寧)
人間	女(おんな)	オンナ/ニョーバ	オ[ン]ナ/ニョ[ー]バ	[ニョ]ーバ/[ニョー]バラ(複数形)/[ニョ]ーバシ(複数・丁寧)
人間	目上の男・女(めうえ)	NR	NR	呼ぶときは屋号で呼ぶ
人間	目下の男・女(めした)	オマエラ/ニョーバラ	NR	
人間	青年(せいねん)	アンチャン	アンチャ[ン]	[アン]ヤサン
人間	大工(だいく)	トオリョー/トーリョー	[トオ]リョー/[トー]リョー	[ダ]イ[ク]
人間	友達(ともだち)	トモダチ	トモ[ダ]チ	[ト]モ[ダ]チ/[ナ]カマ
人間	娘(むすめ)	ムスメ	ム[ス]メ	[ム]ス[メ]/[ウ]チノ[ネ]ーヤノコ
人間	私(わたし)	ワシ/オイラ/オレ	ワ[シ/オイラ/オレ]	[ワ]シ

[] は音調の上がり目, [] は音調の下がり目, . は母音が無声化していること, [古] は古い語形, [新] は新しい語形, NR は「語形なし」を表す。

分類	語	五箇	西郷	都万
人間	私達(わたしたち)	ワタシタチ	ワタシ[タ]チ	[ワ]イラ
人間	貴方(あなた)	コンタ	[コン]タ	[ア]ンタ
人間	貴方たち(あなたたち)	コンタタチ	[コン]タタチ	[アンタタ]チ (上へ)
人間	お前(おまえ)	ノシ/オノレ	ノ[シ/オノ]レ	[ア]ンタ
人間	お前達(おまえたち)	ノシラ/オノエラ	ノシ[ラ/オノエ]ラ	[アンタ]ラ (下へ)
人間	皆(みな)	ミンナ	[ミン]ナ	[ミンナ
人間	名(な)	NR	ナ	[ナ]マ[エ
人間	おじさん達(おじさんたち)	オジサンタチ	オジサン[タ]チ	[オッ]ツァン
人間	老人(ろうじん)	ロージン/トシヨリ	ロージ[ン/トシヨ]リ	[トシヨリ/ [ジー]サン [バー]サン
人間	恋人(こいびと)	コイビト	コイ[ビ]ト	[イ]ー モノ
人間	畑作業(はたけさぎょう)	ハタケノシゴト/ (ヤマエイク)	NR	ヤ[マ]ノ シゴト/ハ [タ]ケノ [シ]ゴ[ト
人間	旅(たび)	タビ/ (ヨソエイク)	[タ]ビ/ (ヨソエイク)	[タ]ビ
行事	お祝い(おいわい)	イワイ	イワ[イ]	[イ]ワ[イ~[イ]フェー
行事	結婚(けっこん)	シューゲ	シュー[ゲ]	イッ[ショ]ニナル
行事	結納(ゆいのう)	NR	ユイノ[ー]	[ユイ]ノー
行事	喧嘩(けんか)	ケンカ	[ケン]カ	イ[サ]カイ/イ[サ]カウ (動詞)
行事	相互扶助(そうごふじょ, 農作業などの助け合い)	テモドリ	テモド[リ]	[テ]トリ (行ったり来たりする場合) / [カ]ルク (一方的に助ける場合)
行事	相撲(すもう)	スモー/スマ	[スモ]ー/[ス]マ	ス[モ]ー~[ス]モ
数詞	一つ(ひとつ)	ヒトツ	ヒト[ツ]	ヒ[ト]ツ
数詞	二つ(ふたつ)	フタツ	フタ[ツ]	フ[タ]ツ
数詞	三つ(みっつ)	ミツツ	[ミツ]ツ	[ミ]ツツ
数詞	四つ(よっつ)	ヨツツ	[ヨツ]ツ	[ヨ]ツツ
数詞	五つ(いつつ)	イツツ	[イツ]ツ	イ[ツ]ツ
数詞	六つ(むっつ)	ムツツ	[ムツ]ツ	[ム]ツツ

分類	語	五箇	西郷	都万
数詞	七つ(ななつ)	ナナツ	[ナナ]ツ	ナ[ナ]ツ
数詞	八つ(やっつ)	ヤツツ	[ヤツ]ツ	[ヤツ]ツ
数詞	九つ(ここのつ)	ココノツ	[ココ]ノツ	コ[コ]ノツ
数詞	十(とお)	トオ	[ト]オ	[ト]
数詞	一人(ひとり)	ヒトリ	ヒト[リ]	ヒ[ト]リ
数詞	二人(ふたり)	フタリ	フ[タ]リ	フ[ター]リ
数詞	三人(さんにん)	サンニン	サンニ[ン]	[サン]ニン
数詞	四人(よにん)	ヨツタリ	ヨニ[ン/ヨツ]タリ	ヨ[ニン]
数詞	五人(ごにん)	ゴニン	[ゴニ]ン	[ゴ]ニ[ン]
数詞	六人(ろくにん)	ロクニン	[ロク]ニン	ロ[クニ]ン
数詞	七人(しちにん)	シチニン	[シチ]ニン	シ[チニ]ン
数詞	八人(はちにん)	ハチニン	[ハチ]ニン	ハ[チニ]ン
数詞	九人(くにん)	キューニン	[キュー]ニン	[ク]ニン
数詞	十人(じゅうにん)	ジューニン	[ジュー]ニン	[チューニ]ン
指示	幾ら(いくら)	ナンボ	ナン[ボ]	[ナン]ボ
指示	何時(いつ)	イツ	イ[ツ]	[イ]ツ
指示	誰(だれ)	ダレ/ダイ	ダ[レ/ダ]イ	[ダ]イ
指示	何処(どこ)	ドケ	ド[ケ]	[ド]コ
指示	どれ	ドエ	ド[エ]	ド[レ]
指示	何故(なぜ)	ナーシエ	[ナー]シエ	[ナー]シエ
指示	何(なに)	ナニ	ナ[ニ]	[ナ]ニ
指示	幾つ(いくつ)	ナンボ	ナ[ン]ボ	[ナン]ボ
指示	どう	ドー	ド[ー]	[ド]ゲ
指示	此れ(これ)	コレ	[コ]レ	[コ]レ
指示	其れ(それ)	ソレ	[ソ]レ	[ソ]イ
指示	彼れ(あれ)	アレ/アエ	[ア]レ/[ア]エ	[ア]レ
指示	此处(ここ)	ココ	コ[コ]	[コ]コ
指示	何処(そこ)	ソコ	ソ[コ]	[ソ]コ
指示	彼処(あそこ)	アスコ	ア[ス]コ	[ア]ス[コ]
もの	物(もの)	モノ	[モ]ノ	[モ]ノ
もの	色(いろ)	イロ	[イ]ロ	[イ]ロ
もの	音(おと)	オト	[オ]ト	[オ]ト
もの	夢(ゆめ)	ユメ	[ユ]メ	[ユ]メ

[は音調の上がり目,] は音調の下がり目, . は母音が無声化していること, [古]は古い語形, [新]は新しい語形, NRは「語形なし」を表す。

分類	語	五箇	西郷	都万
もの	技・仕事(わざ・しごと)		[ワ]ザ/シ[ゴ]ト	[ワ]ザ/[シ]ゴ[ト]
もの	鬼(おに)	オニ	[オ]ニ	[オ]ニ
もの	心(こころ)	ココロ	コ[コ]ロ	コ[コ]ロ
もの	情け(なさけ)	ナサケ	ナ[サ]ケ	ナ[サ]ケ
もの	言葉(ことば)	コトバ	コ[ト]バ	[コ]ト[バ]
もの	歌(うた)	ウタ	ウ[タ]	[ウ]タ
もの	踊り(おどり)	オドリ	オ[ド]リ	[オ]ド[リ]
もの	鼓(つづみ)	ツズミ (tsudzumi) 四つ仮 名を意識したものでは ない。	ツズ[ミ]	[ツ]ズ[ミ]
もの	宝(たから)	タカラ	タ[カラ]	[タ]カ[ラ]
その他	型(かた)	NR	カ[タ]	[カ]タ
その他	形(かたち)	NR	[カタ]チ	[カタ]チ
その他	休息(きゅうそ く)	イップク	イップ[ク]	[キュー]ケー
その他	魂(たましい)	タマシー	[タマ]シー	タ[マ]シー
その他	刺青(いれずみ)	イレズミ	イレズ[ミ]	[イ]レ[ズ]ミ
その他	真似(まね)	マネ	[マ]ネ	[マ]ネ
その他	嘘(うそ)	オソ	[オ]ソ	[ウ]ソ/[ホ]ラ
形容詞	小さい(ちいさ い)	コマイ/コメー	コ[マ]イ/コ[メ]ー	コ[マ]イ/コ[マ]エー
形容詞	大きい(おおき い)	ガイナ/オーケナ	ガ[イ]ナ/オーケナ	[ガ]イ[ナ]
形容詞	低い(ひくい)	コメー	コ[メ]ー	ヒ[ク]イ
形容詞	同じ(おなじ)	イッシュ	イッ[シュ]	オン[ナ]ジ
形容詞	短い(みじかい)		ミジ[カ]イ	[ミ]ジ[カ]イ
形容詞	丸い(まるい)	マリ	マ[リ]	マ[ル]イ
形容詞	暖かい(あたたか い)	ノキー	ノ[キ]ー	ヌ[ク]イ
形容詞	寒い(さむい)	サビー	[サビ]ー	サ[ム]イ
形容詞	冷たい(つめた い)	チンテ	[チン]テ	[チ]ン[タ]エー
形容詞	好きだ(すきだ)	スキダ	ス[キ]ダ	ス[キ]ダ

分類	語	五箇	西郷	都万
形容詞	少し(すこし)(指小辞)	スクネー	スクネ[ー	[チート
形容詞	痒い(かゆい)	カイー	カ[イ]ー	カ[イ]ー
形容詞	青い(あおい)	アウエー	[アウエ]ー	ア[オ]イ～ア[ウエ]ー
形容詞	美しい(うつくしい)	リップ	リップ	[リップ]パナ
形容詞	嬉しい(うれしい)		ウレ[シ]ー	ウ[レシ]ー
形容詞	無い(ない)	ネー	ネ[ー	[ネ]ー
形容詞	速い(はやい)	ハイエー	[ハイエ]ー	ハ[ヤエ]ー
形容詞	汚い(きたない)	キタネー	キタ[ネ]ー	[キ]タ[ナエ]ー
副詞	たくさん	エット/ガイナ	エツ[ト/ガ[イ]ナ	[ドーン
副詞	もっと	モット	[モツ]ト	[マツ]ト

[は音調の上がり目,] は音調の下がり目, . は母音が無声化していること, [古]は古い語形, [新]は新しい語形, NRは「語形なし」を表す。

隠岐の島方言 文例集

<番号>	<地域>	<共通語・方言形>
01	共通語	おれは きょうは いそがしい。
01	五箇	オラー キョーワ イソガシーダガ。
01	西郷	ワシワ キョーワ イソガシーダワ。
01	都万	ワシャ キョーワ イソガシー ダガ。
02	共通語	おまえが 畑へ 行け。
02	五箇	ノシャー ハタケー イケナー。
02	西郷	アンタガ ハタケ (-) {イカ イダガ/イケバ イーダガ}。
02	都万	{ノシガ / オマエガ} ハタケ イケナイ。
03	共通語	うん、畑へは おれが いく。
03	五箇	ハタケー オレガ {イクワ/イカー}。
03	西郷	ウンワタシガ ハタケー イクワナ。
03	都万	ウン ハタケワ {ワシ / ワシャ} ガ イクケンイ。
04	共通語	おれの 鎌は どこに ある。
04	五箇	オラノ クワワ ドコニ アッダー。
04	西郷	ワタシノ クワワ {ドコニ/ドコン} アッカエ。
04	都万	{ワシノ / オレノ} クワワ ドコニ{アルチャラ / アルノカ}。 ※アル-チャラ：あることが前提で探す「どこにあるのかな」
05	共通語	この 鎌は 太郎のか。
05	五箇	コノ カマワ タローノ カエ。
05	西郷	コノ カマワ タローノカ。
05	都万	コノ カマワ タローノ チャラカ。
06	共通語	どれが おまえの 笠だ。
06	五箇	ドイツガ {オマエノ/ノシノ} カサ ダー。
06	西郷	ドレガ アンタノ カサダ。
06	都万	ドイガ {ノシノ / オマエノ} カサダ。 ※ノシ：目下に使う。ヌシとも。ノシラ「おまえら」
07	共通語	その 笠が おれのだ。
07	五箇	ソノ カサ オレンダー。
07	西郷	ソノ カサガ {ワタシノ~ワタシン} ダヨ。
07	都万	ソイガ ワシノ カサダ。
08	共通語	この ふろしきは おまえのか。
08	五箇	コノ フロシキワ オマエンカー。
08	西郷	コノ フロシキワ アンタノカエ。
08	都万	コノ フロシキワ {ノシノカ / オマエノカ / アンタノカ}。

<番号>	<地域>	<共通語・方言形>
09	共通語	それは おとうとの かもしれない。
09	五箇	ソラ オチノ カモシレンナー。
09	西郷	ソイワ オトートノ (ブン) カモ {シレナイ/シラン} ヨ。
09	都万	{ソイワ / コイワ} オチノ カモシレンゾ。 ※アンヤ：長男，兄オチ：弟（下の子）
10	共通語	沖縄には 船で 行くより 飛行機で 行った ほうが いい。
10	五箇	オキナフニワ フネデ イク {ヨリ/ヨリヤ} ヒコーキデ イッタ ホーガ イーナ。
10	西郷	オキナフニワ フネデ イクヨリ ヒコーキデ イッタ ホーガ イーカモ シラン。
10	都万	オーサカニヤ フネデ イクヨリ ヒコーキデ イッタ ホーガ {イーゾ / イーケー}。 ※イーケー は親しい仲で使用
11	共通語	飛行機は 一日に 一回しか ない。
11	五箇	ヒコーキワ イチニチ イッカイ シカ ネーゾー。
11	西郷	ヒコーキワ {イチンチニ/イチニチニ} イッカイシカ ナイヨ。
11	都万	ヒコーキワ イチニチ イッカイシカ ナイダケナー。
12	共通語	空港なら こっちの 道を 行きなさい。
12	五箇	クーコーナラ コッチノ ミチオ イケナ。
12	西郷	クーコーナラ コッチノ {ミチノ ホーガ イーヨ/ミチオ イカッシャイナ}。
12	都万	クーコーナラ コッチノ ミチオ トーッタホーガ イーヨ。
13	共通語	道の まんなかを あるいては いけない。
13	五箇	ミチノ マンナカオ アルイチャ イケンゾー。
13	西郷	ミチノ マンナカ (オ) アルイ{タラ/テワ} {イケナイ/イケン} チャナイ (カ)。
13	都万	ミチノ マンナカ アルキャ イケンゾ。
14	共通語	道が 広いなあ。
14	五箇	ミチガ {ヒロイナー/ヒロイガナー}。/ヒロイ ミチダガナー。
14	西郷	ミチガ ガイナー。
14	都万	ミチガ ガイニ {ヒレーナー / フレーナー}。
15	共通語	あ、雨が ふってきた。
15	五箇	アリヤ アメガ フッテキタガナー。
15	西郷	アー アメガ フッテキタ。
15	都万	アッ アメガ フッテキタ。
16	共通語	いとこの 布団が やねの 上に ほしてある。
16	五箇	イトコノ フトンガ ヤネノ ウエニ ホシシャルワー。
16	西郷	イトコノ フトンガ ヤネノ ウエニ ホシテ アルヨ。
16	都万	イトコノ フトンガ ヤネノ ウエニ ホシチャウワ。
17	共通語	きのうは 今日より 風が 強かった。

<番号>	<地域>	<共通語・方言形>
17	五箇	キノーフ キョーヨリ {カゼガ ツヨカッタガナー/ガイナ カゼチャッタガナー}。
17	西郷	キョーヨリ キノーノ ホーガ カゼガ ツヨカッタガノー。
17	都万	キノーフ キョーヨリ カゼガ {スゴカッタ / キツカッタ} ガナー。
18	共通語	真っ白な 鳥が 空を 飛んでいる。
18	五箇	シレー トリガ ソラオ トンゾッソー。
18	西郷	マッシロノ トリガ ソラオ トンゾッガノー。
18	都万	シレー トリガ ソラオ トンヂョ。
19	共通語	あの 山には いのししが いるそうだ。
19	五箇	アノ ヤマニワ イノシシガ {オルチョー/オッチョー}。
19	西郷	アノ ヤマニワ イノシシガ {オットー/オッチョフ}。
19	都万	アノ ヤマニヤ イノシシガ {イルチョソ / オルチョフ}。
20	共通語	あれは 学校だ。役場では ない。
20	五箇	アリヤー ガッコーダ。 ヤクバチャ ネーソー。
20	西郷	{アレフ/アイフ} ガッコーダ。 ヤクバチャ ナイヨー。
20	都万	アイフ ガッコーダソ ヤクバチャ ナイゾ。
21	共通語	あれが 役場だ。
21	五箇	アイガ ヤクバダ。
21	西郷	アイガ ヤクバダヨー。
21	都万	アイガ ヤクバダ ダガ。
22	共通語	あの 目の おおきい、 色の 白い 男は だれだろう。
22	五箇	アノ メノ ガイナ イロノ シレー オトコワ ダイチャラー。
22	西郷	アノ メノ {オーキー/ガイナ} イロノ シロイ オトコワ {ダレダラー カナー (人に言うとき)/ダイダラーカノー (独り言)}。
22	都万	アノ メノ ガイナ イロノ シレー オトコワ ダイチャラ。
23	共通語	孫が 去年から 東京に いる。
23	五箇	マゴワ キョネンカラ トーキョーニ オルワー。
23	西郷	マゴガ キョネンカラ トーキョーニ オーワナ。
23	都万	マゴガ キョネンカラ トーキョーニ {イキタダガ / オルダガ}。 ※イキタ (行ってしまってここにいない)
24	共通語	孫は いつ 東京から 帰るか。
24	五箇	マゴワ イツ トーキョーカラ モドッダー。
24	西郷	マゴワ イツ (ンナッタラ) トーキョーカラ カエツカエ。
24	都万	マゴワ イツ トーキョーカラ モドツチャラ。
		※カエルはあまり言わない。
25	共通語	八月には 帰って くる ようだ。

<番号>	<地域>	<共通語・方言形>
25	五箇	ハチガツニワ {モドッテクルチャラーナー/モドッテ クツチャラーナー}。
25	西郷	ハチガツニワ カエッテ {クルト/クルヨードワ}。
25	都万	ハチガツニワ モドッテ クツチャラ。
26	共通語	かあさんは あした 東京へ むすこに 会いに いく。
26	五箇	カーチャンワ アシタ トーキョーエ アンヤニ アイニ イクチャー。(「アンヤ」は長男のこと)
26	西郷	カーサンワ アシタ トーキョーエ ムスコニ アイニ イキテ クッケン。
26	都万	カーチャンワ アシタ トーキョーエ アンヤオ ミニ イキテクル。 ※アンヤ「息子(長男)」, ネーヤ「娘」
27	共通語	大阪から 東京までの 汽車賃は いくらだろうか。
27	五箇	オーサカカラ トーキョーマデノ キシャチンワ ナンボチャラーカー。
27	西郷	オーサカカラ トーキョーマデノ キシャチンワ ナンボカエー。
27	都万	マツエカラ トットリマデ キシャチン ナンボ チャラカ 。
28	共通語	四時まで 駅で まっておれ。
28	五箇	ヨチマデ エキデ マッチョイナ。
28	西郷	ヨジマデ エキデ マッチョツテヨ。
28	都万	ヨチマデ エキデ {マッチョレ / マッチョツテ}。 ※マッチョツテ(待っていてね)
29	共通語	五時までに 帰らなくては ならない。
29	五箇	ゴチマデ モドラニヤ {イケン/イケンソ}。
29	西郷	ゴジマデニ カエラナ イケンケンノ。
29	都万	ゴチマデニ モドラニヤ イケノ。
30	共通語	次郎、 この 荷物を 家まで かついで 行ってくれ。
30	五箇	チロー コノ ニモツオ イエマデ イナツテイッテ ゴシエナー。
30	西郷	チロー コノ ニモツオ イエマデ {エナツテ/カツイデ} ゴシエナ。(「エナツテ」は「背負って」の意)
30	都万	チロー コノ ニモツオ ワガントコマデ {モツテイッテ / イナツテイッテ} ゴシエナ。 ※イナウ(重たいものをかつぐ)
31	共通語	荷物が 重かったので、 二人で もった。
31	五箇	ニモツガ {オモタカッタンデ/オモテーノデ} {フタリデ/フターリデ} {モッタワ/モッタ}。
31	西郷	ニモツガ ガイニ {オモタイダケン/オモタカタノデ} フターリデ モッタワナ。
31	都万	ニモツガ {ガイニ アッタダケ / オモタカッタケ} フターデ モッタ。 ※長いものでないと イナウ は言えない
32	共通語	この 上着は このまえ 沖縄で 二千元で 買った。

<番号>	<地域>	<共通語・方言形>
32	五箇	コノ ウワギワ コノマエ オキナワデ ニシェンエンデ カッター。
32	西郷	コノ ウワギワ コノマエ オキナワデ ニセンエンデ カッター {ナ/ノ}。
32	都万	コノ フクワ {コノマエ / コノゴロ} マツエ {キタ / イッタ} トキ ニセエンデ カッター。
33	共通語	沖縄には めずらしい 菓子が ある。
33	五箇	オキナワニワ {メヅラシ/カワツタ} カシガ アツゾー。
33	西郷	オキナワニワ メッウラシー カシガ アツガノー。
33	都万	マツエニヤ メヅラシー カシガ {アルナー / アンナー}。
34	共通語	孫は お菓子が 好きだ。
34	五箇	マゴワ カシガ {スキダ/スキダゾー}。
34	西郷	マゴワ オカシガ スキダガノー。
34	都万	マゴワ カシガ スキダ ダガ。 ※～ダガ「～なんですよ」(21番も参照)
35	共通語	箱の 中に まんじゅうが いくつ あると おもうか。
35	五箇	ハコノ ナカニ マンツーガ ナンボ アルト オモーダ。
35	西郷	ハコノ ナカニ マンツーガ ナンボ アルト オモウー。
35	都万	ハコノ ナカニ マンチューガ ナンボ アルト オモー。
36	共通語	孫は まんじゅうを 皮だけ 食べる。
36	五箇	マゴワ マンツーオ カワダケ {クッチョル/クッチョルゾー}。
36	西郷	マゴワ マンツーオ カワダケ タベツガノー。
36	都万	マゴワ マンチューオ カワダケ クーダガ。
37	共通語	じいさんは 朝から 海へ 魚を とり に いった。
37	五箇	ヂーサンワ アサカラ ウミエ サカナ トリニ イッタゾー。
37	西郷	ヂーサンワ アサカラ ウミエ サカナオ トリニ イッタワナ。
37	都万	ヂーサンワ アサカラ ウミエ サカナ トレー {イクダガ / イキチョルダガ / イキツチョダガ}。
38	共通語	ここは 海に ちかいので 魚が うまい。
38	五箇	ココワ ウミニ チカイケー サカナガ ウマイナー。
38	西郷	ココワ ウミニ チカイケン サカナガ ウマイワナ。
38	都万	ココワ ウミニ チカエーダケ サカナガ ウメーガナー。
39	共通語	魚より 肉の ほうが 高い。
39	五箇	サカナヨリ ニクノ ホーガ タカイ。
39	西郷	サカナヨリ ニクノ ホーガ タカイガノー。
39	都万	イオヨリ ニクノ ホーガ タケーワイ。
40	共通語	おれは 蛸の さしみが 食べたい。

<番号>	<地域>	<共通語・方言形>
40	五箇	{オラ/オレワ} タコノ サシミガ クイテナー。
40	西郷	ワタシワ タコノ サシミガ クイタイガノー。
40	都万	{ワシヤ / オレワ} タコノ サシミガ クイテー。 ※オレは男性のみ
41	共通語	おまえは この 魚の 名まえを 知っているか。
41	五箇	ノシャー コノ サカナノ ナマエ シッチョルカー。
41	西郷	アンタワ コノ サカンナノ ナマエ シッチョッカ工。
41	都万	オメー コノ サカナノ ナマエ {シッチョッカ工 / シッチョワ}
42	共通語	これは かつおだろう。
42	五箇	{コリヤー/コラ} カツオ ダラー。
42	西郷	コイワ カツオダガノ。
42	都万	コレワ カツオ チャラーガ。
43	共通語	酒は どうやって つくるか おまえは 知っているだろう？
43	五箇	サキヤ {ドガシテ/ドゲシテ} ツクッカ ノシヤ シッチョツチャラー。
43	西郷	サケワ ドゲ ヤッテ ツクルカ アンタ シッチョッカ工。
43	都万	サケワ ドゲシテ ツクルカ {オメーワ / ノシワ} シッチョチャラ。
44	共通語	酒は 米から つくる。
44	五箇	サキヤー コメカラ ツクツダワー。
44	西郷	サケワ コメカラ ツクーワナ。
44	都万	サキヤー コメカラ ツクルダガ。
45	共通語	酒さえ あれば なにも いらぬ。
45	五箇	{サケガ/サケサエ} アリヤー ナンモ {イランワー/イランゾー}。
45	西郷	サケサエ アレバ ナンダイ イランワナ。
45	都万	サケサエ アリヤー ナンダイ イラヌ。
46	共通語	うちの じいさんは 酒も たばこも のまない。
46	五箇	ウチノ チーサン サケモ タバコモ ノマンゾー。
46	西郷	ウチノ チーサンワ サケモ タバコモ {ノマン/ノマン} チヤー。
46	都万	{ラントノ / ワガトコノ} チーワ サケモ タバコモ ノマノ。 ※ラント「うち」。ラ「自分、わたし」
47	共通語	その 水は のむな。のむなら この 水を のめ。
47	五箇	ソノ ミザ ノムナヨー。ノムナラ コノ ミズ {ノメナー/ノメヨー}。
47	西郷	ソノ ミズワ {ノムナ/ノンダラ イケンヨ}。ノムナラ コノ ミズオ ノマツシャイナ。
47	都万	ソノ ミヅワ ノムナイヨ ノムナラ コノ ミズ ノメナ。
48	共通語	なぜ おまえは たべないのか。
48	五箇	ナーシェ ノシヤ クワンダ。

<番号>	<地域>	<共通語・方言形>
48	西郷	{ナエ/ナンデ} アンタワ {クワンカノ/タバランカノ}。
48	都万	ナーシェ オマエワ {クワヌカ / タベナイカ}。
49	共通語	おれは さつまいもなんか 食べないぞ。
49	五箇	オラ {イモナンカ/イモヤナンカ} クワンゾー。
49	西郷	ワタシワ サツマイモナンカ {クワン/タバラン} ワナ。
49	都万	ワシャ サツマイモダナンカ {クワヌ / クワンゾ}。 cf バレーショ「じゃがいも」
50	共通語	もう 食べられる ものは 全部 食べた。
50	五箇	モー クワレル モノワ ミンナ クッタ。
50	西郷	モー {タバラレル/クエル} モンワ モー {ゼンブ/ミンナ} {タバタケン/クッタケン}。
50	都万	マー {クワレル / クエル} モノワ ミンナ クッタ。
51	共通語	食べて ねるだけなら いぬや ねこと おなじだ。
51	五箇	クッテ ネルダケナラ イヌヤ ネコト イッショダ。
51	西郷	{クッテ/タバテ} ネルダケ {ナラ/ダッタラ} イヌヤ ネコト オンナジダナ。
51	都万	クッチャ ネルダケナラ イヌヤ ネゴト オンナチダ。
52	共通語	さとうは あまい。くすりは あまくない。
52	五箇	サトーフ アメー。クスリワ アマーネーゾー。
52	西郷	サトーフ アマイガノー。クスリワ アマク ナイガノー。
52	都万	サトーフ アマイダイド クスリワ アマーナイケ。
53	共通語	去年 いとこが 中学の 先生に なった。
53	五箇	キョネン イトコガ チューガクノ シェンシェーニ ナッタ。
53	西郷	キョネン イトコガ チューガクノ センセーニ ナッタヨ。
53	都万	キョネンワ イトコガ チューガッコーノ センセーニ ナッタダガ。 cf ナルチョワ「なるらしいよ」
54	共通語	いここは 英語の 本が 読める。
54	五箇	イトコワ エーゴノ ホンガ ヨメル。
54	西郷	イトコワ エーゴノ ホンガ ヨメツダガー。
54	都万	イトコワ エーゴノ ホンガ ヨメツダガ。
55	共通語	あの 人こそ ほんとうの 金持ちだ。
55	五箇	アリヤ ホントノ {ゼニモチダ/ゼニモチダゾー}。
55	西郷	アノ サンコソ ホントノ カネモチダヨー。
55	都万	{アエワ / アノ ヒトワ} ホントニ ゼンモチダゾ。
56	共通語	その 話は 妻にだけ 聞かせた。
56	五箇	ソノ ハナシワ カカニダケ {キカシエタワー/イッタワー}。
56	西郷	ソノ ハナシワ {オカーサンダケニ/ツマダケニ} キカセタケンノー。

<番号>	<地域>	<共通語・方言形>
56	都万	コノ ハナシワ カカニダケ キカセタ。 カカ「母, 妻, 家内」, カカヤン「お母さん」, トトヤン「お父さん」
57	共通語	妻に 夕飯を 作らせる。
57	五箇	カカニ バンメシ {ツクラシエウワー/ツクラシエッケンナー}。
57	西郷	{ツマニ/オカーサンニ} ユーハンオ ツクラセル。
57	都万	カカニ ユーハンオ ツクラスル。 ※「夕飯」はシメーオ（終いを）とも。シメーニカカル（夕飯にかかる）, シメーショーゾー（夕飯をしよう）など。
58	共通語	夫は 竹で かごを つくった。
58	五箇	オヤヂワ タケデ カゴオ ツクッタゾー。
58	西郷	オットワ タケデ カゴー ツクッタヨー。
58	都万	{チーサンワ / トーチャンワ} タケデ カゴ ツクッタワ。 ※「夫」が年配の場合の表現
59	共通語	次郎は おとうとの 三郎と けんかした。
59	五箇	アンヤワ オチト ケンカシタワ。（「アンヤ」ハ「長男・兄」, 「オチ」ハ「二男以下・弟」）
59	西郷	チローワ オトートノ サブロート ケンカ シタ{ダワ/ジャー}。
59	都万	チローワ オチト ケンカシタ。
60	共通語	三郎は 次郎に 棒で なぐられた。
60	五箇	オチワ アンヤニ ボーデ {タタカレタワ / タタカレタチョワ（人から聞いたことを報告する時）}。
60	西郷	サブローワ チローニ ボーデ ナグラレタ（ジャ）。
60	都万	オチワ チローニ ボーデ タタカレタ。
61	共通語	次郎は じいさんに しかられた。
61	五箇	オチーワ チーサンニ オコラレタワ。
61	西郷	チローワ チーサンニ シカラレタ（ジャ）。
61	都万	チローワ チーニ オコラレタ。
62	共通語	おれは きのうは 新聞を よまなかった。
62	五箇	オラ キノー シンブンオ ヨマザッタ。
62	西郷	ワタシワ キノーワ シンブンオ {ヨマナカッタ/ヨマンカッタ} ヨー。
62	都万	ラーワ {キノー / コノゴロ} シンブン ヨマチャッタ。
63	共通語	その 新聞は きょうのだ。きのうのは これだ。
63	五箇	ソノ シンブンワ キョーノダ。キノーノワ コイダ。
63	西郷	ソノ シンブンワ キョーノダ（ヨー）。キノーノワ コイダワヨ。
63	都万	ソノ シンブンワ キョーノダイド キノーノワ コイダ。
64	共通語	雨の ふる 日には ばあさんは 家で テレビばかり 見ている。

<番号>	<地域>	<共通語・方言形>
64	五箇	アメフリ {ニヤー/ニワ} バーサンワ ワガトコデ テレビバカリ {ミチヨルワ/ミチヨウワ}。
64	西郷	アメノ フルヒワ バーサンワ イエデ テレビバッカリ ミチヨッケンノー。
64	都万	アメガ フルトキャ バーサンワ {ワガントデ / イエデ} テレビバッカリ ミチヨル。
65	共通語	お祝いの ときには ばあさんまで おどった。
65	五箇	イワイノ トキヤー バーサンマデ オドッタ。
65	西郷	オイワイノ トキニ バーサンマデ オドッタジヤー。
65	都万	イワイノ トキニヤー バーサンマデガ オドッタダガ。
66	共通語	花子は きのうから 病気で ねている。
66	五箇	ハナコワ キノーカラ ヤンデ ネチヨルワ。
66	西郷	ハナコワ キノーカラ ビョーキデ ネチヨツヤ。
66	都万	ハナコワ キノーカラ アンバーガ ワルーテ ネチヨル。
67	共通語	花子は かあさんに ごはんを たべさせて もらった。
67	五箇	ハナコワ カーチャンニ ママオ クワシテ モラッタ。
67	西郷	ハナコワ カーサンニ ゴハンオ {タバサセテ/クワセテ} モラッタ。
67	都万	ハナコワ カーサンニ ゴハンオ クワセテ マッタ。
68	共通語	医者が くれた くすりを のめば なおるだろう。
68	五箇	イシャガ ゴイタ クスリオ ノミヤー ナオルダラー。
68	西郷	イシャカラ モラッタ クスリオ ノメバ ナオット。(伝聞の表現)
68	都万	イシャガ ケタ クスリ ノミヤー ナオルケ。 cf イシャニマッタ「医者にもらった」
69	共通語	かあさんは 市場へ 買物に 行った。
69	五箇	カーチャンワ イチバエ モノ カイニ イッタゾー。
69	西郷	カーサンワ イチバエ カイモノニ イッタヨー。
69	都万	カーサンワ イチバエ カイモノニ {イキチヨル / イキチヨッケン}
70	共通語	道で 学校の 先生に 会った。
70	五箇	ミチデ ガッコーノ シエンシェーニ デアッタ。
70	西郷	ミチデ ガッコーノ センセーニ アッタヨー。
70	都万	ミチデ ガッコーノ センセーニ デアッタ。 ※ミル(会いに行く), デアウ(偶然会う)
71	共通語	なにを 買おうか。
71	五箇	ナニオ カウダヤ。
71	西郷	ナンオ {カワー/カオー} カナー。
71	都万	ナニ カワーヤラ。
72	共通語	和子のと おなじ げたを 花子にも かってやろう。

<番号>	<地域>	<共通語・方言形>
72	五箇	カヅコト {オナチ/オンナチ} ゲタオ ハナコニモ カッテヤラーカ。
72	西郷	カズコト オンナジ ゲタオ ハナコニモ カッテ ヤラーカナ。
72	都万	カヅコト オンナチ ゲタオ ハナコニモ カッテヤラーカ。
73	共通語	和子と 花子は 友だちだ。
73	五箇	カヅコト ハナコワ チンカモダケン。(「チンカモ」は「友達」の意)
73	西郷	カズコト ハナコワ トモダチダワ。
73	都万	カヅコト ハナコワ {ナカヨシ / チンカモ} ダケー。 ※チンカモは大人のみ
74	共通語	花子は 顔が かあさんに よく 似ている。
74	五箇	ハナコワ カオガ カーチャンニ ヨー ニチョンガナー。
74	西郷	ハナコ カオガ カーサンニ ヨー ニチョッガノー。
74	都万	ハナコワ カオガ カーサンニ ヨー {ニチョルケ / ニチョルワ}。

隠岐の島 都万方言集

あ

青い(あおい) ア[オ]イ〜ア[ウエ]ー 例:[ウ]メ
[ガ] [マ]ダ ア[オイ]ョー]ワ。(梅がまだ青
いというよ。)

アオサ(あおさ) [ア]オ[サ 例:[ア]ス[コ]ノ イ
[ケ]ニ [ア]オ[サ]ガ [ド〜ント デ]キ[チヨ]
ルガ[ノ]ー。(あそこの池にあおさがたくさん
できているよ。)

垢(あか) [ア]カ 例:フ[ロ]ニ イッテ [ア]ラワ
ザッターシ[テ]カラ ア[カ]ガ [ツ]ク。(風呂に
行って洗わなかったりして垢が付く。)

暁(あかつき) [ア]カツキ/[ア]ケガタ

明かり(あかり) [ア]カリ 例:コ[ノ]ゴ[ロ]ワ [ヒ]
ガ ミ[ジ]カー [ナ]ッテ ハ[ヤ]ーカラ [ア]
カリ ツ[ケ]ニャー イ[ケン]ガ[ナ]ー。(この
頃は日が短くなって早くから明かりくを>つ
けなければならないよ。)

秋(あき) [ア]キ 例:[ア]キニ [ナ]ッたら [ア]
ス[コ]ニ クリガ [ナ]ッちョッタケン クリト]
リ [イ]カー[ヨ]ー。(秋になったらあそこに栗
がなっていたから栗取りくを>行こうよ。)

欠伸(あくび) [ア]ク[ビ] 例:[ア]クビガ デルワ。
(あくびが出るよ。)

口蓋(あご) [ア]ゴ 例:ア[ゴ]ガ [ハ]ズレ[タ]。
(あごが外れた。)

朝(あさ) [ア]サ 例:ア[サ]ヒガ サ[サ]ーデカ
ラ サ[ミ]ーガ[ノ]ー。(朝日が差さないので

寒いよ。)

浅瀬(あさせ) ア[サ]セ 例:[シヨ]ー]ノ ハ[マ]
ノ [ト]ー]アサノ ア[サ]セガ [マ]ー ホ[ト]ン
ド [リ]ク[ニ ナ]ッテ [シ]マイカ[ケ]タ[ナ]ー。
(潮の浜の遠浅の浅瀬がまあほとんど陸に
なっけしまいかけたな。)

明後日(あさって) ア[サ]ッテ 例:ア[サ]ッテヤ
ナンカ [サ]キ[ノ] コト [イ]ッタテテ ワ[カ]ラ
ー[ツ]ケ。(明後日だなんか先のこと言っけ
てわからない。)

朝食(あさめし) ア[サ]メシ 例:ア[サ]メシワ
[ス]ンダ[カ]。(朝ごはんは済んだか?)

味(あじ) ア[ジ] 例:[ア]ン]マリ [ア]ジ[ガ] シ
ェ]ン[ナ]ー。(あんまり味がしないな。)

足(あし・どこをさすか) [ア]シ 例:ア[シ]ガ イ
[タ]ーテ ア[ル]クニ コ[タ]エ]ル。(足が痛く
て歩くくの>にこたえる。)

明日(あした) [ア]シ[タ 例:[ア]シ[タ] [マ]タ
[ク]ルケ。(明日また来るから。)

汗(あせ) [ア]シェ 例:[ア]シェオ カ[ク]。(汗
をかく。)

畦道(あぜ) [ア]ゼ 例:ア[ゼ]カ[リ]ガ [タイ]
ヘンダケ[ナ]ー。(畦刈りが大変だからな。)

彼処(あそこ) [ア]ス[コ 例:[ア]ス[コ] イ]カ
[ー]ヨ。(あそこ行こうよ。)/[ア]ス[コ]ニ [シ
ー]ガ [オ]チ[チョッタ]ケ ヒ[ロ]イ [イ]カ[ー]
ヨ。(あそこに椎のみが落ちていたから拾い

に行こうよ。)

暖かい(あたたかい) 又[ク]イ 例:[チー]ト

[ハ]ルニ [ナツ]タケ [チー]トワ [ヌ]クー
[ナツ]タガ[ノ]ー。(ちよっと春になったからち
よっとは暖かくなったよ。)

頭(あたま) [ア]タ[マ 例:[ア]タ[マ]ガ イタイ。

(頭が痛い。)/[ア]タ[マ]オ [ア]ラ[ワ]ニヤ
[イ]ケンデ。(頭を洗わなければいけないか
ら。)

跡(あと) [ア]ト 例:ワ[タシラ]ン [ト]コ[ロ]オ

シ[カマ]ンダ チューケド [ソイ]ワ カ[マ]ガ
[ア]ッタ [ア]トダツチュワ。(私たちのところを
『しかまんだ』というけど、それは窯があった
跡だというわ。)

穴(あな) [ア]ナ 例:[ア]ノ カベニヤ ア[ナ]

ガ [アイ]ョル[ナ]ー。(あの壁には穴が開
いているな。)

貴方(あなた) [ア]ンタ 例:[ア]ンタ [シテ]ナ。

(あなたがしてください。)

貴方たち(あなたたち) [アンタタ]チ(上へ)

例:[アンタタ]チ [シテ]ナイ。(あなたたちが
してください。)

肋骨(あばらぼね) ア[バ]ラボネ 例:ア[バ]ラ

ボネガ [オ]レ Chol。(あばら骨が折れてい
る。)

油(あぶら) [ア]ブラ

甘い(あまい) ア[マ]エー 例:[サ]トーワ ア[マ]

エーガ[ナ]ー。(砂糖はあまいよね。)

網(あみ)(魚を獲るあみ) [ア]ミ 例:ア[ミ]ワ

[ナカナカ [テ]イレガ [タイヘン] ダケン

[ナ]ー。(網はなかなか手入れが大変だから
ねえ。)

雨(あめ) [ア]メ 例:[ア]メフリガ ツ[ズク] コ

[ト]ダガ[ナ]ー。(雨降りが続くことだよ。)

綾,模様(あや) [ア]ヤ(使わない)/[ガ]ラ(柄)

例:ガ[ラ]ガ [イー]ガ[ノ]ー。(柄がいいね。)

蟻(あり) ア[リ 例:[コ]トシワ [ナーセ]ダラ

[アリガ] イッ[ト]ダガ[ナ]ー。(今年は蟻が多
いよ。)

彼れ(あれ) [ア]レ 例:ア[レー] コ[マツ]タケ。

(あれ困ったから。)

粟(あわ) [ア]ワ 例:ア[ワ]ワ ム[カシ]ワ アワ]

モチモ [シタ]ダイド [イ]マワ モー [ダ]イ
[ダ]イ ツ[クラ]ンケノー。(粟は粟餅もしたけ
れども、今はダレモ作らないからねえ。)

泡(あわ) [ア]ワ 例:シ[ケ]タ ト[キニ]ワ [ア]

ス[コ]ノ [ワ]ン[ド]ニワ [ガイ]ニ ア[ワ]ガ
デ[キ]ルガ[ナ]ー。(時化た時にはあそこの
湾にはたくさん泡ができるよね。)

い

家(いえ) [イ]エ 例:イ[エ]ニ オ[ル]。(家にい

る。)

烏賊(いか) イ[カ 例:[コ]ト[シ]ワ ア[カ]イカ

ガ [ヨッテ ク]ルジャラーカ。(今年は赤いか
が寄ってくるだろうか。)

息(いき) [エ]キ 例:[ア]ノ [ヒ]ト[ワ] ジェンソ

クダケ [エ]キガ フ[ケ]ルワ。(あの人は喘
息だから息が切れる。)

幾つ(いくつ) [ナン]ボ 例:[アン]タ [ナン]ボ

ン [ナツ]タノ。(あなたいくらになったの。)

幾ら(いくら) [ナン] [ボ] 例:[コイ] [ナン] [ボ] [ダ]
[ノ]一。(これいくらだね。)

いさり(夜の漁) ヨ[サ] [デ] 例:[マ] [エ] [ワ] [ナー]
[ヨ]一 ヨ[サ] [デ] ニ イ[キ] [ヨ] [ツ] [タ] [ダ] [イ] [ド]。(前
はねえ、よくいさりに行ったのだけど。)

松明(いさりに使用) [テ] [ア]一[ソ] (イ)

石(いし) [イ] [シ] 例:イ[シ] [ガ] アッ [キ]一[ツ] [ケ]
[ヨ] [ア] [ブ] [ネ] [ア]一[ケ]。(石がある。気を付け
る。危ないから。)

板(いた) [イ] [タ] 例:コ[ノ] イ[タ] [マ] [ガ] [ツ] [チ] [ヨ]
[ル] [ナー]。(この板<は>曲がっているな。)

まな板(いた) マ[ナ] [イ] [タ] / [古] [キ] [リ] [バ] 例:
マ[ナ] [イ] [タ] [ガ] [ボ] [ロ] ニ [ナ] [ツ] [タ] [ケ] [カ] [イ] [タ]
[ワ] [イ]。(まな板が古くなったから換えたよ。) /
[キ] [リ] [バ] [ガ] [ボ] [ロ] ニ [ナ] [ツ] [タ] [ケ] [カ] [イ] [タ] [ワ]
[イ]。(まな板が古くなったから換えたよ。)

苺(いちご) イ[チ] [ゴ] 例:イ[チ] [ゴ] [ワ] [ア] [マ] [イ]
[ガ] [ノ]一。(苺はあまいよね。)

何時(いつ) [イ] [ツ] 例:[イ] [ツ] イ[カ] [ツ] [シ] [ヤ] [ル]。
(いつ行かれるの?)

五つ(いつつ) イ[ツ] [ツ]

糸(いと) [イ] [ト] 例:[イ] [ト] [ノ] [ヤ]ー [ニ] ホ[ソ] [イ]
[ヨ]一。(糸のように細いよ。)

井戸(いど) [ユ] [ド] 例:[ユ] [ド] [ガ] [ナ] [ク] [ナ] [ツ] [テ]
[フ] [ベ] [ン] [ダ] [ネ]一。(井戸がなくなって不便だ
ね。)

従兄弟(いとこ) イ[ト] [コ] 例:イ[ト] [コ] [ガ] [ヨ] [ケ]
[ダ]。(従兄弟がたくさんだ。)

稲光(いなびかり) イ[ナ] [ビ] [カ] [リ] 例:イ[ナ] [ビ]
[カ] [リ] [ガ] [ユ]ー [ベ] [ワ] ス[ゴ] [カ] [ツ] [タ] [ガ] [ナ]

一。(稲光が昨夜はすごかったよ。)

犬(いぬ) [イ] [ヌ]

稲(いね) [イ] [ネ] 例:[イ] [ネ] [ガ] [モ]ー [カ] [ル]
[ヨ]ー [ニ] [ナ] [ツ] [タ] [カ] [ノ]一。(稲がもう刈るよう
になったかね?)

命(いのち) イ[ノ] [チ]

今(いま) [イ] [マ] 例:[イ] [マ] [ナ] [ン] シ[チ] [ヨ] [ン]
[ノ]。(今何しているの。)

芋(いも) [イ] [モ] 例:[イ] [モ] [ホ] [リ] ニ イク。(芋
<を>堀に行く。)

妹(いもうと) [オ] [バ] / 呼ぶときは名前と呼ぶ
例:[ア] [ノ] オ[バ] [ニ] ヤ コ[マ] [ツ] [チ] [ヨ] [ツ]。(あの
妹には困っている。)

海豚(いるか) [イル] [カ] 例:[イル] [カ] [ナ] [ン] [カ]
コ[コ] [ラ] ニ [ア] [ン] [マ] [リ] オ[ラ] [ン] [ガ] [ノ]一。(いる
かなんかここらにあんまりいないねえ。)

刺青(いれずみ) [イレ] [ズ] [ミ] 例:[ア] [ス] [コ] [ノ]
[ア] [ン] [ヤ] [サ] [ン] [ワ] [イレ] [ズ] [ミ] シ[チ] [ヨ] [ツ] [ジ] [ヤ]。
(あそこのお兄さんは入れ墨<を>している
よ。)

色(いろ) [イ] [ロ] 例:[ユ]ー [ヤ] [ケ] [ガ] ス[ゴ] [イ]
[リ] [ツ] [パ] [ナ] [イ] [ロ] [ダ] [ツ]。(夕焼けがすごい美
しい色だった。) / ヤ[マ] [ノ] イ[ロ] [ガ] キ[レ]
一[ダ]。(山の色がきれいだ。)

囲炉裏(いろり) [イ] [ロ] [リ] 例:[イ] [ロ] [リ] ニ [ヒ] [ガ]
ア[ル] [ケ] ア[ブ] [ナ] [エ]一[ケ] [ア] [タル] [ナ] [ヨ]。
(囲炉裏に火があるから危ないから当たるな
よ。) / [イ] [ロ] [リ] [デ] [ネ]一 [ナ] [ベ] [ネ] [ツ] [ル] [シ]
[テ] [オ] [カ] [ユ] [オ] [ツ] [ク] [ツ] [タ] [リ] チャ[ビ] [ン] [デ]
[ネ]一 [オ] [ユ] [オ] [ワ] [カ] [シ] [タ] [リ] シ[マ] [シ] [タ]。

(囲炉裏でね、鍋ね、つるしておかゆを作ったり、茶瓶でねえ、湯を沸かしたりしました。)

う

上(うえ) ウ[エ] 例:[ホ]ンワ タ[ナノ] [ウ]エ[ニ]オ[ケ]。(本は棚の上に置け。)

牛(うし) ウ[シ] 例:ウ[シズキニ] ダ]スヨーナウシワ [ガイナ]ガ[ノ]ー。(牛突きに出すような牛は大きいよ。)

蛆(うじ) [ウ]ヂ 例:イ[マ]ゴロワ [イ]ー [ウ]ジコロシ]ガ [ア]ルダケン [スクナーナ]ツタワ[ナ]ー。(今頃はいいうじ殺しがあるから少なくなったわな。)

後ろ(うしろ) [ウ]シ[ロ] 例:[ラント]ノ [ウ]シロニ [タ]ガ [ア]ル[ヨ]。(私の家の後ろに田があるよ。)

臼(うす) [モ]チツキ[ウ]ス/[イ]シ[ウ]ス 例:[ウ]スオ ハ[コブ]ケー [チー]ト [ヒト] {ア[ツ]メテ [キ]テ/[ヨ]ンデ キテ} ゴ[シエ]ナイ。(臼を運ぶからちょっと人くを>集めてきてください。)

鶉(うずら) ウ[ズ]ラ 例:ウ[ズ]ラノ タ[マ]ゴワコ[ノ]ゴラ [ヨ]ク ク[ワレル] ジ[ヤ]。(ウズラの卵はこの頃はよく食われるというよ。)

嘘(うそ) [ウ]ソ/[ホ]ラ 例:[ア]ス[コ]ノ オ[バ]サンワ ウ[ソ]ツキダチョコガ[ノ]ー。(あそこのおばさんはうそつきだというよ。)/[ホ]ラ [ヒ]ータリ スッガ[ノ]ー。(嘘ついたりするよ。)

歌(うた) [ウ]タ 例:ウ[タノ] [ヂョー]ズナ [フ]ト[ガ] ゴ[ザッダ]イド カ[ラ]オケモ [セ]ン[ダ]ケナー。(歌の上手な人がいらっしゃるけ

れど、カラオケもしないからな。)

内(うち) [ウ]チ 例:[ウ]チ [ハイ]ラー[ヨ]イ。(内に入ろうよ。)

美しい(うつくしい) [リッ]パナ 例:[オー]ケーダ[リ]アガ リッ[パ]ニ [サイ]チョー[ワ]ー。(大きなダリアが美しく咲いているよ。)

腕(うで・どこをさすか) [ウ]デ 例:[ウ]デガ イタイ。(腕が痛い。)

鰻(うなぎ) ウ[ナ]ギ 例:ウ[ナ]ギワ [ヨ]ズリニイ[キヨッタ]ケド[ナ]ー。(うなぎは夜釣りにいっていたけどねえ。)

雲丹(うに) [ウ]ニ 例:ウ[ニ]ワ [サイ]キン マ]レナ[チョーワ]ナ。(雲丹は最近まれだというよ。)

馬(うま) [ウ]マ 例:ウ[マ]オ [カッ]チョル [ヒ]ト[ガ] オラン[ヨ]ーニ ナッタ。(馬を飼っている人がいないようになった。)

海(うみ) [ウ]ミ 例:[ウ]ミワ [メ]ズラ[シ]ーコト[ア]ラ[ヘンワ]ー。(海はめずらしいことはないわ。)

梅(うめ) ウ[メ] 例:[ウ]メ[ワ] ハ[ナ]ノ トキワリッ[パナ]ダイド [ミ]ガ [ナッ]タリ ナ[ランカ]ッタリ スッガ[ノ]ー。(梅は花のときはりっぱだけれど、実がなったりならなかったりするよ。)/[ウ]メ[ワ] スイー]ジヤ。(梅はすっぱいよ。)

裏(うら) [ウ]ラ 例:キ[レ]ノ [ウ]ラダワ[ナ]ー。(布の裏だわねえ。)/ウ[ラ]オモテニ シ[テ]キ[リヤ] [イ]ーノニ[ノ]ー。(裏表にして切ればいいのにね。)

瓜(うり) [ウ]リ 例:[オ]ーウリト [コ]ウ[リ]ト
[ア]ルケ[ノ]ー.[オ]ーウリワ ナ[ラ]ズケニ
ス[リ]ャ イーガ[ノ]ー。(大瓜と小瓜とあるか
らねえ。大瓜は奈良漬けにすればいいよ
ね。)

漆(うるし) ウ[ル]シ 例:ウ[ル]シワ マ[ケル]ケ
ニ [アタル]ナ[ヨ]ー。(漆はかぶれるから触る
なよ。)

嬉しい(うれしい) ウ[レ]シー 例:[キョ]ーワ
[アカ]チャンガ [ウマレテ ウ[レ]シージ[ヤ
ー。(今日は赤ちゃん生まれてうれしいよ。)

鱗(うろこ) [ウ]ロ[コ] 例:[ウ]ロ[コ] オトサ]ニヤ
[クワレ]ン[ゾ]。(鱗<を>おとさなければ食べ
られないよ。)

え

柄(え) エ 例:[カ]サノ [エ]ガ [オ]レタ[ヨ]ー。
(傘の柄が折れたよ。)

海老(えび) エ[ビ] 例:[エ]ビ[ワ ヤイ]テ クー
ト ウ[マイ]チャー[ワ]。(エビは焼いて食べると
美味しいというよ。)

襟(えり) [エ]リ 例:ア[レー エ[リ]ガ ホ[ツ]レ
テ [ヤ]ブレ[カケ] Chorl。(あれ 襟がほつ
れて破れかけている。)

お

緒(お) オ 例:ゲ[タ]ノ オガ [キ]レテ テ[ヌ]
グイ [シエ]ーテ ナ[オシ]タ[チ]ョガナ。(下駄
の緒が切れて手拭い<を>裂いて直したと
いうよ。)

甥(おい) 名前と呼ぶ 例:[ウ]チノ ○○ガ
[メ]ーワク [カ]ケテ [スンマセ]ンガ[ノ]ー。

(うちの○○が迷惑かけてすみませんね。)

お祝い(おいわい) [イ]ワ[イ]〜[イ]ワエ[ー 例:
[ア]スコ[ニ]ワ [ヨメ]サンガ [ク]ルケ [イ]ワエ
[ー]ガ [ア]ツ[チュ]ガイ。(あそこには嫁さんが
来るから祝いがあるというよ。)

大きい(おおきい) [ガ]イ[ナ 例:[ア]ス[コ]ニ
[ガ]イ[ナ [ア]ン]ヤ[サ]ンガ [オ]ツ[タ]ガ[ナ]
ー。(あそこに大きなお兄さんがいたよ。)/
[ガ]イ[ナ ア[ワ]ビ]オ [ト]ツ[タ]チュワ。(大きな
あわびを採ったというよ。)

丘(おか) オ[カ 例:[ア]ス[コ]ノ [オ]カ[ニ
[ノ]ボツテ[ミ]ーナ [ナ]カ[ナ]カ [イ]ー [ケ]
シキダ[ゾ]。(あそこの丘に上ってみろよ。な
かなか良い景色だぞ。)

母(おかあさん) オッ[カ]ー/[カ]ー[チ]ャン(保
育所に行くようになる頃)/オ[カ]ー[サ]ン(標
準語)/[カ]カ(他人に対して使う卑下した
言い方)

奥(おく) [オ]ク 例:[コ]ツカラ [オ]クイ [ハイ]
ルカ[ノ]ー。(ここから奥へ入るかな。)

桶(おけ) [オ]ケ 例:[オ]ケオ [メ]グナ[ヨ]ー
(桶を壊すなよ。)

叔父(おじ) オ[ジ]サン/[オ]ツ[ツ]ァン 例:○
○(屋号)ノ [オ]ツ[ツ]ァンニ [モ]ラッタ。(○
○の叔父さんにもらった。)

祖父(おじいさん) [ジ]ー/[ジ]ー[サ]ン/[ジ]
ー[ジ] (孫が呼ぶとき) 例:[ラ]ントノ [ジ]ーワ
[ヨ]ー [ノ]ムダ[ガ]ー。(うちの爺さんはよく
(酒を)飲むよ。)

おじさん達(おじさんたち) [オ]ツ[ツ]ァン 例:○

○(屋号)ノ [オツ]ツァン。(○○(屋号)のお
じさん。)

夫(おっと) [ダ]ン[ナノ]呼ぶときは[トー]チャン
(若いとき)、[ジー]サン(年をとったとき)
例:[ダ]ン[ナノ] [ナ]マ[エ ヨブ ヒト]ワ イ
[ナ]カッタ[ナ]。(旦那の名前くを>呼ぶ人は
いなかった。)

お出来(おでき) [デ]モ[ノ] 例:[デ]モ[ノ]ガ
デタ。(できものが出来た。)

音(おと) [オ]ト 例:[ユ]ー[ベ]ア [ガイナ
[カ]ゼ[ノ] オ[ト]デ ケアー [ネ]ラレ[ザ]ツタ。
(昨夜はすごい風の音で本当に寝られなか
った。)

父(おとうさん) [トツ]ツァン(古)ノオツ[ト]ー(小
さい時に使う)ノ[ト]ーチャン(保育所に行く
ようになる頃)ノオ[ト]ーサン(標準語)ノ[ト]ト
(他人に対して使う卑下した言い方) 例:オ
[ト]ーサンニ ニ]チョル。(お父さんに似てい
る。)

弟(おとうと) [オ]ジノ呼ぶときは名前と呼ぶ
例:[ア]ノ オ[ジ]ガ [ホント] ワ[リ]ーダケン。
シ[マ]ツニ オ[エ]ンワイ。(あの弟がほんと
に悪いから。始末に負えないよ。)

男(おとこ) [オ]ト[コ]ノ[オト]コラ(複数)ノ[オト
コ]シ(複数・丁寧) 例:[オ]ト[コ]ラノ[オ]ト
[コ]シ} コッチ。(男たちはこっち。)

一昨日(おととい) [オ]ト[ツ]イ 例:[オ]ト[ツ]イ
イ[ク イツ]ツァンツァネ。(一昨日行くと
言っていたじゃないか。)

一昨年(おとし) [オ]ト[ド]シ 例:[オ]ト[ド]シ

ウ[マ]レタ [ヒト]ガ オツ[ジャ]ラーカ。(おと
とし生まれた人がいるだろうか。)

踊り(おどり) [オ]ド[リ] 例:[ム]カ[シ]ワ [ヨー
オ]ドリオッタダイド。(昔はよく。踊っていたけ
れど。)

同じ(おなじ) オン[ナ]ジ 例:[ア]ス[コ]ノ [コ]
ト ウ[チ]ノ コト オン[ナ]ジ ナ[マ]エダ[チ
ヨ]ワ。(あそこの子とうちの子と同じ名前だと
いうよ。)

鬼(おに) [オ]ニ 例:[ア]ス[コ]ノ [オツ]ツァン
ワ ス[ゴ]イ オ[ニ]ノ ヨーナ カ[オ] シ[チ
ヨ]ル。(そこのおっさんはすごい鬼のような顔
している。)

兄(おにいさん) [アン]ヤノ[アン]ヤサンノ[ア
ン]チャンノ呼ぶときは名前を付けて○○ア
ンチャンと呼ぶ 例:[アン]チャンガ [セ]ナ
イ[ケ]ンケ。(お兄さんがしなければいけない
から。)

姉(おねえさん) [ネ]ーチャノ呼ぶときは名
前を付けて○○ネーチャンと呼ぶ 例:[コ]ラ
[ネ]ーチャノガ [オー]ケナ[ケ] [ネ]ー]チャン
ガ [セ]ナ イ[ケ]ン[ヨー]。(これはお姉さん
が大きいからお姉さんがしなければいけない
よ。)

斧(おの) マ[サ]カリ 例:マ[サ]カリデ [[タ]キ
[ギ]オノフ[ロ]ギオ} ワ[ル]。(斧で{薪をノ風
呂木を}割る。)

叔母(おば) オ[バ]サン 例:○○(屋号)ノ オ
[バ]サンニ [モ]ラッタ。(○○の叔母さんにも
らった。)

祖母(おばあさん) [バ]バ/[バー]サン/[バ]

ーバ(孫が呼ぶとき) 例:[ア]ス[コ]ノ [バ]
ーサンワ [メ]ー [ツ]メテ ハ[タ]ラクケン。
(あそこの婆さんは根を詰めて働くから。)

帯(おび) [オ]ビ 例:[オ]ビワ [マ [ミンナ
[クズ]シテシ[マツ]テ [モ]ノモ[ノ]ニ シ[タ]
ジ[ヤ]。(帯はまあ、みんな崩してしまって
色々なものにしたよ。)

お前(おまえ) [ア]ンタ 例:[ア]ンタ [シテ]ナ。
(あなたがしてください。)

お前達(おまえたち) [アンタ]ラ(下へ) 例:
[アンタ]ラ [セー]ナ。(お前たちがしなさい。)

表(おもて) [オ]モ[テ] 例:ウラ [オ]モ[テ]ニ
シテ キ r ヤ イーノニノー。(裏表にして切
ればいいのにね。)/ア[ノ] フト [オ]モテ
[カ]ト オ[モ]ヤー ウ[ラ]ガエシニ キ[チョ]
ルソー。(あの人表かと思えば裏返しに着て
いるよ。)

母屋(おもや) [オ]モヤ 例:[オ]モヤニ [オル
ハズ]ダガ[ナ]ー。(母屋にいるはずだけど
な。)

親(おや) [オ]ヤ 例:オ[ヤ]ノ [シゴトオ チ]
ー[ダ]。(親の仕事を継いだ。)

親子(おやこ) オ[ヤ]コ 例:[ア]ス[コ]ノ オ[ヤ
コ]ワ [ナ]カガ [イ]ーケ[ナ]ー。(あそこの親
子は仲がいいからねえ。)

女(おんな) [ニョ]ーバ/[ニョ]ーバラ(複数形)
/[ニョ]ーバシ(複数・丁寧) 例:{[ニョ]ー
バラ/[ニョ]ーバシャ} コッチ。(女たちはこ

っち。)

か

蚊(か) カ 例:[ユ]ー[ベ]ワ [カ]ニ [カマレ
テ] カ[イー]ワイ。(昨夜は蚊に噛まれて痒
いわい。)

貝(かい) [カ]イ/[ゴ]ンペ 例:[カ]イモ イ[ロ
イ]ロ [アツ]テ[ノ]ー。(貝もいろいろあってね
え。)

櫂(かい) [カ]イ/ロ 例:[コ]コ[ニ サ]ス モン
ガ [ア]ツテ [オー]キナ [カ]イオ [モ]ツテ
コー ヤツテ [フ]ネガ [ススミヨ]ッタデシタ
ガネ。(ここに差すものがあって大きな櫂を持
ってこうやって進んでいましたよ。)/[ロ]ワ
[サ]キエ [ススム モン]ダシ。(櫂は先へ進
むものださい。)

蚕(かいこ) オ[カ]イコサン/[カ]イコ 例:コ
[ド]モノ コ[ロ]ニワ オ[カ]イコサン オ[カ]イ
コサン ユーテ [オ]ガ ツキ[ヨ]ッタニ[ネ]。
(子供のころにはお蚕さんお蚕さんと言って
[お]がついていたのにね。)

蛙(かえる) カ[エ]ル 例:コ[ノ]ロゴラ カ[エ]
ルガ オ[ラヌヨ]ーニ [ナ]ッタガ[ナ]ー。(こ
の頃は蛙がいないよ。うになったよ。)

面(かお) カ[ウオ] 例:[カ]ウオ[オ ア[ラツ]テ
[コ]イ。(顔を洗ってこい。)

腫(かかと) [シ]ルク/[カ]ガト 例:カ[ガト]ガ
[ア]レ[ル]。(かかとが荒れる。)

鏡(かがみ) [カ]ガ[ミ] 例:[カ]ガ[ミ]デ [ワ]レ
オ [ミ]ル。(鏡で自分を見る。)

垣(かき) [カ]ベ 例:[カ]ゼ[ガ キ[ツ]イケ [カ]

べ[オ] ツ[ク]レ[ヨー]。(風がきつから垣を作れよ。)

蔭(かげ) [カ]ゲ 例:マ[エ]ワ アノー [ビル]ル
ナンカデ カ[ゲイヨ]ッタケド コ[ノ]ゴ[ロ]ア
ユノ [イ]ナカ[デ]モ イ[エ]ガ [タ]ッテ [カ]
ドノホーニ [カ]ゲガ [オー]ナッタガ[ノ]ー。
(前はビルなんかで陰っていたけど この頃は
この田舎でも家が建って角の方に蔭が多
くなったよ。)

崖(がけ) [ガ]ケ 例:[ガ]ケカラ オ[チタ]ゾー。
(崖から落ちたぞ。)

籠(かご) カ[ゴ]ノオイカゴ(背中に負う籠)
例:ア[ラッタ ヤツワ] カ[ゴン] ナカイ [イ]
レチヨ[ケ]ナイ。(洗ったやつは籠の中に入
れておけよ。)

笠・傘(かさ) [カ]サ 例:[キョ]ーワ [ア]メガ
フ[リサゲ]ナケン [カ]サオ [モ]ッテケ[ヨー]
イ。(今日は雨が降りそうだから傘を持ってい
けよ。)

粕(かす) [サ]ケノ カ[ス] 例:[サ]ケノ [カ]ス
ワ ム[カシ]ワ[ネ]ー [ナ]ラズケニ[ネ]ー
[ツ]カッター[ネ]ー。(酒のかすは昔はね。奈
良漬に使ってね。)/[サ]ケノ [カ]スオ [イ]
レテ。(酒のかすを入れて。)

風(かぜ) カ[ゼ] 例:[カ]ゼ[ノ] ツ[エ]ーヒワ。
(風当たりが強いよ。)

肩(かた) [カ]タ 例:[カ]タガ コル。(肩がこ
る。)

型(かた) [カ]タ 例:[カ]タ [ツ]カ[ウ]カ。(型
使うか?)

形(かたち) [カタ]チ 例:[ア]ス[コ]ノ イ[エ]ノ
[カタ]チワ [イー]ガ[ノ]ー。(あそこの家も形
はいいよねえ。)

蝸牛(かたつむり) [デン]デンムシ 例:[デン]
デンムシワ [オ]キワ [ト]クベツノ [オ]キマイ
マイ ッテ[ユ]ーノガ [オ]ルチョコガ[ナ]ー。
(でんでんむしは隠岐は特別な[オ]キマイマ
イってというのがいるというよ。)

刀(かたな) カ[タ]ナ 例:カ[タ]ナワ [サムライ
ノ モ]ンダワ。(刀は侍のものだよ。)

鯉(かつお) [カ]ツ[オ] 例:[カ]ツ[オ] タ[タ]キ
ニ [スリヤ] ウ[マ]イガ[ノ]ー。(かつおくを
>たたきにすばおいしいよ。)

角(かど) [カ]ド 例:[ソ]コノ [カ]ド [マ]ガッ
[タ]ラ ド[コ]ソコ イ[キマ]ス。(そこの角曲が
ったらどこそこ行きます。)

蟹(かに) カ[ニ] 例:[カ]ニ[ワ] カワニ[モ] [オ]
ルケ[ノ]ー。(蟹は川にもいるからね。)

金(かね)(金属・お金) [ヂェ]ン 例:[ヂェ]ン
[ガ] [ネ]ーテ コ[マ]ッチョルニ [ナ]ニ[オ]
ユーカ。((孫に小遣いをせがまれて)お金
がなくて困っているのに何を言うか。)

黴(かび) [カ]ビ 例:[カ]ビ[ガ] ハエチョルワ。
(カビが生えているよ。)

南瓜(かぼちゃ) [カ]ボチャ 例:[カ]ボチャモ
イ[ロ]イロ [ア]ルワナ。(南瓜もいろいろある
よね。)

釜(かま) [カ]マ/[ハ]ガ[マ] (羽が付いた釜,
ご飯を炊く) 例:[カ]マデ [ゴ]ハン [タ]ケヨ
ー。(釜でご飯<を>炊きなさい。)

鎌(かま) [カ]マ 例:[カ]マノ ツ[カイカタガ
へ[タ]ダ[ナ]ー。(鎌の使い方がへただな
あ。)

蠶螂(かまきり) カ[マ]キリ 例:カ[マ]キリワ イ
[ケ]ズ ダガ[ナ]ー。セ[ミヤナンカ ムシオ
ナン[デ]モ [ト]ッテ [ク]ーケ。(カマキリはい
じわるだな 蟬やなんか虫をなんでもとって
食うから。)

竈(かまど) カ[マ]~[カ]マ[ド]~[ク]ド 例:{[カ]
マ[ド]ニ/[ク]ドニ} [キ]オ [ク]ベ[ル]。(かま
どに木をくべる。)

紙(かみ) [カ]ミ 例:カ[ミ]オ [サク]。(紙を裂
く。)

雷(かみなり) [カ]ミ[ナ]リ 例:キ[ノー] オ[ト]
ツイノ [カ]ミナ[リ]ワ ス[ゴ]カッタガ[ナ]ー。
(昨日一昨日の雷はすごかったよ。)

髪の毛(かみのけ) [カ]ミゲ 例:[カ]ミゲガ ウ
スクナッタ。(髪の毛が薄くなった。)

亀(かめ) [カ]メ 例:カ[メ]オ イ[エ]デ [カウ
ヒト]ガ [オ]ルケノー。(亀を家で飼う人がい
るからね。)

瓶(かめ) [ハ]ン[ド]

茅(かや) [カ]ヤ 例:[ム]カ[シ]ワ [カ]ヤ [ヤ]
ネニ ツ[カ]イヨッタデスケドネー。(昔は茅く
を>屋根に使っていたけどもねえ。)

粥(かゆ) [カ]ユ~[カ]イ 例:[カ]イ [タベヨー
デー]。(おかゆくを>食べよ。うよ。)

痒い(かゆい) カ[イ]ー 例:[ア]ス[コ]ノ ヤ
[マ]エ キ[タ]ラ カ[ユ]ーテ カ[ユ]ーテ コ
[タ]エタ。(あそこの山に行ったら痒くて痒く

てこたえた。)/[カ]ニ [カマレテ カ[イ]ー
ガ。(蚊にかまれて痒いよ。)

烏(からす) カ[ラ]ス 例:コ[ノ]ゴラ カ[ラ]スガ
[ワ]ルサシテ コ[マ]ルガ[ナ]ー。(この頃は
カラスが悪さして困るよ。)

体(からだ) ゴ[テ]ー 例:[キョ]ーワ ゴ[テ]ー
ガ ツ[カ]レテ タ[タ]ン。(今日は体が疲れ
て動かない。)

皮(かわ) [カ]ワ 例:カ[ワ]ノ シワガ ヨッチョ
ルナー。(皮のしわが寄っているねえ。)

川(かわ) [カ]ワ 例:[ム]カ[シ]ワ カ[ワ]ガ
[マ]ガチョッタダ[ケン] [スイ]ガイア [ヨ]ー
[ア]ッタダイド キ[リ]カ[エ]タダケン [ヨ]ー
[ナ]ッタ[ナ]ー。(昔は川が曲がっていたから
水害がよく。あつたけれど切り替えたから良
くなったな。)

瓦(かわら) [カー]ラ 例:[カゼガ] キ[ツ]イケ
[カー]ラガ [オ]チタ[ナ]ー。(風が強いから
瓦が落ちたなあ。)

簪(かんざし) [カン]ヂャシ 例:[カン]ヂャシヤ
ナンカ ツ[カ]ッタコト ナイ。(簪など使った
ことはない。)

き

木(き) キ 例:[ツ]マデ イ[チ]バンノ オー
[キ]ナ [キ]ダヨ。(都万で一番大きな木だ
よ。)/[ガイ]ナ キ[ダ]ワー。(大きな木だ
なあ。)

木耳(きくらげ) キ[ク]ラゲ 例:キ[ク]ラゲモ [ト
ッ]チョッタガ[ノ]ー。(キクラゲも取っていたよ
ね。)

傷(きず) キ[ズ 例:[キ]ズ[ガ] デキタ。(傷が出来た。)

煙管(きせる) キ[シエル 例:[ム]カ[シ]ノ ヒ
[ト]ワ キ[シエル]デ [ア]ンタ ン[マ]イコト
[スイヨツ]タダガイ。(昔の人は煙管で上手い
こと吸っていたよ。)

北(きた) [キ]タ 例:キ[タ]ノ [ホー]ガ[ク]ニ
[キョー]ワ [ク]モガ [デ] Chol ケー。(北の
方角に雲が出ているから。)

北風(きたかぜ) キ[タ]カ[ゼ 例:キ[タ]カゼガ
[フィー]チャーケ [キョー]ワ サ[ビー]ワ。(北
風が吹いているから今日は寒いわ。)

汚(きたない) [キ]タ[ナエ]ー 例:[ア]ス[コ]
ノ [ダイ]ドコワ [キ]タ[ナエ]ー コト シ[チョ
ツ]タ[ドー]。(あそこの台所は汚いことしてい
たよ。)

杵(きね) [キ]ネ 例:[ウ]チテガ へ[タ]デ
[キ]ネデ ウ[タ]レタ。アン[タ]ガ ホ[ガ]ホガ
[シ]チョツ[ケ]ニ。(打ち手が下手で杵で打た
れた。あなたがぼやぼやしているから。)

昨日(きのう) [キ]ノー 例:[キ]ノーノ [カ]ミナ
[リ]ワ ス[ゴ]カッタジャ[ネ]ーカ。(昨日は雷
がすごかったではないか。)

茸(きのこ) [シ]ータケ、[マツ]タケ、シ[メ]ジダケ
とか個別名を言う強いて言えばキ[ノ]コ 例:
キ[ノ]コノ [オ]ーサマワ [マツ]タケ]デス。(キ
ノコの玉様は松茸です。)/ド[ク]ノ アル
キ[ノ]コガ [アル]チューガ[ノ]ー。(毒のある
キノコがあるというよね。)

肝(きも) [キ]モ 例:[ア]ノヒトワ キ[モ]ガ フ

[テー]ナー。(あの人は肝が太い(勇気があ
る。))

着物(きもの) [キ]モ[ノ 例:[マ]ー [イ]ー
[キ]モ[ノ キ[ル] コト [ナ]イガ[ノ]ー。(まあ
良い着物くを>着ることないよね。)

灸(きゅう) [ヤ]ト 例:[ヤ]トー スエタ。(灸を
据えた。)

急須・鉄瓶(きゅうす) [キュー]ス 例:[キュー]
スワ ジ[ブ]ンデワ コ[ガ]ナ [モ]ノ [イ]モ
{コ[シラ]ワ[ン]ヨ/ツクランヨ}。(急須は自分で
はこんなもの作れないよ。)

休息(きゅうそく) [キュー]ケー 例:[キュー]ケ
ー [ショー]ヨ。(休憩しよ。うよ。)

胡瓜(きゅうり) [キュー]ーリ 例:イ[ツ]デモ [キ
ュ]ーリガ [アル]ガ[ノ]ー。(いつでも胡瓜が
あるよね。)

今日(きょう) [キョ]ー 例:[キョ]ーワ ガイー
[ナ [ア]メ]ジャツ[タ]ガ[ナ]ー。(今日はすご
い雨だったよ。)

兄弟(きょうだい) [キョ]ーダイ 例:[キョ]ーダイ
ガ ス[ク]ナイワ[ナ]ー。(兄弟が少ないよ
ね。)

去年(きょねん) キョ[ネ]ン 例:キョ[ネ]ンワ
[セ]ワ[ニ [ナ]ツ]タガノ。 (去年は世話にな
ったの。)

霧(きり) キ[リ 例:コ[コ]ラワ [ダイ]ブ ヤ[マ]
ガ タ[カ]イジャラーカ [キ]リ[ガ カ[カ]ツチ
ヨツテ [クル]マ[ガ [ハ]シリニ[キ]ーガ[ナ]
ー。(ここらはだいぶ山が高いだろうか 霧が
かかっている車が走りにくいよ。)

錐(きり) [キリ 例:[キリデ ア[ナ]オ [アケル。
(錐で穴をあける。)

く

茎(くき) [クキ 例:[サ]トイ[モ]ノ [ク]キワ イ
マ [カ]ゼ[デ オ]レ[チョ]ッガ[ノ]ー。(里芋
の茎は今風で折れているよ。)

釘(くぎ) [クギ 例:コ[ノ] イ[タ]ニ [クギ ウ
ッテ ゴ[シ]ーナ。(この板にくぎくを>打っ
てくれ。)

草(くさ) [クサ 例:ヤ[マ]ニ ク[サ]ガ デ[キ]
ルダケン[ネ]ー。[ナンボ]デモ ク[サ] カ[ラ]
ニヤー コ[マ]ッチョル。(山に草が出来るか
らねえ。いくらでも草くを>刈らなければ困
っている。)

草原(くさはら) ク[サ]ハラ 例:ク[サ]ハラワ
ネ[コロ]ンダラ キ[モ]チガ [イ]ーガ[ナ]ー。
(草原は寝ころんだら気持ちがいいよ。)

鎖(くさり) [クサリ 例:[ク]サ[リ]ガ [モ]ツレ
テ [コ]マッタ[ナ]ー。(鎖がもつれて困ったな
あ)

櫛(くし) [クシ 例:ク[シ]ノ ハガ [オ]レタ。
(櫛の歯が折れた。)

鯨(くじら) ク[ジ]ラ 例:[ム]カ[シ]ワ ク[ジ]ラワ
[オー]キーノガ [ヨ]ッタ コトガ [ア]ルケド
[ノ]ー。(昔は鯨は大きいのが来たことがある
けどねえ。)/[イ]マワ ク[ジ]ラヤ [ナン]ヤ
[ミ]ラヘンガ[ノ]ー。(今は鯨やなんかみはし
ないよ。)

薬(くすり) ク[ス]リ 例:ク[ス]リオ [モ]ラッテ
キタ。(薬をもらってきた。)

糞(くそ) [ウン]コノクソ 例:[コ]ドモ[ガ] オ
[シ]メ シ[チョ]ッテモ [コ]ラ ク[サ]イケ [ウ]
ン[コ シ]チョド。(子どもがおしめくを>し
てしていても、これは臭いからウンコくを>し
ているよ。)/[ウ]シ[ノ] クソ(牛の糞。)

果物(くだもの) [ク]ダ[モ]ノ 例:[ク]ダ[モ]ノ
[タ]ベー[ナ]。(果物くを>食べなさい。)

口(くち) ク[チ 例:ア[ノ] ヒ[ト]ワ [ク]チ[ガ
タ]ツ。(あの人は口がたつ。)

唇(くちびる) ク[チ]ビ[ル 例:ア[ノ] ヒ[ト]ワ
ク[チ]ビ[ル]ガ [オー]キー。(あの人は唇が
大きい。)

丸人(くにん) [ク]ニン 例:[ク]ニ[ン]デ [ナ]
ン [ス]ッチャラ。(丸人で何するだろう。)

首(くび) ク[ビ 例:[ク]ビ[ノ] ホー[ニ] [ア]シ
ェガ エット デ[チョ]ルヨー。(首の方に汗が
いっぱい出ているよ。)

蜘蛛(くも) [ク]モ 例:[コ]ド[モ]ラト ク[モ]トリ
シテ [ア]スンダゾ。(子供たちと蜘蛛取りし
て遊んだぞ。)

雲(くも) [ク]モ 例:[キョ]ーワ [ガ]イ[ニ] [ク]
モガ カ[カ]ッタナ。(今日はたくさん雲が
かかったな)

蜘蛛の巣(くものす) ク[モ]ノス 例:[ク]モガ
[イ]ッタチューニ [チ]ーット [カ]ゼガ
フ[カ]ニヤ [セ]カイ[ヂ]ュー ク[モ]ノスデ
[オー]ッテシマエル ノニ[ナ]ー。(蜘蛛がい
たっていうにちょっと風が吹かなければ世界
中蜘蛛の巣で覆ってしまえるのにな。)

踝(くるぶし) ク[ル]ブ[シ 例:ク[ル]ブ[シ]ガ

イ[タエ]ーテ コ[マツ]チョル。(くるぶしが痛くて困っている。) / ク[ル]ブ[シ]ワ [ア]リ[ニ]モ ハ[ワス]ルナ。(くるぶしは蟻にも這わせるな。)

桑(くわ) ク[ワ] 例:[イ]マワ [ク]ワ[ノ キ]ガ [アン]マ[リ ナイ]ガノー。(今は桑の木があんまりないよね。)

鍬(くわ) [ク]ワ 例:オ[マエ] コノ [ク]ワ ツ [カエル]カ[一]。(お前この鍬<を>使えるか。)

け

毛(け) ケ 例:ア[ノ] ヒ[ト]ワ [ケガ エットハ]エチョルガナー。(あの人は毛がたくさん生えている。)

怪我(けが) [ケ]ガ 例:[コ]ロン[ダ]リシテ [ケ]ガ シ[タ]リ [ス]ネポーズノ ホー[オ [ウツ]タリ。(転んだりしてけが<を>したり、すねの方を打ったり。)

下駄(げた) [ゲ]タ 例:[ゲ]タモ [ドーン]ト [アッ]ダイド [ハ]カ[ヘン]ガナー。(下駄もどーんとあるけれど履かないよね。)

結婚(けっこん) イッ[ショ]ニナル 例:[アイ]ト [アイ]ガ イッ[ショ]ニナル。(あの人とあの人が一緒になる(結婚する)。)

煙(けむり) [ケ]ム[リ] 例:コ[ノ]ゴロ [ア]ス [コ]ニ [ケ]ム[リ]ガ [デ]チョッタダケ ナンゾ [ア]ッタカ ト オ[モ]ッタラ [ナン]ダイ [ナ]カッタ[ナ]ー。(この頃あそこに煙が出ていたから何かあったかと思ったら何ともなかったな。)

喧嘩(けんか) イ[サ]カイ / イ[サ]カウ(動詞) 例:[アイ]ラ [ヨー] イ[サカーダ]ガイ。(あの人はよく喧嘩するよ。)

こ

子(こ) コ 例:[コ]ガ [シマ]レタ チョ[ガ]ナ[一]。(子が生まれたというよ。)

粉(こ・こな) [コ]ナ / [コ]メノ コ(米の粉) 例:[コ]ナニ [シエ]ーナ。(粉にしなさい。)

恋人(こいびと) [イ]ー モノ 例:[アイ]ニヤ [イ]ー モ[ノ]ガ [デ]キタ チョワイ。(あの人には恋人が出来たというよ。)

麴(こうじ) [コ]ージ 例:[コ]ージオ [イ]レーナ。(麴を入れなさい。)

肛門(こうもん) [コ]ーモン 例:[コ]ーモンワ [ジ]ノ [ビョーキ]ダケン[ナ]ー。(肛門は痔の病気だからねえ。)

声(こえ) [コ]エ 例:[イ]ー [コ]エ シ[チョ]ル [ナ]ー。(いい声<を>しているなあ。)

小刀(こがたな) コ[ガ]タナ

此处(ここ) [コ]コ 例:[コ]コ[ニ ア]ルケ [ワ]レ [ト]レ[ナ]。(ここにあるからあなた取りな。)

九つ(このこのつ) コ[コ]ノツ

心(こころ) コ[コ]ロ 例:[ナン]ボ イッ[テ]モ コ[コロ]ノ [ナエ]ー ヒト[ダ]ワ。(いくら言っても心のない人だわ。)

蘆(ござ) [ゴ]ザ 例:[ム]カ[シ]ワ [コ]ノ ゴ[ザ]オ [ス]ズシク ナ[ルヤ]ーニ フ[ト]ンノ ウ [エ]ニ [スイ]チョッタ[ヨ]。(昔はこのござを涼しくなるよ。うに布団に上に敷いていたよ。)

腰(こし) [コ]シ 例:コ[シ]ガ イ[タ]ーテ コ[マ

- ッタナー。(腰が痛くて困ったなあ。)
- 今年(ことし) [コトシ 例:[コトシ]ワ イッ[カ
イダ]ケ イ[バラ]ギ [イ]キタダイド [マ]ー
[ナ]カ[ナ]カ [ネー]サンガ [シン]ダケー イ
[ク]コトガ [ナ]イワ[ナ]ー。(今年は一回だ
け茨城行きたいけどまあなかなか姉さんが死
んだから行くことがないわな。)/[コトシ]ワ
ユ[キ]ガ [フ]ッジャ[ラー]カ[ヨ]ー。(今年
は雪が降るだろうかねえ。)
- 言葉(ことば) [コトバ 例:ア[ノ]サンワ [コト
バズカイ]ガ ワ[ル]イガ[ナ]ー。(あの人は言
葉遣いがわるいよ。)
- 子供(こども) [コドモ 例:[ア]ス[コ]ニヤ [コ]
ド[モ]ガ ゴ[ニ]ン [オ]ルガ[ナ]ー。(あそこ
にはこどもが5人いるよねえ。)
- 五男(ごなん) [ゴバンオ]ジ 例:[アイ]ガ ゴバ
ンメオ]ジダワ[ナ]ー。(あの人が五男だ。)
- 五人(ごにん) [ゴニン 例:[ワ]シ[ラ]ノ ク[ミ]
モ ヘッ[テ] シ[マッ]テ [ゴ]ニン[ニ] ナッ
[タ]ケナ。(私たちの組も減ってしまっ
て五人になったからな。)
- ご飯(ごはん) [ゴハン]~[マ]マ 例:[マ]マ
ガ [タケタ]ケ [マ]マ [タベ]ヨ[ヤ]。(ご
飯が炊けたから、ご飯<を>食べよう。)
- 拳(こぶし) コ[ブ]シ 例:コ[ブ]シデ タ[タ]ク。
(拳でたたく。)
- 胡麻(ごま) ゴ[マ 例:[ゴ]マ[モ] オーキ
ー [ツ]ブノト [チー]サイ [ツ]ブノト [ア]
ルガ [ノ]ー。(ゴマも大きい粒のと小さい粒
のとあるよね。)/[ゴ]マ[ワ] セ[ワ]ガ [ヤ]
ケッダ]ガ
- ノ。(ゴマは世話が焼ける。)
- 米(こめ) [コメ 例:コ[ト]シノ コ[メ]ワ
ウ[マ] イガ[ノ]ー。(今年の米は美味い
よね。)
- 暦(こよみ) [コヨミ 例:[コ]ヨ[ミ]ワ [ア]
チ[コ] チカラ モ[ラッ]テ ドー
ン[ト] [ア]ルワ。(暦はあちこちから
もらってどーんとあるわ。)
- 此れ(これ) [コレ 例:[コ]リヤ [ナ]ン
[ジャ]ラ ー。(これは何だろう。)
- さ
- 竿(さお) [サオ 例:サ[オ]ニ [セン]タ
ク]モノ [カ]ケチヨイテ[ヨ]ー。(竿に洗
濯物<を>かけておいてよ。)
- 坂(さか) [サカ 例:[ア]ノ サ[カ]ワ
ノ[ボ]リ ニ[キ]ー サ[カ]ダ
ワ。(あの坂は上りにくい坂だわ。)
- 魚(さかな) [サカナ 例:[サ]カ[ナ]ガ
[マ]レ [ナ]ガ[ノ]ー。(魚がすく
ないよね。)
- 酒(さけ) サ[ケ 例:ド[ブ]ロク
オ [コ]シテ[ネ] ー [サ]ケ
ニ シテネ]ー。(どぶろくを濾して
ね、酒にしてね。)/サ[ケ] ノ
ミス]ギタ。(酒<を>飲みすぎた。)
- 甘藷(さつまいも) サ[ツ]マ
イモ 例:サ[ツ]マ
イモワ [カ]ンピョ
ーニ [ス]ルカ
[ノ]ー。(さつ
まいもは干瓢に
するかね。)
- 砂糖(さとう) [サトウ 例:[サ]ト
ーガ [コ]ラ [チョ]ット
[ア]マスキ]ル
カラ [チョ]ット
デ [イ]ーヨ。(砂
糖がこれはちよ
っと甘すぎるか
らちよっとでい
いよ。)
- 寒い(さむい) サ[ム]イ 例:[キョ]ー
ワ シ[モ] ガ
オ[リ]チョッ
ケ サ[ム]イガ
[ノ]ー。(今日
は

霜が下りているから寒いよ。) / [ユー]ベワ
サ[ム]ーテ [シェン]タクモ[ノ]ガ シ[ミ]タ[ジ]
ヤ。(タベは寒くて洗濯物が凍ったよ。)

鮫(さめ) [サ]メ 例:フ[カモ サ]メモ [イッシ
ヨ]ヤ[ナ]ー。(ふかもさめもいっしょだなあ。)

皿(さら) サ[ラ 例:[ワシガ サラ ワッタ]ケ
[コラエ]ー[ナ]。(私がお皿くを>割ったので、
ごめんなさい。)

再来年(さらいねん) [サ]ライ[ネン 例:[サ]ラ
イ[ネン]ワ [ワ]イ[ラ]ガ [トーバン]ダ。(再来
年は我々が当番だ。)

箒(ざる) [ソー]キ(水切りをするもの) / [ザル
例:[ソー]キニ [ア]ゲ[テ [ミ]ズ[オ キル。
(箒にあげて水を切る。) / コ[メアゲゾー]キ。
(米を洗って水を切るためのざる。)

三女(さんじょ) [サンバンオ]バ 例:[サンバン
オ]バダワ[ナ]ー。(三番目の叔母だよね。)

三男(さんなん) [サンバンオ]ジ / オツツァン

三人(さんにん) [サン]ニン 例:[サン]ニン オ
ラ [モンジ]ノ チ[エ]デ [イー]コト [カンガ
エチョッジャラー]カ。(三人いれば文殊の知
恵だ。)

し

明明後日(しあさって) シ[アサ]ツテ 例:シ[ア
サ]ツテー ソ[ゲ]ナ コ[ト]ガ イ[マ]ゴロ ワ
[カラ]ヘン]ワ ヨ[テー]ヤガ タ[ター]ツ[ケ]
ナ。(明々後日そんなことが今頃わからない
わ。

予定だって立たない。)

潮(しお) [シ]オ 例:[キョ]ーワ シ[オ]ガ タ

[ケア]ーガ[ナ]ー。(今日は潮が高いよ。)

塩(しお) [シ]オ 例:[ア]ジガ [チョ]ット [ウ]
スイケ [シ]オ [イレ]テ。(味がちょっと薄いか
ら塩くを>入れて。)

塩辛い(しおからい) シ[オカラ]イ / カ[ラ]イ
例:[チョ]ット コ[ノ ツケモノ] カ[ラ]イガ[ナ]
ー。(ちょっとこの漬物辛いなあ。)

二女(じじょ) [オ]バ / ニ[バンオ]バ 例:ニ[バ
ンオ]バダワナー。(二番目の叔母だよね。)
/ [コ]ンド [オ]バガ [クッ]ラガ。(今度叔母
が来るそうだ。)

地震(じしん) チ[シン 例:オ[キ]ワ ゼン[ゼン
ヂ[シン]ガ [ナイ]ト[コ]ダケン [オイデ] ナ
ンカ [イ]ツテタ[ケ]ド コ[ノ]ゴロノ [ト]ツトリジ
[シン]ワ [チョ]ット コ[ワ]カッタ[ネ]ー。(隠
岐は全然地震がないところだからおいでな
んか言ってたけど、このごろ鳥取地震はちょ
っと怖かったね。)

舌(した) [シ]タ / [ベ]ロ 例:[ベ]ロ [カ]ンダ。
(舌くを>かんだ。)

下(した) [シ]タ

七人(しちにん) シ[チニ]ン 例:シ[チニ]ンデ
[ナ]ン[スッ]カノ。(七人で何くを>するか
ね。)

二男(じなん) [ニバンオ]ジ / [オツツァン 例:
[マ]タ [オツツァン]ガ ンマレタ。(また男が生
まれた。)

島(しま) [シ]マ 例:コ[メア]ー シ[マ]ガ イッ
[ト [アル]ゾ。(小さな島がいっぱいある
ぞ。)

三味線(しゃみせん) [シヤ]ミ[シエン 例:ワ[シヤ シヤ]ミ[シエン ヒー]タコト [ナ]イ。(私は三味線くを>弾いたことがない。)

杓文字(しゃもじ) [シヤ]モジ 例:シヤ[モ]ジニメ[シ]ガ [ツ]イチョ[ル。(しゃもじに米粒が付いている。)

十人(じゅうにん) [ヂューニ]ン 例:[キョ]ーワ[ジューニ]ン [ヨツ]タ[チョ]ワ。(今日は十人来たというわ。)

食事(しょくじ) [マ]マ 例:[マ]マ ク[ワ]ーヤ。(食事くを>食べよう。)/[マ]マ [スン]ダ一。(食事は済んだ?)

白髪(しらが) [シ]ラ[ガ] 例:[シ]ラ[ガ]ガ ハエ[タナ]一。(白髪が生えたなあ。)/[シ]ラガニ ナツタ。(白髪になった。)

虱(しらみ) シ[ラ]ミ 例:ン[マ]ゴラ シ[ラ]ミガ[ゼンゼン] オ[ラン] ヨーニ [ナ]ツタガ[ナ。(今頃はシラミが全然いないよ。うになったよ。)

尻(しり) [シ]リ 例:[コ]ド[モ]ガ [ワ]ルイ コトシ[タ] トキニワ [シ]リオ タ[ター]テ ヤル。(子どもが悪いことをしたときには、尻を叩いてやる。)

汁(しる) [シ]ル 例:オ[デ]ンニ [シ]ルガ[ネ]ー[ゾ。(おでんに汁が無いよ。)

印(しるし) [シ]ル[シ 例:[ソ]コニ [シ]ル[シ]オツ[ケ]ー[ヨ。(そこにしるしを付けなさい。)

親戚(しんせき) [ヤ]ウチ 例:[ヤ]ウチワ [ミ]ンナ ヨ[バ]ーニヤ一。(親戚はみんな呼ばなければ。)

す

巣(す) ス 例:コ[ノ]ゴ[ロ]ワ [ア]ソ[コ]デ [ト]リ[ノ]スオ [ミ]ツケタ[ゾ。(この頃はあそこで鳥の巣を見つけたぞ。)

末っ子(すえっこ) オ[ト]ンボ 例:オ[ト]ンボダケ ア[マ]ヤケーテ コ[マツ]タ。(末っ子だから甘やかして困った。)

鋤(すき, 牛にひかすもの) ス[キ 例:[ム]カ[シ]ワ [ウ]シ[ヤ ウ]マニ [スキオ ツ]ケテツ[チ]オ オ[コ]シヨッタ。(昔は牛や馬に鋤を付けて土を耕していた。)

好きだ(すきだ) ス[キ]ダ 例:ボ[タ]モチガ ス[キ]ダガ[ナ。(ぼたもちが好きだよ。)

少し(すこし)(指小辞) [チー]ト 例:[チー]トシカ [ネ]ーダエド [ス]ソワケ[ダ]ケ[ノ]一。(ちよっとしかないけれどおすそわけだからね。)

筋(すじ) [ス]ジ 例:[ス]ジガ [ヒキ]ツ[ケ]ル。(筋がつる。)

煤(すす) [ス]ス 例:[テ]ンジョーニ [ス]スガ[チ]ーチョル[ナ]一。(天井にすすがついているなあ。)

煤(すす・鍋などに付く汚れ) ヘ[ワ 例:[ナ]ベニ [ヘ]ワ[ガ ツイ]チョル。(鍋に煤がついている。)

薄(すすき) ス[ス]キ 例:ス[ス]キガ [ソ]コラニ[ド]ーント ハエチョッガ[ノ]一。(すすきがそこらにたくさん生えているよ。)

雀(すずめ) [ス]ズメ 例:イ[マ]ゴロワ [ヤ]ネニ [ス]ギ[カ]ワガ [ナ]イシ [ス]ズメノ [ス]モ ツ[ク]レナイワ[ネ。(今頃は屋根に杉皮

もないしズメの巢も作れないわね。)

裾(すそ) ス[ソ 例:[ア]ノ フト ナ[ゲ]ーダケ
ス[ソ ヒ[キズツ]テゴザ。(あの人は(裾が)長
いから裾くを>ひきずっていらっしやる。)

砂(すな) [ス]ナ 例:ス[ナ]ワ シ[ケ]ノ セー
デ [ケーイ] ス[ゴ]イ [ヨ]ッテ キ[テ] ト[ラ]
ニャ イ[ケンヨ]ーニ [ナ]ッド[キ]モ [ア]ッダ
ド ナ[ミ]ニ ト[ラ]レツテ シ[マツテ [ナ]ー
ナツテ シ[マウ]ケ[ナ]ー。(砂は時化のせい
で、すごい寄ってきて、とらなくてはいけなく
なる時もあるけど、波に取られてしまってなく
なってしまうからね。)

脛(すね) [ス]ネ 例:ス[ネ]ガ イ[タエ]ーテ
コ[マツ]チヨル。(すねが痛くて困っている。)

相撲(すもう) ス[モ]ー~[ス]モ 例:[コドモ]ラ
ガ ス[モ]ー [トツ]ケ [ミ]ニ [イカー]ヤイ。
(子どもたちが相撲くを>取るから見に行こ
うよ。)

せ

青年(せいねん) [アン]ヤサン

咳(せき) [シエ]キ 例:[カ]ゼ [ヒー]タラ シエ
[キ]ガ [ツ]クワ。(風邪くを>ひいたら咳が
出るよ。)

背丈(せたけ) [シエ]タ[ケ 例:[シエ]タ[ケ]ガ
[ノ]ビタ[ナ]ー。(背丈が伸びたねえ。)

背中(せなか) [シエ]ナ[カ]/[シエ]ナ 例:[シ
エ]ナガ カイーケ {カエーテ クレ/カITE
ゴシエナ}。(背中が痒いので{かいていくれ
/かいてください}。)

蟬(せみ) セ[ミ 例:[セ]ミ[ガ コノゴ]ラ [ジー

ジー] イッテ [ヤ]カマシガ[ナ]ー。(蟬がこの
頃はジージーいってやかましいよね。)/セ
[ミ]トリオ シテ [ヨ]ー [ア]スピオッ[タ]ニ。
[ナ]ー(蟬取りをして遊んでいたのにね。)

膳(ぜん) [ゼ]ン 例:[コ]リヤー [ワシ]ノ ゼン
ダ[ナ]ー。(これは私の膳だな。)

そ

相互扶助(そうごふじょ, 農作業などの助け合
い) [テ]トリ(行ったり来たりする場合)/[カ]
ルク(一方的に助ける場合) 例:[テ]トリ シ
ョーヤイ。(お互いに手伝いしようよ。)/ア
[スコ]ノ [カ]ルクニ [イカー]ヤイ。(あそこの
手伝いに行こうよ。)

雑炊(ぞうすい) [ゾ]ー[スイ]/[ゾ]ー[ス 例:
[コ]ンバンワ [ゾ]ー[スイ] ダ]カラ[ネ]ー。
(今夜は雑炊だからね。)

草履(ぞうり) [ゾ]ーリ/[セツ]タ(雪駄)/[カ]ミ
オゾーリ(鼻緒に紙を巻いた草履)/[ワ]ラゾ
ーリ(藁草履) 例:[イ]マ [ゾ]ーリモ [ナイ]ケ
[ノ]ー。(今草履もないからねえ。)/[セツ]タ
ワ [ハ]クワ[ナ]ー。(雪駄は履くよねえ。)

底(そこ) [ソ]コ 例:[ナ]ベノ [ソ]コ[ガ] キ[タ
ネ]ーワ[ナ]ー。(鍋の底が汚いよね。)

何処(そこ) [ソ]コ 例:[ソ]コ[ノ] ゴーキン [ト
ツ]テ[ナ]ー。(そこの雑巾とってね。)

袖(そで) ソ[デ 例:[ソ]デ]ナシヨリ [ソ]デ[ガ
[ア]ッタホーガ [イ]ーガ[ノ]ー。(袖なしより
袖があった方がいいよねね。)

蘇鉄(そてつ) ソ[テ]ツ 例:ソ[テ]ツワ [ナ]ン
ニ ツ[カ]ウジャラ[ナ]ー。(蘇鉄は何に使う

のだろうね。)

外(そと) [ソ]ト 例:[ソ]トワ サ[ミ]ーケ[ノ]ー。
(外は寒いね。)

傍(そば) [ソ]バ 例:バーサンノ [ソ]バ ハナ
レタラ ダメダヨ。(おばあさんの傍くを>離
れたらだめだよ。)

空(そら) [ソ]ラ 例:コ[ノ]ゴ[ロ]ワ [テ]ンキガ
ワ[リ]ーダケン [ソ]ラモ ク[モ]ッテ ミ[エ]ン
ガ[ナ]。(この頃は空も悪いから空も曇って見
えないよ。)

其れ(それ) [ソ]イ 例:[ソ]イモ [ワ]タ[シン
ク]ダ[サイ]ナ。(それも私にくださいな。)

た

田(た) [タ]ー 例:イ[マ]ゴロワ [タ]ー ツ[ク]
ル [モン]ガ ヘッ[タ]ガ[ナ]ー。(今頃は田
作者が減ったよ。)

大工(だいく) [ダ]イ[ク] 例:[ダ]イクサンオ タ
[ノ]ジョッケ ナ[ウエ]ーテ マワー[ナ]イ。(大
工さんを頼んでいるから、直してもらおう
ね。)

大根(だいこん) [ダイ]コ[ン] 例:[ダイ]コ[ン]ノ
イ[ロ]イロ [ア]ルガ[ノ]ー。(大根もいろいろ
あるよね。)

台所(だいどころ) [ダイ]ドゴロ 例:[ダイ]ドコロト
ナ[ガ]シワ ヒッ[ツ]イテ ム[カ]シワ。(台所と
流しはひっついてた。昔は。)

太陽(たいよう) [タイ]ヨー 例:[マ]イニチ [テ]
ンキガ ワ[リ]ーダケ [タイ]ヨー [ミ]ルコタ
[ネ]ーガ[ナ]。(毎日天気が悪いから太陽く
を>見ることがないよ。)

鷹(たか) タ[カ] 例:[タ]カ[ガ] [ムシ ク]ツッホ
ッタ。(鷹が虫くを>食っていた。)

宝(たから) [タ]カ[ラ] 例:[タ]カ[ラ]モ [ナン]
ダイ [ネ]ーガ[ノ]ー。(宝も何にもないよね
え。)

薪(たきぎ) タ[キ]ギ 例:ク[ド]ニワ ク[ロ]ギノ
[ジョートーノ] タ[キ]ギオ [クベル。(かまど
にはクロギの上等の薪をくべる。)

たくさん [ド]ーント 例:ミ[カ]ンガ [ド]ーント
ナッ[チ]ョッ[チ]ョワ。(みかんがたくさん成って
いるというよ。)

竹(たけ) タ[ケ] 例:[タ]ケ[ワ] ド[コ]マデデモ
ヒ[ロ]ガッテ イクケ[ノ]ー。(たけはどこまでで
も広がっていくからね。)

蝸(たこ) [タ]コ 例:[タ]コガ [ア]キニ ナッ
[タ]ラ [サ]ビ[キ]デ ト[レル]ケ[ノ]ー。(たこ
が秋になったらさびき(針)でとれるからね。)

竜巻(たつまき) [タ]ツ[マ]キ 例:[コ]コ[ラ]ワ
[イ]ーゾー [タ]ツマキワ ゼン[ゼン] [ネ]ー
ケ[ナ]ー。(ここらはいいぞ 竜巻は 全然無
いからな。)

棚(たな) タ[ナ] / ア[ゲ]ダナ 例:[タ]ナ[カ]ラ
[ホ]ンオ [ト]テコ[イ]。(棚から本を取ってこ
い。)

種(たね) [タ]ネ 例:ハ[ナ]ノ [タ]ネ マ[カ]ン
タカ[ノ]ー。(花の種くを>蒔きましたか?)

足袋(たび) [タ]ビ 例:[イ]マ [タ]ビ ハ[ク]
フト オ[ラン]ガ[ノ]ー。(今は足袋くを>履
く人いないよね。)

旅(たび) [タ]ビ 例:[タ]ビ イク。(旅行に行

く。)

食べ物(たべもの) [タ]ベモノ/[ク]イモノ

例:[ク]イモノ ク[ワ]ー[ヤ。(食べ物食べよう。)]

食べる(たべる) [タ]ベ[ル]/[ク]ー 例:[ゴ]ハ

ン ク[ワ]ー[ヤ。(ご飯くを>食べよう。)]/[ナ]カナカ [ク]ー[ナ。(よく食べるね。)]

卵(たまご) タ[マ]ゴ 例:コ[マエ]ー タ[マゴ]

ダガ[ナ]ー。(小さい卵だねえ。)

魂(たましい) タ[マシ]ー 例:タ[マシ]ーガ

[ヌ]ケチョッチョ。(魂が抜けているという。)

鹽(たらい) [タ]ライ 例:[タ]ライニ [ミズ ク]メ

ー[ヨー。(鹽に水くを>汲みなさいよ。)]

誰(だれ) [ダ]イ 例:[ア]ノ フト [ダ]イ[ジャ]

ラ。(あの人だれだろう。)

俵(たわら) [タ]ワ[ラ]/カ[マ]ス(ごぎを半分に

折って縫ったもの) 例:[タ]ワ[ラ]ヤナンカワ

ヒ[ト]リデワ イ[モ]ダワイ。(俵など一人ではとても(運ぶのは無理)だよ。)

たん瘤(たんこぶ) [タ]ンコブ 例:[タ]ンコブガ

デタ。(たんこぶが出た。)

ち

血(ち) チ 例:[チ]ガ デ[チョ]ル[ヨー。(血が

出ているよ。)]

乳(ち・ちち) [メ]メ 例:[メ]メ [ヤ]ルケナー。

(乳くを>やるからね。)

小さい(ちいさい) コ[マ]イ/コ[マエ]ー 例:コ

[マ]イ [オッ]ツァンガ [オ]ルワソー。(小さい男がいるよ。)/コ[ノ]コワ コ[マエ]ーガ

[ナ]ー。(この子は小さいねえ。)

力(ちから) [チ]カ[ラ] 例:ヒ[ジ]ガ [イ]ターテ

[チ]カ[ラ]ガ イ[ラン。(肘が痛くて力が入らない。)]

茶(ちゃ) チャ 例:[チャ]ー [ワ]カセ。(お茶く

を>沸かせ。)

茶碗(ちゃわん) [チャ]ワン 例:コ[ノ] チャ]ワ

ンニ [ゴ]ハンオ [モッテ]ー。(この茶碗にご飯をついで。)

長女(ちょうじょ) [ネ]ーサン/[ネ]ーヤ 例:ワ

[シャ] ネーヤダ。シ[タ]ニ [フタ]ー[リ] オ]バ

ガ [オッ]ダガ。(私は長女だ。下に二人妹がいる。)

頂上(ちょうじょう) [チョ]ー[ジョ]ー 例:[チョ

ー]ジョー[マ]デジャ [ナ]カ[ナ]カ ノ[ボレ]ラ

[ヘン]ドー。(頂上までではなかなか上ることができないぞ。)

蝶々(ちょうちょ) [チョ]ー[チョ] 例:[コ]ノ キタ

[ネ]ー [ア]オム[シ]ガ チョー]チョニ [ナ

ル]チョガ[ナ]ー。(この汚い青虫が蝶々になるんだってよ。)

長男(ちょうなん) [ア]ンヤサン 例:カ[ワ]ノイ

ニワ [ア]ンヤサンガ [ン]マ]レタ。(かわのい

(屋号)には長男が生まれた。)

つ

杖(つえ) [ツ]エ~ツ[エ] 例:[ツ]エオ ツ[カッ

テ ア[ル]ク。(杖を使って歩く。)/[ツ]エガ

[ナ]ケラ[ニヤ] コ[シ]ガ イ[タ]ーテ イ[タ]ー

テ。(杖がなければ腰が痛くて痛くて。)

月(つき) [ツ]キ 例:テ[ン]キノ [イー]ヒワ

[ホ]シ[ヤ] ツ[キ]ガ [リッ]パ[ニ] [メ]ー]ルガ

[ナ]ー。(天気のいい日は月がきれいに見えるよ。)

土・地面(つち・じめん) ツ[チ 例:ツ[チ]ノ セーデ ヤ[サ]イガ [ヨ]ー デ[キ]ルナー。(土のせいで野菜がよくできるな。)

鼓(つづみ) [ツ]ズ[ミ 例:コ[コ]ラデ [ダ]イ [ダ]イ [ツ]ズ[ミ [ウ]ツ フト オ[ラン]ジャラー。(ここらでほとんど鼓打つ人いないだろう。)

綱(つな) [ツ]ナ 例:ツ[ナ]ガ [ナーナ]ツタケ ツ[ク]ラニャ [イ]ケン[ドー。(綱が無くなったから作らないといけないね。)

角(つの) [ツ]ノ

唾(つば) [ツ]バ 例:ツ[バ]ガ デル。(つばが出る。)

粒(つぶ) [ツ]ブ

壺(つぼ) [ツ]ボ 例:[コ]ノ ツ[ボ]ワ [タ]カイ ジャ[ラー]ー[ナー。(この壺はタカイだろうね。)

妻(つま) [バ]バノ呼ぶときは名前を呼ぶまた、[カー]チャン(若いとき)、[バー]サン(年をとったとき)

爪(つめ) [ツ]メ 例:[ツ]メ [キッ]テ ヤッ[タ。(爪<を>切ってヤッタやった。)

冷たい(つめたい) [チ]ン[タ]エー 例:[ミ]ズ[ガ [チ]ン[ター]テ コ[タ]エタ。(水が冷たいからこたえた。)

露(つゆ) [ツ]ユ 例:[ツ]ユガ オ[リ]ルト [ア] シ[タ] テンキ。(露が降りると明日は天気。)

面(つら) [カ]バチ 例:[カ]バチ アラッタカヤ。(顔<を>洗ったか?)

て

手(て) テ 例:[テ]オ [ア]ゲ[テ。(手を上げて。)

手拭い(てぬぐい) テ[ヌ]グイ 例:テ[ヌ]グイモ ア[ネ]サン[カ]ブリ シ[ヨッ]タケド[ネ]ー。(手拭いも姉さんかぶりしていたけどね。)

天井(てんじょう) [テ]ンジョ[ー 例:コ[コ]ノ [テ]ンジョ[ー]ワ タ[カエ]ー[ナ。(この天井は高いな。)

天ぷら(てんぷら) テンプラ 例:エビノ テンプラ ンメーガナ。(エビのてんぷらはおいしいね。)

と

戸(と) [ト]ー 例:[ト]ガ [ハズレ]チョル[ヨ。(戸が外れているよ。)

どう [ド]ゲ 例:[ド]ゲ [ス]リャ [イ]ーノ。(どうしたらいいの?)

唐辛子(とうがらし) [ト]ーガラシ 例:[ト]ーガラシモ カ[ラー]ーイノト カ[ラ]ク[ナ]イノト アルガノー。(唐辛子は辛いのと辛くないのとあるよね。)

冬瓜(とうがん) [ト]ーガン 例:[ト]ーガンワ ミ タコト [ネ]ーダガ[ノ]ー。(冬瓜は見たことくが>ないのよね。)

洞窟(どうくつ) [ド]ークツ 例:[カイ]ガンニワ コ[コ]ラワ [ド]ーント [ド]ークツ[ガ [アル]ゾ。(海岸にはここらはどーんと洞窟があるぞ。)

十(とお) [ト

遠浅(とおあさ) [ト]ーア[サ 例:ヤッ[パ]リ テ

[ト]ラノ [セー]ダワ [トー]ア[サ]ガ [ナー]ナ
ッ[タ]ノワ。(やっぱり遠浅のせいだわ。遠
浅がなくなったのは。)

時(とき) [ト]キ 例:[アン ト]キ ド[ゲー シ[チ
ヨ]ッタジャラ。(あの時どうしていただろう。)

棘(とげ) [ス]バ[リ] 例:[ス]バ[リ]ガ [タツ]タケ
[トツ]テ ゴ[サ]ンカ。(とげがささったから取
ってください。)

何処(どこ) [ド]コ 例:[ド]コ イ[カッ]シャル。
(どこいらっしゃる?)

鶏冠(とさか) [ト]サ[カ] 例:[リッパナ ト]サ[カ]
シタ [オ]スダ。(立派なとさかくを>した雄
だ。)

年(とし) [ト]シ 例:[ト]シ [トツ]タガ[ノ]ー。(年
とったよね。)

隣(となり) [ト]ナ[リ] 例:[ト]ナ[リ]ノ バーサン
ガ シナシタチャーテ。(隣のおばあさんが亡
くなったそうだよ。)

飛魚(とびうお) [ト]ビ[ウ]オ 例:[ト]ビ[ウ]オ
[ア]ゴダシニ [スリヤ] [イ]ーガ[ノ]ー。(トビ
ウオ<は>あごだしにすればいいよ。)

友達ち(ともだち) [ト]モ[ダ]チ/[ナ]カマ 例:
[アンタ]ラ [ト]モ[ダ]チダラーナー。(あなた
たちは友だちだろうね。)/[ワ]イラ [ナ]カマ
ダケ。(私たちは友だちだから。)

鳥(とり) ト[リ] 例:[ト]リ[ガ トンデ] キタ。(鳥
が飛んできた。)

どれ ド[レ] 例:[キョ]ーワ [ド]ノ ク[ツ] [ハク
ノ。(今日ほどの靴はくの。)

蜻蛉(とんぼ) [ト]ンボ 例:[サイ]キンワ [ノ]ー

ヤクガ ス[ク]ナクナッタ [セ]ーカ [ト]ンボ
ガ [オー]ク [ナ]ッタガ[ネ]ー。(最近は農
薬が少なくなったせいかトンボが多くなった
よ。)

な

菜(な) [ナ]ッパ 例:[ナ]ッパモ イ[ロ]イロ
[ア]ッガ[ノ]ー。(なっぱもいろいろあるよ
ね。)

名(な) [ナ]マ[エ] 例:[ド]コノ [イ]ヌジャラー。
[ナ]マ[エ]ガ [ナ]ーテ [ワ]カ[ラン]カ[ラ]ー。
(どこの犬だろうか。名前がなくて分からない
から。)

無い(ない) [ネ]ー 例:アン[タ]ラ [コ]ゲ[ナ
[モ]ナ [ネ]ーカ。(あなたたちこのようなもの
ないか。)/[ナン]ダイ [ネ]ーカイ[ナ]ー。
(何かないかなあ。)

苗(なえ) [ナ]エ 例:キャ[ベ]ツノ [ナ]エガ
[デ]キチオルケ [ウエン]カ[ノ]ー。(キャベツ
の苗が出来ているから植えないかね。)

中(なか) [ナ]カ 例:[ア]ン [ナ]ケ ハイラレ
ヘンワ。(あの中には入ることができない
わ。)

情け(なさけ) ナ[サ]ケ 例:[ア]ノ ヒト ナ[サ]
ケ [カ]ケテ ヤ[ラ]ー [イ]ーダイド ナ[サ]
ケ [カケ]テモ モ[ド]ッテ コン]ケナー。(あ
の人情<を>けかけてやればいいのだけど
情<を>けかけても戻ってこないからな。)

何故(なぜ) [ナー]シェ 例:[ナー]シェ [ソ]ゲ
ナ コト スル。(なぜそのようなこと<を>す
る。)

夏(なつ) [ナ]ツ 例:ナ[ツ]ニ [ナ]ツタラ ヌ
[ク]ーテ[ノ]ー。(夏になったら暑くてね。)

七つ(ななつ) ナ[ナ]ツ

何(なに) [ナ]ニ 例:ナ[ニ シ[チヨ]ンノ。(何
くを>しているの。)

海鼠(なまこ) [ナ]マ[コ 例:ア[カ]ナマコワ
[ウマイダイ]ド ア[オ]ナマコワ [ヤ]ウエ[ー]
ガ[ノ]ー。(赤なまこはおいしいけれど青なま
こは柔らかいよ。)

波(なみ) [ナ]ミ 例:[コ]コ[ラ]ワ [タイ]シタ
ナ[ミ]ワ [ア]ラ[ヘン]ノワ [ワンガ フ[ケア]
ーケ。(ここらは大した波がないのは湾が深
いから。)

涙(なみだ) [ナ]ミ[ダ 例:[ア]ノ ヒト]ワ [ナ]
ミダヨ[ワ]イワ[ナ]ー。(あの人は涙もろいね
え。)

縄(なわ) [ナ]ワ 例:[ナ]ワガ [タ]ランケ ト
[テ コ]イヨー。(縄が足りないから取ってき
て。)

に

荷(に) ニ[モ]ツ 例:[ソ]ノ ニ[モ]ツツ オ[モ]
タイケ ワ[シガ モ]ツケ。(その荷物重たい
から、私が持つから)

匂い(におい) [ニ]オ[イ 例:[ニ]オ[イ]ガ [ク]
サイ[ナ]ー。(においが良くない。)/[イ]ー
[ニ]オ[イ]ガ ス]ル[ナ]ー。(いい匂いがする
な。)

苦瓜(にがうり) ニ[ガ]ウリ 例:ニ[ガ]ウリワ コ
[コ]ラデワ [アンマリ] ツ[クラ]ンジャ。(ニガ
ウリはここではあんまりつくらないよ。)

肉(にく) [ニ]ク 例:ニ[ク]バツ[カ]リ タ[ベチ
ヨ]ル[ケダ。(肉ばかり食べているからだ。)
ノニ[ク]オ [ガイ]ナコト タ[ベル]ケ ダ[メ]ダ。
(肉をいっぱい食べると駄目だ。)

西(にし) ニ[シ 例:[ニ]シ[ニ ニ[シ ユー
[チ]クガ ア[リ]マス。(西に『西』という地区が
あります。)

虹(にじ) [ニ]ジ 例:ニ[ジ]ガ [ハ]シ[カ]ラ
[ハ]シマデ ミ[エ]タ ト[キニ]ワ [イー] コト
ガ ア[ル]ンダツテ[ネ。(虹が端から端まで
見えた時にはいいことがあるんだってね。)

西風(にしかぜ) [ニ]シ[カ]ぜ/[コ]チ 例:ニ
[シ]カゼガ ツ[エードー [キョ]ーワ。(西風
が強いぞ今日は。)

蜷(にな、まきがい) [ニー]ナ(巻き貝)/[ニ]
シ(小さい巻き貝)

尿(によう) シツ[コ 例:シツ[コ] シ[タジャ]ラー。
(しっこくを>しただろう。)

蕈(にら) ニ[ラ 例:[ニ]ラ[ワ スキキラ]イガ
アツテ[ノ]ー。(蕈は好き嫌いがあってね。)

庭(にわ) [カ]ド 例:[カ]ド[ガ ヨ[ゴ]レテツケ
[ソー]ジ シェ]ーヨ。(庭が汚れているから掃
除しなさいよ。)

鶏(にわとり) ニ[ワ]トリ 例:シ[マ]ゴロワ ニ
[ワ]トリオ イ[エ]デ [カ]ツテ [ク]ー モンワ
オ[ラン]ガ[ナ]ー。(今頃は鶏を家で飼って
食うものはいないよ。)

大蒜(にんにく) [ニ]ンニク 例:[ニ]ンニク
[イ]ット [タ]ベタ。(にんにくくを>たくさん食
べた。)

ぬ

糠(ぬか) [ヌ]カ 例:[ヌ]カニ [ヤ]サイオ [ツケーナ。(ぬかに野菜を付けなさい。)

布(ぬの) ヌ[ノ 例:[ヌ]ノ[ガ [ドーン]ト [ア]ルケ [ナン]デモ ツ[ク]ラ [イ]ーニ[ナ]ー。(布がたくさんあるから何でも作ればいいね。)

ね

根(ね) ネ

の

野(の) ノ 例:[ノ]ノ ハ[ナ]ガ [サ]クト カ[ワ]イー[ネ。(野の花が咲くとかわ。いいね。)

膿(のう) [ウ]ミ 例:ウ[ミ]ガ デ[タ]ワ。(膿が出た。)

鋸(のこ) [ノ]コ 例:[オ]マ[エ]ワ ノ[コ]オ ツ[カウ]ノ へ[タ]ダ[ナ]ー(イ)。(お前は鋸を使うの下手だなあ。)

蚤(のみ) [ノ]ミ 例:[ノ]ミニ [カ]マレテ カ[イ]ーガ[ナ]ー。(飲みに噛まれてかゆいよ。)

鑿(のみ) [ノ]ミ 例:[ノ]ミオ [ツカウ]ノワ [ナ]カナカ ムツカ[シ]ーケン[ナ]イ。(鑿を使うのはなかなか難しいからねえ。)

は

歯(は) [ハ]ー 例:[ハ]ガ ハ[シ]ル。(歯が痛い。)

葉(は) ハ/[ハ]ッパ 例:[チャ]ノ [ハ]ワ [ム]シテ [チャ]ニ スル。(茶の葉は蒸して茶にする。)/[ド]クダ[ミ]ノ [ハ]ワ [イ]ノ ク[ス]リニ スル。(どくだみの葉は胃の薬にする。)

灰(はい) ハ[イ 例:キオ モヤシテ ハヒニナッタ。(木を燃やして灰になった。)

蠅(はえ) ハ[エ~[古] ハエ[一 例:[ハ]エ[ガ]カ[ベ]ニ ト]マッ[チヨ]ル。(ハエが壁にとまっている。)

墓(はか) [ハ]カ 例:ハ[カ]ノ [ソー]ジニ [イ]カー[ヤ。(墓の掃除に行こうよ。)

袴(はかま) [ハ]カ[マ 例:[ハ]カ[マ]ワ [ガ]クニン[サ]ンダ[ケ]シカ [モッ]チョ[ラン]ケノー。(袴は楽人さんだけしか持っていないからね。)

歯茎(はぐき) [ハ]グキ 例:[ハ]グキガ [ハ]レ[タ。(歯茎が腫れた。)

箱(はこ) [ハ]コ ~ ハ[コ 例:[キ]デ [ハ]コ[オ] ツクル。(木で箱を作る。)

鋏(はさみ) [ハ]サ[ミ 例:[ハ]サ[ミ ツカウ トキワ キー] ツ[ケ]ー[ヨー。(ハサミくを>使うときは気をつけろよ。)/[コ]ゲ[ナ ハ]サ[ミ]ワ ダ[メ]ダケン。(このような鋏はだめだから。)

橋(はし) [ハ]シ 例:[ア]ノ [ハ]シ [チヨ]ット[ノ]ゼーテ [ミ]ーナ。シ[ジ]ミガ [オ]ッタケ。(あの橋くを>ちょっと覗いてみるよ。蜷がいたから。)

箸(はし) [ハ]シ 例:[アン]タ { [ハ]シオ/[ハ]シ} ン[マ]イコト ツ[カ]ウナ]ー。(あなたは箸を上手に使うね。)

柱(はしら) [ハ]シ[ラ 例:[ア]ノ ハ]シ[ラ マガ]ッ[チヨ]ル[ナ]ー。(あの柱くは>曲がっているね。)

畑(はたけ) ハ[タ]ケ/[シヤ]ンヤマ(大根などの野菜を作る畑)/[ヤ]マ(豆などいろいろなものを作る畑) 例:ハ[タ]ケモ イ[マ]ゴロワ ツ[ク]ルヒトガ ス[ク]ナー [ナ]ツタガ[ノ]ー。(畑も今頃は作る人が少なくなったよ。)/[シヤ]ンヤマ イク。(野菜畑へ行く。)

畑作業(はたけさぎょう) ヤ[マ]ノ シゴト/ハ[タ]ケノ [シ]ゴト 例:ヤ[マ]ノ シゴトデ イ[ソ]ガシテ。(畑の仕事で忙しくて。)/ハ[タ]ケノ [シ]ゴト スル。(畑の仕事<を>する。)

蜂(はち) ハ[チ]~[ハ]チ 例:ア[エ]ワ ハ[チ]ジャアラ [シ]メーガ。(あれは蜂ではないだろうか。)

鉢(はち) [ハ]チ 例:[ハ]チガ [ワ]レタ[ナー] [ゴ]メン[ナー]。(鉢が割れたな、ごめんな。)

八人(はちにん) ハ[チニ]ン 例:ハ[チニ]ンヨ[レ]バ [モンジュ]ノ ツ[エ]。(八人いれば文殊の知恵。)

飛蝗(ばった) [バ]ッタ 例:[バ]ッタ [ト]ンボカ[マ]キリナンカ ソ[コ]イラニ [ムシガ]オーイ[ネ]。(バッタ、トンボ、カマキリなんかそこらに虫が多いね。)

鳩(はと) [ハ]ト 例:ハ[ト]ガ エ[サ] [ク]ツチョル。(鳩が餌<を>食っている。)

鼻(はな) ハ[ナ] 例:[ハ]ナ[ガ] デ]チョル。(鼻が出ている。)

花(はな) [ハ]ナ 例:ハ[ナ]ガ [サイ]チョルガノー。(花が咲いているよねえ。)

鼻血(はなぢ) [ハ]ナ[ジ] 例:[ハ]ナ[ジ]ガ

[デ]チョル。(鼻血が出ている。)

羽(はね) ハ[ネ] 例:ニ[ワ]トリノ [ハ]ネ[ガ]オ]チチョッタ。(鶏の羽が落ちていた。)

浜(はま) [ハ]マ 例:[ム]カー[シ]ワ [ア]ノ シ[オ]ノ ハ[マ]ワ [ウン]ドー[カイ]ガ デ[キ]ヨツタトニ イ[マ]ゴロワ [ネ]ーナツ[テ] シ[マ]ツ[タ]ガナー ス[ナ]ガ [ナ]ーナツテ シ[マ]ツタ セー[ダ]ナー。(昔は潮の浜は運動会ができたというのに、今頃はなくなってしまったな 砂がなくなってしまったせいだな。)

速い(はやい) ハ[ヤエ]ー 例:[ア]ス[コ]ノ [ム]スコサンワ ハ[シ]ルガ ハ[ヤエ]ーチョガナー。(あそこの息子さんは走るのが速いというよ。)

腹(はら) [ハ]ラ 例:ハ[ラ]ガ イ[テー]ナー。(腹が痛いなあ。)

針(はり) [ハ]リ 例:[ハ]リノ ミ[ミ]ガ ミ[エ]ンデ [イ]トガ ヒ[ト]ツダイ [トー]ラ]ンワネ。(針の穴が見えなくて糸が全然通らない。)

春(はる) [ハ]ル 例:[ハ]ルン [ナ]ツテ ポ[カ]ポカ ス[ル]ガ[ノ]ー。(春になってぽかぽかするよ。)

ひ

日(ひ) ヒ 例:[ヒ]ガ [ア]タラーデ [キョ]ーワサ[ビ]ーガ[ナー]。(日が当たらないので今日は寒いよ。)/[ヒ]ガ ク[レル]ケ [イ]ナ[ー]ジヤ。(日が暮れるから帰ろうよ。)

火(ひ) [ヒ]ー 例:[ヒ]ー [テー]テ ア[タ]ラーヤ。(火を焚いて当たろうよ。)

稗(ひえ) [ヒ]エ 例:ヒ[エ]ナンカ [ミ]タ コト

ナイジヤ。(稗なんか見たことがないからね。)

東(ひがし) [ヒ]カ°[シ 例:[コ]コ キ[タ]ッテヤ [ヒ]ガ[シ]ワ [ド]ッチニ [ナ]ル[一。(ここ来たっていうと東はどっちになる。)]

東風(ひがしかぜ) ヒ[カ°シ]カ[ぜ]／[ヤ]メア [一]ダ(昼頃に海岸から吹いてくる風が入る。) 例:ヒ[カ°シ]カゼガ [フ]イチョル。(東風が吹いている。)/[キョ]ーノ [カ]ゼ[ワ [ダイ]タイワ [ニ]シ[カ]ゼ[ダ]イド ヒ[ル]ニ ナッ[タテ]ー [ヤ]メア[ダ]ガ [へ]アールケ [キ]ー ツケヨ。(今日の風はだいたい西風だが、昼になったらヤメア[ダ]が入るから(火事などに)気を付けなさい。)

光(ひかり) [ヒ]カ[リ] 例:[テ]ンキガ ワ[リ]ーダケ [ヒ]カ[リ]ガ ミエン。(天気が悪いから光が見えない。)

低い(ひくい) ヒ[ク]イ 例:ヤ[マ]ガ ヒ[ク]イ [ダ]ケ [ア]メガ フッ[タ]ラ [ミ]ズ[ガ] タマッ [テ] コ[マッ]チョル。(山が低いから水が溜まって困っている。)

髭(ひげ) フ[ゲ] 例:[フ]ケ[ガ] ハエチョル。(ひげが生えている。)

膝(ひざ) ヒ[ザ] 例:[ヒ]ザ[ガ] イ[タ]エーテ コ [マッ]チョル。(ひざが痛くて困っている。)

肘(ひじ) [ヒ]ジ 例:ヒ[ジ]ガ [イ]ターテ [チ]カ[ラ]ガ イ[ラン]。(肘が痛くて力が入らない。)

柄杓(ひしゃく) [シャ]ー[ク 例:[シャ]ークデ ミ[ズ] ク]ンデ。(柄杓で水<を>汲んで。)

／[シャ]ークガ [マ]ガッチョル[ナー。(柄杓が曲がっているなあ。)]

額(ひたい) フ[テ]ー 例:フ[テ]ーガ デ[ブ]テ [一]ダ。(額が出ている。)

左(ひだり) ヒ[ダ]リ 例:[ミ]ギヒ[ダ]リ ワ[カラ]ン フ[ト]ダ]ワイ。(右左わからない人だわ。)

人(ひと) フ[ト 例:[キョ]ーワ [フ]ト[ガ] フ[ト]リダイ [オ]ランノガ[ナイ]。(今日は人が一人もいない。)

一つ(ひとつ) ヒ[ト]ツ

海星(ひとで) [ヒ]ト[デ] 例:[ヒ]ト[デ]ワ ア[ミ]ニ [ハ]イッテモ [ステル]ケ[ノ]。(ひとでは網に入ってもすてるからね。)

一人(ひとり) ヒ[ト]リ 例:ヒ[ト]リノ ヒ[ト]ガ [ダ]イ[ブ]ン ヨ[ケ]ーシ [ナッ]タガ[ノ]。(独りの人がだいぶ多くなったよね。)

暇(ひま) ヒ[マ] 例:[キョ]ーワ [ヒ]マ[ダ]ケ [ド]コ[ゾ] イ[ク]カ[イ]。(今日は暇だからどこか行くか。)

紐(ひも) ヒ[モ] 例:[ヒ]モ[モ] ツ[カ]ウコト [ナ]エー]ガ[ノ]一。(紐も使うことないよね。)

病氣(びょうき) [ア]ンベア[ガ] [ワ]リー

昼(ひる) [ヒ]ル 例:ヒ[ル]マデ [ド]ッカ イ [ク]カ[ノ]一。(昼間でどこかへ行くかな。)/ジ[キ] [チュ]ー]ハンニ [ナ]ッ]ジャ。(もうすぐ昼飯になるよ。)

昼食(ひるめし) [ヒ]ル/[チュ]ー]ファン 例:ヒ [ル]ニ ナッ]タ[ケ] マ]マ ク[ワ]ー]ヤ。(昼になったから昼ご飯<を>食べようよ。)

ふ

夫婦(ふうふ) [フーフ 例:[ア]ソ[コ]ノ [フーフワ ナ[カ]ガ [イ]ーケ。(あそこの夫婦は仲がいいから。)

鱻(ふか) フ[カ 例:フ[カガ サカナ クッチョッタ]チュワ。(ふかが魚くを>食べていたというよ。)

脹ら脛(ふくらはぎ) [コ]ブラ 例:[コ]ブラガ [カ]エッタ。(こむらが返った。)

袋(ふくろ) フ[ク]ロ 例:フ[ク]ロニ イ[レ]タホーガ ラ[ク]ダ[ヨー。(袋に入れた方が楽だよ。)

雲脂(ふけ) [フ]ケ 例:[フ]ケガ [デ]テ カ [ユ]イテ。(ふけが出てかゆい。)

節(ふし) フ[シ 例:[コ]ノ イタワ フ[シダ]ラケデ ダ[メ]ダ[ネ]ー。(この板は節だらけで駄目だね。)

豚(ぶた) [ブ]タ

二つ(ふたつ) フ[タ]ツ

二人(ふたり) フ[ター]リ 例:[ア]ス[コ]モ マー フ[ター]リン [ナッタ]チョガ[ナ]ー。(あそこもまあ二人になったというよ。)

筆(ふで) フ[デ 例:[コ]ノ フデ {{[ヂョートーダナ]ー(イ)}/[ヂョートーダノ]ー(イ)}。(この筆は上等だ。)

布団(ふとん) フ[ト]ン 例:フ[ト]ンガ {{[ホ]シテ [アルワイ]/[ホ]シチャールワソーイ。(布団が干してあるよ。)

船(ふね) [フ]ネ 例:[フ]ネガ [ト]ーツチョッタワイ。(船が通っていたよ。)

冬(ふゆ) [フ]ユ

篩(ふるい) [ト]ー[シ 例:[ト]ー[シ]ニ カ[ケ]ル。(ふるいにかける。)

へ

屁(へ) [ト]チ[ベ(音がする屁)]/[ポ]ン(音がする屁)]/ス[カ]ベ(音がしない屁)

臍(へそ) へ[ソ 例:[へ]ソ[オ ナンボ]デモセ[セツ]タラ ハ[ラ]ガ イ[ター]ナルケ セ[セル]ナ[ヨー。(へそを何回もさわったら腹が痛くなるからさわんなよ。)

糸瓜(へちま) [へ]チ[マ 例:[へ]チ[マ]ワ タ [ワ]シニ [スツ]チャガ[ノ]ー。(へちまはたわしにするのだよ。)

便所(べんじょ) [古][シ]ンチ(くみ取り式の便所)]/[新][ト]イレ 例:[ト]イレワ [ド]コ[ダ]ー。(トイレはどこだ?)/[コ]イッタガ(肥桶。)

ほ

穂(ほ) ホ 例:[ホ]ガ [デ]タガ[ノ]ー。(穂が出たねえ。)

帆(ほ) [ホ]ー 例:[ホ]ガ [カ]ジェデ {フクランヂョル[ワ]ー/フクレチョル[ワ]ー}。(帆が風で膨らんでいるよ。)

箒(ほうき) [ホ]ー[キ 例:[ホ]ー[キ]ト チ[リ]トリオ モツ[テ] イ[ケ]ナイ。(箒とチリトリを持っていきなさい。)

包丁(ほうちょう) [ホ]ー[チョー 例:コ[ノ] ホーチョー ヨ]ー キ[レ]ルナー。(この包丁はよく切れる。)

黒子(ほくろ) ホ[ク]ロ 例:[ア]ノ ヒ[ト]ワ ホ [ク]ロガ [エツ]テ [チョ]ル。(あの人はほく

ろがたくさん出ている。)

埃(ほこり) [ゴ]ミ 例:[ゴ]ミガ [マイアガ]ツチョ
ル[ナー。(埃が舞い上がっているなあ。)

星(ほし) ホ[シ] 例:コ[ノ]ゴ[ロ]ワ [ソ]ラノ
[ホ]シ[ガ] [ヨ]ー [メ]ー ル [ヤ]ーニ [ナ]ッ
タガ[ナー。(この頃は空の星がよ。く見える
よ。うになったよ。)

骨(ほね) [ホ]ネ 例:ア[ノ]ヒトワ ホ[ネ]ガ [オ
ーケ]ナ。(あの人は骨が大きい。)

ま

前(まえ) [マ]エ 例:[マ]エガ ジ[キ] [ウ]ミダ
ダケ [ナン]デモ ア[ル]ヨ [ウ]ミノ モン[ナ]
ラ。(前がすぐ海だから何でもあるよ。海のもの
のなら。)

枕(まくら) マ[ク]ラ 例:[コ]ノ マ[クラ]ワ [カ
タスキ]ル[ナー。(この枕は固すぎるなあ。)

孫(まご) [マ]ゴ 例:[マ]ゴガ [シ]マレタヨ。
(孫がうまれたよ。)

股(また) [マ]タ 例:[マ]タ オ[サエテ] シッコ
ニ イ[ク。(股くを>押さえておしっこに行
く。)

松(まつ) [マ]ツ 例:[ガイ]ナ マ[ツ]ガ [アル
ガ]ノ。(大きい松があるよねえ。)

真似(まね) [マ]ネ 例:[ワ]シ[モ] [マ]ネ シ
[テ] [ショー]カ[イ。(私も真似してしようか
い。)

眩しい(まぶしい) [マ]ブシー 例:[テ]ンキノ
[イ]ーヒワ [マ]ブシーガ[ナー。(天気の良い
日はまぶしいよ。)

豆(まめ) [マ]メ 例:[マ]メ [マ]イタカ[ノ]ー。

(豆くを>蒔いたかね。)/[コトシ]ノ マ[メ]
ワ デ[キ]ガ ワ[ル]イガ[ノ]ー。(今年の豆は
できが悪いよね。)

眉(まゆ) [マ]ユ 例:[マ]ユガ [シ]ロー [ナ
ッ]タ[ナー。(眉が白くなったなあ。)

丸い(まるい) マ[ル]イ 例:[キョ]ーワ [オ]ツ
キサंगा [マンマルダ]ガ[ソ]ー。(今日はお
月さんがまん丸だね。)

み

実(み) ミ 例:コト[シ]ワ [カ]キノ ミ[ガ] [ナ]ラ
ザッタ。(今年は柿の実がならなかった。)

蜜柑(みかん) ミ[カ]ン 例:[コ]マーイ キ[ニ]
ミ[カ]ンガ [ド]ーント ナッ[チョ]ガ[ノ]ー。
(小さい木に蜜柑ががたくさん成っている
よ。)

右(みぎ) ミ[ギ] 例:[ミ]ギヒ[ダ]リ ワ[カラ]ン
フ[ト]ダ[ワイ。(右左わからない人だわ。)

短い(みじかい) [ミ]ジ[カ]イ 例:[キ]ー シ
[バ]リー キ[タ]ニ [ヒ]モ[ガ] ミ[ジ]カー[テ]
コ[マ]ッタワ。(木を縛りに来たけど紐が短く
て困ったわ。)

水(みず) ミ[ズ] 例:[ミ]ズノミバマデ ア[ル]イ
テ [イ]キテ [コ]イ[ナ。(水飲み場まで歩い
て行って来いよ。)

水桶(みずおけ) [オ]ケ

水瓶(みずがめ) [ハ]ン[ド] 例:[ハ]ンドニ [ミ]
ズ[オ] イ[ッ]パイ [ク]ンジョッテ[ネ]ー。(水瓶
に水をいっぱい汲んでおいてね。)

水溜り(みずたまり) [ミ]ズタ[マ]リ 例:コ[ノ]ゴ
[ロ]ノ [ア]メワ [ガ]イニ [ミ]ズタマ[リ]ガ

- [デ]キ[タ]ワ [ア]ッチヤ [コ]ッチニ。(この頃の雨はたくさん水たまりができたわ。あっちこっちに。)
- 味噌(みそ)** [ミ]ソ 例:[ミ]ソオ ツ[ク]ル。(味噌を作る。)/[ミ]ソワネ [コー]ジオネ チ[ブ]ンタチデ ツ[ク]ッテネ。(味噌はね、麴をね、自分たちで作ってね。)
- 溝(みぞ)** ミ[ゾ] 例:コ[ノ]ゴラ [ミ]ゾ[ニ] [コ]ド[モ]ガ ボ[ロ]ケテ[ナー]。(この頃は子供が溝に落ちてな。)
- 道(みち)** ミ[チ] 例:イ[マ]ゴラ [ミ]チ[ガ] [ヨ]ー [ナ]ッタ[ナー]。(今頃は道が良くなったな。)
- 三つ(みつつ)** [ミ]ツツ
- 皆(みな)** [ミン]ナ 例:[ミン]ナデ [ショ]ーヤ。(みんなでしょうよ。)
- 港(みなと)** [ミ]ナト 例:[コ]コ[ラ]ノ [ミ]ナト[ワ] キ[レー]ナ コタ [ネ]ーガ[ナー]。(こちらの港はきれいなことはないよ。)
- 南(みなみ)** [ミ]ナミ 例:コ[コー]ラワ [ミ]ナミ[ガ]ワウ [ミ]ダケン。(ここらは南側は海だから。)
- 南風(みなみかぜ)** ミ[ナミ]カゼ 例:[ヤ]ッパリ ミ[ナミ]カゼガ [フ]キヤー ノ[キ]ーワ[ナー]。(やっぱり南風が吹けばあたたかいわな。)
- 嶺(みね)** ミ[ネ] 例:[ミ]ネ[ン] [ナ]ッテルケド [ソ]ノ イ[チ]ブワ [デン]コーテキナ [モン]ダッチョジヤ。(峰になってるけど人工的なものだというよ。)
- 蓑(みの)** [ミ]ノ 例:イ[マ]ゴロ [ミ]ノヤ [ナン]ヤ [ミ]ンワ[ノ]ー。(今ごろ蓑や何や見ないよね。)
- 耳(みみ)** [ミ]ー 例:ミ[ミ]ガ [ト]ー[イ]。(耳が遠い。)/ミ[ミ]ワ [キ]コ[エ]ルカ。(耳は聞こえるか?)
- 蚯蚓(みみず)** [ミ]ミズ 例:[ミ]ミズガ [ド]ーント オル ハ[タ]ケジャ [ナ]ケラ ヤ[サ]イモ [ヨ]ー デ[キン]チョッジ[ヤ]。(みみずがどーんという畑でなければ野菜もできないというよ。)
- む**
- 昔(むかし)** [ム]カシ 例:[ム]カシ [ア]ス[コ]ニ [ナン]ダラ [ア]ッタガ[ノ]ー。(昔あそこに何かあったよ。)
- 百足(むかで)** ム[カ]デ 例:ム[カ]デニ カ[マ]レリヤ イ[テ]ードー。(ムカデに噛まれば痛いぞ。)
- 麦(むぎ)** [ム]ギ 例:[ム]カシワ [ム]ギメシオ [ク]タガノー。(昔は麦飯を食べたよね。)
- 麦わら(むぎわら)** ム[ギ]ワラ
- 婿(むこ)** [ム]コ 例:[ア]ス[コ]ノ ム[コ]サンワ [ヨ]ー キ[ガ] ツ[ク]ワイ。(あそこの婿さんはよく気がつくよ。)
- 虫(むし)** ム[シ] 例:[コ]ノゴロ ワシヤ [ム]シ[ー] コ[レ]ータゾ。(このごろ私は虫くを>殺したぞ。)
- 筵(むしろ)** [ム]シロ 例:マ[メ]オ [ム]シ[ロ]ニ ホ[ス]。(豆を筵に干す。)
- 娘(むすめ)** [ム]ス[メ] [ウ]チノ [ネ]ーヤノコ 例:ウ[チ]ノ [ネ]ーヤノコワ [オ]ーサカノ

ホー イ[キタワ]ナイ。(うちの娘は大阪の方へ行ったよね。)

六つ(むつつ) [ムツツ]

胸(むね) [ム]ネ 例:ム[ネ]ガ イ[タ]イ。(胸が痛い。)

村(むら) [ム]ラ 例:[コ]コ[ノ] ム[ラ]ワ [シ]ズカナ ム[ラ]ダジヤ。(この村は静かな村だというよ。)

め

目(め) [メ]ー 例:[メ]ガ [ミ]エ[ナ]イ。(目が見えない。)/[メ]ガ ワ[ル]イ。(目が悪い。)

芽(め) メ 例:[ヂャ]ガイモニ [メ]ガ [デ]タワ。(ジャガイモに芽が出たよ。)

姪(めい) 名前と呼ぶ 例:ワシノ メーダワ。(私の姪だよ。)

目上の男・女(めうえ) 呼ぶときは屋号で呼ぶ
例:〇〇(屋号)ノ {オッツァン/オ[バ]サン} [チョーシワ] ド[ゲ]ナカ[ノ]ー。(〇〇の{おじさん/おばさん}、調子はどうですか。)

飯(めし) メ[シ] 例:メ[シ]ガ [デ]キタヨー。(飯ができたよ。)

も

藻(も) モ

海蘊(もずく) [モ]ズ[ク] 例:[コトシノ] [モ]ズ[ク]ワ ホ[ソ]ーテ ウ[マカッタ]ガ[ナ]ー。(今年のもずくは細くておいしかったよね。)

餅(もち) モ[チ] 例:[モ]チ[ガ] ノ[デ] ツ[マ]ツタ。(餅がのどに詰まった。)

網籠(もっこ, 運搬用) [モツ]コ(竹や網で編んだ運搬用の網)/ネ[コ]グ[ル]マ(車輪が1つ

付いた車) 例:[モツ]コ [イ]ツタラ[ネ]ー[サイ]テー フ[タ]ーリ オ[ラ]ント デ[キ]マセン[ガ] ウ[シ]ロト [マ]エト。(もっこといたら、最低二人いなければできませんよ。後ろと前と。)

もっと [マツ]ト 例:[マツ]ト ゴ[セ]ナ。(もっとくださいな。)

物(もの) [モ]ノ 例:モ[ノ]モ [ドーン]ト [ア]ルダケ[ナ]ー。(物もたくさんあるからね。)

糲(もみ) [モ]ミ 例:モミ[ワ] ス[テル]カノー。(糲は捨てるか?)

腿(もも) [モ]モ 例:モ[モ]ノ ホーガ [ヤ]シェ[テ] [キ]タゾー。(腿の方が痩せてきたよ。)

桃(もも) モ[モ] 例:[モ]モ[モ] オーキーヤツワ ウ[マイ]ダイド。(桃も大きいやつはおいしいよ。)

門(もん) [ト]グ[チ] 例:[ト]グ[チ] シ[メ]ー[ヨー]。(門<を>開めるよ。)

や

山羊(やぎ) [ヤ]ギ 例:ヤ[ギ]ノ チ[チ]オ[ノ]ミヨッタ。(山羊の乳を飲んでいた。)

八つ(やつつ) [ヤツツ]

ヤドカリ(やどかり) ヤ[ド]カリ 例:ヤ[ド]カリワ [イツノマ]ニカ [オランヨ]ーニ [ナツ]チオルガ[ノ]ー。(やどかりはいつのまにかいないようになっていよ。)

山(やま) [ヤ]マ 例:[コ]コラニワ ワ[リ]エータ[ケア]ー ヤ[マ]ガ [ネ]ーガ[ナ]。(ここらには割合高い山がないよ。)

槍(やり) [ヤ]リ/ヤ[ス](魚を採るやり。先が分

かれています返しがついている) 例:ヤ[リ]ワ
[ジダ]イゲキデシカ [ミ]タコト ナイケン。(槍
は時代劇でしか見たことがないから。) / [ナ
ンデモ] ヤ[ス]デ [ト]リヨッタデスヨ。(何でも
ヤスで取っていましたよ。)

ゆ

湯(ゆ) ユ 例:[ユ]ガ [ワイ]タデー。(お湯が
沸いたぞ。)

結納(ゆいのう) [ユイ]ノー 例:[ユイ]ノーガ
スンダ。(結納が済んだ。)

夕方(ゆうがた) [ユー]ガタ 例:[ユー]ガタニ
ワ [モ]ド[ラ]ッシャイ[ヤ]。(夕方には戻りな
さいよ。) / [ヒ]ガ ク[レル]ケ [イ]ナ[ージ]ヤ。
(日が暮れるから帰ろうよ。)

夕食(ゆうめし) [ユ]ーハン 例:[ユ]ーハン
[タベ]ヨー[ヤ]。(夕飯<を>食べよ。うよ。)

床(ゆか) [イ]タ[マ] 例:[イ]タマ[ガ] フ[レル]
[ナー]。(床が揺れるな。) / [イ]タマ[ガ] [ヌ]レ
[チョ]ル[ヨ]。(床が濡れているよ。)

指(ゆび) [エ]ビ 例:[カ]マデ [エ]ビ [キ]ッタ。
(鎌で指<を>切った。)

夢(ゆめ) [ユ]メ 例:[ユ]ー[ベ]ワ [ユ]メ[ミ]ガ
ワ[ル]ーテカエー [ナン]カ オ[コ]ラヘンジ
ャロカ。(昨夜は夢見が悪かったから何か起
きはしないか。)

よ

横(よこ) ヨ[コ 例:[ラ]ントノ [ヨ]コ[ニ] [アイ]
ガ [キ]ョッタワ。(私の家の横にあれが来
ていたわ。)

涎(よだれ) [ヨ]ダ[レ 例:[ネ]イ[チ]ョッテモ

[シ]ラ[ズ]ニ [ヨ]ダ[レ]ガ デ[チ]ョル。(寝て
いても知らずによだれが出ている。)

四つ(よっつ) [ヨ]ッツ

夜中(よなか) [ユ]ナ[カ 例:[ヨ]ナ[カ]ニ [ユ]
ー[ベ]ワ [ガ]イーナ カ[ミ]ナリガ ナッ[テ]
[オ]ソ[ロ]シ[カ]ッタガ[ノ]ー。(夜中に昨夜は
大きな雷が鳴って恐ろしかったよね。)

四人(よにん) ヨ[ニ]ン 例:[ア]ス[コ]ニヤ [コ]
ド[モ]ガ ヨ[ニ]ン ウ[マ]レタ[チ]ョワ。(あそ
この子供が四人生まれたというわ。)

蓬(よもぎ) ヨ[モ]ギ 例:ヨ[モ]ギワ [チ]ーサ[イ]
トキニ ト[ラ]ニヤー カ[ター] ナルケ[ノ]ー。
(よもぎは小さいときに取らなければ堅くなる
からね。)

夜(よる) [ヨ]ル/ヨ 例:[ヨ]ルニ [ナ]ッタイ
[コ]ン[ヤ]ワ [ヂ]ョーカイガ [ア]ル[チ]ョワ
ーナ。(夜になった。今夜は常会があるという
ね。) / [ヨ]ガ [ア]ケ[タ]ケ [ハ]ヤ オ[キ]ニ
ヤー。(夜が明けたから早く起きなければ。)

四女(よんじょ) [ヨン]バンオ[バ 例:[ヨン]バン
オ[バ]ダワ[ナー]。(四番目の叔母だよね。)

四男(よんなん) [ヨン]バンオ[ジ 例:ア[レ]ガ
ヨンバンオ[ジ]ダワ[ナー]。(あの人が四男
だ。)

ら

来年(らいねん) [ライ]イ[ネ]ン 例:[ライ]ネン[ワ]
[ア]ス[コ]ノ コ[ガ] ニューガク[ダ]チョーガ
[ノ]ー。(来年はあそこの子が入学だという
よ。)

り

陸地(りくち) リ[ク]チ 例:リ[ク]チワ ゼン[ゼン
メ[一]ンノガ[ナ]一。(陸地は全然見えない
よ。)

料理(りょうり) [リョ]ーリ 例:[リョ]ーリオ ツ[ク]
レ。(料理を作れ。)

ろ

老人(ろうじん) [トシヨリ/[ジー]サン [パー]
サン 例:[キョ]ーワ [ロ]ージンカイデ [トシ
ヨリ]ガ [ヨッチョ]ル。(今日は老人会で年寄
りが集まっている。)

六人(ろくにん) ロ[クニ]ン 例:[ワ]イ[ラ]モ ロ
[クニ]ンワ [オ]ルケ[ノ]一。(私たちも六人は
いるからね。)

わ

脇の下(わきのした) [ワ]キノシ[タ 例:[ワ]キノ
シ[タ]モ [ヨ一] ア[ラ]エ[ヨ]。(脇の下もよく
洗えよ。)

技・仕事(わざ・しごと) [ワ]ザ/[シ]ゴ[ト 例:
[ア]ス[コ]ノ [オッ]ツァンワ ワ[ザ]ガ [イー]
ガ[ナ]一。(あそこのおっさんは技がいいよ。
仕事をすごい立派にしているよ。)/[テ]ガ
[イー]サデ [リッ]パナ [シ]ゴ[ト シ[チョ]ル。
(技術がいいから立派な仕事をしている。)

私(わたし) [ワ]シ 例:[ワ]シガ スル。(私が
する。)

私達(わたしたち) [ワ]イラ 例:[ワ]イラガ [シ
ヨ一]ヤ。(私たちがする。)

藁(わら) [ワ]ラ 例:[ワ]ラワ [ウ]シ[ノ シカ
セ]イニ ホシー。(藁は牛の下敷きに欲し
い。)

椀(わん) [ワ]ン 例:コ[リャ ダイノ ワ]ン カ
[ナ一。(これは誰の椀かな。)

隠岐の島方言のつどい

あいさつ

教育長 山本 和博

(山本) 皆さん、こんにちは。実は今日のこの方言の集いをやるに当たって家内と夕べちょっと話をしてきていまして、隠岐弁の話をしていました。私は隠岐弁の中で「おしまいさんです」という言葉が大好きです。「おしまいさんです」という言葉を標準語に直すとうなのかという話で、「ご苦労さんでした」というのもニュアンスが違うような気がします。「こんばんは」とも違うような気がします。

そうするとやっぱり「おしまいさん」に当たる標準語が見えないんですよ。もしかすると私は言葉を知りませんからあるかもしれないけど、私は分かりません。やっぱり隠岐独特のこれは言葉だな。今、最近あんまり聞かれるところはなくなりましたが、この言葉が僕は大好きです。

もう1つ言葉のことで思い出すのは、僕は大学は信州の方の大学に行っていて、行くなり実は自転車に乗っていて事故って、この辺がすごいすり傷になりました。そのときに大学の養護の先生のところに行って治療をしてもらったときに、昔はオキシフルを塗りました。そのときにがいな声で、「はしる」って言いました。そうしたらその先生が染みるでしょうと言われたんですよ。

僕は「しみる」というのは、寒くなるのが「しみる」と思っていましたので、いや、「はしる」ですと言ったら、そげな言葉、そげな言葉とは言われなかったですけど、こちらでは使いませんよと言われたことを覚えています。「はしる」というのが初めて我々が使っている言葉だけど、全国的な言葉じゃないことが分かったということを知っています。

やっぱり方言というのは、その地方の文化とか歴史を表す非常に大事なことだと思います。去年から今、木部（暢子）先生が国文研の方を引き連れて隠岐の4カ所で方言の調査をしてくださいました。私はそういうのに非常に興味がありますので、調査を見に行きました。そうすると、こういうところに中村の方が1人ぼつんといすに座ります。こちらに国文研の方たちが5人ぐらいおられます。それで調査を最初されていました。

調査が終わった後、中村の方にどうでしたかと言ったら、めちゃくちゃ緊張しましたと言って、ちょうど面接試験と同じ状況で一生懸命きれいな言葉を話されようとしているんですよ。それだと普段の隠岐弁が分からないことはないかなと思って、木部先生にちらっとお話ししたことがあります。

やっぱり我々は標準語で話すことがおもてなしみたいな、それから西郷弁を話すのがちょっと恥ずかしいみたいな私は気持ちを持っています。本当は方言というのは、我々のさっき言った文化や歴史を背負った言葉ですので、自慢してしゃべってもいいんだけど、方言を何か恥

ずかしいものだと今まで私どもはとらえてきました。

私は学校の教員をしていましたが、子供が方言をしゃべったときに、これはこう言うんだよと標準語に指導したこともあります。やっぱり大事な方言というのは文化を背負ったものですので、我々は大事にしていけないといけないんじゃないかなと今感じております。

そういう意味で今日こうして平子先生と、友定先生に研究の調査についての結果を発表していただきます。どういう発表になるかすごく楽しみです。それともう1つは、特別大先生として吉井先生と坂本先生に、役に立つ隠岐弁を指導してくださるということで非常に楽しみにしております。隠岐弁のよさを今日は皆さんと一緒に勉強したいと思います。どうぞよろしくお願いします。(拍手)

「使えるかもしれない隠岐弁講座」

吉井 重伸・坂本 忠司

(A A) どうもありがとうございました。それでは早速最初のプログラムに入りたいと思います。隠岐の先生、吉井重伸さんと、坂本忠司さん、「使えるかもしれない隠岐弁講座」。私もホームページを拝見しました。やっぱりすごいなと、それを見ながら勉強しています。今日はよろしくお祈りします。

(坂本) 失礼します。「使えるかもしれない隠岐弁講座」の時間がやってまいりました。(拍手)。ありがとうございます。本日、司会を務めます坂本忠司と申します。ただ、坂本忠司って皆さん、たぶん言いにくいと思いますので、私のことはマイケルと呼んでください(笑)。私も普段、標準語しかしゃべりませんが、今日は皆さんと一緒にこの隠岐の島の素晴らしい言葉の宝物、隠岐の隠岐弁と一緒に勉強していけたらなと思っております。それでは早速、本日隠岐弁を教えていただく先生をご紹介します。本日の先生は吉井さんです。(拍手)

(吉井) どうも、皆さん。マイクは入っているんですかね。大丈夫ですね、すみません。今日は楽しく隠岐弁を、ここに書いてあるように「使えるかもしれない」と書いていますので、あまりまじめにとらえていただかず、あくまでこれは我々のバラエティーの感じで楽しくおかしくやりたいなと思っておりますので。

(坂本) きちんとした話はこの後の先生方がされるので。

(吉井) 我々はあくまで前座ですからね。

(坂本) 気持ちと体をリラックスさせるためにね。

(吉井) そういう感じでやらせてもらいたいと思います。今日、我々は隠岐弁と銘打っていますが、2人とも西郷出身なので、わりかしと西郷弁を中心とした隠岐弁をね。お前らがやっているのは隠岐弁ではないじゃないかとか、たまにまじめな人が言うんですけどもいや、そこまでまじめに言わないでくださいと。僕らは西郷弁ですからね、を中心にや



ろうと思っています。よろしくお祈りします。

(坂本) そうですね。ちょっと若干我々は早口なところがね。

(吉井) 早いので付いてきてください(笑)。じゃあ、今回どういう形式でやるかと、やり方をマイケル君から説明をしてもらいます。

(坂本) 私がまず初めに標準語を皆様にお届けします。その後、吉井先生が隠岐弁に直して言いますので。もしかしたら

- 皆さんにも復唱をしてもらってもいいかもしれませんので。
- (吉井) ちょっと復唱をしていただきたい。何でかと言いますと、今日は我々より先輩が多いですから。
- (坂本) そうですね。
- (吉井) 僕ら以上にたぶん隠岐弁を知っていると思うんですよ。その方々の言葉も聞きたいなと思って。
- (坂本) もう我々若輩者がおこがましいですけども。
- (吉井) 若輩者ですからね。だから我々、今日の講座が終わった後で、お前ら違うって言われるかもしれませんが、一切この後苦情は受け付けません(笑)。すみませんけれどもお願いします。
- (坂本) それでは早速やってみましょうか。
- (吉井) ですね。やり方はさっき言ったように標準語、隠岐弁ですけども、まず簡単なあいさつとか日常会話からどんどん難しい隠岐弁をしようと思っていますのでね。
- (坂本) そうですね。
- (吉井) じゃあ、ここに素晴らしいスタッフがいますので。僕がはいと言ったらどんどん変えていきましょかね。打ち合わせしてなかったですね。すみません。
- まず最初にここに書いてありますようにあいさつ編。隠岐でよく使われるあいさつを隠岐弁で紹介したいと思います。たぶんここにおられる方はほとんど、あっ、聞いたことがあるなと思うんです。
- (坂本) そうですね。
- (吉井) 多少オーバーな表現もあります。そこは笑ってください。ではまず最初に日常のよく聞かれる会話です。マイケル君、お願いします。
- (坂本) 久しぶりですね。
- (吉井) いや、ちょっと待ってくださいよ(笑)。少々タイムラグがありましたのでね。ちゃんとお願ひしますよ。
- (坂本) 大丈夫ですか。
- (吉井) 僕がはいと言ったらどんどん変えましょかね。では。
- (坂本) 「久しぶりですね、お元気でしたか」。「久しぶりですね、お元気でしたか」。
- (吉井) これが隠岐弁になりますとこうなります。「ひさしござんしたの、まめでござんしたかの」とこうなりますね。こんなのはよく聞かれますよね、しょっちゅうね。
- (坂本) そうですね。
- (吉井) もうちょっとぼんといってもらえたら。ぱっと出して、次のときはね(笑)。これはよく聞かれますね。まずこの「ござんしたの」というのが、これは隠岐ではよく使われますよね。
- (坂本) みやびな言い方ですね。
- (吉井) すごく古風ないい言葉ですよ、「ござんした」という。あとこの「まめでござんしたの」。この「まめ」、これは元気ですかという、「You're fine?」という英語で言ったら。元気ですかということです。

これを一遍ぐらい皆さんに復唱してもらっていいですかね。いいですか皆さん、一緒に僕が言いますので、復唱をいいですか。ちょっと聞いてみたいので、どんな感じか。これも勉強になりますのでいいですか。では、いきます。「ひさしござんしたの、まめでござんしたかの」。はい。

(会場)「ひさしござんしたの、まめでござんしたかの」。

(坂本) 皆さん、やっぱり上手ですね。ネーティブの隠岐弁をね。

(吉井) やる必要ないですよ。じゃあ、どんどん。次は同じあいさつでも夕方にかけて。

(坂本) なるほど、夕方の方ですね。

(吉井) 夕方にかけてよく聞かれるやつです。では、お願いします。

(坂本)「おばあさん、こんばんは。今日も1日が終わりましたね。おばあさん、こんばんは。今日も1日が終わりましたね」。

(吉井)これが隠岐弁になりますとこうなります。「ばあさん、おしまいさんでござんす」(笑)。これはさっき教育長がね。

(坂本) ネタばらししていました。

(吉井) もうネタばらししていたのでね、やりづらかったですけども。さっき教育長が言われたように、こんばんはでもない。でもこんばんはの意味も入っているんですよ。

(坂本) そうですね。

(吉井) いわゆる今日1日が終わりましたね、お疲れさんでしたというような意味を全部含めた言葉です。

(坂本) なるほど。

(吉井) 大変いい言葉ですから、もう今日の夕方から皆さん。たぶん使っているでしょうね。

(坂本) そうでしょうね。

(吉井) 聞かれると思う。

(坂本) やっぱりこの「ござんす」というのが、木枯し紋次郎みたいな感じでいいですね。

(吉井) ふざけているんじゃないから。「ござんす」っていい言葉です。そして次、これは感謝を述べるときに使う隠岐弁ですね。では標準語はお願いします。

(坂本)「ありがとうございます。いえいえ、どういたしまして。ありがとうございます。いえいえ、どういたしまして」。

(吉井)これが隠岐弁になりますとこうなります。「だんだん、あ～え、なんがなんが」(笑)。こう言いますね。「だんだん」は別に隠岐弁ではなくて。

(坂本) 松江の方でもね。

(吉井) どこでも使う。いわゆるありがとう、感謝の気持ちで。この「あ～え」っていい言葉ですよ。だいたい隠岐弁は延ばしたり2回続けたりするのが多いです。この「なんがなんが」というのは、これもまた、どういたしまして、いいですよという2回続けることで強調していますから。この「なんがなんが」。

(坂本)『サザエさん』の昔のエンディングで、んが、ん、みたいな(笑)。

(吉井) 違います。「なんがなんが」ってね。これも皆さん、よく使っていますよね。そして次はお別れのときのをちょっと行きましようかね。では、標準語はこうなります。

(坂本) 「それではこれで失礼します」。「それではこれで失礼します」。

(吉井) これが隠岐弁ではこうなります。「んならいのっずや」(笑)。

(坂本) この辺からもう日本語じゃなくなってきましたね。

(吉井) いや、ここはしょっちゅう、今日も帰るときに皆さん使いますからね。

(坂本) そうですか。

(吉井) 「ん」から始まる。

(坂本) 「ん」から始まる。珍しいですね。

(吉井) 「んならいのっずや」というね。この「いのっずや」は「いのる」ですか。

(坂本) 祈る、プレイヤー (prayer) の方ではないですね。

(吉井) 「いのる」というのはこれではなくて、帰ることを隠岐弁で「いのる」。

(坂本) 「いぬる」とか。

(吉井) 「いぬる」ですね。「いぬる」がなまって「いのる」になりますよね。これもよく使われます。「んならいのっずや」。

(坂本) 「いのっずや」という。

(吉井) この辺までは皆さん、しょっちゅう使っていますから、お前ら、何ということだと。こんなの当たり前だと。あとはどんどん深い隠岐弁が出てきますから。そして次じゃあ、行きますかね。次は、これは今はちょっと寒いんですけど。ちょっと出すのが早いです(笑)。夏とかによく聞かれる言葉。じゃあ、行きましょう。

(坂本) 「今日はすごく暑いからうっとおしくて、くらくらして目まいがしそうだよ」。

(吉井) ちょっと長くなりましたよ。

(坂本) 「今日はすごく暑いからうっとおしくて、くらくらして目まいがしそうだよ」。なかなかここまで言いませんけどね、普通。

(吉井) よく夏にありますね。

(坂本) あります、あります。

(吉井) 隠岐弁でこうなります。「今日はがいにぬき一けんうずらして、マグマグがつくやあなわ」(笑)。

(坂本) これは本当ですか。

(吉井) 来年の夏にたぶん皆さんは使っています。

(坂本) ねえって、そんな。

(吉井) まずこの「がいに」というのは隠岐弁でよく大きいとか、隠岐弁じゃないんですけどね。

(坂本) たくさんとかね。

(吉井) そうです。「ぬき一けん」。暑いことをぬくい、ぬくいと言いますよね。「ぬき一けん」って。「うずらして」というのが隠岐弁で、うっとおしいとか不快な気分有的时候に、「まあ、うずらしわー」と言いますよね。あとこの「マグマグがつく」。これが隠岐弁ならではの。皆さん、使いますか。

(坂本) 「まぐれる」とかよく聞きますね。

(吉井) 「まぐれる」というのも使いますね。いわゆる熱中症とか暑くて、もう何だろう、ふら

- ふらするといふようなことを、「マグマグがつく」と。
- (坂本) マグカップが付くじゃだめですか (笑)。
- (吉井) いや、違います、「マグマグ」。さっきマイケル君が言われたように「まぐれる」という言葉、まくれるじゃないですよ、「まぐれる」という。これはパタンと倒れたり、卒倒して倒れたりすると隠岐弁で「まぐれる」と言いますから。それと同じ「まぐ」でしょうね。
- (坂本) 「まぐ」ですね。
- (吉井) これは片仮名で「マグマグ」なっているんですけど、これはよく分かりませんよ。平仮名か片仮名かは。
- (坂本) 漢字ではないですね。
- (吉井) 漢字ではないでしょうね。これもせっかくですから皆さんに1回ぐらい復唱してもらいましょう。
- (坂本) ちょっと長いですけど大丈夫ですかね。
- (吉井) 大丈夫ですよ。じゃあ、いきましょね。はい、では。「今日はいにぬきーけんうずらして、マグマグがつくやあなわ」。
- (会場) 「今日はいにぬきーけんうずらして、マグマグがつくやあなわ」。
- (坂本) 大事なことを言ってない。
- (吉井) 何でしょう。
- (坂本) 隠岐弁の特定、3大ポイントが。
- (吉井) あります、あります、3つね。まず1つはプレスですね、息継ぎです。どこで息継ぎをするかですね。
- (坂本) そうですね。隠岐弁を言うときに息継ぎの場所が大事ですね。それから。
- (吉井) もう1つが。
- (坂本) 吐き捨てる。
- (吉井) そう、結構ぱぱっと吐き捨てる必要があって、我々2人は早口なので若干早口の方が隠岐弁らしくなりますからね。これも大事なことで。皆さん、でも上手ですよ。
- (坂本) 上手ですよ。
- (吉井) いよいよ次のコーナーに行きますかね。じゃあ、お願いします。次は。
- (坂本) 学校でよく使われる隠岐弁ですね。
- (吉井) これは学校で今も昔もよく使われるいろいろな隠岐の方言を紹介したいと思います。
- (坂本) 結構見渡したら、お客さんの中にも学校の関係者の方がおられますので。
- (吉井) ですから覚えていただいて、明日は日曜日か、あさってから使ってもらいたいという隠岐弁が入っていますからね。では、まず最初に、次の隠岐弁は、昔はこんな子供さんがたくさんいたなという隠岐弁がありますね。では標準語を。
- (坂本) 「誰なんだ、悪さをする子は」。
- (吉井) いましたね、こんな子。
- (坂本) 「誰なんだ、悪さをする子は」。
- (吉井) 隠岐弁になるとこうなります。「だいだだだけ、わーさばーずは」(笑)。

(坂本) 「だ」がたくさんありますね。

(吉井) これがなかなかね。これもよく使いますよね。

(坂本) 結婚式の司会者が何とか家、何とか家、ご両家の。

(吉井) 違う、違う、その「け」じゃない。

(坂本) 違う？

(吉井) その「け」じゃなくてね。まず、誰なんだ。「だいだだだけ」。「だ」3つですよ。この「け」というのは強調の「け」です。

(坂本) 強調の「け」。

(吉井) よく漁師のおじさんなんかやたら「け」を付けます。「お前はけー、ほんとにけー、ちくしょうがけー」って。すごく「け」を付けますよね (笑)。

(坂本) そうですか。

(吉井) その「け」です。

(坂本) そんなに付くわけですか。

(吉井) とにかく「け」を付けたら強調します。そして悪さばかりしている子。

(坂本) 悪さばかりする子、はい。

(吉井) まあ、「ごんぞ」とも言いますよね。「ごんぞう」とか。

(坂本) 「ごんた」とかね。

(吉井) 「ごんた」とか。「わーさばーず」、言いますよね。これも小さいときに言われた人もあると思うんですけどもね。

(坂本) おるんですかね。

(吉井) 我々は言われていませんけどね。

(坂本) そうですね。

(吉井) 先生方がおられたらあさってから使ってください。次は学校の授業中とかによく使われるんですね。では標準語をお願いします。

(坂本) 「落ち着きがないぞ、じっとしときなさい。落ち着きがないぞ、じっとしときなさい」。

(吉井) これを隠岐弁でこうなります。「けそけそすんな」(笑)。

(坂本) めそめそするなですか。

(吉井) いや、「けそけそ」。

(坂本) 「けそけそすんな」。

(吉井) はい。こんなの小さいときに言われたでしょう。

(坂本) いや、言われていませんよ。

(吉井) 本当に？ とにかくじっとしてないようなことを「けそけそすっじゃねーが」と言われますよね。

(坂本) そうですか。

(吉井) その「けそけそ」です。

(坂本) これはどういったところから。

(吉井) これは難しいですね、意味はね。これは教育長が後で説明するはずですよ (笑)。

(坂本) 家内と話し合ってもらって。

(吉井) そしてどんどんいきましょうね、時間もないですからね。次は運動会なんかでよく使われる隠岐弁。

(坂本) いつでも使わないですか。

(吉井) いや、たぶんですけれども。では、まず標準語をお願いします。

(坂本) 「君、すごい力で引っ張るねー」。これはあんまり使いませんよ (笑)。

(吉井) 綱引きとか。

(坂本) 綱引きとか、そうですか。「君、すごい力で引っ張るねー」。

(吉井) これは隠岐弁でこうなります。「こんた、がいな馬力でしゃばるじゃねー」(笑)。まず大事なポイントはこの「こんた」。「こんた」って知っていますよね。結構知らない人がいて「こんた」というのは、あなたとか、君のことを「こんた」。自分のことは何か分かります？

(会場) 「ら」。

(吉井) 「ら」、さすがですね。「ら」と「こんた」。ちなみに私たちとあなたたちは、何て言うか分かりますか？ 「ららとこんたら」「ららとこんたら」といったらもう何て言っているか分からないですね。

(坂本) そうですね。カラオケボックスとかですね (笑)。

(吉井) 違う、違う。まあ、「こんた」。「がいな馬力」、力のことを馬力と言いますよね。そして「しゃばるじゃねー」。引っ張ることをみんな「しゃばる、しゃばる」と言います。

(坂本) しゃべるとかしゃぶるというのではない。

(吉井) じゃなくて「引っ張る」ことは「しゃばる」と言います。これもよく聞かれますよね。そして次は何でしょうかね。

(坂本) これは授業中ですね。

(吉井) 授業中ですね。授業中にこれまた聞かれる言葉です。じゃあ、はい。

(坂本) 「こら、お前は何をしているんだ。すみません、疲れてつい眠っていました。こら、お前は何をしているんだ。すみません、疲れてつい眠っていました」。

(吉井) これは隠岐弁でこうなります。「ていっ、のしゃなんしちよっ。すんません、こわーていねがついちよった」(笑)。

(坂本) また難しいね。

(吉井) 難しいといえば難しいですけど、これはよく使われますよね。そんな難しくないです。まず「ていっ」というのが。これもこらというときによく「ていっ」とよく怒るんじゃないですかね。

(坂本) あまり、それは。

(吉井) いやいや、使います。たぶん使った人もたくさんいますよ。「のしゃなんしちよっ」。

(坂本) これはおぬしから来ている。

(吉井) 「のしゃ」というのは「のし」というのはおぬしから来ていますね。お前とかという親しみを込めて「のしゃ」。「すんません。こわーていねがついちよった」というのが、まず「こわい」というのが、これは「こわい」というのも恐ろしいではないですね。

(坂本) ないですね。

(吉井) これはタイヤード (tired) の方の。

(坂本) 疲れるですかね。

(吉井) 疲れる方だね。隠岐弁って疲れるときに「こわい、こわい」と。

(坂本) 島前なんかは「せつない」とか。

(吉井)「せつねえ、せつねえ」って言いますね。これは「こわい」。そしてこの「いねがついちよった」。これは意味がちょっと難しいですけど、どんな感じ。

(坂本) 例えばどういったようなシチュエーションで使うのかというのをちょっと言ってもらったら。

(吉井) はい、僕の方でこれを説明します。

(坂本) そうですか。今から先生がどういった場合に使うかというのを説明しますので、お願いしたいと思います。先生、先生、先生。

(吉井)「おお、いねがついちよった」。

(坂本) もうやっていたんですね (笑)。

(吉井) すみません、あんな感じです。

(坂本) こういうときに使うんですね。

(吉井) 思わず知らない間にうつらうつら、こっくりこっくり居眠りしているときに、「いねがついちよった」と、あんな感じですよ。

(坂本) よく分かりましたね。

(吉井) ではどんどん行きましょうか。次は給食のときなどによく使われる。

(坂本) そこまで考えていますね。

(吉井) 給食のときなんか聞かれる言葉ですかね。では、はい、お願いします。

(坂本)「君はご飯を食べさせてもらってないのか、がつがつ食べて意地汚いな」。

(吉井) こんなことを今言いませんけれども。

(坂本) 誰がこれを言います？

(吉井) 昔は言ったでしょうね、たぶん。

(坂本)「君はご飯をたべさせてもらってないのか、がつがつ食べて意地汚いな」。

(吉井) これは隠岐弁でこうなります。「こんたすてがつれか、こんじゃがきたねいな」(笑)。

(坂本) 絶対それは言いませんよ。

(吉井) いやいや、たぶん言われていますよね、小さいときに。僕は言われていませんよ。

(坂本) 失礼ですよ。

(吉井) これね、「すてがつれ」ってすごく汚い言葉ですよ。要するに家の人忙しくてあまり構ってもらってない状態ですよ。「こんじゃがきたねいな」、これは意地汚いですね。これはたまに今でも僕、言われますよ。

(坂本) おやつなんかのことは「こじゃ」って。

(吉井)「こじゃ」って間食のことですね。間食は「こじゃ」って言いますね。

(坂本) これ、ちょっと違いますか。

(吉井) 違うんですね。

(坂本) そうですか。

(吉井) 意地汚くがつがつ食ってばかり、「こんじゃがきたねーな」。これは言われぬ方がいいですね。

(坂本) そうですね。

(吉井) そして次もこんな人いますかね。じゃあ、次の隠岐弁に行きましょうか、では、お願いします。

(坂本) 「君はずるいなー。ずるい、ずるい、ずる賢いよ」。絶対これ、言いませんよ。

(吉井) いや、いるんです、こんな子供さんが(笑)。

(坂本) 「君はずるいなー。ずるい、ずるい、ずる賢いよ」。

(吉井) これは隠岐弁でこうなります。「こんた、すたけーなー、すたけー、すたけー、すったらがしけえ」。

(坂本) 般若心経の中にあるでしょう、ぎゃーてーぎゃーてーはーらーぎゃーてー、みたいな。

(吉井) よく隠岐弁をばーっとしゃべっていたら、都会の人は何を言っているか分からないというよりも呪文かと言われる(笑)。呪文ぽくなりますけど、これもでも確かに「すたけー」は分かりますよね。ずるいことを「すたこい、すたこい」。本当は「すたこい」です。これがしゃべって早口になったのが「すたけー、すたけー」。ずる賢いことを。うちも死んだおやじがよく言っていました、「すったらがしけー」って。

(坂本) そうですか。

(吉井) 「すったらがしけーわけー、こんたは」といって。僕じゃないですよ。とにかくものすごく頭の回転が速くて、とにかくずる賢いことを「すったらがしけー」。

(坂本) なるほど。

(吉井) ある意味褒め言葉かもしれません。

(坂本) そこなんですよね。

(吉井) そして次はまだ学校編ですよ。

(坂本) まだ学校編です。

(吉井) 学校から帰る途中、下校のときなんかによく使う隠岐弁を紹介します。では標準語をお願いします。

(坂本) 「坂本のお兄ちゃんが家に帰る途中で転んでけがをしたらしいよ」。「坂本のお兄ちゃんが家に帰る途中で転んでけがをしたらしいよ」。

(吉井) これの隠岐弁でこうなります。「坂本のおんやがわがとこのいにしなにくどれてやまちしたやあなわ」。この後でたぶん薬を塗ってもらって「はしるー」と言うんですよ(笑)。

(坂本) 染みるでしょうということ。

(吉井) ここで「はしるー」と言うからね。

(坂本) あのくだりですよ。

(吉井) え。まずこの「坂本のおんやが」というのは、「おんや」というのは別にお兄ちゃんじゃなくて、長男のことを隠岐弁ではよく「おんや、おんや」。

(坂本) 「おんやさん」とか。

(吉井) 次男以下のことは「おじ」と言います。僕なんか四男なので「すておじ」ですよ(笑)。

(坂本) 「すておじ」。

(吉井) 「おじくそ」とか言いますからね。

(坂本) 「おじくそ」ですね。

(吉井) すごい差がありますからね、本当に。長男は「あんや、あんや、あんやさん」。我々は「おじ、おじくそ」。その「あんや」です。「わがとこ」、自分の家のことですね。マイホームのことを「わがとこ」。「いにしな」というのは帰る途中、分かりますよね。転ぶことを隠岐弁で「くどれる」と。

(坂本) 「まくれる」というのもありますね。

(吉井) 「まくれる」と「くどれる」は微妙に。

(坂本) 違う。

(吉井) 違いますね。説明できますよね。

(坂本) 「くどれる」は前につんのめる。

(吉井) そんな感じですよ。石に引っ掛かってこんな感じでね。

(坂本) 「まくれる」はちょっと滑って尻もちをつくような。

(吉井) バナナを踏んで、こんな感じでね。

(坂本) バナナを踏んだことがないですけどね。

(吉井) イメージがよくありますね。「くどれる」。やまちというのが、これはたぶん過ちから来ていると思うんですけど、けがすることを「やまち」と言います。よく「屋根から転げてやまちた」とかと言いますよね。このけがのことを「やまち」と言います。

(坂本) 吉井さんの屋号が。

(吉井) うちの「やまじや」です。全然違います(笑)。さあ、そしてこの言葉を受けて次の隠岐弁があります。それがこうです。

(坂本) さっさと帰らないからだよ、いい気味だ。さっさと帰らないからだよ、いい気味だ。

(吉井) だいたい言葉、汚いですよね(笑)。

(坂本) 汚いですね。

(吉井) それはちょっとすみませんけれども、これが隠岐弁になりますとこうなります。「ちょいちょいなんけだじょうだ」(笑)。

(坂本) あしたの？

(吉井) いや、アニメじゃなくて。これも「ちょいちょい」というのが、だいたい最初に言ったように隠岐弁というのは2回続けるのが多い。早くしろと、早くせいというのを「ちょいちょいせい」と言いますよね。「ちょいちょい」って早くせいと。「いなんけだ」、帰らないから。「じょうだ」というのが、これがまた汚い言葉ですけども、吐き捨てるように言っていますね。

(坂本) 「じょうだ」ね。

(吉井) いい気味だよというのが「じょうだ」。「さ、まじょうだわ」とかと言います。これも皆さん、知っていますよね。聞いてみるたらああ、そうだったとなると思うんですけど、ぜひまた思い出して使ってください。

(坂本) 思い出して。

(吉井) はい。さあ、ここまでが学校でよく使われる隠岐弁で。

(坂本) そうですね。

(吉井) いよいよ次から本番になりますよね。時間もだいぶなくなってきましたので。じゃあ、次の項目を。上級編です。

(坂本) 上級編です。ちょっと難しくなります。

(吉井) ここからは多少、標準語も長くなりまして、古風な隠岐弁も出ます。もしかしたら諸先輩の方々もそんな隠岐弁知らんぞというのも出てくるかもしれませんが、そこは今日は了承していただいて、楽しんでもらえたらいいと思いますのでね。

まず最初の隠岐弁は、これ隠岐というのは祭りとか神事とかがよくあって、清めだ、清めだ、よくお酒を飲みますよね。そういうお酒をよく飲んだときに聞かれる隠岐弁ですね。まず標準語をお願いします。

(坂本) 「君はたいそお酒を飲んでべろべろじゃないか。何を言っているんだ、君とどっこいどっこいだよ」。「君はたいそお酒を飲んでべろべろじゃないか。何を言っているんだ、君とどっこいどっこいだよ」。

(吉井) こういうシチュエーションはよくありますよね。これは隠岐弁でこうなります。「こんたがいに酒飲んでよえたぼじゃね。何いっちょ、こんたといーで一だ」(笑)。

(坂本) 出てきましたよ、ほら。

(吉井) まず「こんた」はさっき言いました、君ね。もうたくさん酒を飲んで「よいたぼ」。「よいたんぼ」とも言いますよね。べろべろな泥酔したやつのことを「よいたぼ」と言います。そして「何いっちょ」。君といい勝負だよ。どっこいどっこいは隠岐弁で「いーで一だ」。

(坂本) ナイスな日。

(吉井) それはグッドデー (good day) でしょうね (笑)。「いーで一だ」って。

(坂本) 「いーで一だ」。

(吉井) いい勝負だよということを「いーで一だ」と言います。これもぜひ使ってもらいたいですね。

(坂本) 使ってもらいたい。

(吉井) 今年にあのね、また来年からでも。

(坂本) 年末年始ね。

(吉井) 年末年始にたぶんこれはありますからね、ぜひ。「よいたぼ」はよく使いますからね。さあ、そして次はまだ上級編の隠岐弁。じゃあ、標準語をお願いします。

(坂本) 「君のお母さんはくどくどむだ口が多いし、本当にいらぬおせっかいばかり焼くよね」。

(吉井) いますよね、こういう人ね。

(坂本) 「君のお母さんはくどくどむだ口が多いし、本当にいらぬおせっかいばかり焼くよね」。

(吉井) これが隠岐弁になりますとこうなります。「こんたのかあちゃんはせんじょうこんごうがおーてしんからちょうさいぼうだな」(笑)。

(坂本) 密教の呪文でしょう、先生。真言宗か何かですよ、これ。

(吉井) これ、僕、人に言ったら本当に呪文かと思われる。

(坂本) これはそうでしょうね。

(吉井) これは「せんじょうこんごう」というのは実際、本当にたぶんおそらく南無大師遍照金剛というお経があるじゃないですか。このお経をずっとつぶやいているぐらいくどくどくどくどくずっとしゃべっている状態を「せんじょうこんごう」が多い。

(坂本) 国分寺さんに失礼ですよ。

(吉井) 違う、違う。そんなことないですよ。じゃなくて、「せんじょうこんごう」が多いというのはむだ口がずっとしゃべっている、いつまでたってもしゃべりが止まらん人。「せんじょうこんごう」が多い。

(坂本) 洗って混ぜるんじゃないですよ。

(吉井) そうじゃない。早いから付いてこれられない、皆さん。もっとゆっくり。

(坂本) ゆっくりして。

(吉井) この「しんからちょうさいぼう」。本当にというのを隠岐弁で「しんから」と言いますね。「ちょうさいぼう」というのはここが赤になっていませんけど。

(坂本) 本当だ。

(吉井) 「ちょうさいぼう」, 「ぼう」までが。隠岐弁でほかに「せいろく」という言葉あります。「せいろく」というのは、いらぬお世話を焼いたりとか、いらぬことをするなというのは「せいろくすんな」と言いますよね。その「せいろく」よりもまだ本当にいらぬことばかりする人のことを「ちょうさいぼう」という。

(坂本) うちのおやじもそうですね。

(吉井) 確かにいい人ですよ。いい人というか(笑)。

(坂本) フォローして。

(吉井) 確かに若干「ちょうさいぼう」ですよ。

(坂本) 若干「ちょうさいぼう」。

(吉井) では次。次は隠岐のびっくりしたときに使う隠岐弁を紹介します。では標準語をお願いします。

(坂本) 「びっくりしたー、本当に驚いたよ。びっくりしたー、本当に驚いたよ」。

(吉井) これが隠岐弁でこうなります。「ばら〜」(笑)。

(坂本) これだけですか。

(吉井) これはよく使っていますよね。「ばら〜」と言って。

(坂本) 使っています, これ。

(吉井) 使っています。何か見て「ばら〜」と言っていいじゃないですか。

(坂本) そうですか。

(吉井) これは本当、使いますよね。じゃあ、今度はまた次のことをやりましょうか。じゃあ、次お願いします。

(坂本) 「うわー、びっくりした、もう死ぬほど驚いたよ」。「うわー、びっくりした、もう死ぬほど驚いたよ」。

(吉井) これはこうなります。「ばら〜っしゃ」(笑)。

(坂本) これはうそでしょう, 絶対。

(吉井) これは本当にもう死ぬほど。死ぬほどびっくりしたときは、多少「しゃ」というのはいろいろな語尾が変わるんですけど、東の方面の人がよく使っています。

(坂本) 東の方面？

(吉井) はい、使っていますけど。この「ばら～っしゃ」というのは一生のうちに3遍ぐらいしか。3遍言った後は死ぬ前かなぐらいな。

(坂本) そうですか (笑)。

(吉井) そのぐらいもう心臓に負担が掛かるぐらいにびっくりしたときに、うわっと言って。

(坂本) 「ばら～」って。

(吉井) 3回言ったらもう後は死ぬかなというような、びっくりするような。でもちょっとこれは皆さん、せっかくですから一遍復唱しましょうかね。いいですかいきますよ、では皆さん。「ばら～っしゃ」。

(会場) 「ばら～っしゃ」。

(坂本) 今1回言ったので、あと2回しか使えないです (笑)。

(吉井) もう1回に入っていますからね。

(坂本) あと2回だけですよ。

(吉井) あと2回しか言えません

(坂本) 気を付けてくださいね。

(吉井) 言ったらもう次はやばいです。心臓に負担が掛かります。そして次に行きますかね。次もまた隠岐ならではの表現です。では標準語をお願いします。

(坂本) 「ああ、しまった。どどどどどうしよう、何てことをしてしまったんだ、取り返しの付かないことをしてしまった。悔やんでも悔やみ切れないよ」。「ああ、しまった。どどどどどうしよう、何てことをしてしまったんだ、取り返しの付かないことをしてしまった。悔やんでも悔やみ切れないよ」。

(吉井) これは隠岐弁でこうなりますね。「やいなー」 (笑)。

(坂本) さっき俺、散々すごい標準語を長いこと言ったんですけど。これだけですか。

(吉井) 隠岐ではこの一言で。うわ、しまったこんな。「やいなー」ですべてが。これもせっかくですから皆さん、復唱しましょうね。いきますよ「やいなー」。

(会場) 「やいなー」。惜しかったな。

(坂本) もうちょっと拡大してもらっていいですかね。ここに「ちゃっ」とあるんですね。

(吉井) 「やいなー」を必ず言う前に。

(坂本) 舌打ちがある。

(吉井) 「やいなー」って舌打ちしてほしい。「ちゃっ やいなー」って舌打ちを入れることによって、本当に悔やんでも悔やみ切れないなという、しまったなという表現が入っています。

(坂本) なるほど。難しいですね。

(吉井) はい。でも、これも皆さんよく使いますよね。さあ、そしていよいよ時間的にも最後の。これも大変奥深い。

(坂本) 隠岐ならではの。

(吉井) 隠岐ならではの隠岐弁で、これも標準語が長いですけど、奥深い言葉です。では、お願いします。

(坂本) 「それは私もいろいろと考えて、あらゆる方面で検討してみたんですが、どうしても、どうしてもできない事柄なんです」。「それは私もいろいろと考えて、あらゆる方面で検討してみたんですが、どうしても、どうしてもできない事柄なんです」。

(吉井) これは隠岐弁でこうなります。「さ、いもだ」(笑)。

(坂本) 出ましたね。

(吉井) これは皆さん、その通りでしょう。ほかにどうだと言いようがないですものね。

(坂本) あれだけ長いこと言っていましたけれども。

(吉井) 要するにもう「さ、いもだ」と言ったら、ああ、そうだなで。

(坂本) これは絶対否定ですね。

(吉井) 何か無理を言われても「いもだ」と言ったら、隠岐の人間は、あ、じゃあ、しょうがないなど。

(坂本) 納得してくれるんですけどね。

(吉井) もう、できないんだなとね。ぐらい、絶対否定の「いも」という意味。

(坂本) 何でこれは「いも」なのか。

(吉井) 「いも」というのは「い」と「え」の間。「いも／えも」。もうできないよという意味。いもって、これは植物じゃないですよ。

(坂本) 分かっていますよ。

(吉井) これもせっかくですから復唱をしてもらいます。最後ですから。

(坂本) そうですね。

(吉井) 力いっぱいみんなで一緒に最後に言って終わろうかと思しますので。私が言いますので皆さん、はい、では。「さ、いもだ」。

(会場) 「さ、いもだ」。

(坂本) やっぱり上手ですね。

(吉井) もうやめてよと言われていたみたい。

時間もいい時間になってきていますので。ということで以上、こんなふうな形でやらせていただきましたけれども、どうだったでしょうか。(拍手)

(坂本) ありがとうございます。何回も言いますがここからは本格的な難しいお話で。

(吉井) 我々は本当に口汚しですから、この後に本格的な本当の素晴らしい隠岐の講座が始まりますので。ただ、隠岐弁を思い出していただいて、明日から楽しんで隠岐弁を使っていたら、我々は大変うれしく思いますので、ぜひまた何か機会がありましたらまたお会いしたいと思います。

(坂本) どうもありがとうございました。

(吉井) どうもありがとうございました。(拍手)

(A A) どうもありがとうございました。これから励みたいと思います。ありがとうございました。(拍手)

「隠岐方言の特徴—合同調査の報告を兼ねて—」

平子 達也

それでは次の発表というか、お話に行きたいと思います。次は駒澤大学の平子達也さんです。2年続けてここに勉強に来ています。その発表をします。「隠岐方言の特徴」、ちょっとこれは題が堅いですね。「合同調査の報告を兼ねて」という、堅いんですけどたぶんお話は柔らかいと思います。よろしくお願いします。

(平子) 平子です。よろしくお願いします。こんな笑いを取れる話は私はできないですけども、僕は去年初めて隠岐の島に来させていただいて、今年11月にまた2回目です。隠岐弁というか、隠岐方言の勉強というのは本当にその2回だけしかしてない素人です。今お話を聞いていても必死でメモを取っていたぐらい素人ですけども、その中で調査をさせていただいて、調査報告を兼ねてというよりは調査の中から見えてきた隠岐方言のこういう特徴があるんじゃないかということですね。

逆に言うと、こういうところが我々としては研究をしていきたいところだよということをお話しさせていただきたいと思います。ここはもう木部先生がお話ししてくださいましたのでスキップしてもいいんですけど、去年と今年11月にそれぞれ2日間調査をさせていただきました。五箇、西郷、中村、都万の4地点で調査をさせていただきました。

調査をしたのは大きく3つのことだったんです。1つはアクセントで、今のお2人の話を聞いていても、非常にやっぱりアクセントをまねするのが我々にとっては難しいですよ。イントネーションというか音の上がり下がりというのをまねさせていただくのが非常に難しいというのと、あと単語を聞かせていただきました。隠岐方言で見られる特徴的な単語、今いろいろな単語が出てきましたけど、それも見せていただきましたし、それと同じような標準語とそんなに変わらないような単語だけちょっとずつ発音が違う、特にアクセントもですけど、というところを聞かせていただきました。

それと文法ですね。ちょっと難しいかもしれませんが、主に動詞がどういうふうな形に変わるか。例えば否定、何かを、何々しないと言うときにはどういうふうに言うのか。何々されると言うときはどうやって言うのか。何々しているというときにはどうやって言うのかということをお聞きしました。

今日の話は、最初に調査のことだけでお話をしようかなと思ったんですけど、隠岐方言というのはそれなりに古い研究の歴史がありまして、その話を少しだけさせていただきます。その後に調査で得られたデータから隠岐方言の特徴についてお話をさ



せていただきたいんです。最初にアクセントの話をしようかなと思ったんですけども、先ほども言いましたように非常に難しいというのと時間の問題がありまして、文法というか主に言い回し、表現のところに重点をおいてお話しさせていただきます。

研究の歴史としては、石田春昭さんという方が、もう 1936 年の段階で『隠岐の島方言の研究』というこういう本を出版されています。これはおそらく隠岐の方言に関するまとまった研究としては、最も古い部類に入る研究だと思います。中を見てみますと文法から発音、アクセントに至るまで非常に詳細に研究がされていて、すごいなという研究ですね。しかも隠岐のいろいろな方言、我々が調査した 4 地点だけじゃなくて島前も含めて地域差、ここの方言とここの方言はこういうふうに違いますよということにも言及をしているという。1936 年以前の隠岐の方言に関する非常に貴重な研究だと思います。

その後に 1950 年に廣戸惇という方が『山陰方言の研究』という、これも古い本ですけども出されました。これは『山陰方言の研究』と書いてあるので、山陰地方の隠岐も含めた出雲、石見、隠岐に関するまとまった研究です。

廣戸先生は実は 1949 年に『山陰方言の語法』という本も出されていますけれども、その後に大原孝道さんという方と一緒に山陰地方のアクセントに関する研究もされています。我々研究者の中では、隠岐の方言を研究するためには必ず参照しなければいけない研究の 1 つです。

今見た 2 つの研究、石田さんの研究と廣戸先生の研究というのは 1936 年、1950 年ということで 60 年以上前ですね、廣戸先生の研究でももう 66 年前の研究になりますから。そこに書かれているいろいろな方言の形が今でも残っているのかとか、また違う形に変化してないのかとか、もうなくなってしまっているものもないのかということ調査していく必要があります。

例えばこれは『山陰方言の語法』という 1949 年に書かれた本の中に、普通に命令するときは「見よ」とか「行け」とか「読め」と言うんだけど、たくさんの人に命令するときは「ミヤタレ」とか「エキヤタレ」、「ヨミヤタレ」。この「タレ」というのを付けるんだということが書かれているんです。これは皆さん、どうでしょうか。こんな言い方は聞いたことがないという方が多いのかもしれない。こういう言い方が残っているのかということも我々は知りたいんです。実はこの後の紹介する 1970 年代の研究では、もうすでにこの形は隠岐ではほとんど使われないということが書かれています。なので、古い研究の中に残っている言葉がどういうふうになっているかということを知りたいと。

今言いましたように 1978 年に、神部さんという方が『隠岐方言の研究』というこんな大きな本を書かれています。これは実は五箇の方言を中心にした隠岐方言に関する非常に詳細で総合的な研究で、前編と後編に分かれていて、前編は『隠岐方言の存立と特性』というタイトルですけども、隠岐方言の中のいろいろな方言に関してどういうものかと、地域差に関して扱ったところで、後編は五箇方言に関する非常に詳しい研究があります。表現、音声、語彙と分かれています。全体 800 ページを超える非常に大きな研究で、これも我々隠岐を研究する人間にとっては絶対見なければいけない研究です。

その後 1978 年にこの本が出た後、隠岐の方言に関してまとまった研究というのはなかなか見当たりません。単発的にあることはあるんですけども。ただ、アクセントに関する研究はずっと今に至るまで盛んに続いています。

三型アクセントという、ちょっとあまり詳しくお話はできないんですけども、アクセントを持つことで隠岐方言というのは知られていまして、国内ではこの三型アクセントというのは、琉球列島の方言を除けば福井県の一部に見られるだけの非常に珍しいアクセントです。実は福井にあるということは最近分かったので、それまではこの琉球以外では三型は隠岐にしかないといわれていて、みんなこぞって隠岐にアクセントの調査に来ていたという時代があります。この合同調査にも参加された上野善道先生や、松森晶子先生のご研究があります。

じゃあ、これだけ、一応偉業と言っては変ですけども、こんな分厚い研究書も出ていてこれだけ研究の積み重ねがあるんだから、それを読めばいいんじゃないのと言われるかもしれないんですけど、なぜ今隠岐方言を調査し研究する必要があるのかというと、僕としては2つぐらいの理由を思い浮かべます。

1つは、当たり前なことなんですけれども、研究がまだまだ十分ではないからという単純な理由です。石田春昭さんとか廣戸先生の研究というのは断片的ですね。全部まとまった研究ではないというところがあります。現代の研究者が知りたいことが全部書かれているわけではないですから、その穴を埋めなければいけないというのと、神部先生のこの分厚い本は非常に詳しい研究ですけども、ただ五箇方言が中心ですからほかの方言ではどうなのか。隠岐の中のほかのところではどうなのか。特に島前の方ではどうなのかということが分からないままになっています。

さらにもう1つは、昔と今では方言が変わっているかもしれないから。当然変わっているんだろうと思います。この神戸先生の研究でももうすでに40年近く前の研究になりますから、今残されている方言がどういうものなのかということを知りたい。もちろんなるべく古い形も知りたいんですけども、今どういう言葉を皆さんが話されているのかということを知りたい。先ほど木部先生から少しだけお話がありましたけど、日本中の方言がいわゆる危機、このままなくなっていくかもしれないというところにありますので、なるべく早くなるべくたくさん調べたい。

昔の隠岐の方言からずっと変化を経て今の隠岐の方言になっているわけです。ただ今の方言に至るまでに何にも影響も受けなかったというところではなくて、例えば近隣の方言の影響、だから五箇方言とか西郷の方言でずっと通せるわけではないんですね。隣の集落からお嫁に来たりとかいろいろコミュニケーションがあって、近隣の方言の影響を受けて、つまり影響を受けた方言が生まれます。

さらに大きいのは標準語、日本語の影響があって、その影響を受けた方言というのが出てきます。そうすると本当の純粋な方言というのはなかなか残ってこないですね。なるべくそこを我々は見たいんですけども、難しいところはあります。こういう状況がいわゆる危機であるということになります。

ここまででは研究の歴史についてですけど、私たちが調べたものに基づいてここからお話をさせていただきます。調査の報告というような形でお話をさせていただきますけれども、4地点だけで調査をしています。しかも今回出てくる例というのは非常に限られたものですので、同じ隠岐の中でも地域差とか年齢差というのがあると思いますから、皆さんが実際に話されているものとは違うかもしれません。ご自分がお話をされる隠岐弁とか方言との差を思い浮かべな

がら聞いていただけると面白いかなと思います。

隠岐方言はよく出雲方言の古い姿を残しているといわれることがあります。確かに私は出雲の方言を何年か研究はしているんですけども、近いなと思うところはあるんですが異なる部分も非常に多くあります。そういうところに注目しながら合同調査で得られたデータから特徴的な現象を取り上げていきます。

まず1つ目、動詞の活用ですね。古典語未然形というちょっと難しいですけど、要はこういうことです。否定の言い方、標準語では、書かない、寝ない、来ないみたいなふうに言います。あとは意志、何とかしようという形です。書こう、寝よう、来ようとか。あとは受け身の書かれる、寝られる、来られるみたいな言い方とか。あとは使役で、何とかさせる、履かせる、寝させる、来させる、こういう言い方が隠岐でどうなっているか、調査でどういう答えが返ってきたかということです。

例えば否定の形。過去の否定の形は、例えば「去年は年賀状は書かなかったよ」というのは、「キョネンワ ネンガジョーワ カカザッタ」とか「カカダッタ」という方言もあるんだと思いますけれども。とか、「去年は年賀状を出さなかったよ」というのは「キョネンワ ネンガジョー ダサダッタヨ」というお答えをいただきました。「書かなかった」のその「なかった」に当たる部分に「ザッタ」とか「ダッタ」というのが出てくるのは、1つの隠岐方言の特徴になります。

あと出てきたのは、「うるさくて嫌だった」。たぶん「好かなかった」ってことだと思うんですけど、「メンダナケ スカザッタ」という言い方を聞きましたね。これはこういうのをどう言いますかと聞いたわけじゃなくて、自然に会話している中でお聞かせいただいた表現です。

次に何とかしようという意志の形ですけど、例えば「疲れたからもう寝よう」というのは、「ツカレタケ ニョーヤ」という言い方をすると教わりました。「一緒に寝よう」というのは「イッシヨニ ニョーヤ」、これも「ニョーヤ」と言うんですね。あとこれはドラマのせりふみたいですけど、「死ぬときは一緒に死のう」というときは、「シヌトキワ イッシヨニ シナーヤ」という言い方をするんだと習ったというか教わったんですが。

さっきの「いのっずや」というのと一緒に、「死ぬ」というの「シノル」とか「シナル」という言い方をするんじゃないかなと思って、このときは「シヌトキワ イッシヨニ シナーヤ」という言い方を教わったんですけど、もしかしたら死ぬときはと言うときは「シノルトキワ」とか「シナルトキワ」とも言うんじゃないかなと思います。「ル」とか言わないのかもしれない、「シノートキワ」とか言うかもしれないけど。

今見た、意志とか勧誘の形というのを、標準語で書こう、寝ようなんていうのを、何とかだろーみたいな推測とか推量する意味では使えないんですね。標準語の場合は使いにくいんです。推量するときには書くだろーとか、寝るだろーというのが普通です。隠岐方言でも殺虫剤をかければゴキブリはすぐに死ぬだろーという「死ぬだろー」のところを、「シナルジャラー」とか「シナルダラー」みたいな標準語のだろーに当たるような形で言うこともあると教わったんですが。こんな言い方もあるよ、殺虫剤をかければゴキブリはすぐに「シナーズ」という。「死ぬだろーよ」というときをもうすぐ「シナーズ」という言い方もすると教わりました。

これは1つ標準語と非常に大きな違いではあるんです。都万で聞いたんですけど。あとこう

という言い方、実際どう使うのかというのはあんまり僕もちゃんと分かっていないんですけども一応出てきたものとして、「まだ寝るな」と言うのに「マダ ニョーツケ」と言う。「帰るな」と言うのを「イナーツケ」とか「カエラーツケ」と言うんだということを聞いたんです。違うと言われたら、もうそれまでですけど。もっと違う言い方があるんだということがあれば、それは教えていただきたいんですけど¹。

「そんなところを探してもお金はありはしないぞ」って言うときに、「サガシタテテ アラーツケナ」という言い方をすると習いました。この「ツケ」という形、これがどういうふうに使われるのか、どういう意味合いなのかというのは、今言いましたように不勉強ですのでこれからちゃんと勉強していきたいと思います。

あと、この「来る」のいろいろな形があって、標準語の場合は来られる、これは受け身と使役が逆だ、コサセル、コラレル、コナイと全部「コ」ですね。都万で聞いたんだと思うんですけど、使役の「来させる」というのは「キサセル」。こんなに早くに「来られてしまった」というときは、「クラエル」。「ク」になる。否定「来ない」というときは「コン」、「コノ」になる。標準語は全部コ、コ、コなのに、隠岐は「キ」、「ク」、「コ」と形が変わるといふ。これも非常に興味深いものだなと思って聞きました。

あと、受け身の形を調査していたときに出てきたので、「～テ ゴス」というのを聞きました。例えば「こんなところに落書きを書かれると困る」というときに、「コゲナ トコニ カイテ ゴスト コマツケドナ」という言い方をします。「コゲナ トコニ カイテ ゴスト コマツケドナ」、これは「書かれる」に直接当たらない言い方なのかもしれませんが、「～テ ゴス」という言い方をすると。

これをたぶん標準語に直訳すると、「こんなところに書いてくれると困るんだけどな」みたいな。「くれる」に当たるものですけど、たぶん標準語でこれを言うとちょっと変というか、ここで「くれる」はなかなか出てこないんじゃないか。そういう意味でこの「ゴス」の使い方というのはより興味深いところです。

あと、さっきのお2人のお話の中でもいくつか出てきたんですけども、さっきの出てきた中で言うと「スタコイ」、ずるい、「スタケー」というそれと同じようなことですけど、「昔はよく船をこいだ」と言うのに、「ムカシハ ヨー フネオ ケーダ」と言う。これはさっきの「スタケー」とか、あとは「すごい」というのを「スゲー」と言ったりとか、「早くない」というのを「ハヤネー」、「ハヤーネー」と言ったりとかというのと同じような現象の1つで、標準語のオイとか、アイに当たるものが「コイ」というのが「ケー」になる、「ゴイ」が「ゲー」になる「ナイ」というのが「ネー」になるということです。

¹ 講演後、聴衆の方から、「～ツケ」という言い方は、「帰るな」などの禁止にあたる言い方ではなく、むしろ「帰るな」と言われた者が「帰りはしないぞ!」という時の言い方にあたるとの指摘を受けた。神部宏泰(1979)『隠岐方言の研究』pp. 153-157にも、「特殊な否認表現」として同様の記述がある。調査データの解釈に際して平子の誤った解釈をしたということである。講演録中の注という形ではあるが、訂正させていただき、誤りを御指摘して下さった聴衆の方に感謝申し上げます。

標準語の形から見るとちょっとえっというのがある、例えば「出した」というのを「データ」と言う。手紙「出したよ」と言うのを、手紙「データ」と言うとか、起きる時間になったら「起こしてくれ」というのを起きる時間になったら「オケーテゴシェヨ」。ここでも「テー」とか「ケー」という形が出てくる。なまりと言われるとそれまでですけどこういうのは何かかなと思うと、おそらく「出した」というのは「ダイタ」という形がもとにあって、それから「データ」と。「起こして」というのが「オコイテ」という形になって、そこから「オケーテ」という形になったんじゃないかなと考えています。

あと、こういうのも出てきました。「まだ書かなくてもいいよ」、「マダ カケーデモ エーワナ」。「まだ行かなくてもいいよ」、「マダ イケーデモ エーワナ」。「まだ来なくてもいいよ」、「マダ ケーデモ エーワナ」。中村でお聞きしたんですけど、たぶんもともと「カカイデモ」とか、「イカイデモ」、「コイデモ」という言い方なのかなと思います。もしかしたら全然違うのかもしれない。

けど同じような表現で都万では「カカーデモ」と言うんだと。ここでちょっと地域で言い方が違う。もしかしたら皆さんの話す隠岐の方言、ご自身の言葉ではもっと違う言い方があるのかもしれないけど、こういう言い方があると。これも、さっき見たこの「コイダ」というのも「ケーダ」と言うのと何か同じような現象が起こっているのかなと思っています。

その他にもいろいろとありますけれども、いわゆる形容動詞というのがあるんですけど、「静かだな」と標準語は言う。こちら辺は「静かだなあ」と、「ダ」と言うんですけど、「シズイカナナア」って、ここに「ナ」が出てくるということ。「静かでない」というのは「シズカニネーダガノ」。ここに「ニ」が出てくるとか、「有名だったよ」というのを「ユウメイナカリヨッタ」という言い方をする。「ユウメイナカリヨッタ」という言い方をするというのはまた聞きですけど、こんな言い方もあって、これも標準語とは違うし、実は「シズカナナア」みたいな言い方は先ほど言いましたけど、出雲と隠岐はちょっと近いかもしれないと話をしました、出雲の方でも聞かれたりします。

「ユウメイナカリヨッタ」みたいな言い方は、四国の方でも使えることがあるということ、物の本で読んだ気がします。そういう中で見ていくと隠岐の方言がどういう特徴で、日本の方言の中でどういう位置付けにあるのかということが分かってくるのかなと思います。

淡々と話ただけで申し訳ないんですけど、まとめに入らせていただきます。ここまで見たのは動詞とかそういう、ちょっと難しい話ですみませんが、隠岐方言にはまだまだ分からないことがたくさんあるんですね。私としての1つの目標というか目的、勝手な夢ですけど、全部島前島後、全部というのがどういうふうに分けて何個隠岐に方言があるのかということも難しいんですけど、その全部の方言についてできるだけ詳しい辞書、単語集を作って、それと文法集ですよ、どういう文法ですかというのを分かるものを作って、その2つを使えば読めるテキスト、教科書というに変ですけど読本を作る。そうすると後世になって、後になって、あ、こちら辺の方言はこういうふうなものなんだということがよく分かる、こういうことをしたいと。これが1つの目標です。

それともう1つ、もっと大きい私の目標は、隠岐の方言が日本の中でどういう位置付けにあるかということを知りたいんですね。例えば先ほどから言っているように出雲の方言とどうい

う関係にあるのか。今までは出雲の方言の古い姿を隠岐は残しているところがあるということはいわれてきたけど、じゃあ、実際どういうところが古くて、ここは古くない、もしかしたら隠岐の方言の方が出雲よりも新しい部分があるかもしれないですよ、そういうところを調べていきたい。

あとはさらにそのほか、山陰方言、岩見とか伯耆の方言との関係はどうなっているか。この後休憩を挟んだ後の友定先生のお話の中でも少し触れるところがあるかもしれませんが、そういう中での位置付け。

次に、さらにもっと大きく見て、西日本の方言の中で隠岐というのはどういう方言なのかという。隠岐だけではないんですけども、いわゆる雲伯方言と呼ばれている出雲と伯耆の国の方言、あと隠岐を含めた方言は、西日本の方言の中でも非常に特徴的な方言だということは昔からずっといわれています。西日本の中にあるんだけど、何か東日本ぽい要素がある。東日本の方言ぽい要素があるというのはずっといわれていることで、じゃあ、それはなぜか。ほかの西日本方言とはどういうつながりなのかということをも明らかにしたい。

それで最終的には全国の方言の中で隠岐方言というのがどういう位置付けを占めるのか、もしかしたらもうとても古い、日本の中でも最高級に古い特徴のある種残しているところもあるかもしれないし。そういうことを明らかにしたいと思っています。

時間をあまり管理してないんですけど、こんな形でまとめさせていただきます。ご清聴ありがとうございました。(拍手)

(司会) どうもありがとうございました。またいろいろ教えていただければと思います。今日もいくつか例が出てきましたので。

それではここでちょっと休憩を入れたいと思います。

「隠岐弁の魅力」

友定 賢治

(司会) では最後に、県立広島大学名誉教授の友定先生に「隠岐弁の魅力」という題でお話をお願いします。よろしくお願いします。

(友定) こんにちは。友定と申します。よろしくお願いいたします。私は「隠岐弁の魅力」という題で話をさせていただきます。先ほどの平子さんのような若い方が、この出雲とか隠岐とかの方言を一生懸命勉強してくださっていて、本当に皆さんが普段お使いの何でもない言い方が、研究者の立場から見ると非常に重要な言い方であったりということをお感じになったのだと思います。私も同じような話の一部ありますけれども、隠岐弁の魅力として感じていることを話して、それを平子さんのような若い方の研究に託したいというような気持ちでおります。

まずこの隠岐を含む方言は、さっきもちょっと出てきましたけど、雲伯方言という言葉で呼ばれていますけれども、出雲の「雲」と伯耆の「伯」で、ここですね。日本の方言を分けたらこういった形で、隠岐の方言というのは、出雲とか伯耆と同じような特徴を持っているとされています。ただ先ほどの平子さんの話のように、出雲とまったく同じではないということは当然なんですけれども。

例えば、ちょっと文字が小さくてすみません、これは広戸惇先生の「中国地方五県言語地図」という非常に重要な資料です。その中で、「茶も出さん」という言い方をどう言うかという調査をされていて、出雲、伯耆の部分と隠岐とが、同じ記号が付いていると思います。「茶ダエ出さん」とか、「茶ダイ出さん」とか、そういう言い方です。雲伯方言という言い方ができるという1つの例ですね。

ただこういうものがすべてであれば、隠岐をわざわざ調べる必要もなくて出雲だけを調べれば



ばいいとか、逆に出雲を調べる必要もなくて隠岐だけ調べれば分かるんだということになるんでしょうけれど、当然そういうことはありません。隠岐方言には隠岐方言らしさがあり、私はその魅力として3つの点を挙げたいと思います。1つは独自性。出雲とは違う隠岐独自のものがあるという点。それから日本海側の交流とい

いますか、そういうものを立証できる資料として、方言が考えられるということ。それから先ほどの平子さんの話の最後の方にありましたけれども、東日本の方言と非常につながりという

か、関係とか共通性が高いといった側面。そういう面を取り上げてみたいと思います。

まず独自性です。これもすみません、ちょっと文字が小さいんですが、ここに「雨が降るけれどもこうこうだ」という、「けれども」というところをどう言いますかという地図です。雲伯地方はこの丸のような記号が付いていますが、隠岐はこの縦の線が付いています。雲伯とは違って、島前、島後にほぼ同じ言い方があります。これは「ダイド」とか「ダエド」という言い方です。「ダイド」とか「ダエド」という言い方は隠岐に特有で島前、島後とも共通した同じ言い方があるということです。こういうものが当然「ダイド」以外にもあるということになります。

あるいは、これは海士町で3年前に聞きました。魚のうろこのことを「ソブ」と言うんだと聞きました。ほとんど聞いたことがなかったので、「日本言語地図」という、日本全国を、2,400地点ぐらい調査をした資料があるんです。それで見ると「ソブ」という言い方をするのはこの海士町だけです。非常に特徴的な言葉だと思います。うろこのことを「ソブ」ですね。これ、ご存じの方はいらっしゃいますか。「ソブ」。じゃあ、島後の方では言わないんですね。島後で聞いたのはやっぱりうろこでしたから、島前の方の特徴的な言葉ということだと思います。

じゃあ、うろこは何だろうかというのを同じ地図で見ますと、これもちょっと地図自体は薄くて見づらいんですが、頭のふけのことを「うろこ」というのが記号として付いています。九州のこのあたりにも同じような記号が付いています。ほかにはありません。これはご存じですか。ふけのことを「うろこ」。

これも古い言葉のようです。平安時代の辞書に、頭のふけのことを「イロコ」という言葉で書いてあります。だから平安時代にはふけのことを「イロコ」と言って、「い」が「う」に変わったのはおそらく室町時代といわれていますけれども、そのときと同じふけのことを「うろこ」、「いろこ」という言葉が隠岐に残っているというのがこの地図で分かります。

それから、これを「日本言語地図」で、やっぱり島前の知夫村だけにあるようなんですけど、「いなずま」、「いなびかり」のことを「イナツルビ」という言葉が載っています。これも非常に興味深いのが、1つは、いなずまの語源というのは、稲の妻、夫で、電光が稲に当たると稲が妊娠してはらむ。米ができるという言い伝えがあると思います。つまり、いなびかり、電光というのは稲の夫、妻と考えられていたということをよく表しています。「つるむ（連む）」という言葉がありますね。それが使われた言葉。それがその知夫村にあって、「日本言語地図」で見ますとここだけにしかないようです。非常に特徴的な言葉だと思います。

あるいは、これは一般的に聞きますけど、行かないの、「行かノ」とか、「読まノワ」とか、こういう「ノ」の形で共通語の「ない」に当たる言い方を言い表す言い方、これも非常に特徴的な隠岐の言い方だと思います。

あるいは、これはどこかで聞いた言い方で、「あの人は昔先生だったチョ」とか、「明日は雨だチョゾ」という言い方が、これも2年前ぐらいに聞いたんだと思うんですけど、これは言われますか。

(会場) 言います。

(友定) この「チョ」という言い方。これ何でしょうね。次はさっきもちょっと出てきたんですけど、「イモカカンジャロー」とか、海士町に行くと「エーモデカケシェン」とか、こういう言い方がありますよね。この言い方が時代をさかのぼってみると、例えば源氏物語に「人のそしりをもえ憚らせ給わず」という、「え何々せず」という平安時代のものに頻繁に出てくる言い方です。それが残っているんですね。共通語では「えも言われぬ気持ち」という、かすかに残っている言い方がありますけれども。

さっき最初のお二人の話の中に出てきた、「イモダ」とか「エモダ」という形で言いますね、できないというのを。こういう言い方も共通語とかではできない、えも何々せずの「え」の部分だけを取り出して「イモダ」とか「エモダ」で、だめだという意味に使っています。これも非常に特徴的な使い方だと思います。

それで、「えも何とか」というのは伯耆が同じこの傘のようなマークが付いていますが、出雲の方にはそのマークがなくて、山陽側にあるんですね。山陽側と隠岐とが共通した、「えも何々せん」という言い方です。出雲の方に三角形の記号が付いているんですけど、これは「よう何々せん」という、「よう」という言い方ですね。隠岐と山陽側とが一緒に、出雲が違うという例ですね。

それから、これはさっき平子さんの話の中に出てきたんですが、「殺虫剤をかけたテヤ、ゴキブリはじきに死ぬジャラー（～かければゴキブリはすぐに死ぬだろう）」という言い方。これを、「かけたテヤ」という言い方ですね。こういう形である条件というか、そういう言い方をするのも非常に特徴的な言い方だと思います。「この薬を飲んだテヤ、痛みが治まるわ」という、「飲めば」ですね。都万と書いてありますが、これはこの村上さんに教えてもらった言い方です。

こういう「かけたテヤ」というこの条件の言い方も、全国を調べた資料を見ると、これと同じ言い方が全国にはほかにはちょっとないような気がするんですね。やっぱり非常に特徴的な言い方だと思います。「テヤ」がどこから来たものかということが分からなくて、今知りたいところですよ。

あるいは「殺虫剤をかけリヤ、ゴキブリはじきに死のルジャラー」の「かけリヤ」というのと「かけたテヤ」というのと、少し意味的なニュアンスが違うんだという話を昨日伺いました。「かけたテヤ」と言うと、そう言えばゴキブリはすぐ死ぬというのは、「かければ」の後に「そう言えば」という言葉を入れると、共通語で一番ぴったりくるんじゃないかなということも昨日教えていただいたんですけども、この「かけたテヤ」という形もこれから勉強していきたい形です。ぜひ皆さん、こうだということがありましたら後で教えてください。

それからこれは出雲と隠岐との違いで、こんなこともありますよね。「何々なりました」というのは、これは両方ともたぶん「ナーマシタ」ではないでしょうか。「何々するつもりだ」というのは、出雲は「ツモーダ」という伸ばす音ですけど、こちらでは「ツモツダ」という、こういった音になりませんか。「何々するツモツダ」。あるいは「犬帰るのか」というのが「エノーカヤ」と出雲は伸ばすと思うんですけど、「エヌツカヤ」「エヌツカノ」と、この詰まる音になる。これは島前の方に多いかもしれないんですけど、こういう詰まる音になるのが出雲とは違う形かなと思います。

さっきのように、隠岐弁とひとまとめにはできなくて、島前と島後で違いますし、この表のこの形が隠岐のすべての地域で使われているとは思いませんけれども、「えぬっかの」というのは、これはもしかすると島前で特徴的なものかなという気がしています。

次は、同じようなことですけど、「何々している」、今手紙や年賀状を書いている最中だというときに、島後の方、こちらではたぶん「書いチョル」という方が中心だと思いますよね。島前に行くと、「書いチョル」も聞くことは聞きますけど、「書いトル」の方が多いような気がします。「チョル」は少ないような気がします。出雲も、「書いチョル」と「書いトル」というのは両方とも使うというところが多いような気がします。

こちら、書き終わっている場合、もう手紙を「書いチョル」、年賀状を「書いチョル」、ここは「チョル」、こちらもやっぱり「トル」が多くて、出雲に行くと両方とも使うというような感じだと思います。島後と島前で少し「チョル」と「トル」の使い方が若干違うという気がしています。この辺も間違っていたら教えてください。

それから、さっきもちょっと出てきたものですが、あっ、雨だというのは、これは隠岐と出雲では「雨だ」だと思いますよね。山陽側に行くと「雨ジャ」という言い方になります。雨だった、となると「雨ダッタ」とも言うし、「雨ジャッタ」とも言われると思います。出雲は「雨ダッタ」だけです。山陽側は「雨ジャッタ」です。

「雨だろう」になると「雨ダラー」とか「雨ジャラー」というように、「ダラー」も「ジャラー」もこの島後では使われると思いますね。出雲に行くと「ダラー」だけです。山陽側に行くと「雨ジャロー」、「ラー」ではなくて「ロー」となりますね。この辺も隠岐が「ジャ」を使ったり「ダ」を使ったり、出雲と山陽側の両方のような特徴がここにあったり、あるいは出雲と同じように「ダラー」と「ラー」になるのは山陽側では聞けません。その辺も特徴的なところかと思っています。

ここまで出雲とかあるいは島前、島後の若干の違いとしてこれまで勉強したところで、こういうことかなと思うことを少し見てみました。隠岐の言葉を勉強していると、隠岐の言葉が日本海側に広く分布しているという、そういう特徴を見ることがあります。あるいは東日本に言い方が、西日本では隠岐や出雲だけに限定して存在するというものもあります。この辺がこの地域の方言の非常に特徴的な1つの姿だと思いますよね。

例えば、これは漁師さんが使う言葉でしょうが、「あゆのかぜ」とか「あいのかぜ」という言葉があります。この言葉は黒い丸が付いてある地域で使われる。それはほとんど日本海側です。この「あゆのかぜ」という言葉ですが、室山（敏昭）という先生は、出雲族の起源というのは縄文時代に南シナ海沿岸の華南地方からやってきた海洋民で、その人たちが使っていた「アユ」「ヒカタ」「ハエ」という風の名前はオーストロネシア系の言語の残存、すなわち縄文語の貴重な遺存を示唆するということを書いています。「あゆのかぜ」という言葉、それが非常に古い言葉の名残ではないかということを言われています。

こういう言葉が古くからの言葉だとすると、それが日本海側ですつとこのように使われるというのは、日本海側をそういったウミンチュたちが行き来した、その跡が残っているのかなということですね。ただ出雲とか隠岐で「あゆのかぜ」というのは今あまり使わないかもしれないですよ。ところが富山県あたり、北陸に行くと、「あゆのかぜ」というのはまだよく使われ

ています。

北陸新幹線ができて在来線が第三セクターになって、その在来線の名前に「あいの風 とやま鉄道」というのを付けていますね。その「あいのかぜ」というのはこの「あゆのかぜ」のことだそうです。こういう日本海側に分布している言葉、これはもしかすると非常に古い言葉で、日本海側を行き来した、交流があったその形跡だろうということを示すものかもしれません。

そういうものは、例えばこれは出雲地方で特徴的な古墳の前の形、弥生の末期ぐらいにできた、この四隅がこういうふう飛び出たような墳丘墓です。これは四隅突出型墳丘墓という名前が付いていると思いますけど、古墳時代と弥生時代の真ん中というか、中間といいますか、弥生の末期ぐらいからだろうと思います。この形のこういうものが出雲の土地でできたようなんですね。そしてそれが北陸あたりにも見いだせると。これは、ここでできたこういう形のものが、ずっとこっちに伝わっていったことを示していると説明されると思います。

さっきの「あいのかぜ」のような言葉も、あるいはこういった墓の形も、出雲あるいは隠岐のあたりから日本海側を通して、当時の越の国というか北陸の方にさまざまなものが伝わっていった、日本海側の交流というものを示す、ここで墓の形、あるいは言葉も同じように考えてもいいたらと思います。

この『しげさ節』の由来というのをネットの中で調べると、こんなことが書かれていました。越後方面に伝承されている盆の歌、「しゅげさ」が元唄だと。それが江戸の中期から後期にかけてこちらに伝承して、「しげさ」となったんだということが書かれているサイトがあります。これなんかも、北陸の方の民族なり、文化なりがこの出雲や隠岐に伝わってきた、この通りだとしますと、そのようなものとして受け取れます。

こういった民謡、文化、あるいは墓の形、そういうものと同じように、言葉も日本海側を行き来したことを表す、その証拠になるようなものが今の隠岐、出雲の方言にあるということだと思います。

さらに、これはタケで編んだ、こういったものですよ。それを「そうき」という言い方、これは今でも皆さんされますか、「そうき」。これが『日本国語大辞典』という大きな辞典で、方言としてはこういうところで使われているとあるんですね。鳥取、島根、隠岐、岡山、広島比婆郡、そして沖縄とあるんですね。ただ、その音の形が少し変わった形としては九州にありますから、沖縄から九州、そして岡山県や広島県の比婆郡、中国山地とか、山陰とかにこの言葉があると。

そうすると、これも沖縄からずっと九州を伝わって、隠岐とか出雲に伝わってきたという、その可能性があります。これなんかも、日本海側というのが沖縄を含めた形で、交流あるいは文化の流れがあったことをうかがわせるのではないかなと思います。

また、この牛突きですよ。これもどこで行われているか、牛突きのサミットというのがあるんですけど、沖縄はいろいろなところであって、それがやっぱり九州の方から、ここであって、新潟県にあって、岩手県の久慈とかこの辺にあって、沖縄からやっぱり日本海側にずっとこの文化があるような気がします。宇和島とか、そこにもあることはあるんですけどもね。この牛突きという文化ももしかすると、そういう沖縄、九州、あるいは日本海側を流れていった文化の1つということになるのかなと。

そうすると、さっきの『しげさ節』の由来とか、あるいは「そうき」という名前のもとか、そういうものに含めて、沖縄を含めた日本海側交流といったものが隠岐の言葉として考える要素、隠岐の言葉の位置付けを考える要素として必要になるかなということ进行を思います。平子さんが最後に言った、隠岐の方言の位置付けというとき、言語以外のこういう文化とか、そういうものと同時に、日本海側の交流といったものを考える必要があるだろうということ进行を思います。

次は東日本と一致するものとして、「イ」と「エ」の区別が非常にあいまいだという地域です。東がこの地域で、非常に広くそうなっていますが、西はここだけですよね。「イ」と「エ」の区別がなくて、「イキ」と「エキ」の区別が非常に難しいとか、そういうところがこの地域とここです。東に分布しているものが途中になくて、出雲、隠岐にあるというものですよね。

これはちょっと文字がぼやけた感じがすみません。「今日はいい天気だ」の「だ」のところをどう言いますかという地図で、東は全部「だ」ですよね。「いい天気だ」。その「だ」というのがあるのが、西ではこの山陰です。「だ」という形、山陽側の赤いのは「ジャ」です。「雨ジャ」です。「ええ天気ジャ」ですね。これも東のものがこの地域にあるということだと思いますね。

それから、さっきもちょっとお二人の話に出てきた「おじ」と「おば」ですよね。次男以下の男子をまとめて「おじ」と呼ぶ。もっと「すておじ」とか、そういう言葉もあるようですがけれども、これも東日本には、東北から関西にはずっと存在している。だけど関西より西では、島根県の隠岐と徳島とあります。次男以下の男子をまとめて「おじ」という言葉は、西では本当に限られたところしかない。「おば」もそうですよね。それが隠岐です。東の文化とか、東のもしかすると家の制度、そういうものと似通った面があるのかもしれない。これなんか、家族の制度とか、そういうもの等を含めて考える必要がある問題かもしれない。

それから、ここに「シヨウシナワア」というのがありますよね。ちょっと文字が見えづらいかもしれません。これは「恥ずかしい」ですよね。恥ずかしいという意味で「シヨウシ」というのを使っているのは、辞典で見ると、青森、岩手、秋田、宮城、新潟、富山です。別の意味では、ありがとうといった意味でも使いますが、恥ずかしいという意味で使うのは東北と北陸とここですよね。東日本、それから北陸にちょっとあって、ここの隠岐、出雲にあるといったように、東とここが非常に共通性が高いということです。

以上のことを含めて言いますと、隠岐弁の魅力は、まず独自性、一つ一つの単語についても言えるでしょうし、「カケタテヤ」とか、ああいった表現の仕方もあるでしょう。また、日本海側の交流、出雲から北陸の方に、あるいは北陸から出雲に、あるいは沖縄も含めて考える必要があるものが見いだせるかもしれないこと。それから東日本にあるもので出雲とか隠岐に特徴的に見られるもの、このようなものが魅力としてあげられます。

こういった側面を、すべてもっと正確に、きちんと勉強、研究していくのが、私の世代とは違って、さっきの平子さんたちの世代にぜひやってもらいたいと思っている事柄です。

ここからちょっとすみません、別の話になりますが、そういう魅力的な隠岐の方言ですから、ぜひ活用してほしい、あるいは残して欲しいということなんですが。今の隠岐の人口は10月で2万393人となっています。島根県の全体ですけど、高齢化率が32%だそうです。そうすると隠岐島で高齢者の数が約6,500人ぐらいということになります。

今、高齢者 65 歳といっても、もう団塊の世代がそこに入ってしまうから、戦後生まれも入ってしまうよね。戦後生まれを除くということになると、これはもしかすると 5,000 人台かもしれません。それぐらいの人が、いわば従来からの隠岐弁、隠岐の方言を使っている人だとしますと、5,000 人から 6,000 人という人数です。1 万人には到達していない数ですよ。

変な話ですけど、島根県の統計でいいますと、隠岐島全体で 1 年間の死者数といった統計もあるんです。何人死んでいるかという、それでいいますと、去年は隠岐島全体の死者数が 353 人です。もちろん高齢者だけではないですけども、高齢者が中心だとしますと、300 人ぐらいの方が亡くなられるとして、話す人が 5,000 人から 6,000 人だとしますと、今のような形でいけばあと 14~15 年ぐらいで、今のような方言を話す方々が代替わりしてしまうということになります。そこで、活用や伝承ということをぜひ考えていただきたいということです。

これは港のところにあるものです。「ゴザイナ」。皆さん、これに気付いていましたか。こういうのがあります。小さく「ゴザイナ」と書いてありますね。それから、その港のところの立ち食いの「ガイナ」というお店、店の看板です。それからこれは、ぶらり散歩というものにきてくださいというポスターですが、「参加をまっチョルケン、アンキシテゴザイナ」。「アンキシテ」という言い方なんですね。こういったところにも少し方言が使われています。

あるいは、「月あかりカフェ 秋のもよおし」。いい名前ですよ。そこに「季節のコジャセット」、さっきもありましたね。おやつ。それから、「隠岐の島アンヤラーズ」、これもさっきお二人の話にありましたが、長男のことで、そのチームが全員長男だったので「アンヤラーズ」と名付けたという、このような方言を利用したものもありました。「MAMEDAGIA」。これは音楽の祭典ですかね。そういうもの、これも方言ですよ。

ただ、ちょっと方言の使い方が控えめ過ぎる。もっと大胆に方言をいろいろなところで使ってほしいという気がします。東京から来てここにいる、若い中西君という人が、隠岐に来て空港に降りて、そこで方言で書かれている言葉があるのかと思ったけど何もなかったと。あるいは、ほかのところで方言を使ったものを何か写真に撮りたいんだけど、それがどこにも見つからないということを昨日言っていたんですよ。隠岐島の中で、さっきのようにちょっとしたところに方言があることはあるんですけど、もうちょっと何か方言をアピールしてもいいんじゃないかという気がします。

例えば、よその土地でいいますと、平泉、「ようござりしたね」。善光寺、「おいでなして善光寺さんへ」。山形県、「きとごやっておしょうしな」。この「おしょうしな」は、ありがとうという意味で使っています。富山県、「立山に来られ」。広島県、「みんなきね」。みんな来てくださいということです。奄美大島、「いもりんしょーれ」。石垣島に行くと、「おーりとーり」。これは空港ですよ。どーんと、こんなに大きく張ってあります。

こういうものに比べると、西郷港のフェリーの着くところ、「しまねにようこそ」なんですよ。何かちょっと拍子抜けしてしまうんですよ。ここに方言でどーんと大きく書いてもらおうと、本土から来た人とか、いろいろなところから来た人が、ああ、島に来たなという感じになるかもしれないですよ。「しまねにようこそ」ではちょっと何か物足りない気がします。

もう 1 つは若い人にぜひ方言を伝えてほしい。その意味で、この海士町立福井小学校

のホームページの中に、海士の方言というのがあります。海士弁、さっきもありました「アーエ」とかがあって、共通語がこれで、用例がこのように書いてあって、この用例は音声付きなんですよ。発音しているのがこのホームページで見えるんですよ。

小学校の子供たちは、今パソコンなんかは自由に使えますから、このサイトで海士の方言を自分でクリックすれば、海士の方言が音として聞けるんですよ。この小学校の取り組みは非常に優れたものだと思うんですよ。ぜひこれは続けていってほしいと、海士の福井小学校の方にはお願いしたいし、ほかのところでも、小学校でこういうことは可能だと思いますよね。

今、どこの小学校もホームページを持っていますし、子供たちが自由にパソコンを使えますから、音声とか動画、映像などそういうものを組み込むことも非常に簡単ですしね。それらを通して、子供たちが自分たちのおじいちゃん、おばあちゃんの世代の方言を聞いたり、見たりすることができるという仕組みを学校でぜひつくってほしいということを思っています。

これはちょっと前ですけど、島前高校に酒井薫美先生がいらっしゃったときに、こういう民話を高校生たちが、隠岐の島前だけではなくていろいろなところで集めています。これは都万村のものですね。自分たちで集めて、自分たちで文字化して、それを報告集として、このようなものを何冊か作っています。これもすごい労作というか、立派なものだと思いますね。こういう形で高校生たちに、おじいちゃん、おばあちゃんの方言や昔話、民俗、文化などが伝わっていくんじゃないかと思います。

最後はお願いです。全国の重要な方言を記録する国立国語研究所の事業で、本年度から平成32年度までの5年間ですけれども、そこに書いてある4人の者がこの出雲や隠岐を担当しています。これから5年間ですけれども、この4人の者がいろいろなことを教えてほしいと皆さんのところをお願いに行くとお思いますので、ぜひご協力をよろしくお願いいたします。ありがとうございました。(拍手)

(司会) どうもありがとうございました。皆さんも最後まで聞いてくださってありがとうございました。もう特にご質問の時間は設けておりませんので、ぜひ、ここが違うよということがあったら、直接友定さんや平子さんにお話しただければと思います。今日は本当にどうもありがとうございました。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。(拍手)

国立国語研究所セミナー

隠岐の島方言のつどい

プログラム

・「使えるかもしれない隠岐弁講座」

吉井重伸氏

坂本忠司氏

・「隠岐方言の特徴―合同調査の報告を兼ねて」

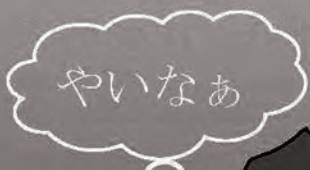
駒澤大学講師 平子達也氏

・「隠岐弁の魅力」

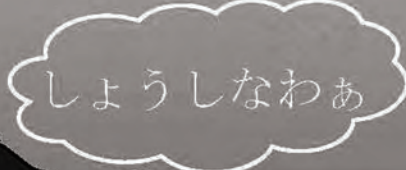
県立広島大学名誉教授 友定賢治氏

*申し込みは不要です。

どなたでもご自由にご参加ください。



坂本のおんちゃん



吉井のおんちゃん

日時 12月10日(土) 午後2時～4時

場所 隠岐島文化会館 集会室

主催 隠岐の島町教育委員会 (TEL08512-2-2126)

国立国語研究所 (TEL042-540-4300)

入場
無料

国立国語研究所共同研究プロジェクト
日本の危機言語・方言の記録とドキュメンテーションの作成
隠岐の島方言調査報告書

2018年3月31日発行

編集 木部暢子（国立国語研究所言語変異研究領域）

発行 大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国立国語研究所

〒190-8561 東京都立川市緑町10-2

Tel.042-540-4538（木部研究室）

<https://www.ninjal.ac.jp/research/project-3/institute/endangered-languages/>

©国立国語研究所

Endangered Languages and Dialects in Japan

Research Report on Okinoshima Dialect



Edited by
KIBE, Nobuko
March 2018